

Enjoy Camping

県定形訓練 野営法研究会 (Step1) スタッフハンドブック



ボーイスカウト茨城県連盟
トレーニングチーム

Ver.2014.09

野営法研究会 Step1 について

1. 野営法研究会 Step1 の目的

野営法研究会 Step1 は、日本ボーイスカウト茨城県連盟が企画・開設し、CS,BVS 隊長、BS,VS 副長の必修研修と位置づけ、就任 1 年以内に、また、それ以外の WB 研修所修了者 (CS,BVS 副長、CS,BS 副長補、補助者、DL 等) については、修了後 3 年以内にこのコースを受講することを基本とします。ここでは、ボーイスカウト運動の基本の一つである「野営」について更に理解を深めると共に、指導者としてビーバーの野外活動及びカブのキャンプを運営するにあたって最低限知っておきたいキャンプの基礎技能について研鑽することを目的に開催します。また、野営法講習会→野営法研究会 STEP2 の流れをよく把握して実施してください。

2. 野営法研究会 Step1 の開設

野営法研究会 Step1 は、茨城県連盟の事業計画に従い、県指導者養成委員会が開設します。実際の運営は、計画に従い担当の指導者養成委員が行います。

3. 野営法研究会 Step1 の主任講師

主任講師は、県指導者養成委員長・県連盟コミッショナー・県連トレーニングチームディレクターの 3 者が協議して、日連トレーナーもしくは同等の人を県連盟トレーニングチーム員 (基本的に活動チーム) の中から選任します。

4. スタッフの編成と役割分担

① 研修会の運営と主任講師の責務

- 研修会運営の責任者は主任講師です。主任講師は研修会の目的と責務を理解し、参加者の状況を把握し、十分な成果をあげるよう講師の指導助言を行います。
- 主任講師は、各講師の担当する各セッションについて責任を持ちます。事前に十分な打合せを行い、セッションの内容、指導方法について指導・助言をします。

② 講師と奉仕者の選定

- 講師はディレクターが、指導者訓練実施年間計画に基づき選任します。また、講師の中から、安全管理担当者を定めます。
- 県指導者養成委員長は、各地区指導者養成委員長と協議の上、年間計画として、当研修の業務を担当する地区を決め、業務を依頼します。

③ セッション担当について

- 野営法研究会 Step1 は、「自己研究」が主体となっています。必要なセッションが組まれています。担当講師による導入の後、グループ担当講師により研究が進められます。
- この「導入」はセッション担当講師が担当し、必要最低限の時間および内容で行います。各講師 (安全管理担当を除く) はグループを担当し、参加者の研修方向を修正しながら、参加者自身が野営法の修得に主体的に取り組めるよう、支援 (指導・助言) を行うことを基本とします。

5. 野営法研究会 Step1 にて使用する野営用品

本研究会 Step1 で使用する野営用品は、「ウッドバッジ研修所」で使用するもの (を基本) とします。また、個人で使う野営用具のデモンストレーションについては、講師相互もしくは担当地区で用意するものとします。

6. 野営法研究会 Step1 実施までのスケジュール (例)

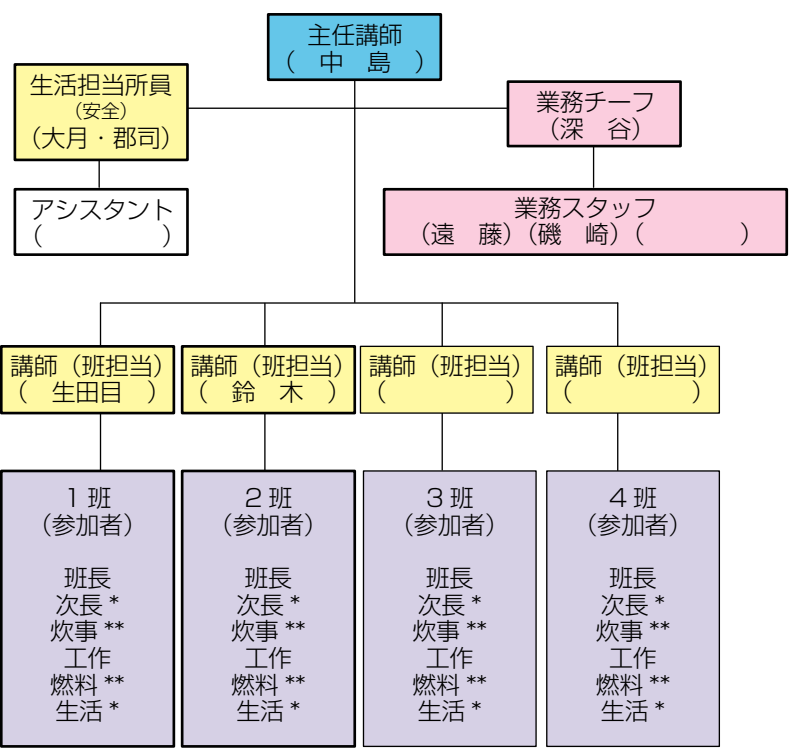
4～5ヶ月前	第一回打ち合わせ	指養委・担当コミ・主任講師	概要の確認と共通理解、実施体制とセッション構成確認
	講師スタッフ会議	講師グループ	セッション担当、目的、目標、内容等の確認
	実施内容の確定	主任講師	カリキュラムの決定と必要品の手配依頼
3ヶ月前	開設案内の発送	県指養委員長	研修案内データを県連事務局に送付
	実施場の確定	指養担当チーム	会場の確保、打ち合わせ、必要品の調達
	参加者募集開始	県指養委員長等	定型外訓練は地区で集約、定型は県連事務局
2ヶ月前	講師スタッフ会議	講師グループ	セッション内容等の確認
	業務運営会議	地区指養委員長	必要品の手配進捗状況等の確認等
1ヶ月前	参加者募集締切	地区指養委員長等	定型外訓練は地区で集約、定型は県連事務局
	名簿作成	地区指養委員長	講師と県連事務局等に
	参加案内発送	地区指養委員長	主任講師と連絡の上、スケジュール持ち物等を
1週間前	参加者の把握等	地区指養委員長	キャンセル、変更等への対応、挨拶者の確認
～前日	開設の準備	地区指養委員長	会場確認、準備物確認、最終参加者と班編制等
	セッションの準備	講師グループ	口述資料、プレゼン資料、配付資料、教材の確認

基本事項

- 日 時 平成 26 年 10 月 4 日 (土) 午前 9 時 00 分～ 10 月 5 日 (日) 午後 4 時 45 分 1泊2日
- 場 所 土浦市青少年の家 および 土浦訓練野営場
- 実施方式 テント泊による野外研修
- 主 催 者 日本ボーイスカウト茨城県連盟
- 開設担当 県指導者養成委員会北チーム
- 主任講師 中島清行 Step3を修了したトレーニングチーム員
- 講 師 生田目、鈴木、大月、西嶋、郡司 Step2を修了したトレーニングチーム員(グループ数+1名)
※セッション担当、グループ担当、生活担当を分担する
- 業務スタッフ 業務主任 深谷第3地区指導者養成委員長
業務担当 県指導者養成委員会北チーム及びトレーニングチーム員等(若干名)
- 定員・班編制 3人班×1班+4人班×1班=計7名 (7名の班は極力作らないこと)
- 参 加 費 ¥5,000
- 日程とセッション構成
○別に示します。
- 準備するもの
○詳細は、各セッション展開表を見てください。

- 参加者の持参品
○標準的な持参装備品を巻末資料として掲載してあります。参加者には「標準的個人装備」として提示してください。
○ただし、これが全てではないことも併せて連絡するようお願いいたします。その部分については、装備表の最後に「その他必要と思われるもの」に該当します。
(次ページに続く)

【研究会 STEP1 の実行組織図】



※班は最大6人とする。人数が少ない場合は、任務を兼務して行うこととする。

【任務】

キャンプ任務	内 要
主任講師	研究会全般の統括、推進、セッション指導、指導者訓練としての位置づけの維持・確認、報告書の作成
業務チーフ	研究会の企画・計画・進行、事前の準備と募集事務、会計(予算・決算)、報告書の作成と提出
業務1	教材資材準備、渉外事務、記録
業務2～	食糧・資材等の調達、その他
生活担当所員(隊長役)	キャンプ全般統括・推進、セッション担当、プログラムの進行指導、規律の維持、タイムキーパー、安全管理、衛生管理 (※講師の人数が足りない場合は、この部分を主任講師及び講師で分担する。)
講師(班担当)	セッション担当、セッションの補佐、担当班の教育指導
アシスタント	講師・セッションへの協力・支援
野営長	班は最大6人とする。 男女比、経験値、役務も平均化する。
班の役務	班員は、左記の6つの役務を担当する。(班を上手く動かすためではなく、やったことのないことを経験することに主眼をおく。)

●セッションの使用品

- 基本的野営装備（テント*、タープ*、工具*、炊具*、麻紐、針金等）は土浦のWB研修所倉庫から、野営工作用の資材（竹、垂木）は土浦倉庫のものを使用するか別途調達してください。いずれも業務担当が用意します。（*については員数と使用できるものが一式揃っているかもチェックしてください。）
- それ以外の各セッションで使用するものについては、トレーニングチームが成果物として保管しているもの以外は、各セッション担当が用意します。（担当講師個人で用意できない場合は、講師Gで用意してください。）
- 購入する場合は、主任講師と業務チーフに申請し許可を得て、実行予算の範囲内で購入します。

●食事の扱い

- この研究会 Step1 は、野営法の基本を実践的に学ぶものですので、食事については全食とも「自炊（班）」とします。
- 初日の昼食は各自で弁当持参（コンビニ弁当可。ゴミは持ち帰りを徹底。）です。
※以上は、参加者もスタッフも業務も同じとします。

- 米は参加者は必要数持参です。講師・スタッフのお米については、業務側で用意してください。
- それ以外の副食（おかずと味噌汁の材料）は、献立に従い業務で購入し、各班ごとに配給してください。特に食材については、セッションと密接な関係がありますから、主任講師の指示により、適するものを購入してください。
- 配給については、一般のスカウトキャンプ方式（笛の合図）を採用します。

●参加者への対応

- この野営法研究会は、ボーイスカウトの1級を想定しています。1級章の位置づけは「スカウトキャンプができる」です。すなわち、班長・次長は、この野営法研究会レベルの知識・技能を持ち合わせていることとなります。別な目から見れば、そのスカウトを指導する指導者は最低でもこのレベルは持ち合わせている必要があるということです。
- しかしながら、この研究会 Step1 に参加する指導者は、基本的にスカウトとしての「スカウトキャンプ」を経験していない方々が多くを占めています。つまり、スカウトキャンプに求められる「規律と秩序」や「ちかい」と「おきて」の実践等の経験値が少ない方たちであることを考慮して、その精神*も併せて伝えてください。（*はP.〇〇を参照）
- つまり、「安全で安心で、スカウトとしての在るべきキャンプ」の運営を如何に行うかを、スタッフは自分自身の態度・行動を以て示さなくてはなりません。また、それを知ってもらうためにも、生活担当講師は、その点を参加者の理解の下で、きちんと伝えなくてはなりません。
- また、この「野営法研究会」は、通常の講習会のように、「教える→教わる」というものではなく、「**考えさせる・教える→考える・やってみる・理解する**」を基本的方針として設計しています。主任講師はもちろん講師の皆さんもその点を十分理解して、参加者の学習支援を行ってください。

→そのためには、参加者が多い場合は、大人数でセッションをするのではなく、「ベース法」のように少人数に分けて、複数のセッションを並行して実施することも考える。（セッションの入れ替えは主任講師の判断で）

開設にあたって（主に業務の皆さんへ）

【会場設定・施設関係】

※この野営法研究会は、WB研修所と同等の運営体制で実施します。そのため会場選定の大前提は、研修に必要な十分なスペース、参加者から近い場所、荷物の運搬及び搬入搬出が容易であること、講師に負担がかかりすぎない程度に施設が整っていること（教場、水場等）等下記の条件が整っていることが求められます。また、研修に必要な野営装備及び工作資材は、主任講師の指示ですべて開設担当（業務）が用意します。

具体的な条件は、下記に掲げます。

→この条件が整わない場合は、土浦の訓練野営場（＋土浦市青少年の家の一部）において実施します。

1. 次のスペース（広さ）は十分に確保されているか
 - 班サイト（最低 15 × 20m を確保）→班数
 - 講義用教室（最低 3m×3m / 班×班数を確保）若しくはマーキー：3 張（24 人の場合）（10, 参照）
→テーブル 2 脚/班、室内の場合は椅子も必要数
 - 実習用広場（最低 20 × 20m 程度を確保）→1、
 - スタッフ用スペース（スタッフが講義の準備をしたり、業務が事務を行うスペース）
→講師用はテーブル2～3脚、室内の場合は椅子も必要数
2. 会場使用料は、実施予算計画内に収まるか。
3. 教具・野営装備や資材の準備・運搬への対応はどうか（倉庫からの距離、車は直付けできるかどうか）
4. 炊事・営火等の裸火と直火について、可能かどうか。

- 参加者の炊事は、立ちかまどを利用。各班サイトにて。
- 営火は、直火か焚き火台を使用予定。講義用広場にて。
- 5. 立ちかまど用の土の採取（土掘り）、及び「堀力マド」用に穴の掘削はできるのか
- 6. 「水穴」は掘ってもよいのか
 - 水穴は原則として、各班のサイトに掘れること。
- 7. 会場（野外）は夜何時まで、使用可能なのか。施設の日課で制限を受けるのか。
- 8. 室内泊はできるのか（講師・スタッフ）→できなければ野営。その場合門限はあるのか。
 - 講師＋スタッフも野営の場合は、参加者から離れたところに、講師サイト（それぞれの宿泊テント数、タープ及び炊事分のスペースが）確保できるか。
- 9. 施設の門は夜間鍵がかかってしまうのか。
- 10. 講義のための屋根付きの野外教場（参加者全員が入れる大きさ）はあるのか（→なければ室内に確保）。
 - いずれもない場合は、マーキー（県連の H5）を準備（4 班だと 3 張、3 班以下だと 2 張）。
- 11. 野外で 24 時間使用できるコンセント（電源）は確保できるのか、またその位置は？（延長コードを用意する関係で）
 - マーキーでの夜間セッション時に使用する照明器具、講師の夜間打ち合わせ時の照明器具も必要です。深夜は使用しないにしても原則 24 時間使用できることが求められます。
- 12. 教場で使う「机（折りたたみ机等）」は確保できるか？（班× 2＋講師用 3）
- 13. 野外で使える黒板・白板（1 枚）があるか。（なければ土浦倉庫から）
- 14. 施設の見取り図はあるか。（事前の使用プランの検討のため）
- 15. 近隣に、食糧や資材を購入できるスーパーや商店はあるか。

【参加者の募集等】

1. P.3 の「基本事項」に従い、指導者養成委員会が指導者養成委員長名で「参加案内」により募集します。
主任講師と業務主任の協議により内容を 確認し、県指導者養成委員長名で県連事務局から発送します。発送は原則として実施日の 3 ヶ月前です。
2. また、「事前課題」と「標準的個人装備品リスト」をセットにして3週間前までに参加者宛に送付します。
3. 受理については、参加申込書に記載された電子メールに送ります。
4. 「課題研修」については、参加申込み受付担当委員は、とりまとめて主任講師に送付してください。
5. 県定型訓練ですのでできるだけ開催します。参加者が5名未満の場合は、原則として開催は中止します。

【装備・資材関係】

1. 研究会で使用する備品装備品は、県連主催の定形訓練なので、極力、「県連」所有のものを使用し、近隣団からの借用は避けてください。破損時の弁償予算はありません。
2. この研究会では、野営工作用に多数の竹材が必要となります。
その確保については、できるだけ県連土浦倉庫のものを使用することとし、足りない場合は、開設業務担当で揃えてください。（立ちかまど、調理台、食卓・・・すべて竹で作ります。）
 - 真竹： 直径 4 ～ 6cm ×長さ 2m = 30 本、 同×長さ 1m = 20 本
 - 孟宗竹：直径 10 ～ 15cm ×長さ 1m = 13 ～ 10 本
 これは1班当たりの必要数です。4班編制だと、この4倍の量が必要となります。
3. 麻ヒモは、大巻のもの（コンバイン用の直径 20cm ×高さ 30cm、太さ # ）を置いて、共用（2班で1巻）での使用とします。

【献立と食材について】

1. 食材は、事前の打ち合わせに従って、基本献立表の通りに食材をそろえてください。（必ず指定された食材を必要量揃えます。独自の判断はしないようにお願いします。）
2. 但し、調理については、実際の献立にこだわりません。材料の範囲で各班の任意とします。
3. おやつ、茶菓子は予算の範囲で適宜お願いします。特に暑い時期には水分は十分に・・・お願いします。
4. 食材の配給は、WB研修所もしくはボーイ隊キャンプにおける標準的配給方法とします。

【その他の準備物】

1. 国旗 ・・・ 掲揚柱を作ってください。（業務サイドで用意してください）
2. プロジェクター ・・・ 県連事務局若しくは担当地区から借用してください。
3. スクリーン ・・・ 土浦のWB研修所倉庫にあります。
4. マーキー ・・・ 水戸の県連野営場そばの県連倉庫にあります。必要に応じて用意してください。
5. 修了証・領収証・仮払金 ・・・ 県連事務局から受けとってください。

●野営法研究会 Step1 のセッション構成と日程表

時 間	内 容 (セッション)	時間	担 当	場 所 等
第 1 日目				
～ 9:00	受付		業務	
9:00 ～ 9:15	開会式	15	業務主任	
9:15 ～ 9:30	オリエンテーション、写真撮影	15	業務	
9:30 ～ 10:20	§1 スカウトのキャンプについて	50	(主) 中島	
10:20 ～ 11:10	§2 キャンプの計画、準備、プログラム	50	中島	
11:10 ～ 12:10	§3 (キャンプの) 装備品とリスト	60	鈴木	
12:10 ～ 12:40	昼食	30		
12:40 ～ 13:30	§4 (班) サイトレイアウト	50	杉浦	
13:30 ～ 15:00	§5 設営(テント、タープ)	90	大月	
15:00 ～ 15:30	§6 (野営に必要な) ロープ結び	30	生田目	
15:30 ～ 17:00	§7 刃物と野営工作 1	90	大月	
17:00 ～ 18:00	§8 キャンプの食事と炊事	60	郡司	
18:00 ～ 19:00	国旗降納 炊事	60	生活担当	
19:00 ～ 20:00	夕食	60		
20:00 ～ 20:30	§9 方位と天候	30	西嶋	
20:30 ～ 22:00	§10 安全・衛生、点検について	90	生田目	
22:00 ～ 23:00	情報交換等			
～ 23:00	就寝			
第 2 日目				
6:00 ～ 8:00	起床、洗面、朝食	120		
8:00 ～ 9:00	点検、朝礼、スカウトスاون、ゲーム	60	生活担当	
9:00 ～ 9:45	§11 キャンプの衛生(乾燥)	45	西嶋	
9:45 ～ 10:30	§12 パッキング、背負い方、スリーピングバッグ	45	鈴木	
10:30 ～ 12:00	§13 野営工作 2	90	大月	
12:00 ～ 12:40	昼食	40		
12:40 ～ 14:00	§14 メンテナンスと保管	80	生田目	
14:00 ～ 15:30	§15 撤営の意味と撤営	90	郡司	
15:00 ～ 16:00	§16 評価とリストの確認	30	中島	
16:00 ～ 16:30	§17 ふり返りと指導者の在り方	30	(主) 中島	
16:30 ～ 16:45	閉会式、修了証授与	15	業務	
16:45 ～ 17:00	解散、スタッフ反省会	15	主任講師	
17:00 ～	後片付け			

●標準献立

区分	献 立	材 料 等 (1班6人あたり)
夜	アイオワ・ライス 豚の生姜焼き、味噌汁	豚肉(2パック/班)、玉ねぎ(4個)、サラダ油(適宜)、生姜(1個/班・おろし金が必要なもの*)、酒(少々)、昆布つゆ(少々)、(余談:アイオワはアメリカ1の豚の産地)。 米、味噌(1/2パック)、出汁の素(適宜)、おしんこ
朝	アラスカン・モーニング 鮭のムニエル、味噌汁、おしんこ	米、味噌(前日のもの)、わかめ(少々)、豆腐(1パック)、出汁の素(少々)、生シャケ(1切/人)、小麦粉(少々)、バター(少々)、塩・胡椒(少々)、キャベツとキュウリの塩もみ ヨーグルト(4つ組)、
昼	カウボーイ・ライス コンビーフご飯 コンソメスープ	米、コンビーフ(3個/班)、醤油(適量)、コンソメ(4カケ/班)、玉ねぎ(2個)、鰯の缶詰(缶切りが必要な缶詰*)

※ 「*」印は、創意工夫を促すために敢えて入れているものです。必ず指定のモノを用意してください。

初日夜の味噌汁の具はタマネギです。

野営法研究会運営上の注意事項

【定型訓練としての位置づけを理解する】（☆業務、★講師）

- ☆★ 1. 県の定形訓練です。WB研修所と同様の位置づけで研修を行います。
- ☆★ 2. 講師・業務スタッフとも、規律と秩序を守る意識をもって、研修を運営してください。
- ★ 3. 参加者は、講師の皆さんの平素の姿を見えています。それがスタンダード（標準）となってしまうことを自覚してください。（隊に帰って見たままを実行してしまうということ。）
- ☆ 4. この研修の成否は、受付時の対応から始まっています。特に開会式でのスタッフの進行が成否を分けます。
この開会式のきちっとしたピンと張った緊張感が、そのまま研修会の雰囲気となります。なあなあの態度はせっかくの研修会をダメにします。定型訓練が持つ意図に沿うよう、十分な準備をしておこなってください。ダメになった雰囲気を、当初の意図する状態に戻すには講師がそこにそれ相当の力を注ぐことになり、そのことで参加者が不快感を感じることに繋がります。
受付、集合、司会の進行の時の言葉遣い、スタッフの態度や仕草、国旗儀礼の動きなどなど、何故そのような対応が求められているかを、指導者養成委員会として十分に確認・理解した上で行ってください。
- ☆ 5. また、業務の方は、セッション中、特に指示がある時以外は、参加者との不用なコンタクトやセッション会場への出入り、また周辺での大声での会話（セッション場に聞こえるほどの）などは避けてください。
特にスタッフや業務の控室とセッション会場が隣接していたり、セッション会場から見えている場合は、注意をお願いします。互いに注意し合ってください。
- ★ 6. セッション以外の生活面での参加者への対応は、全て「生活担当講師」が対応します。
- ☆ 7. 記録のための写真撮影は、上記の意図を 理解した上で、必要最小限をお願いします。
- ☆ 8. セッションの合間のお茶やちょっとしたお菓子については、主任講師と協議した上で、時間を決めて提供してください。いつもそれが置いてある・・・という状況は作らないでください。
→例えば §3 と §4 の間、§6 と §7 の間に提供するなど。
同時に、茶菓については休憩時間の中で飲み終え食べ終えて、セッションには持ち込まないことが基本です。
- ☆ 9. 指導者手帳の訓練参加認定欄及び修了証の作成・押印等の事務処理は、業務チーフの責任で行います。

【野営法研修で、特別に配慮すべきこと】（☆業務、★講師）

- ☆ 1. 基本的に屋外でのセッションが主となります。講義と実習が組み合わされたセッションが多いので、教室と実習用広場が隣接していない場合は、広場にセッション用の用具（ホワイトボード、同ペン、イレーサー、マグネット、資料を置く机・台等）や夜間の照明等も用意します。
- ☆ 2. 講師は必要最小限の人数で設定しています。そのため、食事作っている時間がありません。講師の食事は、業務の食事と一緒に作ってください。ただし、献立は参加者と同じ「標準献立」で行ってください。参加者は配給された標準献立の材料で、指定された料理をすることとしています。スタッフも同様とします。
- ☆ 3. 夏季における野営法研究会では、「蚊」「ブヨ」等への配慮も必要となります。蚊取り線香、殺虫剤も用意してください。虫さされ用の薬は各自持参としますので、持参品に加えてください。
- ★ 4. 服装については、セレモニーや点検等の決められた場面については「正装」とします。作業をする場合は必ず「作業服」に着替える、寝るときは「寝間着」に着替える、雨が降ってきたら「雨具」を着る、寒いときは「防寒着」を着る・・・を意識的に守らせてください。特に女性は着替えがたいへんなので制服のまま作業をしてしまう傾向があります。注意してください。（→それがそのまま隊で真似され、標準となります。）
これは、どうして着替えるかの意図とその効果を感じ取ってもらうためのモノですので、遵守してください。
また、スカウトへの生活指導にそのまま繋がります。（→それがそのまま隊で真似され、標準となります。）
- ★ 5. 作業には刃物を使用する時があります。それについては §7 で説明しますが、それ以前にも使うことがありますので、注意を促してください。
- ★ 6. 屋外の実習では、トイレに行く機会、水を飲む機会が少なくなる傾向にあります。講師は、その点に配慮してください。また、炎天下での講義・作業は避けてください。
- ★ 7. §12 では、バックパック、スリーピングバッグ、マット等が各種必要になります。すべてを用意することは難しいので、参加者の持ち物もお借りして、その種類と特長を説明してください。
- ☆ 8. 野営法研究会に参加すると「スキルトレーニング」の野営の項目のいくつかが認定されます。主任講師からの依頼があれば、どの項目が認定されるかを聞いて、その認定サインの代筆をお願いします。
また、旧形式の「指導者手帳」では、スキルトレーニングの認定ページがありません。これは基本的には参加者自身が用意すべきモノですが、忘れる方もいますので、差し込みを県連ホームページからダウンロードして数枚用意しておいてください。

【野営での研修で、やってはいけないこと（WB研修所、野営法研究会）】

1. 野営で行われる研修では、例えば、寒くて眠れない、遅くなってご飯が作れなかった・・・などが発生する場合があります。

そのとき、よく「かわいそう」「気の毒だ」という観点から、

「毛布を支給する」「ご飯ができなかったので、所員のを分けてあげる」・・・

が見受けられます。これはやってはいけません。

・どうしたら暖かく寝られるのかを考える。また、どうやって食事にありつくかを考える。

・それを実行する。

・そして、検証し、自信に繋げる。

という、絶好のチャンスを奪うことになります。

近年、このような「不足・未消化」について、「要望すれば解決してもらえる」という風潮が強くなっており、また、運営側も、特に教育面を何も考えず、安易に提供してしまう傾向があります。

指導者として求められるのは、無い場合はどう対応するか、その対応力、発想力、創意工夫力、実践力、解決力です。子ども達の命（健康）を預かる指導者として、これらは必須技能であり、持たなければならない精神・意識・姿勢なのです。

決して意地悪で与えないのではありません。このところを良く考えてご対応ください。

「自然を教場」・・・自然の変化に気づき、対応する→対応できる・・・その意識を持たせなくてはならない。

つまり、自然の変化に気づくことは、社会生活でも役に立ちます。それは、身近な人の変化も察知できることに繋がるのです。なので、適時に対応することができるようになります。

※野営法研究会 STEP1 設定課目のうち、セッションには組み込めなかったものとその対応

- 5- ④キャンプ地にあるものを利用して、キャンプで必要と思われる個人用品を作製する。【TB-E3-5】

《⇒ § STA》

- 7-1- ⑥マッチを防水加工し、携帯用の防水容器に入れて提出する。【炊事章 (4)、TB-E4-1】

《⇒ § STA》

- 7-2- ⑥ガソリン、灯油、ガスを使用するキャンピングストーブ等を使用して炊事をし、取扱上の注意事項・特徴・手入れの方法が説明できる。

【野営章 (8)】

- 7-2- ②炊事に使う火を、マッチ2本以内で起こす。【TB-E6-3】

《⇒朝食、夕食、昼食》

- 7-3- ①飯盒やコッヘル等キャンプ専用の調理器具を利用して、米飯及び味噌汁を班員分作る。

《⇒朝食、夕食、昼食》

- 7-3- ②野菜・肉・魚・玉子（単品でも複数でも）を材料とした2種以上のキャンプ料理を作る。

《⇒朝食、夕食、昼食》

- 10- ①キャンプにおける儀式、儀礼について知る。

《⇒朝礼後》

- 10- ②国旗の掲揚及び降納の方法について知る。

《⇒朝礼時》

- 10- ③朝礼、終礼の方法について知る。

《⇒朝礼後、終礼については夜のスカウトOWNに組み込んでもいいか》

- 10- ④スカウトOWNについて知り、実際に行う。

《⇒スカウトOWN時》

- 11- ③野火の適切な消火方法並びに水を使わない消火方法を知り、キャンプで実践する。【TB-6-4】（⇒なし）

- 11- ④地表を保護して火をたく方法を説明し、実演する。【TB-6-6】

《⇒掘かまど、石積みかまど等の場合に、セッション内で言及》

- 14- ① 1. ～ 13. までのすべてのセッションを受講し実行することで、Step1 の修了が認定がされる。

参加者携行品確認表 (スタッフ点検用)

番号	品 名	数量	単位	確認	備 考
1	スリーピングバッグ (寝袋)	1	個		3シーズン用
2	キャンプマット	1	個		
3	バックパック	1	個		※全ての荷物をバックパック 1 個入れて参加すること。 (筆記用具・書籍類はハバザック使用可)
4	ハバザック	1	個		
5	健康保健証 (写)	1	式		
6	本：指導者のためのスカウトキャンプ	1	冊		必須図書
7	本：スカウトハンドブック	1	式		持っている方は持参
8	制服上下 + 制帽	1	式		
9	雨具 (レインスーツ)	1	式		ポンチョ、100 円カッパは不可。
10	作業着・作業帽	1	個		作業帽はキャップ
11	寝間着	1	式		
12	着替え (下着、靴下)	1	式		1 日毎にスタッフバッグに入れるとよい
13	防寒着	1	着		夏でも必要
14	野営靴	1	足		滑らないソールで多少の雨でも染みこまないもの
15	雨靴	1	足		長靴のこと
16	軍手、または作業手袋	1	双		できれば革手袋を。軍手は木綿 100% のものを
17	タオル	1	式		汗拭き用
18	洗面用具	1	式		
19	折りたたみ椅子	1	脚		バックパックに入れ (取り付け) られる大きさ
20	懐中電灯・ヘッドライト	1	個		
21	予備電池	1	式		No.20 用
22	マッチ、ライター	1	式		雨に濡れても大丈夫な工夫を
23	ナイフ	1	本		折りたたみ式のものがいい
24	ロープ	1	本		スカウトロープ (6m)
25	工作用の麻ひも	1	巻		太めの中サイズを
26	細びき	1	本		細いひも。1 ~ 3m
27	食器セット	1	式		器 2、皿 2 以上必要
28	マイカップ	1	個		
29	水筒	1	個		魔法瓶タイプは不可、中は「水」。お茶不可。
30	スプーンセット、箸	1	式		
31	うちわ	1	本		
32	雑巾 + 布巾	1	枚		
33	裁縫道具	1	式		最低でも「針と糸」のセット
34	靴手入れ具	1	式		泥落としヘラ、ブラシ、ウエスなど
35	新聞紙	2	日分		
36	ハンカチ	1~2	枚		
37	ティッシュ	1	包		
38	トイレットペーパー	1	巻		
39	個人用救急キット	1	式		
40	持薬	1	式		
41	米	3	合		
42	レジャーシート・シーターボン	1	枚		
43	ビニール袋	2	枚		基本的に分別収納用
44	スーパーの袋	2	枚		基本的に汚れ物収容用
45	時計	1	個		
46	ノート	1	冊		B5 版のもの。野営法専用として。Step2 でも使用
47	筆記用具	1	本		赤色ボールペン含む
48	初日の昼食	1	式		スカ弁 (おにぎり)
49	クリアファイル (A4)	1	枚		配付資料の収納用
50	虫さされ用治療薬	1	個		虫除け薬も必要かも。
51					
52					
53					
54					
55	その他必要と思われるもの				

参加者携行品の一例 (STEP1 参加者用)

番号	品名	数量	単位	確認	備考
1	スリーピングバッグ (寝袋)	1	個		3シーズン用
2	キャンプマット	1	個		
3	バックパック	1	個		※全ての荷物をバックパック1個入れて参加すること。 (筆記用具・書籍類はハバザック使用可)
4	ハバザック	1	個		
5	健康保健証 (写)	1	式		
6	本：指導者のためのスカウトキャンプ	1	冊		必須図書
7	本：スカウトハンドブック	1	式		持っている方は持参
8	制服上下 + 制帽	1	式		
9	雨具 (レインスーツ)	1	式		ポンチョ、100円カッパは不可。
10	作業着・作業帽	1	個		作業帽はキャップ
11	寝間着	1	式		
12	着替え (下着、靴下)	1	式		1日毎にスタッフバッグに入れるとよい
13	防寒着	1	着		夏でも必要
14	野営靴	1	足		滑らないソールで多少の雨でも染みこまないもの
15	雨靴	1	足		長靴のこと
16	軍手、または作業手袋	1	双		できれば革手袋を。軍手は木綿100%のものを
17	タオル	1	式		汗拭き用
18	洗面用具	1	式		
19	折りたたみ椅子	1	脚		バックパックに入れ (取り付け) られる大きさ
20	懐中電灯・ヘッドライト	1	個		
21	予備電池	1	式		No.20 用
22	マッチ、ライター	1	式		雨に濡れても大丈夫な工夫を
23	ナイフ	1	本		折りたたみ式のものがない
24	ロープ	1	本		スカウトロープ (6m)
25	工作用の麻ひも	1	巻		太めの中サイズを
26	細びき	1	本		細いひも。1～3m
27	食器セット	1	式		器2、皿2以上必要
28	マイカップ	1	個		
29	水筒	1	個		魔法瓶タイプは不可、中は「水」。お茶不可。
30	スプーンセット、箸	1	式		
31	うちわ	1	本		
32	雑巾 + 布巾	1	枚		
33	裁縫道具	1	式		最低でも「針と糸」のセット
34	靴手入れ具	1	式		泥落としヘラ、ブラシ、ウエスなど
35	新聞紙	2	日分		
36	ハンカチ	1～2	枚		
37	ティッシュ	1	包		
38	トイレットペーパー	1	巻		
39	個人用救急キット	1	式		
40	持薬	1	式		
41	米	3	合		
42	レジャーシート・シーターポン	1	枚		
43	ビニール袋	2	枚		基本的に分別収納用
44	スーパーの袋	2	枚		基本的に汚れ物収容用
45	時計	1	個		
46	ノート	1	冊		B5版のもの。野営法専用として。Step2でも使用
47	筆記用具	1	本		赤色ボールペン含む
48	初日の昼食	1	式		スカ弁 (おにぎり)
49	クリアファイル (A4)	1	枚		配付資料の収納用
50	虫さされ用治療薬	1	個		虫除け薬も必要かも。
51					
52					
53					
54					
55	その他必要と思われるもの				

このセッション指導要項の使用について

※次からのページの「セッション指導要項」は、WB研修所に倣って構成しています。

しかしながら、内容については、セッション担当者の参考資料としても役立つよう、野営法研究会 Step2 でも十分に耐えられるよう、相当細かく、かつ高いレベルで書かれています。

言い換えれば、野営法研究会の主任講師を担当されるトレーナーは、当然持っているべきレベルであり、講師を担当するトレーニングチーム員等の皆さんも、ほぼ同様の知識であり、技能を有していることを求めているということです。

現在の県連トレーニングチームは、年々チーム員が減っており、またチーム員の知識・技能の向上を図る機会が大幅に減少してしまったこともあり、前述の「トレーニングチーム員等の皆さんも、ほぼ同様の知識であり、技能を有している」に満たないだろうチーム員も、講師として奉仕せざるを得ない状況になっています。

ここ数年、トレーニングチームの「自主トレ」という言葉を聞いたことがあろうと思います。トレーニングチームの集合訓練として勉強会（知識・技能の向上を図る機会）が実施できない状況において、チーム員の自主的な取り組みである「自主トレ」は推奨される課題研究の場があります。自らチャンスを求めて実践してください。

● H24.1 (2012.1) に県連盟コミッショナーからの通達文書「新訓練体系の導入と今後の活動・目標について」の中で

○全てのコミッショナー、トレーニングチーム員、トレーナーは原則として4つの部門の全ての指導内容について

知る → 理解する → 伝える → 教える

ができるレベルにあることとする。指導者に「私は他部門のことは知らない」と口にすることがないように。

○スカウティングの共通部分についての共通理解をとり、それぞれができること。

- ・スカウティングが求める発達とそれを実現するスカウティングの方法を理解する
- ・WB研修所の「位置付けと内容」の変更点とその運用方法をきちんと説明できる。
- ・各部門の基本動作を確実に（コミッショナー、トレーニングチームで統一）する。
- ・班制度：その意味と意義、方法と運営について確実に説明でき、各部門の違いを明確に理解する。
→パトロールの楽しさ、醍醐味が伝えられるように（自ら体験？）
- ・進捗制度：その意味と意義、方法と運営について確実に説明でき、各部門の違いを明確に理解する。
→ステップアップ、学び活用する楽しさが伝えられるように（これも自ら体験？）

○スカウティングの醍醐味を伝えられること。

- ・コミ、T T自らがScouting is Fun! を体現していること。それをして・・・
リーダーが「スカウティングを理解して、楽しんでほしい」
リーダーが「スカウティングを理解して、スカウトら楽しませるための努力・学習してほしい」
リーダーが「そして、その楽しいスカウティングを実施してほしい」
スカウトが「スカウティングを楽しんでいる！」

に繋げていく。

- ・パトロールの醍醐味

「One for All, All for One!」「和」「信頼」「名誉」と「スカウトの誇り」
の素晴らしさと大切さが体感できるように。

- ・「今できることをしても力は伸びない。できないことをしようとするから力は伸びるのだ!」を実感できるように。

○「トレーニングチームのメンバーはすごい!」と、全ての指導者たちが「あぁなりたい!!」と「指導者の理想像」として感じ取れるよう、自らをして、かつ相互にその位置付けを高めていくこと。それには?

○指導者に持続的にエネルギーを送り続けること。指導者のモチベーションを上げていくこと。

(以上抜粋)

※この「セッション指導要項」をそのまま使用すると、セッション時間は当然ながら足りなくなるばかりでなく、野営法研究会 Step1 に参加する方々のレベルを超えたものになることが懸念されます。

ですので、セッションを担当されるトレーニングチーム員の皆さんは、内容を十分に咀嚼し、参加者レベルに合ったアウトプットをもってセッションをされるようお願いいたします。

※定型訓練などというと、往々にして形式張った「基本論・原則論」が出てきます。それは否定してはいけないものですが、それって正直言ってつまらないデス。この Step1・Step2 はそれを踏まえた上で行われる「研究会」です。一方的な講義や作業であってダメです。「なぜなぜ・どうして?」「なんで、こーなるの?」を参加者から引き出し、我々の支援によってに解答に導いていく・・・っていう方法を用います。

そのとき「Scouting is Fun!」がそこで明確に出ていなければならなりません。つまり、我々がどれだけ楽しく伝えられるか、参加者が、どれだけ楽しく研究でき、そして「おおっ!」と気づき&ガッテンしてくれるか・・・なのです。それが問われています。

§1 スカウトのキャンプについて

●セッションの目標（参加者はこのセッション終了時に次のことが達成できる。）

1. スカウトのキャンプとは何かを知る。
2. 何のためにキャンプを行うのかを知る
3. スカウトキャンプの種類と必要な条件を知る。

●指導上のねらい・ポイント

1. どうしてボーイスカウトはキャンプを行うのか、それはどんな意図をもって、どんな効果を狙って、どのように行なわれるのかを、ここでは知る。
 - ① スカウト・キャンプと一般のキャンプとの違いについて。
 - ② スカウト・キャンプが意図するもの・こと（意義）とそれを実現させる方法について。
 - ③ スカウト・キャンプを行うに当たっての団内のルール、上部組織や行政等の手続について。
2. ビーバーはキャンプを行わない。カブは3つの形態がある。ボーイは班もしくは隊の固定キャンプが主で、ベンチャーは、それにソロと移動キャンプが加わる。これらを行うためには、どんな条件を満たすことが必要なのかを知る。
3. 「楽しいスカウティング」「楽しいキャンプ」→自らそれを楽しくしていく。これがスカウティングの基本である。これを外してしまったら、もはやスカウティングでないことを重々承知していただきたい。

●セッション展開にあたっての留意点

1. 「指導者のためのスカウト・キャンプ」をテキストにして座講で行う。
2. 参加者の経験度を把握するために質問をしながら、ボーイスカウトの独特の方法である「野外での活動」の重要性の理解へと誘う。
3. 技能については、「知っているだけではダメ」「体験してはじめて理解できる」ことを、この研究会を通して感じとる…という意識を持たせる。体験によって理解できれば、それが身につく自分のモノとなる。そうすればスカウティングやキャンプが「楽しく」なっていく。
4. 得意なもの・できるものに取り組むのではなく、苦手なもの・できないものこそやってもよう！ より詳しく知ろう！

●準備品・名称（規格）（数量）

- ・（各自）参考書「指導者のためのスカウトキャンプ」
- ・ホワイトボード、マーカー（黒・赤・青）、磁石。または、プロジェクターとスクリーン、ポインター）

●他のスタッフへの依頼事項

【他の講師に】

- ・この研究会の方向性を明確にする最初の講義なので、コンセンサスをとるためにも全員が参加する。

【業務・奉仕スタッフに】

- ・この研究会の方向性を明確にする最初の講義なので、コンセンサスをとるためにも全員が参加する。

●セッション構成と展開

- 講義（45 分）→実習（0 分）→まとめ（5 分）

《導入》（5分）

1. ボーイスカウトの活動フィールドは、
 - ビーバースカウト・・・ 「**戸外**（家のまわり）」
 - カブスカウト・・・ 「**屋外**（住宅地、集落など人工的なものの周囲）」
 - ボーイ以上・・・ 「**野外**（自然が残っている地域）」である。これは、それぞれの部門のスカウトが周囲の環境から受ける影響とスカウトの成長からみた対応力を考慮して設定されたものである。
2. 「野外」というフィールドでは、それを実施・受容するには、「体力」「知力」「精神力」「技術力」「協働力」が、ある一定レベル育っている・備わっていることが求められる。そのレベルがあって初めて、スカウト運動が求めている「自分自身への成長の関わり」に取り組むことができる。これらの意味を考え、ビーバー「戸外」、カブの「屋

外」、ボーイ以上の「野外」の活動フィールドとスカウトが受ける影響と効果を考え、カブ、ボーイ、ベンチャーが行うキャンプの意味と意義について考えていこう。

《展開》(40分)

1. どうしてボーイスカウトはキャンプを行うのか、それはどんな意図をもって、どんな効果を狙って、どのように行なわれるのかを、ここでは知る。

①スカウト・キャンプと一般のキャンプとの違いについて理解させる。

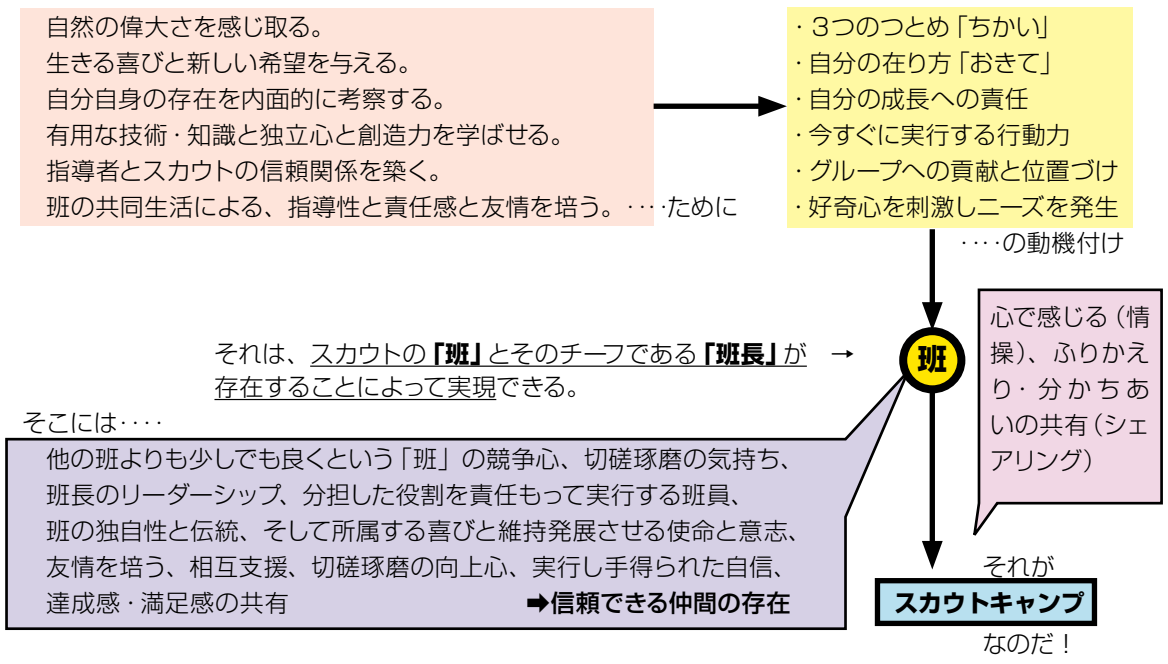
○一般のキャンプとスカウトキャンプの違いを明確にし、それはどのような運営によって効果が現れるのかを伝える。

◆一般のキャンプは、キャンプすること(野外でテントを張って泊まり、楽しむこと)そのものが目的。スカウトのキャンプとそこが大きな違いである。

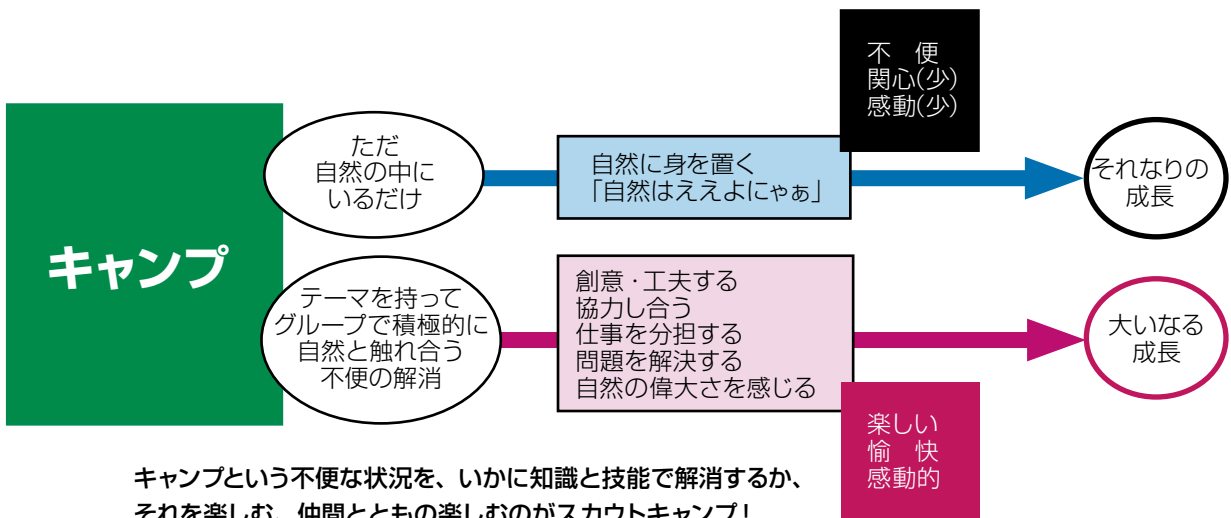
- スカウティングにおけるキャンプとは、キャンプすることが目的ではない。
- それはスカウト教育を効果的に行うための方法である。

②スカウト・キャンプが意図するもの(意義)とそれを実現させる方法について理解させる。

CGG P.10 掲載



……これら「真のスカウティング」をスカウトたちに行わせる絶好の機会!!
では、これらはどんな状況で、どのように導き出すことができるか……



キャンプという不便な状況を、いかに知識と技能で解消するか、それを楽しむ、仲間ともの楽しむのがスカウトキャンプ!

何で楽しいのか? それは、創意工夫したことが、すぐに結果として表れるつまり不便が改善されるのを目の当たりにすることができるからだ!

③スカウト・キャンプを行うに当たっての団内のルール、上部組織や行政等の手続を理解させる。

ここでは、キャンプを行うにあたって、どのような手続が必要なのかを知らせる。(講義)

○参考図書「指導者のためのスカウトキャンプ」第1章 §3「スカウト・キャンプの規則」を用いて説明。

枠内の「一般方針」と1 から6 までのそれぞれのキャンプについて、その申請と許可の手続き、指導者として知らなければならないことを明確に伝える。

○そして、キャンプを指導する隊指導者の野営技能の修得(P.7 2.(2)) は必須である。

ボーイ隊以上のキャンプを実施する場合(ソロ、班キャンプも含めて) は、隊長(キャンプマネージャー) は野営法研究会 Step2 を、分担役務の長の指導者(キャンプチーフ) は Step1 終了していることが必要である。

CGG P.18 掲載

区 分	実施責任者	申請者	許可者	届け出
ビーバーの舎営	ビーバー隊長	ビーバー隊長	団委員長	地区コミッショナー*
カプホリディ(舎営)	カプ隊長	カプ隊長	団委員長	地区コミッショナー*
カプのキャンプ(テント泊)	カプ隊長	カプ隊長	団委員長	地区コミッショナー*
ボーイの班キャンプ	班長	班長	隊長	団委員長、地区コミッショナー*
ボーイの隊キャンプ	ボーイ隊長	ボーイ隊長	団委員長	地区コミッショナー*
ベンチャーのソロキャンプ	実施者	議長	隊長	団委員長、地区コミッショナー*
ベンチャーの班キャンプ	班長	(上級)班長	隊長	団委員長、地区コミッショナー*
ベンチャーの移動キャンプ	実施者代表	議長	隊長	団委員長、地区コミッショナー*
ベンチャーの冒険旅行	チームリーダー	チームリーダー	隊長	団委員長、地区コミッショナー*
ベンチャーの隊キャンプ	議長・隊長	隊長	団委員長	地区コミッショナー*
ローバーの遠征	実施者	実施者	隊長	団委員長、地区コミッショナー*
県外で行う上記のキャンプ	隊長	団委員長	県連理事長	県コミッショナー(県連事務局)
日本・世界ジャンボリー	事業責任者	団委員長・地区コミ	理事長・県コミ	最終的な許可者は日連理事長
海外遠征キャンプ	事業責任者	団委員長・地区コミ	理事長・県コミ	最終的な許可者は日連理事長

※「地区コミッショナー*」は、担当部門の地区副コミッショナーに業務委任されている場合もある。

○このように、団に於けるキャンプの実施については、団会議、団委員会の議を経て「団委員長」が、地区においては「地区コミッショナー」が把握することとなっている。そのために表の右列の者への届け出が必要なのである。もし、これらの手続を行っていない場合は、次回のキャンプから早速行うこと。また、県外でキャンプを行う場合は、県連事務局に「県外旅行申請書」を提出し許可を得る必要がある。

※県連事務局から、受領した「県外旅行申請書」の写しが団宛に返却される。それが許可証である。

○これ以外にも、火を使う場合は、管轄の「消防署」に(救急時の救急車の出動要請も含めて)、必ず届け出をすること。

※管理されたキャンプ場で、既設のカマドや焚き火台を使用する場合は、届け出を省略できる場合がある。しかし、管理されていないキャンプ場や直火の焚き火をする場合は、必ず届け出ること。

※上記に拘わらず、キャンプファイアのような大きな焚き火をする場合は、必ず届け出ること。

※「申請」は許可を伴うが、「届出」は許可は不要。

○また、万が一のために参加者全員が「傷害保険」(もしくは「そなえよつねに共済」)に加入していることもルールの一つであること押さえておく。

★資料は「隊指導者のためのスカウトキャンプ実施ガイド」を参照

2. ビーバーはキャンプを行わない。カプには3つのキャンプ形態がある。ボーイは班もしくは隊の固定キャンプが主で、ベンチャーは、それにソロと移動キャンプが加わる。これらを行うためには、どんな条件を満たすことが必要なのかを知る。

スカウトのキャンプの種類とその違いについて、きちんと伝える。(講義)

○各部門におけるキャンプ

ボーイスカウト日本連盟では、ビーバー部門の宿泊を伴うプログラム(舎営も野営も)は、一部の例外

を除いては、実施していない。ということは、実際にキャンプを行うことができるのはカブ部門以上となる。ただし、キャンプを実施するには、それぞれの部門で行うキャンプの目的を知り、また、求められる実施条件を満たさなくてはならない。

目的	カブ部門	ワクワクドキドキする、自然を感じる、好奇心が旺盛になる、観察する、知る、聞いたり調べたりする、知らないことを人に聞く	 進歩・成長
	ボーイ部門	自分で主体的に取り組む、挑戦する、工夫する、楽しいことを生み出す、がんばる、あきらめない、やればできるんだ	
	ベンチャー部門	達成する、美しいと感じる、危険を察知する、とっさに判断する、環境への関心が高まる	
	ローバー部門	生きている実感が高まる	

○さて、キャンプは、大きく「カブのキャンプ」と「ボーイ以上のキャンプ」に大きく分けられる。

次の表は、各部門のキャンプについてまとめたものだ。

このコースでは、基本的にボーイ隊以上のキャンプについて研究していく。カブ・ビーバーの指導者も参加しているので、また、ボーイ隊・ベンチャー隊の指導者にも、その違いを知ってもらうことも大切なので、ここでそれを示す。

CGG P.14 掲載

ビーバー部門	◎キャンプは行わない、見学するだけ。 ※舎営については、別途示した条件を全て満たしたときに実施 1 泊 2 日の日程で実施できる。
カブ部門	◎張ってくれたテントに泊まる。テント張りの手伝い。食事作りも指導者や支援成人の手伝いに限られる。また、長くても 2 泊 3 日。 ※舎営の「カブホリディ」、テント泊の「カブのキャンプ」、日帰りの「カブのデイキャンプ」がある。組キャンプという形態はなく、全て隊キャンプとなる。
ボーイ部門	◎自分達でテントを張り、生活する。野営法の基礎技能を身につける。 ※実施単位別に、「班キャンプ」「隊キャンプ」 期間別に、「1 泊キャンプ」「ウィークエンドキャンプ」「長期キャンプ」とあるが、基本的に固定キャンプ。
ベンチャー部門	◎野営の基礎技能を深め、応用する時機。 ※実施単位別に、「ソロキャンプ」「班キャンプ」「隊キャンプ」 期間別に、「1 泊キャンプ」「ウィークエンドキャンプ」「長期キャンプ」 実施形態別に、「固定キャンプ」「移動キャンプ」
ローバー部門	◎サバイバル訓練、遠征。ワークキャンプ。

このように、ボーイ以上のキャンプでは、そのほぼ全ての作業をスカウトが行うのに対して、カブのキャンプでは（カブがテントを張ったり、炊事をするのではなく）指導者が主体となってテントを設営したり、炊事場を作ったり、調理するのであって、カブはその手伝いをするという位置づけになっています。これは、カブには、サイトを設営したり自然の変化に対する生活を自分でする体力も足りなく、それにキャンプに必要な技能の習得もしていない・・・という理由からです。

ということは、カブのキャンプを実施するということは、カブの指導者に大きな負担がかかる・・・ということです。そのため、指導者の経験や技能によっては、常設のキャンプ場に張ってあるテントを利用したり、指導者や支援者がテントを張り、必要な施設・設備を整えてから、カブスカウトを迎えるということもおこってきます。

「そうであれば、キャンプ・マネージャーの資格なんていないじゃないか!」と単純に考えないでください。建物でなくテントに寝かせるということは、カブの子ども達にとっては大きなリスクが伴うのです。成長したボーイスカウトでは起こらないこと、例えば、テントのチャックを開けること、懐中電灯を自分で管理すること、夜の闇の恐怖、暑さや寒さの調整、トイレやおねしょなど、カブ隊年代ならではの注意すべき事項にまで意識を向けなければなりません。それを含めてのキャンプ・マネージャーなのです。

このように、カブの指導者と言えども、体力はもちろん、ボーイ隊の指導者同様の野営技能が求められ、かつ、ボーイ以上に安全面や生活面への配慮や対応が必要となるのです。

※カブの宿泊プログラムについては、下記の実施条件が条件が満たされていない場合、及び資格がない隊長（若しくは副長）が行う「カブのキャンプ」は、地区コミッショナーから認められないことを知らせる。

◆は「カブホリディ（舎営）」の実施条件である。

★カブのキャンプとボーイのキャンプの実施条件の主な相違点

項目	カブスカウト	ボーイスカウト
主旨	基本は宿舎での宿泊プログラム。諸条件が整ったらテントに泊まってみる。	個人の成長を促すために、自然の中で班を単位とする野営を行う。
実施単位	隊キャンプのみ（組キャンプはあり得ない）	隊キャンプ、班キャンプ
テント	組全員＋DL が泊まれる大きな家型テントかドームテント	班用家型テントか班用のドームテント。但し男女のテントは分ける。
日数	ウィークエンド1泊キャンプ サマーキャンプ2泊3日以内	デイキャンプ、1泊キャンプ、ウィークエンドキャンプ サマーキャンプ（3～7泊）
雨・風	ひどい雨・風の際は建物等の避難所に避難できること。 または、撤退して帰宅できること。	雨、風は関係なし
指導者	最低でもキャンプ・マネージャーの資格を持つ隊長（副長）1人。その他に副長2人（副長もStep1以上を修了していることが望ましい）。そして、各組にデンリーダー。（DLはスカウトテントに宿泊）	野営法研究会 Step2 修了の隊長1人。同研究会 Step1 修了の副長2人以上、その他
支援者	Step1 修了者の他隊指導者・団委員のほか、保護者、インストラクター等5名以上。	奉仕者3～5名（他隊指導者・団委員のほか、保護者等）。ベンチャースカウトでも可。
プログラム	基本的にボーイ隊と同じだが、健康を損なわないものであり、心理面でも体力面でも無理がないもの。営火はカブ向きに。	追跡、忍び寄り、ゲーム、スタンツ、ワイドゲーム、自然観察、コレクション、スケッチ、野営料理、班営火、隊営火、歌、ダンス、工作、ハイキング、運動等
キャンプの運営	隊長の指示により、指導者・支援者が行う。	上級班長の下、班長の話し合いにより自主的に運営するのが基本。
野営装備の運搬	基本は指導者及び支援者	隊装備は、指導者及び支援者。班装備は各班で。
場所	団所在地の近くの屋外で、野外の雰囲気を感じられる平地（空き地・草地・林等）で、かつ近くに避難できるところがあること。 上水道や便所が整っているところ。	遠隔地。自然環境が豊かな野外。人家の側ではないが、連絡のとれる場所。基本的に山岳キャンプ、移動キャンプは行わない。 近くに飲料に適する水が得られるところ。
実施季節	基本は、春から秋にかけて。（茨城では4月～10月）	1年中。条件が整えば、雪中キャンプも可。
設営・撤営	指導者や支援者が主体となり、カブスカウトは手伝いをする。	全て自分達で行う。
炊事	指導者や支援者が主体となり、カブスカウトは手伝いをする。	全て自分達で行う。
交通	支援車両が直近まで入れるところ。	特に指定はないが、緊急車両が直近まで来られるところ。
連絡	携帯電話の通信エリア内。	携帯電話の通信範囲であれば申し分ない。
その他	周辺に医療施設、食料調達ができるスーパー等があるところ。	近郊に医療施設、食料調達ができるスーパー、野営資材が調達できるホームセンター等があるところ。

4. 各部門におけるキャンプの実施条件

全ての隊で実施されるキャンプについては、それぞれの隊のキャンプ実施の基本条件をクリアする前に、まず、この**共通条件**を満たしていなければ、キャンプ実施することはできません。それは・・・

【共通条件】

- ・実施計画書が、団会議、団委員会に提出されていること。
- ・団会議、団委員会の議を経て、団委員長の許可を得ていること。
- ・事前に、地区コミッショナーに届け出をしてあること。
- ・キャンプの実施運営組織が整い、スタッフが確保されていること。
- ・安全体制、避難体制、緊急連絡体制が整っていること。
- ・行政、県連、消防・警察等への必要な届出・申請がなされていること。
- ・実施部門のキャンプマネージャーの有資格者がキャンプの全期間キャンプを総括していること。

です。

・・・で、それは今まで述べてきた、ごく当たり前の事項です。

そして、各隊でキャンプを行うには、この共通条件に加えて、それぞれの部門の「キャンプ実施の基本条件」を満たすことが必要となります。

【スカウトキャンプ実施の基本条件】

- ・ボーイスカウトは、班ごとに独立したキャンプサイトであること。また、班長を中心とした「班」が編成できること。
- ・ベンチャースカウト、ローバースカウトは、個人もしくはバディで1つのテントを使用することが望ましい。(男女別)
- ・女子スカウトが参加する場合、最低1名の成人女性指導者が参加・宿泊すること。
- ・女子ベンチャースカウトの「探検旅行」については、常設の既設キャンプ場、管理人常駐の山小屋やユースホステル、万一の場合を想定して避難可能な場所での「指導者随行」により行うこと。
- ・ボーイスカウト隊が実施するキャンプでは、隊長はキャンプマネージャーの資格を有していること。ボーイ隊長がキャンプマネージャーの資格を有していない場合は、キャンプマネージャーの資格を有する副長・他隊の指導者が同行していること(ボーイ隊長は就任1年以内に資格を取得すること)。
- ・ベンチャースカウトが実施するキャンプでは、キャンプ・マネージャーの資格を持つ隊長(もしくは副長)による十分な指導が事前に行われていること。
- ・刃物(ナイフ、ナタ、斧、のこぎり、鎌等)工具類は、野営法研究会 Step1 以上を修了した指導者の適切な指導及び安全管理の下で使用させること。
- ・事前に調整を行い、現地踏査(下見)を実施の3ヶ月以上前と1ヶ月以内の最低2回は実施すること。
- ・3泊以上のスカウトのキャンプを実施する際は「キャンプのしおり」を作成してスカウト及び保護者へのキャンプの内容の周知を図ること。
- ・安全管理責任者を置くこと。

【カブのキャンプ実施の基本条件】

- ・組ごとに独立したキャンプサイトではなく、1つのサイトに指導者テントもカブのテントも配置する等、カブ隊長の十分な管理下におくこと。
- ・宿泊用テントの他に、清潔な固定シェルターか防水布のマーキー(大テント)など、荒天時にカブ全員を臨時に収容することのできる施設があること。
- ・雨天及び荒天に全員が避難できる宿泊施設が、少なくとも徒歩で30分以内にあること。
- ・カブスカウトは、それぞれの寝具で寝なければならない。
- ・カブスカウトと同じテントに、原則として最低1名の成人指導者(女子指導者を含む)が宿泊すること。
- ・カブ隊24名未満であれば、隊長の他、最低2名の副長、組ごとにデンリーダー1人がつくこと。24名を超える場合は副長3名(最低人数)以上とする。
- ・Step1を修了した他隊指導者・団委員の他、保護者・インストラクター等5名以上が参加できること。
- ・カブ隊長(実施責任者)はキャンプマネージャーの資格を有していること。カブ隊長がキャンプマネージャーの資格を有していない場合は、キャンプマネージャーの資格を有する副長・他隊の指導者が同行していること。(カブ隊長は就任1年以内に資格を取得すること)
副長はキャンプチーフの資格を有しているか、修了に向けての努力をしていること。
- ・また、事前にこれらの指導者が講師となって、隊や組の他の指導者に「キャンプ講習会」を実施することが望ましい。
- ・一般のキャンパーから独立したサイトであり、ボーイ隊、ベンチャー隊から適切な支援を受けること。また、炊事を専門に担当する保護者(育成会)のチームを編成して支援を受けることも考慮する。

- 期間は、長くとも2泊3日以内にとどめること。
- 刃物（ナイフ、ナタ、斧、のこぎり、鎌等）工具類は、資格を有する（野営法研究会 Step1 修了以上）指導者の適切な指導及び安全管理の下で使用させること。
- キャンプ地は、居住する市町村から近距離を選定すること。
- 事前に調整を行い、現地踏査（下見）を実施の3ヶ月以上前と1ヶ月以内の最低2回は実施すること。
- 2泊以上のカブのキャンプを実施する際は「キャンプのしおり」を作成してスカウト及び保護者へのキャンプの内容の周知を図ること。・安全管理責任者を置くこと。

何度も言うが、ビーバー隊は、宿泊プログラムを実施することはできない。ただし、団行事・地区行事等の事情により、やむを得ず宿泊を伴わなければならない活動をする場合には、安全対策を十分に行い、かつ下記の条件を全て満たした場合のみ実施することができるものとする。

CGG P.17 掲載

【ビーバー隊の宿泊プログラム実施の基本条件】

- ビーバー隊が宿泊を伴う活動へ参加する場合は、団会議で協議し、団委員会の承認を得ること。
- ビーバー隊長（もしくは実施責任者）はキャンプマネージャーの資格を有していること。
- 宿泊は舎営とし、宿泊地は近隣、宿泊数は、1泊2日を原則とする。
- 指導者及び安全管理者による現地踏査（下見）を実施の3ヶ月以上前と1ヶ月以内の最低2回は実施する。
- 引率にあたる指導者は、隊活動において十分な経験を有する者がこれにあたる。（Step1 修了者）
- 指導者、支援者（補助者を含む）の役割分担を明確にし、安全管理者を置く。
- 安全管理のため、スカウト3名に対して成人指導者1名が同行する。（スカウト数が少ない隊においては、成人指導者の割合を50～70%にすること）
- 活動内容を事前に、十分に保護者に説明し、理解させ、協力を得る（保護者同伴であることが望ましい。）
- 就寝時、指導者（もしくは保護者）はスカウトと同室とする。
- ビーバー隊だけの単独での宿泊を伴う活動は実施しない。

5. スカウトキャンプを行うに当たっての指導者の在り方

上記のように、スカウトキャンプがもたらす「教育的効果」はたいへん大きいものです。

つまりは、キャンプを運営・指導する指導者自身が、このことを十分にそれを理解し、それが実現できるための知識・技能・方法・規則等（これらを「野営基準」という）を身に付け、それをキャンプでの生活指導やプログラムに活かせることが、スカウトキャンプを実施する上での大前提となります。

また、前にも述べましたが、ボーイスカウトという組織と名前の下でキャンプを行うということは、キャンプの「質」が確保されていることが求められます。つまり、万一事故が発生したときに、民事・刑事責任から指導者を保護し、保険に対して適切な執行を求めると同時に、保護者や地域社会に対してボーイスカウトの指導者の位置づけを明確にする等、組織としての責任体制をきちんとしておく必要があるのです。

そこで、茨城県連盟では、県内のスカウトが等しくこのキャンプにおける成長への効果を受容することができるように、責任のあるキャンプ運営がなされるように、各隊の指導者に対して、県定形訓練として

「野営法講習会」

「野営法研究会 Step1」

「野営法研究会 Step2」

を実施し、段階を追って、必要な知識や技能の修得を求めています。ここでは、キャンプの技能だけではなく、スカウトキャンプの意義に始まって、キャンプ基準、企画・計画・準備、用具の選び方・扱い方・メンテナンス、設営技能、安全、工作、炊事、衛生管理、撤営技能、報告・記録など、スカウトキャンプの基本を一通りを修得できるプログラムを提供しています。

その中で、指導者は具体的には次の6つを体得します

CGG P.11 掲載

- | | |
|------------------|-----------------------|
| ①自らキャンプを楽しむこと | ④キャンプの効果を身をもって体験すること |
| ②求められる精神・意識を知ること | ⑤すべてのことの根拠を考えること |
| ③キャンプの規律を知ること | ⑥キャンプをすると自分自身が元気になること |

これをこの野営法研究会等で是非とも感じ取ってください。

《まとめ》(5分)

1. キャンプを安全に安心して行うためには、全ての指導者が、各部門のスカウトキャンプを知っていることが大切。
2. しかし、スカウトにとってキャンプは、楽しく、魅力的な、好奇心たっぷりの活動の場でなくてはならない。
いくらスカウトキャンプが教育を目的としているからと言って、学校の授業や、塾の講義であったり、単なる遊びの場であってはならない。
3. 次の言葉を忘れてはならない。

CGG P.6 掲載

- ・スカウトは創意工夫に満ちている。どのような困難なことや不愉快なことがあっても、(創意工夫で) 必ず解決することができる。
- ・キャンピングは、スカウティングには大事なもので、少年達には魅力があり、自立心と創意工夫することを教えてくれる機会であり、健康をもたらしてくれる
- ・求められる精神を備えていれば、キャンプこそ隊長が少年達を夢中にさせることのできるものである。

(SCOUTING FOR BOYS)

- ・好奇心からニーズへと導くこと
- ・班が班長を中心に自ら取り組むように仕向けること
- ・振り返りによって、気づきを起こさせ、それを確認できる環境（気づきから行動へ）を整えること

キャンプには、

- ・キャンプそのものが子どもの成長をもたらす
- ・自然の中での生活がもたらす
- ・グループによる活動、共同生活がもたらす
- ・新しい体験がもたらす

そんな効果がある。

(信州大・平野吉直教授)

4. キャンプがスカウトにとって魅力的な場であるために、指導者として是非これらのことを身につけてもらいたい。

5. スカウティングが求める発達とは

CGG P.6 掲載

- ・自主自律性（自ら進んで積極的にことを成そうとする自発性） → 自発活動



- ・「やればできる」という自信と忍耐力



- ・運動感覚の発達（器用さ、身のこなし）



- ・観察力、注意力が増す



- ・対象に対する深い知識、高い技能が身につく



- ・行っている作業を好むようになる



- ・情緒が安定する



- ・他人への親切と愛情、相互協力と奉仕の心が育つ



- ・規律と秩序を重んじ、従順さが養われる



一個の人格としてトータルに発達を遂げていく

§2 キャンプの計画・準備・プログラム

●セッションの目標（参加者はこのセッション終了時に次のことが達成できる。）

1. 「指導者のためのスカウトキャンプ」(P.9-P.19) を読み理解する。(★課題の範囲は P.2-P.19) (2-①)
2. 隊長の指導の下にスカウト向けにキャンプのしおりを作る。(2-②)
3. キャンプについて、保護者に提供すべき必要な情報をまとめ、それを紙媒体で提供する。(2-③)

●指導上のねらい・ポイント

1. ①「楽しい」キャンプを実施する、指導するにあたって、リーダーとして何が必要か（準備・情報・知識・技能）を理解させる。
- ②本番のキャンプを「楽しい」ものとするために、事前の訓練（知識と技能のステップアップ）、事前の健康管理（自分の責任）の必要性を理解させる。
- ③ キャンプ日程の重要性について理解させる。（成長を促すプログラム、規律と秩序、生活のリズム等による観点から）
- ④ 実施手続・連絡の大切さを理解させる。(2.3. にも関連)
2. どうして「しおり」を作る必要があるのかを考えてもらう。
3. 保護者が求める情報、保護者に伝えるべき情報を知り、それを効果的・確実に伝える方法を考えてもらう。危急時の対応も含めて、支援体制の構築の意味もある。
4. 「県外旅行申請書」と各県連での対応を理解してもらう。

●セッション展開にあたっての留意点

1. 「指導者のためのスカウトキャンプ」は、内容が古く、ある意味では記述が不親切である。特に初級指導者を対象にしていることから、このセッションはで、より詳しくかつ現代に即した内容を伝えることが必要である。そのことを踏まえて、
 - ・まずは、何度も繰り返すが、「楽しいスカウティング」「楽しいキャンプ」、これがスカウティングの基本である。ここを外してしまったら、もはやスカウティングでないことを重々承知していただきたい。
 - ・スカウトキャンプはスカウティングの方法のひとつであることは理解してもらえたと思われる。スカウティングの方法は「楽しい」が基盤になくてはならない。
 - ・しかしながら、単なるスカウトキャンプではなく「楽しい」スカウトキャンプを実施するにあたって、リーダーとして知らなければならないこと、身につけていなければならないことは、非常に多岐にわたることを認識してもらう。
 - ・そして、そのためにリーダーとしてキャンプ知識と技能を十分に修得する必要性を認識してもらう。
 - ・必要な手続について説明し、特に提出を要する書類については実物を配付する。
2. また一方では、現代の IT 化社会において、保護者は日々の生活の中でもより詳しい情報を求めることが日常化しており、もはやそれを提供するの「指導者の義務」となりつつある。このことから、キャンプという特殊状況に子供を送り出す保護者に対して、指導者として「安心」を与えられること、任せられる信頼できる指導者であることが求められ、それは次の 2 つによって達成される。
 - ・指導者自身の研鑽による実力アップから得られる「信頼」によるせま「安心」
 - ・保護者が求める情報を的確に提供できることによる「安心」
 である。この点を十分に認識させることに留意する。

●準備品 ・名称〈規格〉（数量）

- ・（各自）参考書「指導者のためのスカウトキャンプ」
- ・ホワイトボード、マーカー（黒・赤・青）、磁石。または、プロジェクターとスクリーン、ポインター）
- ・「県外旅行申請書」のコピー（人数分）

●他のスタッフへの依頼事項

【他の講師に】

- ・スカウトキャンプの在り方の基盤となる重要な講義でもあるので、コンセンサスをとるためにも全員が参加する。

【業務・奉仕スタッフに】

- ・特になし

●セッション構成と展開（時間配分）

●講義（45 分）→実習（0 分）→まとめ（5 分）

《導入》（5 分）

1. 体験談から、不十分な計画と準備が、キャンプの失敗を招いた・・・体験談等から、それが、スカウト等にどのような悪影響を及ぼしたのかを話す。
2. 「知ってる」と「できる」は全く別のこと。リーダーとしては、「知っている」のは当然で、さらに「実際にできる」ことが求められる。それが隊全体のレベルアップと各自のスキルアップ、安全レベルのアップやスカウト精神のレベルアップに繋がる。
3. さらに指導者のレベルが上がれば、活動のバリエーションも広がり、より魅力的なプログラム展開にもつながる。同時に、指導者の余裕も出てくることから、本来の目的である「個人の発達」の助長・指導にもつながっていく。

《展開》（40 分）

1. ①**キャンプを実施する、指導するにあたって、リーダーとして何が必要（準備・情報・知識・技能）かを理解させる。**

○まずは、よい計画を立てられること

スカウトのキャンプは「準備に始まり整理に終わる」といわれる。つまり、現地に行き行動するときだけがキャンプではない。ベンチャープロジェクトを考えてもらえば解るだろうが、指導者としてキャンプを行う場合でも「Plan」「Do」「See」、すなわち、企画→計画立案→準備→実施・展開・整理→評価・反省・報告・・・といった一連のプロセスが求められている。これはキャンプに限ったことでなく、年間を通したプログラムの運営においても同じであることは、ご承知の通り。

さて、企画・計画をたてるポイントについてみていこう。ポイントは 5 つある。

（ア）キャンプの目的を明確にする

（イ）その目的を、より効果的に実現するプログラムとそれが実行できるキャンプ場を考える。

（ウ）準備については、その手順や方法を、条件を考え実施する。

（エ）活動プログラムを、整理して配列しておく

（オ）計画的に準備を進めるためのスケジュール表を作る

※（ア）と（イ）については、しばしば逆転することがある。キャンプ場が先に決められて、その範囲で目的を作っていく・・・。現代のキャンプ場事情から言って致し方ないところであるが、やはり、スカウト運動が教育運動であることを考えれば、先に目的を明確にしたい。また、目的によって、準備する装備・資材が違ってくるし、サポート態勢も違ってくる。

○次に、企画→計画→下見に移る。

《企画》

企画は、先に述べた 5 つのポイントについて、次の枠にはめて具体的にしていきます。「枠」とは、そう、皆さんご存知の「5W1H」です。

when（いつ）	・・・	季節、期日、日程、時間、時刻など
where（どこで）	・・・	目的地（実施場所）、コース、活動の場所など
who（誰が）	・・・	スカウトの部門、経験、年齢など
why（なぜやるのか）	・・・	目的、目標、達成度など
what（何を）	・・・	活動プログラム、教育プログラムなど
How (1)（どれほど）	・・・	人数、資材、装備、予算など
How (2)（どのように）	・・・	キャンプか舎営、支援の有無など

このようにだいたい枠組みができところで、具体的な計画に移ります。（このようにまずは枠組みをして、全体を俯瞰しながら計画に移っていくのがコツなのだ）

○さて、お次は計画です。

《計画》

計画は、具体的にキャンプを行うにあたって、考えておく（ハッキリさせておく→敢えて決めておくとは言わない）べきことで、次のような項目があります。

行動計画	．．．．．	どんなプログラムをどの位行うか、日程は、日課は、など
訓練計画	．．．．．	行うプログラムによって生じる必要な事前の訓練計画 など
資材・装備計画	．．．	時期や日数、場所やキャンプの形態、プログラムの展開に必要な資材は、輸送の方法は、など
食事・食糧計画	．．．	自炊が給食か、食事回数は、参加人数(班数)は、炊飯設備は、固定キャンプか移動キャンプか、献立は、など
輸送・交通計画	．．．	公共交通利用かチャーターか、所要時間は、隊・班装備・個人装備の量は、など
財政計画	．．．．．	それぞれにかかるキャンプ費用(輸送交通費、宿泊費、食料費、資材装備費、プログラム費、通信・連絡費、医療費、事務費など)
服装計画	．．．．．	季節・日程・場所(南北、高低)によって異なる
組織計画	．．．．．	班の役務分担、隊指導者の役務分担、支援者の役割分担と責任範囲など
情報・連絡計画	．．	救急医療情報、プログラム情報、コミュニケーション、連絡体制、参加者・保護者への情報提供、健康情報の収集、実行スケジュールの共有など

という順序を踏みながら、キャンプの実施計画を練っていく。

○最後は、お次は下見です。

《下見》

下見は計画の一部ではあるが、それまでに立ててきた「計画」を、より実効性のあるものに仕立てていくためのものであると同時に、実際にその場に行ってみなければ分からない「現地の状況」を確認するためのものである。

特に「安全」を確保するために危険要因をどれだけ見つけ出せるかという点を疎かにしてはならない。

下見は、予め「下見調査項目」を明確にして、調査に抜けがないようにすることが大切だ。つまの、調査表を作成し、指導者間で共有することだ。

○この企画・計画については、ほとんどの隊が隊長と副長を中心に企画・計画しているようだが、ウィークエンド・キャンプ(1泊キャンプ)ならともかく、夏季のキャンプを行うに当たっては、できれば保護者会で保護者の代表(1～2名)を選出して、その方も加えた「夏季キャンプ委員会」を設けてはいかがだろう。カブ隊であれば、輸送・食事・食糧を、ボーイ隊であれば、輸送・食糧計画を担ってもらえるだろう。また、保護者がキャンプの企画・計画に絡むことで、隊指導者→保護者の連絡システムの外に、保護者→保護者の連絡システムができるコトとなるので、キャンプ以外の活動についても支援が受けやすくなる。

しかしながら、ボーイ部門に置いては「GB会議」が最高決定機関であることを忘れてはいけない。

② 事前の訓練(知識と技能のレベルアップ)、事前の健康管理(自分の責任)の必要性を理解させる。

○これについては、既知のこととは思いが再度確認する。

ボーイ隊においては(カブ隊でも)、近隣の1泊キャンプを繰り返すことで、スカウトがテント泊に慣れ、必要なキャンプスキルを身に付けさせてから、夏季の長期キャンプに臨む・・・こととなっている。

その理由は・・・？

- (ア) キャンプ技能の段階的修得とや個人の段階的成長を促し、自信へとつなげること。
- (イ) 友情を深め、班意識や班精神を養うこと
- (ウ) 自分の現在の知識・技能レベルを確認し、目標を持つこと
- (エ) 繰り返し訓練することで、手技を確実に身に付けること
- (オ) そして、長期キャンプにチャレンジすることで、自分自身の成長を確認し、自信を深めること

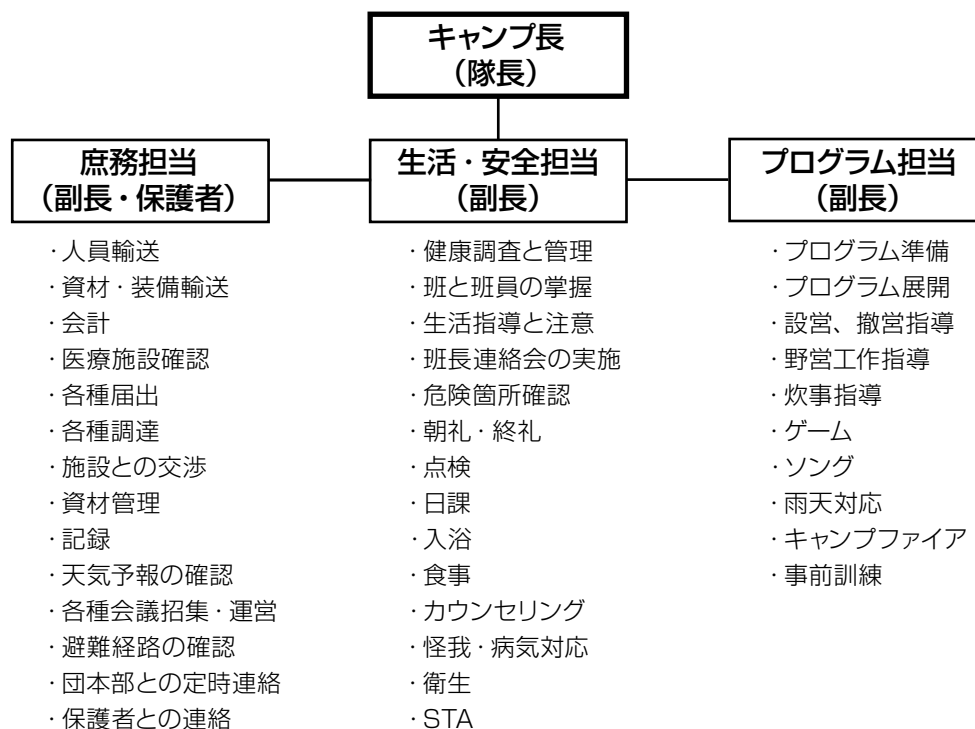
なのである。(これが、スカウトキャンプの「目的」だ。だからキャンプという行為は「目的」ではなく「手段」であるわけだ。)

○ただし、カブ隊では、ここまでは求めてはいけない。

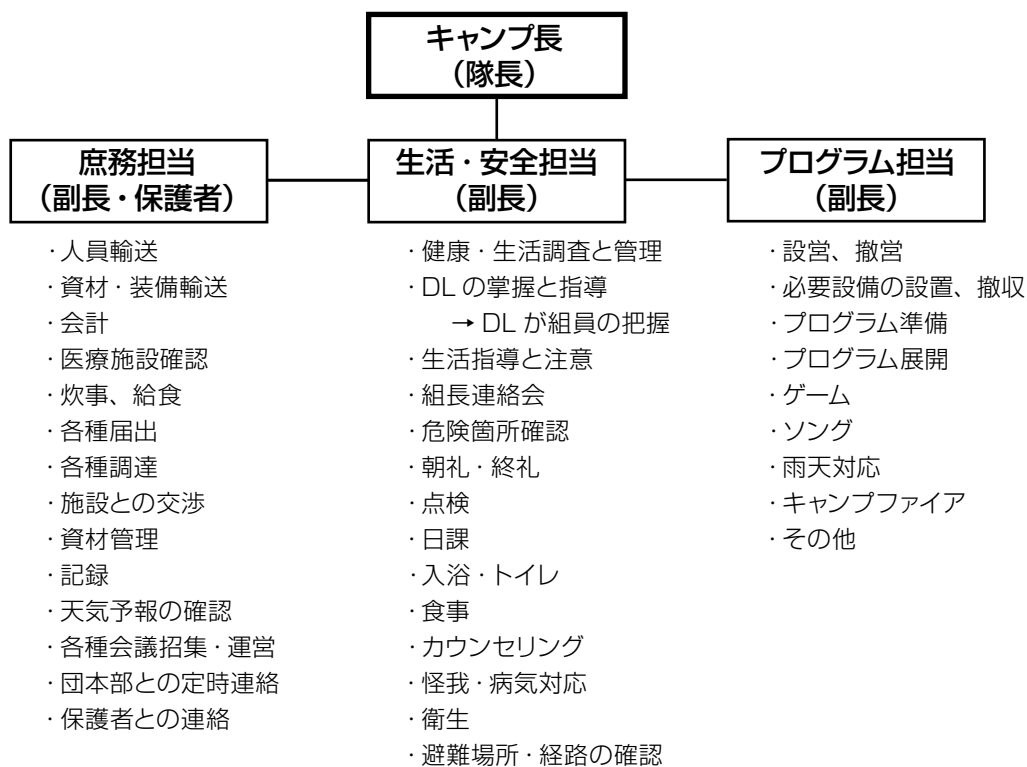
「カブのキャンプ」を実施するカブ隊の指導者に対しては、設営・撤営技能は、ボーイ隊指導者に匹敵するレベルが求められている。しかし、それはあくまで「指導者」に対してのみである。

カブ隊においては、カブのキャンプは必須プログラムではない。その位置づけは、ボーイ部門が自然の中でのキャンプで、個人の全般的な成長を促しているのに対し、カブ隊では、「夢と冒険」の場なので

●キャンプ運営組織（ボーイ隊の例）



●キャンプ運営組織（カブ隊の例）



ある。そのため、カブ隊における事前の訓練意味合いは・・・

- (ア) 野外の活動に慣れることが第一
- (イ) カブのハイキング→カブのディキャンプ→カブホリディの段階をきちんと踏むことによって、徐々に体力と適応力、そして「自分に負けない*」精神力を身に付けていく。
(* イギリスのカブのやくそく「**The Cub does not give in to himself**」)
となる。この点を決して間違えないように注意してもらいたい。

そのため、カブのキャンプは、夢と冒険にあふれたテーマによる、一貫した流れのプログラムが必要とされているのだ。

○次に自己の健康管理だが、2つの意味がある。

1つは、平常の自分の健康状況を把握しておくこと、それに対して何らかの変化や違和感があったら、それを察知し、医療機関にかかって状況の確認と改善(治療)を行うことである。ここで大切なのは・・・

- (ア) 健康である「平常」の健康状況を自分自身で確認すること(平常の健康状態を知っていること)
 - (イ) 異常を感じ取ることができ、それを「治す」という行動をとること
 - (ウ) できれば、その異常を招いた原因・要因を知り、それまでの生活をふり返ること
- となる。
- 2つ目は、それを踏まえて、健康な平常の健康状態を維持する努力をすることだ。

○キャンプ地においては、自分の健康は自分で守らなくてはならない。

そのため、ボーイ隊以上であれば、自分の責任において健康を維持すること(その努力をすること、異常を察知すること)が求められている。また、カブ隊では、そこまでの自覚・判断力は備わっていないことから、「健康・生活調査書」により、保護者から必要な情報を得ることが大切となる。

③ キャンプ日程の重要性について理解させる。(成長を促すプログラム、規律と秩序)

○まず、どうして「日課表」として、基本日課が提示されているのかについて考えてみよう。

ボーイ隊以上では、日課表から次のことを読み取ってもらいたい

- (ア) 1日のスケジュール、行動(活動)の順番、内容を把握すること
- (イ) 決められた時間内に作業を完了すると共に、次の準備を整えること。(時間配分、時間管理、役割分担とリーダーシップによる作業計画)
- (ウ) 時間の有効利用を図り、班独自のプログラム・作業を展開する。
- (エ) 観察と推理をはたらかせる→指導者との駆け引き

となる。カブも含め全体としては、

- (ア) きちんとした日課により、基本的な生活リズムを保つ。
- (イ) 時間を守ること、ルールを守ることを実践する。
- (ウ) プログラムへの期待感を持たせる。
- (エ) などなど

とされている。

○特にボーイ隊のキャンプで重要視されること

時間を守る・時間を作り出すために、班長を中心(リーダーシップ)として、分担や段取りを考え、時間を管理しながら、互いにフォローして作業や行動することである。ひとつひとつの作業に要する時間については、やはり「経験」がものを言うので、日頃から1泊キャンプを積んで、班長や次長、それに班員それぞれが、自分の任務に要する時間を算出できるようになることが求められる。

○実は、ボーイのキャンプの大きな教育的意義は、この「**分担→段取り→実行→結果**」にあると言われている。

④ 実施手続・連絡の大切さを理解させる。(2.3.にも関連)

○§1でも手続については触れたが、ボーイスカウトとして「制服」を着て行動するということを、改めて考えてもらいたい。

○「東日本大震災」の直後、制服を着たボーイスカウトが義援金募金を行ったとき、一般の方々は安心して募

金をされていた。それは、この制服を着たボーイスカウトへの信頼があるからである。これは我々の諸先輩が90年間という年月を費やして培い獲得してきた大変素晴らしい財産であり名誉である。つまり、ボーイスカウトである以上、全ての手続きや連絡についても、段取りをし、必要な情報をきちんと揃えて、責任を持って行うことが求められている。

- キャンプにあたっては、キャンプの管理人や地元の方々と良いコミュニケーションを取ることが、良いキャンプに繋がる（というか、普段から自分の身の回りの人たちと良いコミュニケーションをとることが、日常生活では大切だ）。
- 同時に、先に述べたキャンプ運営組織により展開する場合は、指導者間の連絡と情報の共有は欠かせない。隊長への報告は当然だが、会議や電話だけでなく、ホームページ（ブログ）やEメールを活用して、情報の共有を図ることは大切だ。よく言われる「ほう（報告）・れん（連絡）・そう（相談）」だ。
- 保護者やスカウトに対しての連絡は、次の項目で述べる。

2. どうして「しおり」を作る必要があるのかを考えてもらう。

- 単なる「連絡」とは違い、教育活動であるボーイスカウトのキャンプでは、必要な情報を適切な形で提供する「しおり」をスカウトに渡すことで、事前の準備に指針・目標を与え、スカウトの不安を取り除き、期待を膨らませ、当日万全の準備で参加できる、キャンプ期間中にやるべきことを明確にする…ためのものである。
- 「しおり」の効果
 - （ア）モチベーションアップ（期待と不安、気持ちの準備）
 - （イ）キャンプ概要の把握させるための、スケジュールや基本情報の提供
 - （ウ）持ち物や事前準備の周知
 - （エ）行動記録や日々の気づきとふり返りの記録などの確認
- 特にしおりの制作にあたっては、単なる必要項目や記録スペースの羅列だけでなく、「夢と冒険にあふれたテーマ」に従ったBSでは「想定」、CSでは「ストーリー」仕立てのものと、大きな効果が期待できる。

《しおりの項目》

- （ア）キャンプの目的、キャッチフレーズ、スローガン、目的をはっきり・短く・分かりやすく示す。
- （イ）実施場所……会場の所在地、住所、電話番号を明記。
- （ウ）実施期間……○年○月○日○曜日～○月○日○曜日　○泊○日
- （エ）集合及び解散の場所と時間……必要に応じて図で示す。
- （オ）参加人員……参加者○名　スタッフ○名
- （カ）スタッフ及び組織図……一覧表にして載せる。
- （キ）服装及び携行品……用途別に一覧表にして載せます。有無のチェックができるようにしておく
とよい。
- （ク）交通機関の座席の割り振り、テント（部屋）の割り振り。
- （ケ）プログラム、日程……時間がよく分かるようにする。
- （コ）交通行程、会場及び周辺地図……遅れてくる参加者やプログラムの説明に便利だ。
- （サ）参加者名簿。班名、班員名簿、役割分担と仕事内容……一覧表にして、自分の班や係内容が分かるようにする。
- （シ）注意事項……キャンプで守ることを、「禁止」よりも積極的な「呼びかけ」の表現で。
- （ス）プログラムの導入……プログラムがより効果的に展開されるように、想定やストーリーでの導入を。また、各コーナープログラムの導入やヒントを。
- （セ）その他……前項までに載っていない項目を。
- （ソ）資料……プログラム実施において必要とするものやあったら便利なものなどの資料を載せる。
・歌集、料理法、テント設営法、施設配置図、日誌など

3. 保護者が求める情報、保護者に伝えるべき情報

- 保護者が「安心」して子供を託し、送り出せるようにするための、必要情報を事前に提供することがねらい。

《保護者に伝えるべき内容（要項）》

- （ア）キャンプ概要（期日、集合解散日時・場所、実施場所、交通手段、参加費用、野営か舎営か、など）
- （イ）キャンプの目的とプログラムのねらい、テーマなど
- （ウ）キャンプ実施責任者、指導者の役割と、キャンプ支援者（分担役務と連絡先）と組織図
- （エ）キャンプ日程とプログラムの概要
- （オ）服装と持ち物とバックパック等の入れ物、事前に準備しておくもの（特にプログラム等で必要

な仕様があれば、コメントを付ける)

- (カ) 現地の概況と状況(住所、気候、災害との関連、交通アクセスとキャンプ場見取図)
- (キ) 生活・行動上の注意事項(キャンプの注意事項)
- (ク) 緊急連絡体制・連絡網、救急医療体制・機関、
- (コ) 隊長や副長からのキャンプに対するコメント(抱負や達成目標など)
- (サ) 問い合わせ先、参加申込方法とメ切り、参加費納入方法

これらについては、『しおり』に掲載するか、別途「お知らせ」を作って配付するかになる。万一の危急時の対応も含めて、支援体制・支援態勢の構築の意味も含めて、しっかり作ること。

このしおりと下見報告書・キャンプ実施計画書は、セットにして団委員会でも保管しておいてください。前文にも書きましたが、きちんとした「下見報告書」「キャンプ実施計画書」そして「キャンプのしおり」の3点セットは、**万一事故が発生したときに民事・刑事責任から指導者を保護し、保険に対して適切な執行を求めることができる大切な資料**となります。

4.「県外旅行申請書」の提出。

- ・キャンプ、ハイキング等全ての活動で、他県への旅行をする場合は、必ず「県外旅行申請書」を茨城県連事務局宛に提出すること。
- ・これは、キャンプ地において重大な事故や病気(食中毒等)が発生したり、遭難などのアクシデントに見舞われた際に、その訪問先の県連盟が対応支援をに対する情報となります。
 - (ア) 出発日の1ヶ月前までに、茨城県連事務局に送付。(FAX、郵送、電子メール添付等で)
 - (イ) 提出者は、団の責任者(団委員長)。
 - (ウ) 様式は、県連ホームページ「茨城県資料」に掲載。

《まとめ》(5分)

- 1.「知ってること」と「できること」は全く別のこと(再掲)。
 - リーダーとしては、「知っていて」かつ「その根拠を理解(Step1,2の目的)した上で、実際にできる」ことが求められる。
 - それは、隊全体のレベルアップと各自のスキルアップ、そして、安心・安全レベルのアップに繋がる。
2. 指導者が十分なキャンプ運営能力を持つ。
 - 指導者のレベルが上がれば、活動のバリエーションも広がり、より魅力的なプログラムの開発にもつながる。
 - 同時に、指導者の余裕も出てくることから、本来の目的である個人の発達の指導にもつながっていく。

※以上1.2.はこのセッションの「導入」でも述べた。

3. 安心・安全そして期待をスカウトと保護者に

安心してスカウトをキャンプに送り出せるような環境作り、すなわち、保護者と指導者のコミュニケーションを、常日頃から行っておく。

スカウトが安全にプログラムを展開できるように、指導者は「救急法セミナー」「安全セミナー」「危機管理セミナー」等必要な研修を受けて、対応能力を習得しておくこと。

●備考

キャンプ実施計画書・例

第 団 隊

実 施 隊	☐ ビーバー ☐ カブ ☐ ボーイ ☐ ベンチャー ☐ ローバー				実 施 区 分	☐ 固定 ☐ 移動	
実 施 単 位	☐ 団 ☐ 隊 ☐ 班 ☐ 個人 ☐ 活動チーム ☐ 有志 ☐ 他				宿 泊 区 分	☐ 野営 ☐ 舎営	
実施年月日	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日 (泊 日)				県 内 外	☐ 県内 ☐ 県外	
実 施 場 所	名 称				電 話 番 号		
	住 所						
移 動 手 段	☐ 公共交通機関(電車・バス・他) ☐ 貸切バス・レンタバス ☐ 自家用車(保護者・指導者・団委員・他) ☐ 自転車 ☐ 徒歩 ☐ その他()						
実 施 体 制	団隊役務	氏 名	携帯電話番号			備 考	
実施責任者(正)							
実施責任者(副)							
キャンプマネージャー							
緊急連絡先	団隊役務	氏 名	携帯電話番号			備 考	
団 本 部							
往路移動中							
現 地 (正)							
現 地 (副)							
復路移動中							
現地医療機関	名 称				電 話 番 号		
	住 所						
現地警察署	名 称				電 話 番 号		
	住 所						
現地消防署	名 称				電 話 番 号		
	住 所						
チエック欄	団会議提出・説明	☐ 済 ☐ 未(実施予定 月 日)	県外旅行申請書	☐ 済 ☐ 未(提出予定 月 日)			
	団委員会提出・支援依頼	☐ 済 ☐ 未(実施予定 月 日)	下見報告書	☐ 済 ☐ 未(予定 月 日)			
	保護者説明会	☐ 済 ☐ 未(実施予定 月 日)		☐ 済 ☐ 未(予定 月 日)			
	キャンプしおり発行	☐ 済 ☐ 未(発行予定 月 日)		☐ 済 ☐ 未(予定 月 日)			
添付書類	キャンプ運営スケジュール表	☐ 有 ☐ 未(提出予定 月 日)	参加者名簿	☐ 有 ☐ 未(提出予定 月 日)			
	キャンプ運営組織図	☐ 有 ☐ 未(提出予定 月 日)	緊急連絡網	☐ 有 ☐ 未(提出予定 月 日)			
	キャンプ日程・プログラム	☐ 有 ☐ 未(提出予定 月 日)	ハイキング計画書と行程図	☐ 有 ☐ 未(提出予定 月 日)			
	キャンプのしおり	☐ 有 ☐ 未(提出予定 月 日)	周辺地図	☐ 有 ☐ 未(提出予定 月 日)			
	移動行程表・同地図	☐ 有 ☐ 未(提出予定 月 日)	現地略図	☐ 有 ☐ 未(提出予定 月 日)			

参加者名簿・例

第 四

隊

[illegible]

キャンプ実地踏査（下見）調査項目・例

項 目	内 容	容
交通機関	発着時間 所要時間	道路状況 高速道路料金、休憩ポイント 駐車場
施設概要	地形、面積 環境、植生	施設建物 管理
施設職員	施設管理者数 保険職員数	指導専門職員数及び種目
生活施設	宿泊室 洗面所 風呂場 浴室、シャワー、洗い場、同時利用可能数	便所（男子小 ヶ所、大 ヶ所、女子 ヶ所） 到着オリエンテーション 有無 起床 時 分、合図 有無 消灯 時 分、合図 有無
宿泊施設	部屋数（和室・洋室） 収容人員 部屋数、ベッド、畳 飲食の可不可 ふとん、毛布	バンガロー コテージ テント（常設、持ち込み） テントサイト（区画あり、フリー）
食堂施設	収容人員（同時利用定員） 申込み方法	朝食 有無 金額・メニュー 時間 昼食 有無 金額・メニュー 時間 夕食 有無 金額・メニュー 時間
売店	売店の有無、利用可能時間	販売品目 価格
研修施設	研修室の有無 収容人員 予約方法 使用時間帯 用途 貸し出し備品	放送機器 資料室（図書館）の有無 視聴覚機器の有無 門限
野営機材	貸し出しテント 人用 張り 有料・無料 炊具 種類、数、有料・無料	寝具 種類、数、有料・無料
炊具	飯ごう、なべ、ざる、ボウル しゃもじ、おたま、包丁、まな板 バケツ、ポリタンク やかん	ナタ 食器 薪 ガス その他
炊事施設	野外炊事場 有無 屋根の有無 カマド 形式、口数 水道 有無、蛇口数、ポリタン可不可	調理台 有無 台数、広さ ゴミの処理 テーブルと衣スカウトの有無
食料調達	施設仲介 調達方法 指導者は正時間 配送方法	周辺のスーパー 氷の調達 所要時間 価格
リクリエーション施設	朝礼・国旗ポール 可不可 広場 有無 人 キャンプファイア場（薪の有無） テーブル・ベンチ 固定・移動	屋根付き集会場 登山コース ハイキングコース OLコース 野外ステージ
野営プログラム	火気の使用 可不可 直火の可不可	構築物の設置の可不可
安全対策	街路灯 施設案内板 職員巡回	立ち入り禁止区域 外出許可 危険区域・地域
救急対応	保健室 救急病院（病院名、連絡方法、搬送方法、所要時間、深夜の対応） 荒天時の避難場所 場所と人員、所要時間	団との連絡方法 携帯電話の通話範囲の確認 固定電話の設置場所

§3 装備品とリスト

●セッションの目標 (参加者はこのセッション終了時に次のことが達成できる。)

1. 春秋における 1 泊キャンプ、及び夏季における 3～4 泊のキャンプに必要な個人装備を調べ、リストを作る。(3-2-①)
2. 班キャンプに必要な班装備を知り、リストを作成する。(3-2-②)
3. 標準的な隊キャンプに必要な隊装備をリストアップする。(1,3,5 泊それぞれ) (3-2-④)

●指導上のねらい・ポイント

1. まず現時点での参加者レベルでの 1 泊キャンプの個人装備をリストアップする。そして次に標準的なリストを提示し、修正させ、3 泊に延長すると何が加わるかを伝える。さらに §16 の「評価とリストの確認」時に、
「必ず使用するもの」
「あると便利で役立つもの」
「使うかもしれないもの」
の 3 区分を設けて上記のそれぞれの項目に分けてチェックし、修正させる。(3-2-①)
2. 班装備は、すでに各団では配備されているだろうから、季節や期間による内容物の変更はないだろう。これも標準的なものを示す。(3-2-②)、
また、隊で用意した班装備には無い、個人装備の延長上の「共同装備」(例えば缶切りなど)についても触れる。この場合、班員が共同装備を任されるということの意味(すなわち、欠席することはできないという「責任」)についても知らせる。
3. 隊装備については、行うキャンプの内容によりその装備が異なってくる。班装備の不足を補うもの、プログラム関連用品、安全・衛生関連等の装備、救護用装備そして、指導者用の装備が加わる。また、カブのキャンプにおいては、「班装備」という概念がないので、全て隊装備となること。この点を確実に伝える。(3-2-④)
4. キャンプを行うスカウトの年齢構成、活動単位、期間、経験度、交通手段、移動が固定か、季節、地理的要素等により、使用するテントが異なる。そのことを知り、対象とするスカウト活動に最も適したテントを選べるだけの知識を備える。(3-1-③)

●セッション展開にあたっての留意点

1. 「ソロキャンプ」→「班キャンプ」→「隊キャンプ」の順で、持って行く個人装備は減り、班装備・隊装備として分散化されることを知る。分散化に於ける責任についても言及する。
2. 1 泊では、なくても我慢してしまうが、長期キャンプとなると生死にかかわるものもあることを知る。
3. 「何を持って行くか」ではなく「何を持って行かないか」について、実際に検証してみる。

●準備品 ・名称〈規格〉(数量)

- ・(各自) 参考書「指導者のためのスカウトキャンプ」
- ・ホワイトボード、マーカー (黒・赤・青)、磁石。または、プロジェクターとスクリーン、ポインター)
- ・「個人装備リスト」「標準的な班装備リスト」「標準的な隊装備リスト」のコピー (人数分)

●他のスタッフへの依頼事項

【他の講師に】

【業務・奉仕スタッフに】

●セッション構成と展開 (時間配分)

- 講義 (10 分) →実習 (20 分) →まとめ (10 分)

《導入》(5 分)

1. 「 」

《展開》(40 分)

1. 春秋における 1 泊キャンプ、及び夏季における 3～4 泊のキャンプに必要な個人装備を調べ、リストを作る。

①あくまで「個人装備」のリストである・・・が

○まず考えなくてはならないのは、どんなタイプのキャンプを実施するかである。

ここでは基本的に「春秋の低い丘陵でのボーイの3泊4日の隊キャンプ」と想定して取り上げてみたい。

(ベンチャーのソロキャンプだともっと多種多様な装備が必要だし、カブのキャンプだと少なすぎる。ボーイの1泊キャンプだと、なくても済んでしまうものが結構出てくる)。

いきなり3泊4日の隊キャンプは難しいので、1泊2日の班キャンプから入っていくことにする。そのリストができたところで3泊4日のリストを渡す。(ハンドアウト配付)

○また、スカウトの年齢、体格、男女別等を考慮したリストを考えさせる。

それはどういうことかと言うと、個々人が必ず使う純粋な「個人装備」なのか、代表者がもってくればいい共用で使う「分担装備」なのかということ。特に、隊で用意した班装備には無い、個人装備の延長上の「分担装備」(例えば缶切りなど)についても触れる。この場合、それを任されるということの意味(すなわち、欠席はできない責任)についても知らせる。(「共同装備」とは違う。共同装備とはグループ装備とも言われ、ボーイスカウトにおいては「班装備」がこれにあたる。)

更に、ボーイスカウトに女子が入ってきたこと、その比率が短団大きくなっていることを考慮すること。(体格・体力・持久力面の視点から。更に1班当たりの人数が少なくなっているということは、それだけ1人が分担して持つて行く装備の数と量が増えるということである。)

○1泊、3泊、5泊を比べてみると、持つて行く装備品の種類はほとんど変わらない事に気づくと思う。

数量についても、食糧、衣類が増えていくだけで、それほど変わらない。

2. 班キャンプに必要な班装備を知り、リストを作成する。

①班装備は、すでに各団では当然配備されているだろうから、特に季節や期間という条件によって変更になることはないだろう。これも標準的なものを示す。(ハンドアウト配付)

3. 標準的な隊キャンプに必要な装備をリストアップする。(1,3,5泊それぞれ)

①隊装備については、行うキャンプの内容により、班装備の不足を補うもの、プログラム関連用品、安全・衛生関連等の装備、救護用装備そして、指導者用の装備が加わる。(ハンドアウト配付)

②また、カブのキャンプにおいては、「班装備」という概念がないので、全て隊装備となる。この点を確実に伝える。(ハンドアウト配付)

《まとめ》(5分)

1. 便利なキャンプを実現するために、あれやこれやといろいろと持つて行く。するとどうなるか。重い・辛い・疲れる・・・で、キャンプを楽しめなくなる。これでは本末転倒だ。
2. つまり、何を持つて行くかではなく、何を持つて行かないかという視点で考えなければならない。つまり、「便利＋快適」なキャンプではなく、「多少不便＋快適」なキャンプでいいのだ。多少不便だけど快適・・・だなんて意味がおかしいと思うかもしれないが、ボーイスカウトの真骨頂は「創意工夫」にある。現地にある物を利用したり、持っている物を流用したりの創意工夫をして、不便を便利にしていく。それがボーイスカウトのキャンプの楽しみのひとつになっている。
3. それは、応用力を育てることになる。これが社会に出てから役立つのである。ましてや、先の大震災の時などで真価を発揮する。
4. リストを作ることは忘れ物を無くすることに繋がる。これは大切なこと。
もし、何かを忘れてしまったのであれば、創意工夫によって、その場で解決していこう。三人寄れば文殊の知恵である。

§4 サイトとレイアウト

●セッションの目標 (参加者はこのセッション終了時に次のことが達成できる。)

1. 地形、水利、植生、風等に留意して班サイトを定める。(3-1-①)
2. 班サイトを構成するテントや工作物を知り、机上でレイアウトしてみる。(3-1-②)

●指導上のねらい・ポイント

1. 安全・安心・快適なキャンプでなければ楽しむ(＝スカウトに良い影響を与える)ことは難しい。それらを満たす要素について考え、要素についての良否の基準を理解してもらう。
2. キャンプ地の選定の要素を知り、そして理解させる。(安心・安全・快適・楽しい・魅力的)
3. 基本的な班サイトレイアウトについて考える。
 - ①班サイトを構成するテントや工作物等について、リストを作らせ、発表させる。(→ゲーム化)
 - ②サイトを決めるいろいろな要素を知ってもらい、実際に紙の上で配置させる。
 - ③必要なスペース、風向きへの対応、動線がうまくとれているか、それぞれの配置を考えさせる。
4. 安全・安心・快適なキャンプを送るための設備(テントや工作物)を知り、いろいろな要件によりレイアウト(配置)考えてみる。(要件：傾斜、風向き、日照、晴雨、人数、季節など)

●セッション展開にあたっての留意点

1. 文明生活に慣れ親しんだ我々にとって、いくら自然の中でのキャンプ生活が心身に良い・・・と解っていても、いきなり過酷な自然環境に置かれることは、逆に心身に多大なストレスと負担を与えてしまうことになる。「安全・安心・快適なキャンプ」ということは、すなわちストレスと負担が少ないキャンプということだ。このストレスと負担については、キャンプ経験や仲間の存在によって大きく変化していく(→キャンプを楽しめるか!による)。
2. 「指導者のためのスカウトキャンプ」の P.14 を参照するが、項目が古いものもあり、また、付け加える要素(風・暴風、獣害・虫害)もある。

●準備品・名称(規格)(数量)

- ・(各自) 参考書「指導者のためのスカウトキャンプ」
- ・ホワイトボード、マーカー(黒・赤・青)、磁石。または、プロジェクターとスクリーン、ポインター)
- ・「野営地の採点表(Step1 用)」(人数分)
- ・模造紙(班の数) ・はさみ(各自持参) ・切り紙セット(班の数) ・緑色の紙(B4)

●他のスタッフへの依頼事項

【他の講師に】

- ・資材の配付等をお手伝いください。

【業務・奉仕スタッフに】

- ・なし

●セッション構成と展開(時間配分)

- 講義(10 分) → 実習(25 分) → 講義(10 分) → まとめ(5 分)

《導入》(5 分)

1. 「 」

《展開》(40 分)

1. 地形、水利、植生、風等に留意して班サイトを定める。

- [

- ①安全・安心・快適なキャンプでなければ楽しむ(＝スカウトに良い影響を与える)ことは難しい。それらを満たす要素について考え、要素についての良否の基準を理解してもらう。
 - ②キャンプ地の選定の要素を理解させる。(安心・安全・楽しい・魅力的)

※①と②は似た内容なので、2 つ一緒に考える。

○スカウトから見た「安心・安全・快適」とはどんなものか、次視点から考えてみる。

- ・ヒト・・・ 信頼のおける指導者たち(野営技能、判断力、指導力、性格・・・など)

- ・モノ・・・十分に吟味された高性能で扱いやすいモノ、創意工夫ができる必要最小限のモノ。
- ・場所・・・これについては、次の項で述べる。

- キャンプ地は、自然環境が良く、快適な生活ができ、安全面や健康面において心配がなく、多彩なプログラムが展開できる場所が望ましい。
- キャンプ地選定に際しての具体的な基準については「指導者のためのスカウトキャンプ」P.14に掲載されている。
- 同書 P.12 には「キャンプ地の基本的条件」が掲載されているので確認しよう。

- (ア) 水利がよく、かつ水質が良いこと・・・今は沢や川の水は飲まない。上水道があるかどうか。
- (イ) 樹木があって、燃料が豊富なこと・・・新しい枝がたくさん落ちている場所は避ける。
- (ウ) 地形が緩やかで、排水がよいところ・・・その通り。
- (エ) 日当たりがよく、かつ強風が直接当たらないところ・・・その通り
- (オ) ゲームや作業をするのに適した広場やもできれば水浴場があること。
- (カ) 他人の出入りのはげしくない静かな場所であること。
- (キ) 食糧、なるべく新鮮なものが現地の近くで調達できること。
- (ク) 有害な昆虫・動植物がいらないところ・・・漆、アブ、ブヨ、蚊など。
- (ケ) 交通、物資の輸送になるべく便利のよいところ

とある。それ以外のポイントを挙げると・・・

- (コ) 崖や土砂崩れ、落石、河川の増水による危険が予測される場所は避ける。
- (サ) 岩石の露出、土地の凸凹の多いところは危険に繋がるので避ける。
- (シ) 木陰のないところは避ける。
- (ス) 台風等緊急時に避難する場所があるところ。
- (セ) 外部との連絡が取れるところ（携帯電話の通話圏内）
- (ソ) 怪我や病気の発生に備えて、医療機関が近くにある、または救急車の手配ができるところ。

となる。

理想的なキャンプサイトは、森林帯の中のぽっかり空いた草地がいい。テントを張るところは水平の平坦地で、地面は土。そして贅沢をいえば、夏だったら風通しの悪くないところ、涼しくて蚊が寄ってこない。おまけとしては、朝日が拝めるところ・・・かな。まあ、これは人によって好みが違う。

で、結論としては「地形」「水利」「植生」「風」「日射と木陰」という自然条件に加えて、現代生活の条件が加味されていく。

「冒険」的要素は、この安心・安全・快適なキャンプができて初めて可能となる。

2. 班サイトを構成するテントや工作物を知り、机上でレイアウトしてみる。

ここでは、班サイトを構成するテントや工作物について知り、必要な順番（すなわち設営順）を考えて行く。

- ①リスト表に「班サイト」を構成する物をできるだけ書き出してもらう。（例えば4班だとしたら）自分の班だけリストアップしたら4点、2つの班だったら3点、3つの班なら2点、全部の班だったら1点・・・みたいなゲーム。
→リスト表を配付（1枚／班）
- ②各班にテントやフライ・工作物が書かれた「ぬりえ」を渡し、ハサミで切り抜いてもらう。
それを紙の上に配置して、いろいろな要素や条件を考えながら、それぞれを配置してみる。
- ③視点をいろいろ変えてみて、この後の「設営」に向けたレイアウトを完成させる。
→最終案を、書き留めておくこと。

《まとめ》(5分)

1. サイトは、自然環境が良く、快適な生活ができ、安全面や健康面において心配がなく、多彩なプログラムが展開できる場所であることが望ましい。
2. レイアウトは、サイトの条件によって異なるが、事故に繋がらないよう動線と安全に配慮して配置する。

●備考

§5 テント・タープの設営

●セッションの目標 (参加者はこのセッション終了時に次のことが達成できる。)

1. 代表的なテントの種類、特徴、用途を知る。【野営章 (4)】 (3-1- ③)
2. 家型テント、ドームテント、タープについて構造と各部の名称・機能を知る。 (4-2- ①)
3. 天候 (晴天・雨天) ・季節 (夏季、無積雪、積雪) ・宿泊日数に応じた、設営の順序 (優先順) を知る。 (4-1- ①)
4. テント・タープについて、正しい取り扱い方、標準的な張り方を知り、実践する。 (3-2- ⑤、4-2- ②)
5. ペグの打ち方と張り綱の扱いを知り、実践する。 (4-2- ④)
6. 雨天、強風、夜間における張り綱、支柱、ソドクロス、換気窓・扉の扱いを知り、その処理を実践する。【野営章 (5)】 (4-2- ③)
7. テント本体の乾燥と、グランドシート下の地面の乾燥の方法を伝える。

●指導上のねらい・ポイント

1. 隊指導者として、スカウトの安心と安全を確保するための「テント」を購入するにあたって判断の指標となる、スカウトキャンプのテントに求める性能等について、それぞれの隊の状況を鑑み、必要な情報を与える。
2. まず、テントの構造とどうやってそれが建っているのか、そして各部の名称とその機能について知らせます。
3. 標準的な「晴天」「無雪期 (春～秋)」での設営を基本として理解させる。
4. 設営順は、「タープ」が一番先。これはどうしてなのか、その理由をきちんと伝える。
5. ペグと綱について知り正しく使う。
6. 雨天、夜間の張り綱、テント布地の通気性、換気 (換気窓)、雨水の浸入を防ぐソドクロスの正しい設置、また、それぞれの乾燥方法を知る。

●セッション展開にあたっての留意点

- ・「まずはやってみよう」。

●準備品 ・名称〈規格〉 (数量)

- ・班用 (指導者) テント (班の数) ・ドームテント (班の数) ・タープ (班の数) ・工具 (班の数)
- ・ハンドアウト (人数分)

●他のスタッフへの依頼事項

【他の講師に】

・

【業務・奉仕スタッフに】

・

●セッション構成と展開 (時間配分)

- 講義 (30 分) → 実習 (55 分) → まとめ (分)

《導入》(5 分)

1. 「 」

《展開》(80 分)

1. 代表的なテントの種類、特徴、用途を知る。【野営章 (4)】 (3-1- ③)

①住居となるテントについて

→ (参考資料 (「OGEE 隊の野営大全 01「テント」」)

○キャンプを行うスカウトの・・・

- ・年齢構成 (カブ、ボーイ、ベンチャー → 丈夫さ、張りやすさ)
- ・活動単位 (個人、班・組 → 広さ、出入口の使い勝手、換気窓の大きさ)
- ・期間 (居住快適性 → 防水、耐風性、テントの高さなど)
- ・経験度 (構造や機能、防災加工の有無)
- ・交通手段 (重量、ケースの可搬性、コンパクト)

- ・移動か固定か（重量・かさ、前室の有無と形状、収納形態（パーツ毎に収納袋があるのか））
- ・季節・天候（耐熱（暑）、耐雪、耐風、強度、防水性、通気性、防湿性、構造、素材）
- ・地理的要素（防水性、耐衝撃性、耐久性、防寒性、通気性）
- ・保管状況（構成素材の劣化、コーティング等の経年変化、防カビ性）

等により、使用する（選択する）テントが異なる。そのことを知り、対象とするスカウト活動に最も適したテント（できるだけたくさんのシーンで使えることも含め）を選べるだけの知識を備える。

○ドームテントを選ぶに当たっては、次の点を考慮する。（別添資料を参照）

- ・構造・・・ 構造が簡単で、丈夫で、軽くて、張りやすいものか。
- ・価格・・・ 各班・組に同じテントを用意できる、予算内で買えるもの。
- ・防水性・・・ ボトム（グランドシート）はバスタブ構造で、縫い目にはシームテープ等による防水処理してあるもの。
- ・換気性・・・ 出入口以外に、1～2ヶ所の換気窓があること。
- ・フライシートと前室・・・フルフライタイプで出入口には前室が付いていること。

○また、テントを購入する際に大切なポイントは、破損した場合に修理が可能かどうかということ。

最近是比较的高性能で安価なものがホームセンター等で販売されていて、スカウトのキャンプシーンでも十分に使用できるものがある。それをメーカーが修理してくれればいいのだが、安いものの多くは、中国やベトナム等で生産したものを輸入していて、修理は対応していない→使い捨て。多少は高くても、修理やパーツの供給が保証されている国産の定評あるメーカーのもの、外国でも名の通ったブランドのものを購入したい。

○また、安価な1～2人用ドームテントに多いのだが、フライシートの形状（要は「前室」）が適切でなく、雨天時にテント本体の扉を開けると雨水が入ってくるものが、意外と多い。また、ドームテントで、フライシートが本体の一部しか覆えないもの、テント本体の縫い目に防水処理（シームテープ）が施されていないものなどにも注意が必要である。

2. 家型テント、ドームテント、タープについて構造と各部の名称・機能を知る。

①まず、テントです。

○テントの構造（ジャンテンとドーム）とどうやってそれが建っているのかを考えさせる。

○次に各部の名称とその機能について、それがどのような役割を担っているのか、その役割を果たすために必要なスペックを、他との関連を含めて理解させる。

「班用」「指導者用」テントは、収容人数以外に選択の余地がないので、ここではドームテントの選ぶにあたって必要となるスペックについて考える。

（ア）収容人数

- ・テントは、基本的に「○人用」と表示されている（JIS規格*；このJIS規格は1999年に廃止された）。その表示に従えば、確かにその人数が寝られると考えられる。しかし、この収容人数はフロア面積に対して何人寝ることができるかのみを表しているのもあって、荷物などのスペースは入っていない。
- ・ボーイ隊のキャンプのように個人装備をテントに入れる場合は、入れ方や整理の仕方にもよるが、表示人数分の人を収容するのは難しい。「実質人数＝表示人数－1（or 2）人」と言っているのはこの名残。
- ・多くのメーカーは、そのメーカー独自の人数表示をしている。その表示人数には個人装備のスペースも含まれているようだが、統一の規格ではないので、必ずショップ等で現物を確認（実際に荷物を置いて寝てみる）してからご購入すること。

（イ）形状

- ・一口にドームテントと言っても、たくさんの形がある。ここで考えたいのは、側面、すなわちウォールの立ち上がりだ。1～3人用は別として、例えば班用やカブの組用のようにある程度の人数（4人以上）を収容するのであれば、ウォールが天井に近い部分まで垂直に近く立ち上がっているものが居住性が高いのでいいと思われる。（反面、風の圧力をモロに受けることになるので、次項（ウ）を考慮しなくてはならない。）
- ・ベンチャーの移動ソロキャンプ用のテントでは、特にウォールの形状にこだわらなくても良いと思われる。ほとんどが1～3人用のテントと思われるため。

(ウ) 構造とポール（支柱）

- ・ドームテントには、スリーブ（ポールを通すところが布の筒になっている）タイプとフックでポールにつり下げるタイプがある。
- ・ポールについては、一般的にポールが多いほど強度と居住性がアップしている。ちょっと変わったところでは、ポールが A の字になったモノもあり、このタイプは設営が簡単で強度もある。
- ・大型ドームテントで、ポールが 2 本をクロスして本体を立ち上げているタイプがあるが、このタイプは「風」に弱い（→強度不足）ので、注意を要する。

(エ) 雨に対する対応

日本は雨の多い地域であるため、防水性に優れたテントであることが求められる。しかし、防水性を優先するあまり、換気性能（と通気性）を疎かにしてはいけない。

- ・耐水圧・・・日本の風雨に耐えるには、1500mm の耐水圧が必要。
- ・ボトム・・・ボトム（床、グランドシート）の耐水圧は 2000mm ほど。形状バスタブ型であること。入口が地面と同じ高さのものはダメ。
- ・防水処理・・・ボトムの縫い目にシーリング加工がされているか。通常はシームテープというテープが貼り付けてある。
- ・前室・・・フライシートで作られる「前室」の広さは十分か。雨天時に濡れないで靴の脱ぎ履きをする際に必要。雨の少ない国で作られた海外ブランドのものの中には、これが十分でないモノがある。

(オ) それ以外の性能

- ・通常のスカウトキャンプでの使用であれば、3 シーズンのものを。他に全面メッシュの夏用のモノ、防寒・高耐性の冬用のものもあるが、必要があればそれも検討する。ちなみに、3 シーズンのドームテント（モンベル・ムーンライト 5 と 7）で、裏磐梯で雪中キャンプ（1 晩で 30cm 以上の積雪あり）で行ったが全く問題はなかった。

* 収容人数の JIS 規格について（1987.8 制定）

- ・ドームタイプの場合は、ボトムから 26cm の高さのところで、大人 1 人あたり「55cm × 180cm」の広さとなっている。ちなみに 3 人用であれば、135cm × 180cm となる。
- ・ちなみにジャンテンは A テンに換算すると 8 人用と同等となるが、寝るこんな感じで指導者 6 人では窮屈。

※この JIS 規格は 1999 年に廃止された。



3. 天候（晴天・雨天）・季節（夏季、無積雪、積雪）・宿泊日数に応じた、設営の順序（優先順）を知る。

①まず、標準的な「晴天」「無雪期」での設営を基本として理解させる。

○ポイントは・・・

- (ア) 設営の順序は、「食う・寝る・排す」ではなく「寝る・排す・食う」の順序が基本である。
- (イ) まずこの順序で基本的な設営を行い、快適さと衛生については設営後の「日々の改善」によって随時獲得していく。
- (ウ) 夏季は、直射日光による被害（人体・食料）を避けるために日射を遮ぎるものが最初になる。
- (エ) §4 をふり返り、サイトレイアウトを参照しながら、キャンプ場の土質、傾斜、風向きに注意して設営を行なう。
- (オ) 雨天時は、ぬかるみや泥を直接テントに付けないように、床の部分をそれ以上濡らさないように設営する。（最近の指導者テントのグランドシートは完全放水なのでまあ安心。）
- (カ) 雨天時は多少張る順序が違うので、そこも確認させる。
 - ・晴天時で地面が乾燥しているのであれば、特に設営の順序は問わない。きちんと張ればいい。
 - ・雨天時には、居住＆寝室部分を濡らさないことを第一に考える。
そのため、最初にタープを張って、雨が防げる荷物置き場＆作業スペースを作る。
そして、ドームテント → A 型・ジャンテン を張っていく。 4. ②でも説明
- (キ) 茨城では、春先は意外と風が強い日が多く、初夏は多湿。夏は雷雨や猛暑、秋口も残暑が残り、その直後から急に冷え込む。晩秋も風が強い日が多い傾向にある。冬だが、耐寒キャンプ以外はまずキャンプはしない。特に積雪時のキャンプはまず行わない。

4. テント・タープについて、正しい取り扱い方、標準的な張り方を知り、実践する。

①キャンプ地について、おおよその班サイトのレイアウトが決まったら、まずは地ならし。

○サイトの状況に合わせた、適切な設営をする。

(ア) 地面の状態の確認(草、土、砂、砂利・・・)

草 : グランドシートの濡れや撒収時の原状回復

土 : 雨天時の泥、雨水の流れ

砂 : ペグの刺さり(固定) 具とテントの保持

砂利: 寝心地

(イ) 土地の傾斜、凸凹、風向き、使い勝手を考えてレイアウト

傾斜: 雨水の排水方向や寝る方向(出入口との関係)

凸凹: 雨水が溜まらないかどうか。お尻の下が凹になっていると寝やすい。

風向: 気圧配置、地方風。陸海風、山谷風等。風が孕まないように(入口は風下に)

(ウ) テントを張る場所の地面の整備

小石・小枝の撤去 : 小豆大の小石が安眠を阻害。マットの活用で緩和。

凸凹の修正 : 基本的にフラットに。おしりの位置は多少凹んでいた方がいいとも・・・。

②張る順序は、「タープ」が一番先で、次いでドームテント。

○まずタープを手早く張って、そこに班装備や個人装備を置く。

○次に「ドームテント」を張って、最後に「班用テント」の順となる(この順序は雨天の場合の設営順序でもあります)。時間的に余裕があれば「指導者用テント」も張ってみる。

ドームテントを先に張る理由は・・・

(ア)「雨」に強く、また簡単に建つため。そして、雨天でもテント内部が濡れにくい。

(イ) 移動が簡単のためレイアウトの微調整がしやすい。

(ウ) 作業着に着替える更衣室となる(特に女子)。

(エ) その中に個人装備をしまっ、タープの下の荷物を少なくし、作業スペースを作る。

○取り出す順序、部品の数量のチェック、収納袋の管理を徹底させる。

たたむ時も折り目、空気抜き、たたむ大きさ、収納順序、負荷のかかり具合等に注意させる。

○具体的な張り方は、「野営法講習会」ノートを参照のこと。

③班用テント(指導者用テント=ジャンボリーテント(ジャンテン))

○具体的な張り方は、「野営法講習会」ノートを参照のこと。

④この STEP1 における意図は、テントをたてる行程とポイントの確認、安全な使用方法を知るという所にある。

野営法講習会では、単に手順書通りにテントを張ることを体験した。テントの構造や力学的なことまでは求めていなかった。

しかし、この Step1 では、実際に各自がそれを知った上で、どのような順序で、どこにポイントを置いて張ればいいのかを考えながら、その意味を実際に作業をして確認することの大切さを認識するところにある。

同時に、それが「安全な使用」に即繋がる。そこに意味がある。(5. 以降に続く)

5. ペグと綱について知り正しく使う。

(ア) ペグ打つ角度は何度がいいのか。ペグをどの深さまで打ち込めばいいのか。

《ペグ》

• 原則は、綱が土に接地しないぎりぎりの高さまで打ち込む。
しかし、十分な保持強度が出れば、途中まででも可。

• 打ち込む角度は、綱に対して 90 度と言われているが、これは理想的環境の場合のこと。地面に対しておよそ 45 ~ 90 度の範囲で、最も利くところ(地面との抵抗等強度が保てる角度)であればいい。

• ペグを打つときは、右の写真のように、差し込み角度を一定にするよう片足をペグに付けると同時に、ハンマーがペグの差し込み角度と 90 度の角度で打ち込めるようにする。



《ピン》

• テントの裾やボトムを固定するピンは、途中までにしてはダメ。返しの部分までしっかり



と打ち込む。 地面と接することで→風がテントの下に孕まないのだ。

(イ) ペグ・ピンが抜けないときはどうするか。

- 先がとがったハンマー等があれば、それをテコのようにして抜く(←写真)。
- 堅い木とロープで、ペグリムーバー(ペグ抜き)を作って、ロープを引っかけて抜く。
- ピンであれば、穴や返しに他のピンを差し込んで抜く。

(ウ) 抜けやすいときはどうするか。

- 予備ペグがある場合は、より太く、長いペグを使用する。
- または、ペグを並べて2本打って、張り綱をその両方に掛け、牽引力を分散する。
- 砂や雪の場合は、ペグを交差させて十字型に縛り、そこに張り綱を掛け、埋め込む。
- 砂利やガレ場でペグが打ち込めない場合は、上のように十字にし、そこに大きな石を載せたり、ネットの袋(例えばタマネギ袋)に石を入れて重しにし、口の紐に綱を結ぶなどが考えられる。(専用のネットも売られている・・・がスカウトなら自作しよう。)

(エ) 地面が凸凹で、一定角度に腰綱が張れないときはどうするか。

- 基本は、屋根やフライの傾斜の延長上にペグを打つ。すなわち、他の綱との角度を合わせる。

(オ) 張り綱や先の輪はどう扱うのか(綱は汚れば劣化するので)。

- 通常綱(張り綱、腰綱)は、テント本体側のグロメット(ハトメ)に固定(もやい結びで。解説書の中にはふた結びでと書いてあるモノもあるが、それだと輪が締まるのでダメ)し、ペグ側にスライダーを持ってきて、長さを調整する場合が多い。
- テント側がD環(Dリング)の場合は、この逆でも良い。この場合、ペグ側の輪はそのままペグに通さない、右写真のようなかけ方をする。
- 綱は汚れば劣化する。(張り綱も同じ)



6. 雨天、夜間の張り綱、テント布地の通気性、換気(換気窓)、雨水の浸入を防ぐソドクロスの正しい設置、また、それぞれの乾燥方法を知る。

- 張り綱は、その材質により、水分を含むと延び縮みが生じる。(書籍「野営章」P.30に延び縮みデータあり)
 - 縮んだ場合、ペグが抜けたり、最悪の時はテント本体が破けることもある。
- 耐風索の効果、強風時における設営上の注意(幕体があおられること、ペグが抜けて飛んでいくこと等)を考える。(→入り口は風下に、しかし台風の時は風向きが徐々に変化する)
 - 構造を考え、風を孕まらずにどう受け流すかを考える。ジャンテンでは風は屋根に直角に受ける。ドームでは、基本的に出入口以外の面(局面)で受ける。
 - ペグが飛ばされないよう補強する。(書籍「野営章」P.24に補強方法データあり)
- 雨・露・結露によるテント布地の通気性を考え、換気(換気窓)をどう活用するかについても考える。
 - 綿でできたテント(今はほとんどない)は、水分を含むと繊維そのものが膨らみ、通気性が落ちる。
 - 化学繊維のものは、織り方次第だが、基本的に通気性は悪い。そのためテント内外の温度差が大きいと結露が発生する。通気性を考えた素材を使っているものもある。
 - ゴアテックスのような防水透湿性素材は雨や露は通さず、水蒸気は通す。そのため基本的には気性は損なわれない。
 - これらを考慮し、梅雨でも冬でも、就寝時には「換気窓」を開けておくこと。特に夜間でも結露が起きない程度にあけておくことが大切。
 - テント内で燃焼系のランタンを灯けることは、酸欠等と火災の面から使用厳禁事項の一つであるが、どうしても使用せざるを得なくなった場合は、換気窓を全開にし、かつ出入口も適宜開けて使用すること。あくまでも使用しないことが大原則。
- 雨水の浸入を防ぐソドクロスの正しい設置を知る。
 - ソドクロスを敷いた上に、グランドシートを置く。今のテントのグランドシートは、ウォールが付いて箱(バスタブ)のようにになっている。素材も防水のもの(PVC)を使っている。
 - 一枚布の場合は、側溝を掘ることで浸水を防ぐか、別途を使うか・・・しかないかな。

7. テント本体の乾燥と、グランドシート下の地面の乾燥の方法を伝える。

- どうして乾燥させることが必要なのか
 - 日本的高温多湿の下では、乾燥させることで健康と安眠を得ることができる。
- 乾燥についての考え方
 - Aテン・ジャンテンの場合は、どこを乾燥させるかによって、乾燥方法が異なる。
 - 床を乾燥させるのか、ウォールを乾燥させるのか、扉を乾燥させるのか・・・

つまり乾燥の優先順位を考えさせる。

床を優先的に乾燥させたい場合は、ウォールも扉も蛇腹に折って、通風をよくする。(写真ア)

ウォールや扉を乾燥させたいときは、蛇腹に折らずに広げて乾燥させる。(写真力)

○班用テントの乾燥のポイント

(ア) 大原則は、濡れた(汚れた)面ときれいな面をくっつけないこと。

(イ) 濡れた(汚れた)面は濡れた(汚れた)面同士を合わせる。

(ウ) 扉や腰幕(ウォール)は、ゆったりとした蛇腹折りにする。

(エ) グランドシートは、取り外して、干して乾燥させる。→同時にテントの床部分を乾燥させる。ロープを張ってそこに掛ける。→また床が草地であれば、その保全に努める。

(オ) 土砂降りや横殴りの雨でない限り、雨でも乾燥に努める。

(カ) 撤収時には、全てをきちんと乾燥させる。雨天等の場合は、次ページの写真のように、できる限り乾燥させることを心がけ、帰宅した後天候が回復次第乾燥し収納すること。

(キ) 幕体本体は意外と乾きやすいが、折り目や綱はなかなか乾かない。それもしっかり乾燥させること。



○ドームテントの乾燥のポイント

(ア) ドームテントの場合は、建てたそのままの形状を利用することができる。ドームテントは、自立(セルフ・スタンディング)がその最大の特徴なので、それを利用して乾燥を行ってもよい。

(イ) キャンプの途中であれば、中の荷物をテントの一边(A)に寄せ、その反対側の辺(B)はピンを抜いて、B辺のポールに20～30cm位の足を履かせて(台、つかえ棒)ロープで固定しテントを傾ける。これでボトムと地面の乾燥ができる。それぞれ乾燥したら、AとBをチェンジする。(この方法はあまり勧められないが・・・)

(ウ) 徹底的に乾燥させる場合は、フライシートを外し、ピンを抜いて、地面が濡れていないところにテントを移動する。そこで、ボトムを上にはっきり返して乾燥させる。なるべく風通しの良い場所で陰干しをする。この時、風に飛ばされないように張り綱を張ることを忘れずに。また、ポールに無理な負荷がかからないように工夫する。

これはは小型・中型のドームテントで可能な乾燥方法。大型のドームテント、特にX(クロス)ポールの構造のものだと、ポールに負担がすすりすぎて折れたり曲がったりすることがあるので、注意が必要。風があるときはやっではないけな。

また、もう一つの注意点は、テントを汚さないこと。土が濡れていない場合にのみこの方法をとってもらいたい。極力、土の上ではなく濡れていない草地の場合でやってもらいたい。特にスリーブ式の場合は、スリーブを汚す→フライシートを汚すことになる。…まさか、フライシートをつけたままひっくり返すヤツはいないでしょうね。

(エ) フライシートは、取り外して、裏返しに干して乾燥させる。これもなるべく風通しの良い場所で陰干しをする。

(オ) また、セルフスタンディングの特長は、移動が簡単と言うことだ。テント下の地面が濡れてしまったり、下草を保護する場合は日々、テントを移動させる。

(カ) 撤収時には、全てをきちんと乾燥させる。雨天等の場合は、できる限り乾燥させることを心がけて持ち帰り、帰宅した後天候が回復次第乾燥させ収納すること。ただし、夏季については、高い気温と湿度で「カビ」が発生するので、極力速いタイミングで乾燥させること。

《まとめ》(5分)

1. テントを張る手順、たたむ手順、乾燥の方法等は、1の方法に限らない。天候、地形、時間、乾燥させる部位等によっても異なる。要は、その場面に適した方法で行うことだ。
2. テント選びは、どんなキャンプで何を重視するか、また、今後どのような班員数・男女比になっていくか等によって異なる。
3. テントのメンテナンスはきちんと行うこと。カビを生やしてしまったテントはもう使えない。

§6 ロープ結び

●セッションの目標（参加者はこのセッション終了時に次のことが達成できる。）

1. キャンプに必要とされる次のロープ結びが確実にできる。(5-②、6-1-①)

- ・本結び ・一重つぎ ・ふた結び ・ねじ結び ・もやい結び
- ・8の字結び ・てぐす結び ・巻結び ・引きとけ結び ・角しばり

(以上は★事前課題)

- ・ちぢめ結び ・腰掛け結び ・張り綱結び ・からみ止め ・床しばり
- ・筋かいしばり ・はさみしばり（2脚、3脚）

(以上は Step1 で実習)

●指導上のねらい・ポイント

1. まずは、ロープ結びができる（→適切な結びを活用できる）ことで、キャンプの様々なシーンが豊か（便利）になるコトを体感する。
2. そのため、まず、一通りお復習いする。そして、できる限りこの期間内にそれを使ってみることで、手技として定着させる。

※スカウトキャンプで使用する「ロープ結び」はだいたい決まってくる。特にキャンプのシーンでは実際にロープや結びを多用するので、覚えやすい。

3. どこにどんな結びを使うのか、どの結びを使うのが適切なのかを検証しよう。

●セッション展開にあたっての留意点

1. ここでは、「自分でできる」ことはあたりまえで、それを
 - ・キャンプの生活（野営工作等）で活用できる
 - ・スカウトに「指導できる」

だけのレベルを求めたい。

そのために、確実な結び方とそれによる効果を意識的に確認させるよう、セッションを展開してください。

●準備品 ・名称〈規格〉（数量）

- ・角しばり、筋交いしばりを練習するための竹材。
- ・はさみしばり（三脚）用の竹材。

●他のスタッフへの依頼事項

【他の講師に】

- ・グループについて支援をお願いします。

【業務・奉仕スタッフに】

- ・必要な竹材（太さ、長さ、数量）を確実に揃えてください。

●セッション構成と展開（時間配分）

- 講義（10 分）→実習（15 分）→まとめ（5 分）

《導入》(5 分)

1. 「 」

《展開》(20 分)

1. キャンプに必要とされる次のロープ結びが確実にできる。

①参加者は「事前課題」として 10 種のロープ結びを覚えてきているので、それはできるものとみなす。すなわち野営工作物を作成するにあたって、実際に使用できることを前提とする。

②ロープ結びは、大きく 3 つに分けることができる。

- ・ロープとロープをつなぐ結び方 ・ ・ ・ ・ ・ 結ぶ： 本結び、一重つぎ、8の字結び

- ・ロープで物を縛る(くくりつける)・・・縛る：巻結び、角縛り
- ・ロープそのものを何かに留める結び方・・・留める：ねじ結び、ふた結び、もやい結び、張り綱結び

③正しい「結び」について

- ・簡単に結べて、確実に結べて、簡単にほどくことができる
- ・いくつか実際に見せる。

④ではお復習をしてみましょう

- ・事前課題のロープ結びを、ざっとやってみる。
 - 一緒にやらせるが、参加者が確実にできるのを待つことはしない。
 - ・本結び ・一重つぎ ・ふた結び△ ・ねじ結び△ ・もやい結び
 - ・8の字結び ・てぐす結び ・巻結び ・引きとけ結び ・角しばり▲
 - (△：は腕や足を利用する、▲：は予め作っておいた見本を見せる)
- ※結びのポイント(結び方、力点、作用点、絞点など)

⑤次に、下記のロープ結びについて、キャンプにおける代表的使用方法を説明して結んでみせる。

- ・参加者には、冊子「ロープ結び」を参考に、この後のセッションで実践するよう伝える。
- もちろん、講師の結び方を見本にして一緒に結んでもよい。

- ・ちぢめ結び・・・長いロープを短くする場合
- ・腰掛け結び・・・ロープの途中に縮まない「輪」を作るとき
- ・張り綱結び・・・ロープの長さを調節するとき
- ・からみ止め(策端止め)・・・ロープの端がほどけないように
- ・床しばり・・・野営工作で台の床や天板をつくる時
- ・筋かいしばり・・・交差する材料を縛って固定するとき
- ・はさみしばり(2脚、3脚)・・・二脚や三脚をつくる時

※マメ知識

- ・スカウトロープは、結びの練習のために使うもの。
- ちなみに、静切断過重・・・70kg しかないので練習以外には使わない。
- ・「角しばり」だが、「ボーイスカウトハンドブック」P.240にある、巻きの位置「外・内」は間違いで、「外・外」が正しい。直交する2本の材を強固に固定するには、できるだけ左右・上下の巻きの幅(材の押さえ幅)を広く取ることが大切。割を巻くのにスムーズだとか、紐が切れない・・・といった説が出回っているが、それでは、本来の固定するという構造と力学に反する。それは別の視点からのものだ。

《まとめ》(5分)

1. 時間が足りないの、全部の結びはできないでしょうから、「自己課題」として自己研鑽をしてください。
2. 「便利+快適」なキャンプではなく、「多少不便+快適」なキャンプでいいと、§3で言いましたが、不便を便利にする最大のテクニックが、このロープ結びなのです。
3. いい加減な縛り方だと、求める強度がでなかったり、ほどけなかったりで、結果として安全を確保できないことがあるので、きちんと確実な縛り方を身につけること。

●備考

§7 刃物と野営工作 (1)

●セッションの目標 (参加者はこのセッション終了時に次のことが達成できる。)

1. 班キャンプ及び隊キャンプに必要な装備 (=工具：ナイフ・ナタなどの刃物や、ナイフ・のこぎり等) の正しい取り扱い方、安全な使い方、そして所持携帯に当たっての注意と法律等、構造と各部名称を知る。(3-2-③、-⑤、8-4-①) 《⇒ §14》
- 2.1. の正しい使用法を知り、それを実際に使用し、その使用方法を説明できる。(3-2-⑤) 《⇒ §5、§13》
3. キャンプに必要な野営工作物 (かまど、調理台、食卓) について知り、基本的な設計図を描いて、木、竹などの材料を用い、かまど、調理台、食卓をそれぞれ作製する。【野営章 (6)】 (5-①) 《⇒ §13》

●指導上のねらい・ポイント

1. ここではまず、刃物という便利な道具が、使用方法を誤れば大変危険な凶器になり得ることを知る。つまり、使用する者の「責任」について、スカウトにどうそれを理解させるかを考えさせる。(「ボーイスカウトハンドブック P.188)
2. 事故の防止のために、危険に対する能力や、刃物・工具等の安全使用レベルを高めることを第一に考える。
3. これは、安全な使用方法で実際に使うというところにその主旨がある。単に知ることではなく、実際に各自がそれを触って実際に作業をして確認した上で、つまり基本的な使い方をマスターすることを、参加者に理解した上で説明をさせる。もちろん指導者自身も生半可な知識と技能で使用することは絶対にしない。そこに意味がある。
4. どうして野営工作物を作るのか……。それが、将来の人生の多くの場面で活かされてくる。
さて、班の作業である。何をどう作るか。その際にその設計図を描くことで、必要な材料の確保、その加工、出来上がりのイメージを協議・共有できる、だから役割分担ができる。
5. §7 野営工作 1 で「立ちかまど」、§13 野営工作 2 で、もう一つのかまどを作る。

●セッション展開にあたっての留意点

1. キャンプをより快適に過ごすため (快適⇒疲労が少く精神的に安定⇒安全の確保、活動時間の拡大) に、必要な工作物をあげさせる。作成するにあたって、その作成優先順位を考えさせる。(寝る・食う・拙す)

●準備品 ・名称〈規格〉(数量)

- ・工作用竹材 (1 班当たり、真竹Φ 4～6cm 2m×20～30 本、1m×20 本、孟宗竹Φ 10～15cm 1m×10～13 本) ・コンパネ (1 枚/班) ・麻ひも (1 巻/2 班) ・工具 (班の数)
- 【H.O.】資料「ナイフと刃物」

●他のスタッフへの依頼事項

【他の講師に】

- ・各班に付いて指導のサポートをお願いします。

【業務・奉仕スタッフに】

- ・資材を不足のないように準備をお願いします。

●セッション構成と展開 (時間配分)

- 講義 (25 分) →実習 (60 分) →まとめ (5 分)

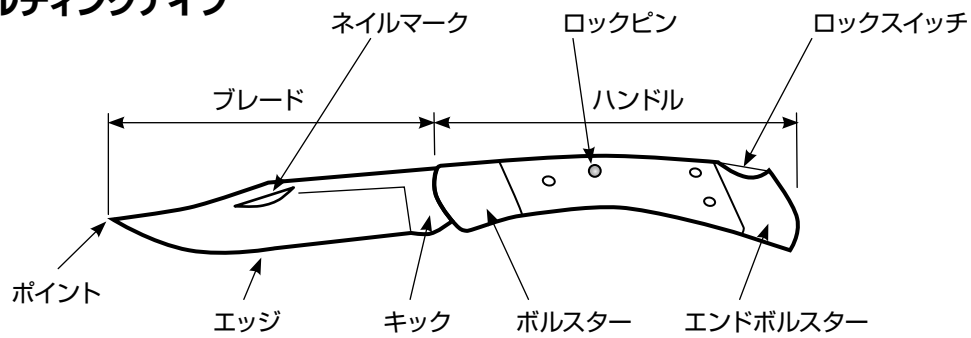
《導入》(5 分)

1. 「 」

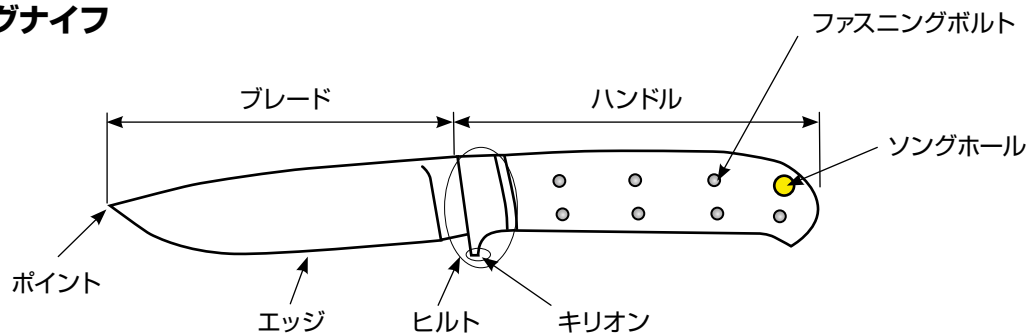
《展開》(40 分)

1. 班キャンプ及び隊キャンプに必要な装備 (=工具：ナイフ・ナタなどの刃物や、ナイフ・のこぎり等) の正しい取り扱い方と構造と各部名称を知る。
 - ①各部の名称については、次のページ掲載した。
 - ②スカウトのキャンプを含む活動シーンで刃物を使うことは、それを指導する指導者とその刃物の取り扱いに十分に精通していることが大切である。ここでは、その基本中の基本を学ぶことになるので、気を引き締めて受講していただきたい。あくまで基本である。
 - ③ここではまず、対危険能力や、刃物・工具等の安全使用レベルを高めることを第一に考える。つまり基本的な

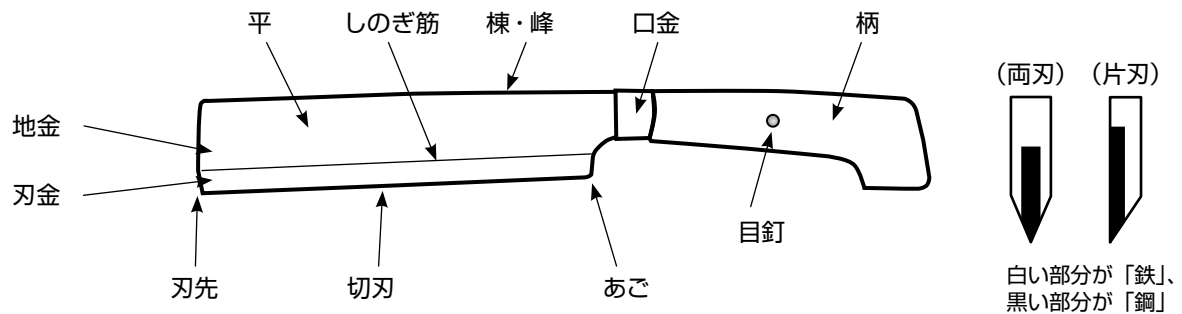
●フォールディングナイフ



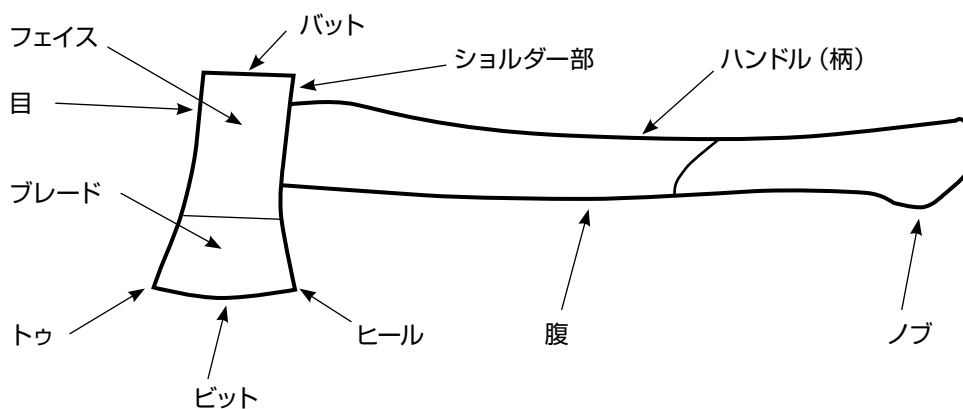
●シースグナイフ



●鉈 (ナタ)



●斧 (オノ・アックス)



取り扱い方をマスターする。(使用方法は 2. で)

○刃物の種類、形状によって、使用する方法は異なる。また例えば同じナイフでも国によって使い方は異なる(日本の使い方は世界ではマイナーな方である)。

つまり、スカウトに指導する場合、全スカウトに一律に指導することを考えると、隊として同じナイフを揃えることが必要となる。そのため、要求機能と使用状況、その後の発展性を十分に検討して、調達する機種を決めること。

○刃物を持つ手は、革製の滑りにくい手袋か、油等で汚れていない素手とする。

基本的に軍手は不可。もう他方の作業手には必ず手袋をする。今は革製の手袋も相当安価で購入できるため、軍手ではなく自分の手のサイズに合った革手袋を買うように勧める。

○また、刃物を使った作業にあたっては、他のスカウトに対する安全を考慮して、安全空間(安全エリア)の確保を必ず行う。

ナイフの場合は、両腕を広げた空間内。その空間がダブらないように。たまに 30cm と書いてある資料もあるがそれだけではダメ。ナタや斧の場合は、片腕+刃物の柄の長さの 2 倍の空間内(ナタやオノの刃の先を持って腕を伸ばし、そのまま円を描くようにぐるっと回ってみる。

直径は最低 6ft=2m 以上(以上というのは、割ったり来たりした木が撥ねたり飛んだりする範囲も考慮してということ)で、誰からも見えるところを作業エリア(作業場)とし、先述の空間の外側にロープ張り境界を明確にして、また、出入口を明確にして、他の者が入ってこないよう、また必ず決められたところから入って来るようにする。

それが確実に見えるように、作業者は置くから入口を向いて作業を行うようにする。

人がいないことはもちろんのこと、その作業エリア内には、上の方につるや枝なども無いようにする。中に入って作業するのは、当たり前だが 1 人である)。

○置き方は、フォールディングナイフは、使用の都度開き、使用を終えたらその都度折りたたむ。作業の途中だからといって、刃を出したままにしてはいけない。

シースナイフも同様にその都度必ずシース(鞘)にしまう。

ナタや斧の場合は、鞘やケースに入れて工具箱にしまうか、作業する場所、それも誰が見える位置に安全に配慮して置くこと。作業台として使用している丸太に突き立てておくことが一番安全。

また、斧の柄の先が黄色や赤の色に塗られているのは、斧がどこにあるのかすぐに見つけやすくするためだ。

○ナタについて

ナタには、両刃と片刃がある。通常売られているのは、片刃の右利き用だ。片刃は主に枝を払うのに使い、両刃は主に薪を割るのに使う。この違いを良く理解させる。

薪がなかなか割れないからといってナタの峰を金槌で叩いて刃を食い込ませるのはダメ。峰はただの軟鉄なのでつぶれて広がって、ケースに入らなくなってしまう。

※特に近年ナタによる自損事故が多数発生しており、隊での十分な指導が求められているところ。ここでは、それについても言及されたい。

2. 1. の正しい使用方法を知り、それを実際に使用し、その使用方法を説明できる。

①この意味は、安全な使用方法を知るといふ所にその主旨がある。

昔の農家であれば、父親はナタやカマなどの使い方に長けていた。アメリカの開拓時代も同様。特に軍隊を持っている国では兵士の経験がある父親であれば、その使い方に長けていて、子どもに教えることができる。

しかし、今の日本においては、ナイフは便利な道具ではなくコレクションか凶器であり、それを持つことの意味合いや正しい使い方を知っている父親はほとんどいない。つまりナイフを持っている人のほとんどがナイフを持つ意味を考えるとなく、かつ自己流で使っている。

ボーイスカウトとして「ナイフ」等の刃物を持たせ・使わせているのであれば、スカウトの組織として、上記をきちんと伝えなくてはならない。それがこのセッションの意味である。

つまり、指導者自身がナイフを持つ意味や刃物の正しい使い方を身につけていることが必要で、それがあって初めてスカウトに伝えられる・・・と考えている。

②単に知ることではなく、各自が実際にそれを触って実際に作業をして確認した上で、「参加者に説明をさせる」ところがポイントである。

③使用方法については、次の資料を参照のこと。

ナイフ・・・	スカウト・ハンドブック P.189 (基本はこれでいいと思うが、専門書とは結構違ったりする。これをボーイスカウトのスタンダードとすべきかは、迷うところだ。) →T T の「野営法研究チーム」でスタンダードな使用を答申してもらいたい。
ナタ・・・	大阪連盟発行「新・野外活動の安全 Q&A」p.146

ノコギリ・・・ 同 P.158

オノ・・・ スカウト・ハンドブック P.191

※参考図書

- ・父が子に教えるフィールド技術「ナイフと斧の使い方」(ローリー・イネスター著、クロスロード刊)
- ・アウトドアライフ 200 の常識 (赤津孝夫 著、ソニーマガジンス刊) 他

④ここが重要

スカウトが使用することについては、必ず「刃物指導責任者」の資格 (Step1 修了者) を持つ指導者から、その取り扱い方法、管理方法、そして取り扱う者の心得を説明し、使うスカウトもそれに従って使う旨を宣誓した上で、許可書を発行し、それから使用させること。(許可書のサンプルは巻末に掲載)

刃物を携帯・携行する場合は、必ずその許可書を携帯する。

※これを徹底させること。

3. キャンプに必要な野営工作物 (かまど、調理台、食卓) について知り、基本的な設計図を描いて、木、竹などの材料を用い、かまど、調理台、食卓をそれぞれを作製する。

①どうして野営工作物を作るのか・・・。

○創意工夫、習得した手技の活用、そして快適な生活の実現。この「快適」がキーワード。

→不便を快適にする魔法のテクニック、それがロープワーク。(→ここにロープワークの意味を見てとれる。)

- ・それは、安心・安全であること、使いやすいことである。(→ここに至らしめることがスカウトキャンプの意義の1つである)
- ・それは炊事の効率化と確実性に繋がり、時間の短縮、心の安らぎとなり、余裕のあるキャンプが楽しさとなり、意欲となりスカウトを成長をさせる。
- ・また一方では、モノの構造と構成を実際に知る機会となり、何回も繰り返すうちに他のモノについても意識することなしに構造と構成を理解できるようになる。

→それが、将来多くの場面で活かされてくる。

→単にキャンプを楽しむだけであれば、製品として販売されているテーブル、調理台、2バーナーを使えばいい。スカウトキャンプは何故このような (一昔前の) 方法を採用しているのか、ここに野営基準を持ってきているのかを考えさせてもらいたい。

○さて、班の作業である。何をどう作るか。設計図を作ることで、必要な材料の確保、その加工、出来上がりのイメージを協議・共有でき、役割分担ができる。→創意工夫よりも基本的を優先して作る。

(ア) 設計図を書くことによって、班員に工作物の内容と業務分担を周知させる。

→6人であれば、2人の3チームで、立ちかまどと食卓、調理台を作る。

→4人であれば、2人の2チームで、立ちかまどと食卓を作る。

分担例：材料切り (指示+計測1人、切断1人)、組み立て (縛り2人)

(イ) 工作物を作ったことがある人も、得意なものを作るのではなく、指示分担されたものを作る。ここでは分担作業の効果を感じ取ること。

(ウ) 結びについては、野営工作の「基本」となるものなので、しっかり教える。(巻き数、巻き方向、始めと終わりの処置) (→これは §6 で)

(エ) かまど2種は「立ちかまど」と「堀かまど (→翌日の §13 でいい)」とする。

(オ) 食卓と調理台は、時間的に両方は無理なので、食卓を優先させる。ただし、「脚」は地面への打ちつけ・埋め込みは原則として不可とする。

(カ) 竹材は、若干不足になるように準備し、創意工夫による必要機能の確保を行わせる。

②時間内にできるところまで・・・と言いたいが、各隊で行うキャンプでも同じことだが、優先順位を付けて、所定の時間内に作り上げることの大切さ (実際に使用するものなのだから、所定の時間までに完成していなければならないということを考えていただきたい。そのためには、日頃からの繰り返し訓練が必要なのだ) を考えること。個々ではまだ慣れていないと言うことで、

○安全が確保され、かつ使用に耐えるものであれば、部分的には不完全でもいい。

○完成形は、その後の作業時間を利用して。

○そのために、ロープ結びを知った! 設計図を書いてみんなで確認した! 役割分担をした!・・・わけです。

○優先順位としては、

1 位 立ちかまど・・・他に代わる存在無し。もしストーブが使えるのであれば順位は下がる。

→ §7 野営工作 1 では「立ちかまど」、§13 野営工作 2 で、もう一つのカマドを作る。

→ ガスストーブ等が使用できる場合は「食卓」と順位が入れ替わる。

2 位 食卓・・・・・・・・・・食事を地面の上で食べるワケにはいかないでしょう（シートを敷いてという方法もあるが、それは一過性のもの）。これができあがれば、当面は調理台にもガス台にも、ミーティングテーブルにもなる。

3 位 調理台・・・・・・・・・・やはり、専用の調理台も作りましょう。食器や炊具が乾燥できるような棚つきのものを。

以下、順に 水置き場、ゴミ捨て場、薪置き場、工具置き場、ゲート、物干し場・・・・・・

（この順位は、野営生活の流れ（順序）を考慮することで、自ずと順序が見えてくる。これ以外は、必要に迫られた時に作ればよいだろう。）

③では、各班ごとに、設計図を書き、分担を決めて作業に取りかかってください。

○資材のある場所を指示

○工作作業は各班サイトに「作業場」を設けて。

○ホイッスルが鳴ったら、作業を直ちに止めて集合。

○食卓が完成しなかった場合、天板は当面コンパネを使用しても可。ただし、「野営工作 2」では、作り上げること。

《まとめ》(5 分)

1. 刃物は、スカウトとして特に意識して使いたい。取り扱い、保管・携帯、メンテナンス、使用方法を確実に身につけ、使用者としての責任の自覚と履行を確約させた上で使用可とする。
2. 野営工作の目的は、キャンプを豊かに快適にすること。そのために創意と工夫、そして今までの活動で修得した知識と技能を駆使して作ること。だから、1 泊の訓練キャンプを繰り返した後に、長期キャンプを行うのである。
3. キャンプは目的でない。キャンプは方法である。スカウトを育てるための方法である。
指導者としては、「なぜ、それを行うのか」「何のために、それを行うのか」を明確にしてしていなければ、スカウティングが求めているキャンプを実現することができないということを、理解してもらいたい。

§8 キャンプの食事と炊事

●セッションの目標（参加者はこのセッション終了時に次のことが達成できる。）

1. 野外で火をたくときの注意事項（防火対策）を知り（薪、炭、ガス、灯油、ガソリン）、その準備作業ができる。
【TB-E6-1】（7-2- ①、11- ②）
2. 班の炊事に適するかまどを2種類以上作る。【TB-E6-2】（7-1- ②）
3. キャンプ地における薪を調達・作製、保管方法を知り、いつでも（炊事のための）火が起こせるように準備する。
【TB-6-5】。（7-2- ④）
4. 樹木の種類によって、材の硬軟（→薪割り）、火つきの難易（→燃やす順序）、火持ちの良否（→調理時間）、火力の強弱（→調理メニュー）があることを知る。また、乾燥度合いによっても火つきは異なる。【炊事章（2）】（7-2- ③）
5. 焚き火で使用する鍋等に、クレンザーやアルミフォイルでコーティングを施し、実際に使用する。コーティングの有無による、水や洗剤の量や手間等、環境と時間等の軽減について確認する。（7-1- ⑤）
→本当にコーティングは必要なのか。環境破壊との関連を調べる必要がある。
6. ガソリン、灯油、ガスについて、それぞれの機器（ストーブ）と燃料の特徴と、野外で携行・保管する場合、使用する場合の注意事項を説明する。【TB-E4-2】（7-2- ⑤）
7. 炊具の正しい使い方ができる。【炊事章（11）】（7-1- ③）《→ §11、§14》
8. 米飯、生肉、生魚の食品を携行するための腐敗防止法（簡易加工含む）と、キャンプ地における貯蔵法（クーラーボックスを含む）を理解する。【炊事章（7）】（7-3- ③）

●指導上のねらい・ポイント（番号は上記に対応）

1. まず第一に、防火・延焼の防止対策について確認する。
2. 「立ちかまど」と他にもう1種類とする。堀かまどでも石積みかまどでも可。（班単位で実施）
→ §7 野営工作1で「立ちかまど」、§13 野営工作2で、もう一つのかまどを作る。
3. 薪拾いの方法については、「火を育てる」ために必要な太さ、材質、形状について説明する。
また、焚き火の「火の育て方」やあると便利な道具（火吹き竹、うちわ）についても触れる。
4. 樹木の種類については、実際に燃やしてみ、それを確認してもらうが、小片をバーナーで燃やすのを見せる程度となるか……。基本的には、茨城の県内のキャンプ場で入手可能（ボーイスカウト的には落ちている木）のものについて説明する。
5. ガソリンストーブ、灯油ストーブ、ガスストーブ等の特長と正しく安全な使い方を知る。事故事例を踏まえて。
6. 液体燃料の種類と取り扱い方、収納容器については、実際にホンモノを見せる。
7. 炊具（食べ物を煮炊きして調理するための道具）の正しい（安全で効率的な）使い方だが、すべての種類を実施することはできないので、重要なもののみとする。
8. 腐敗のメカニズムについての知識も与え、その対策を実際に行ってみる。

●セッション展開にあたっての留意点

1. 3～4班であればベース法で行う。2班以下であればまとめて行う。

●準備品 ・名称〈規格〉（数量）

- ・数種類の薪「火口」「焚き付け（楊枝～割り箸位の太さ）」「細薪（鉛筆～大人の小指くらいの太さ）」「中薪（大人の親指～親指と人差し指で作った輪位の太さ）」「太薪（手首の太さ～）」のサンプル
 - ・ガストーチ ・ 焚き火台 ・ シェラカップ（3～4） ・ 燃料ボトル（ガソリン） ・ 灯油缶
 - ・カセットガス ・ プリムスガス缶 ・ 洋包丁 ・ 和包丁 ・ 鉄フライパン
 - ・テフロンフライパン ・ 鍋（炊飯セット）
- 【Hand Out】 かまどの一覧。

●他のスタッフへの依頼事項

【他の講師に】

【業務・奉仕スタッフに】

- ・予め指定された薪を用意してください。

●セッション構成と展開（時間配分）

《導入》(5 分)

1. 「 」

《展開》(40 分)

1. 野外で火をたくときの注意事項 (防火対策) を知り (薪、炭、ガス、灯油、ガソリン)、その準備作業ができる。

①まず第一に防火・延焼の防止対策を挙げる。

- 「火守り」(焚き火の責任者)を決める(スカウトの班キャンプも同じ)。
- 焚き火をする場所の周辺の落ち葉等をできるだけ除去する。(かまどを中心に直径 3m と言われている。)
- 防火用水を準備する(最低でも 20 リットル。→ポリタンクではなく、バケツで。それは消火のための水をコントロールしてかけやすいから。)
- 風除けの設置(燃焼効率の点で。また防火という観点では、火の粉が飛んでいかにないように。)
- 穴を掘ったり、かまどを設置したりして火を制御する。(土壌が腐葉土の場合は穴を掘った焚き火は不可。→腐葉土自体が可燃物なので。→山火事の話を参考に。)
- 強風時や乾燥注意報発令時は行わない(天気予報の確認と予備の化石燃料の準備)。
- 終わったら完全に消火する(水をかけて、足で踏み砕き→または、燃えさしを火消し壺等にすべて、最後に土をかける。)
- …等が考えられる。
- 十分な薪の確保→薪が無くなったとき火守りがその場を離れないように。
火が付いている間は、必ず責任者がその場にいるような役割分担と人員配置を行うことを指導する。

2. 班の炊事に適するかまどを2種類以上作る。

- ①立ちかまど』と他にもう1種類とする。堀かまどでも石積みかまどでも可。(ここでは作戦会議)
→ §7 野営工作 1 で「立ちかまど」、§13 野営工作 2 で、もう一つのかまどを作る。

3. 薪拾いの方法について説明する。

- 「薪」は、着火剤としての「火口(ほくち)」の他、
 - ・「焚き付け」(楊枝～割り箸位の太さ)
 - ・「細薪」(鉛筆～大人の小指くらいの太さ)
 - ・「中薪」(大人の親指～親指と人差し指で作った輪位の太さ)
 - ・「太薪」(手首の太さ～)

に分類して、收拾する。

○どこから拾ってくるか・・・

- ・落ちている枝・・・落ちてから余り時間がたっていない、しっかりした枝を拾う。時間が経ちすぎ腐ってきているものは、火つきがわるく、火力かでない。
- ・立ち木の枯れた下枝・・・これは折ったり切ったりしてもよい。良い薪になる。
- ・立ち枯れの木・・・ほとんどが太い木なので、倒すのが大変だが、倒してしまえば良い薪となる。
- ・切り取ったまま乾燥させた枝・・・枝の部位の太さから、用途に応じた薪がたくさんとれる。

○太さや着火度合いによる分類も検証する。(次の 4. 項で説明)

○薪置き場(太さにより区分して収納する。だいたい長さを揃えておく(60cm くらいか・・・)→実際に使用するときはその状況に合わせて長さを調整する。)

○薪割り場は、みんなから見える場所に設置する(誰が作業しているかを即確認できるように)。

大きさは、作業場所とした中心に半径 2m の円の外側に杭とロープなどで囲いと出入口を作り、出入りは必ず出入口から行う。また、作業は出入口に正対(向かって)で行う。これは、入ってくる人を発見しやすいためであり、入る場合は声を掛けて、相手がそれを確認して作業を辞めてから入るようにする。

○焚き火の(火を育てる)道具は・・・

- ・ナタ・・・薪を適切な太さに割る。(片刃は切り込みを入れ、両刃は割るのに適している)
- ・剪定ばさみ・・・枝をカットする。
- ・うちわ・・・空気(酸素)を送って燃焼を活性化させる。
- ・火吹き竹・・・局部的に燃焼させる時に使う。
- ・火ばさみ・・・薪をくべたり、焚き火を組み直したり。
- ・手袋・・・革製の作業手袋を。軍手の場合は純綿性のものを。
- ・のこぎり・・・倒木や大きな(長い)薪はをカットする。
- ・いす・・・火守り(焚き火奉行)が座るため。

4. 樹木の種類によって、材の硬軟、火つきの難易、火持ちの良否、火力の強弱があることを知る。

4. 樹木の種類によって、材の硬軟、火つきの難易、火持ちの良否、火力の強弱があることを知る。

これについては、実際に小片を燃やしてみる。

○下記の Web サイトを参照すると

→ <http://www.honda.co.jp/outdoor/manual/vol-1/knowledge/index.html>

・ケヤキ ・モミ ・ヒノキ ・スギ ・カシ ・サクラ

・シラカバ ・コナラ ・クヌギ ・アカマツ ・クリ ・クワ

の「火つき性」「火もち」「火力」が掲載されているので、参考に。(←ページが消されてしまった)

→ http://club.pep.ne.jp/~kazutaka/asobi/camp/camp_top.htm

→TTの「野営法研究チーム」でボードサンプルを作ってください。

5 焚き火で使用する鍋等に、クレンザーやアルミフォイルでコーティングを施し、実際に使用する。コーティングの有無による、水や洗剤の量や手間等、環境と時間等の軽減について確認する。

① 焚き火で使用する鍋等に、クレンザーやアルミフォイルでコーティングを施し、実際に使用する。コーティングの有無による、水や洗剤の量や手間等、環境と時間等の軽減について確認する。

○実際に課題を実験してみよう。

要は、洗い落とすための「洗剤と水の量」と、コーティングによる「洗剤とコーティング剤と水の量」、すなわち環境へのダメージの与え方(ローインパクト)の問題となる。

○コーティング材には他にどのようなものがあるかも考えてみよう。

・アルミフォイル ・クレンザー ・食器用液体洗剤の原液 ・固形石けん ・・・・

先にも述べたが、現代のキャンプはローインパクトが主流である。そのためにも「クレンザー」のコーティングはやめたい(クレンザーの成分はなんだか知らないが・・・環境に良いわけが無いと思う)。「食器用液体洗剤の原液」も同様だ。「固形石けん」や界面活性剤の配合率が少なく生分解性の洗剤でやってみたらどうか。

○それで、実験だが、別に鍋で実験することはない。ステン製のシェラカップでいいだろう。4.の焚き火実験の時に金網等に乗せて汚れ具合と、落ち具合を確かめてみよう。

○私個人としては、炊飯セットが黒く汚れていても何ら気にしない。中が清潔であれば。

6. ガソリン、灯油、ガスについて、それぞれの機器(ストーブ)と燃料の特徴と、野外で携行・保管する場合の注意事項を説明する。

①液体燃料の種類と取り扱い方、収納容器について知る。

○燃料別ストーブはこちらを参照

→ <http://stove.out-air.com/stove/index.html>

○燃料ボトルについては、(基本的にガソリン用。もちろん灯油にも使える)

→ http://stove.out-air.com/stove/fuel_tank/list/fuel_tank_list0.html

・液漏れがなく、内部からの圧力に対して強いもの。

○移動・保管時は、容器そのものが熱を持つことがないように(直射日光下、車のトランクの中等)。気圧の関係(可燃物・ガス類は飛行機への持ち込み不可)。キャンプ地での保管については、テント内は×、火の近くも×、冷暗所で。

○ストーブの取り扱い方(「スカウトハンドブック」P.204 参照)

・ストーブを鉄板で覆うようにかぶせる ×

・火のそばで燃料の補給をする ×

・隊長自身が正しい取り扱い方、燃料補給の仕方を習い習熟する ◎

・その機種取り扱い説明書をきちんと読んで理解する ◎

7. 炊具の正しい使い方ができる。

①使い方としては、

○包丁は刃の向き(和包丁は片刃：通常は右利き用、左利き器用もある。洋包丁は両刃)と添え手。

○鍋は、材質と熱伝導を考えて火加減を調整する。適切な大きさのものをチョイス。

○手入れで注意するのはテフロン等のコーティングが施されている鍋やフライパンなど。温度管理や金属ヘラの使用による傷などに注意。

○汚れ、焦げは必ずきちんと取り洗う→カビ防止。

○全ての炊具はきちんと乾燥→細菌とカビの発生防止。除菌・衛生スプレー*を噴霧し乾燥させることも考える。

*「キッチンキレイキレイ・アルコール除菌スプレー」「フマキラー・キッチン用アルコール除菌スプレー」など

8. 米飯、生肉、生魚の食品を携行するための腐敗防止法（簡易加工含む）と、キャンプ地における貯蔵法（クーラーボックスを含む）を理解する。

①腐敗のメカニズムについての知識を与え、その対応を実際に行ってみることに主眼を置く。

○「火を通しておけば大丈夫」・・・ということを平気で言う方がいるが、大きな過ち。それは一時的なもので、その後で確実に腐敗していきます。

○よく言われているのは「味噌漬け」「油漬け」「塩漬け」「乾燥」「燻製」など。

○クーラーボックスは、低温により菌の繁殖や腐敗分解の速度を抑えるもの。そのため「冷やす」ことをしなくてはならない。保冷剤の効果時間や創意工夫を。

○また、病原性大腸菌「O-157, O-111」による感染、(1) 細菌性食中毒、(2) ウイルス性食中毒、(3) 化学性食中毒、(4) 自然毒食中毒による食中毒にも十分な注意が必要だ。

(1) 細菌性食中毒・・・毒素型；細菌産生毒素の生理活性により発症する。

感染型；感染により体内増殖した細菌が病原性をもつことにより発症する。

(2) ウイルス性食中毒・・・ノロウイルス、ロタウイルス、A 型肝炎ウイルス、E 型肝炎ウイルスなどにより発症。野生動物肉や狩猟肉 (fr:gibier, en:game meat) 喫食に起因する急性肝炎を起こすことがある。

(3) 化学性食中毒・・・アレルギー様食中毒（ヒスタミンやアミン）。発症例はマグロ、カジキ、サバが多く鮮度の落ちた魚、チーズ、発酵食品、腐敗した食品などが原因となる。また、キノコなどの食材自体の腐敗により生成される場合もある。

(4) 自然毒食中毒・・・植物性自然毒（毒キノコ、ジャガイモの芽（ソラニン）など）

動物性自然毒（フグのテトロドトキシン、貝毒など）

マイコトキシン（カビ毒）食中毒

寄生虫（アニサキス）

○昔よくやっていた地面に穴を掘って貯蔵庫とする・・・は、穴の深さが問題となる。それ以前に、環境への影響大ということで、現在は行わない。（今はクーラーボックスがあるのでそれを使う）

（参考 WEB サイト）

→ <http://www.children.ne.jp/outdoor/campcook/5.html>

《まとめ》（5 分）

焚き火に関する法規制の概要

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律第十六条の二」で廃棄物の焼却は原則禁止されています。これには例外があり、次のような場合には認められています。

- ・ 法的な基準に従って行う廃棄物の焼却
（法的に認められた焼却炉（市清掃センター等）で焼却するもの）
- ・ 他の法律に基づいて行う廃棄物の焼却
（森林の病害虫の駆除を目的として焼却するもの等）
- ・ 公益上若しくは社会の慣習上やむを得ない廃棄物の焼却
（農業での凍霜害防止、どんと焼き、災害復旧等）
又は周辺地域の生活環境に与える影響が軽微である廃棄物の焼却
（キャンプファイヤー、たき火）

§9 方位と天候

●セッションの目標（参加者はこのセッション終了時に次のことが達成できる。）

1. 太陽、月、星による方 発見法を5つ以上知る。特に星座による北極星の発見法を2つ挙げ、その実演をする。【天文章 (2)】 (11- ⑤)
2. 天気予報等の情報の収集の必要性和伝達法について知る。(ラジオ、携帯電話、PC 等を含む) (11- ①)

●指導上のねらい・ポイント

1. 野外活動を豊かにするために、指導者にはいろいろな知識や技能を修得していることが求められるが。これもそのひとつだ。中でも「星方位」は、スカウト歌集にも掲載されており、スカウトから「教えてほしい」とのリクエストが高いものでもある。そのためには星座を知らなければならない。
2. 自然災害から身を守るため、予めそれを予測し対策を取ることが指導者としては大切である。
特に落雷、集中豪雨、炎天、台風、暴風、風雪等は避難や撤退が求められることもあり、いち早く判断を下せるだけの確実な情報を入手することが必要。特に近年は「ゲリラ豪雨」などの集中豪雨による土石流、河川の氾濫、浸水などの発生率が高くなっており、気象情報の入手と分析、予測と判断が大切なスキルとなってきている。

●セッション展開にあたっての留意点

1. 曇天・雨天時はできないので、他のことを。
2. スマホや iPad などの通信端末を実際に利用して、気象情報の入手・分析・予測・判断を実体験してみる。

●準備品 ・名称〈規格〉(数量)

- ・携帯・ネットの気象サイト（気象庁、東電「落雷情報」） ・スカウト歌集
- ・落雷のメカニズム（ハンドアウト） ・全天構成図（星座板）

●他のスタッフへの依頼事項

【他の講師に】

- ・スマホや通信端末を持っている方は、利用させてください。

【業務・奉仕スタッフに】

- ・充電用の電源の確保をお願いします。

●セッション構成と展開（時間配分）

- 講義（15 分）→実習（10 分）→まとめ（5 分）

《導入》(5 分)

1. 「」

《展開》(10 分)

1. 太陽、月、星による方 発見法を5つ以上知る。特に星座による北極星の発見法を2つ挙げ、その実演をする。

- ①まずは、歌集の「星方位」の歌詞を実際に検証しよう。次に太陽と時計を使った方位測定を実際に行ってみる。
月については、月齢と月の出入の時間を知っておこう。

○星座による発見法

星方位（歌）歌集 P69

- | | |
|--|--|
| ①おおぐまざのしゃくのそこの
2つの星を結び合い
5倍の長さののばしたら
そこにはピカッと北極星
※北斗七星のこの2つの星を「指北星（ポインター）」という。 | ②カシオペアの W（ダブリュウ）の
外の4つ星のばし合い
その延長のなす角の
平分線上に北極星 |
|--|--|

○夏の夜空にひときわ輝く「夏の大三角（はくちょう座のデネブ、わし座のアルタイル、こと座のヴェガ）」この

- 三角形の短い辺を軸にしてひっくり返すと、そこに北極星がある。⑦
- オリオン座の三つ星の右上の星は、天の赤道線上にある。
→ということは、この星が昇るところが東、沈むところが西。⑧
- 太陽を使ったやり方
→太陽が南中するときが太陽高度が最も高い、すなわち影が最も短い。地面に垂直に棒を立てて、影の長さを計って最も短い所と棒の根本を線で結ぶ。これが南北線。棒側が南で、かげの先端が北。
→地球からみると、太陽は 24 時間で地球を 1 周している。時計は通常だと 12 時間進行となっているが、これが 24 時間進行だったら太陽と同じ。つまり、時計の短針を太陽に向けたら、24 時間型時計の 12 時の方向は常に南、0 時は北を指している。
→これを普通の時計 (12 時間計) に当てはめてみると、現在の時刻を 24 時間読みして、それを 2 で割った時間を暗算で出す (例：14 時 30 分だったら、7 時 15 分)。そのときに時刻に時計の短針があると仮定して、それを太陽の方向に向ける。良くやる方法では、その短針の位置にマッチ棒を置き、その影が針の軸にくるように時計全体を回す。そのときの 6 時方向が南、0 時方向が北ということになる。
- 月による方位発見法
→精度は求められないが、月齢との関係からある程度は見つけることができる。
・上弦の月、下弦の月のときは、日没もしくは日の出の時にほぼ南を向いている。日の出や日没と同様月の出、月の入も季節によって異なるので、だいたい東 (西) 程度としか言えない。
- こんな方位発見法も。。。。。
○学校の校舎は南向きに建っている・・・・・・だいたい合っているが、真南ではない。
○パラボラアンテナは、南西に向いている。…これも??
○犬は南を向いてウンチをする・・・・・・ここまで行くと信じられないですねえ。

2. 天気予報等の情報の収集の必要性と伝達法について知る。(ラジオ、携帯電話、PC 等を含む)

- ①自然災害から身を守るため、予めそれを予測し対策を取ることが指導者としては大切である。
- ②特に落雷、集中豪雨、炎天、台風、暴風、風雪等は、キャンプサイトからの避難や撤退が求められることもあり、いち早く判断を下せるだけの確実な情報を入手すると同時に、日頃から傾向と対策を実行することが必要。
- ラジオ NHK 第 2 放送の気象通報が 1 日 3 回 (09 時 10 分 [06 時の観測]、16 時 [12 時の観測]、22 時 [18 時の観測]) それぞれ 20 分間放送されている。ただし、これは聞いていてもダメ。ここから天気図を起こして、その天気図を読むことで天候の変化を知ることができる・・・・・・が、よほど精通していないと詳しい解説は無理。
- 今は、携帯電話の電波が届くエリアであれば、スマートホン等で天気予報や天気図を見ることができる。その土地に特化した予報も見られる。プロが分析予想した結果なので信頼性は高い。
- iPad のような端末があれば、ホームページから天気予報や、落雷情報を検索して知ることができる。特に夏場の雷雨については、東京電力サイトの「雨量・雷観測情報」はたいへんに役立つ。ただし関東近辺だけだが。
→ <http://thunder.tepco.co.jp/index.html>
- 局地的な天候については、昔ながらの観天望気によったり、地元にお年寄りの知恵をお借りすることになる。
- 各種情報により、気象の変化を感じ取ったら、その時間的・位置的推移から、当該キャンプ地の天候が変わる時間を予測し、天候が変化した段階では避難等の対応が済んでいること、すなわち「観察と推理」で、事前に対応できていることが大切だ。
この対応とは、遠方であれば避難所への避難。近隣であれば、撤収して帰宅など。
1 時間程度前からの予測は、かなり高い精度で予想できる。気象庁の天気予報サイト「レーダー・ナウキャスト」で、雨や雷などの 3 時間前から 1 時間後の予測までの動きが動画で見られる
→ <http://www.jma.go.jp/jp/radnowc/>
- 指導者としては、落雷や集中豪雨などで、スカウトの安全が脅かされることが最も怖い。それらの災害に対処する確かな情報を得て、例えば空振りに終わったとしても、待避行動を取ることが大切であることを肝に銘じてもらいたい。

《まとめ》(5 分)

1.

§ 10 安全・衛生、健康、点検

●セッションの目標（参加者はこのセッション終了時に次のことが達成できる。）

1. キャンプの衛生について、次の事項が説明ができる。(8-1- ①)
 - ・便秘の防止と対策。
 - ・水の飲み過ぎの害とその防ぎ方。適切な水分の 補給。
 - ・熱中症の予防法と対処の方法
 - ・害虫の防除と駆除法。
 - ・昼間着た下着をつけたまま寝床に入らない理由。
 - ・寝るテントに食品を蓄えることが有害である理由。
 - ・野営トイレの衛生管理方法。
2. キャンプにおける健康の確認と維持について知る
3. 安全と周囲への配慮から、夜の野営地における適切な明かりの取り方を知る。(8-3- ①)
4. ガソリン、灯油、ガス、乾電池、ロウソクを使用するキャンピング用灯火のうちの燃焼系灯火3種類以上を正しく使用する。【野営章 (8)】(8-3- ②)
5. 朝と夜の点検の重要性と心構えについて知る。【野営管理章 (3)】(8-2- ①)
また、「夜の点検は慈母のごとく、朝の点検は厳父のごとく」の意味を理解する。(8-2- ②)

●指導上のねらい・ポイント

1. これらは「楽しいスカウティング」「楽しいキャンプ」を過ごすために必要なことである。
そのために、
 - ・事故を起こさない
 - ・病気になるない
 - ・怪我をしない
 - ・心と身体を健やかに保つことが求められる。これについては、カブはもちろんのことベンチャースカウトであってもなかなか自己管理をすることが難しい。そのために指導者が存在するわけだが、その指導者自体がこれらの事項と内容を知らないのであれば「楽しいスカウティング」「楽しいキャンプ」は成り立たないわけである。

●セッション展開にあたっての留意点

1. まず、担当者がこれらの事項を実践的に体験し、その知見を以てセッションに当たること。

●準備品 ・名称〈規格〉(数量)

・

●他のスタッフへの依頼事項

【他の講師に】

・

【業務・奉仕スタッフに】

・

●セッション構成と展開（時間配分）

- 講義 (55 分) →実習 (0 分) →まとめ (5 分)

《導入》(5 分)

1. 「

《展開》(40 分)

1. キャンプの衛生について、その必要性について考える、次の事項が説明ができる。

- ①楽しい活動をするには、健康を保つことが第一となる。少しでも健康を損ねると、いろいろなところに影響を及ぼし、せっかくの楽しいキャンプが台無しになってしまう。特に、スカウト活動は少人数のグループで行われることから、たった1人でも健康を損ねるということは、全体の士気の低下を招くことになる。

《便秘》

- 原因→環境の変化が大きい。
- 症状→腹が張って苦しくなる。腹痛、頭痛、吐き気、不眠、精神的不安、思考能力の低下等。
- 防止策→普段通りの生活リズムの維持、果物の摂取（リンゴ酸、クエン酸）等

《水の飲み過ぎ》

- 害→腹痛、バテ。
- 補給→スポーツドリンク、食塩添加のトマトジュースや麦茶を一口ずつゆっくり飲む。清涼飲料水は不可。

《熱中症》

- 原因→強い日差しのもとでの労働や長時間の歩行等。
- 症状→頭痛、吐き気、めまい。顔が赤くなり、皮膚は乾燥、早い脈や呼吸。
- 予防→適当な木陰での休憩、帽子の着用、汗が蒸発しやすい衣服の着用など。また、水分の十分な補給。

《害虫》

- 症状→腫れ、痛み、意識不明、アレルギーなど
- 対策→生息環境を取り除く。殺虫剤。投薬（ヒスタミン系）、塗り薬。

《着替え》

- 原因→汗
- 症状→下痢、不眠、
- 対策→下着の着替えは汗を吸うことで、発汗をよくし体温を一定に保つことにある。なるべく乾いた乾きやすい材質のものを。昼間着た下着はすでに汗を吸っていて身体を冷やす。また清潔を保つことから、乾いた下着を寝る前に着るように。

《テント内の食料》

- 問題→テント内は、体温や人いさけ、結露等で温度・湿度が高く食料が腐敗しやすい。また、害虫等呼び寄せることになる。
- 対策→食料は原則として冷暗所で害虫のなどを防御して保存する。

《トイレ》土による濾過、地中バクテリアによる分解を考慮。定期的な消毒。

2. キャンプにおける健康の確認と維持について知る。

スカウトの健康については、隊長は次の要素を理解しておくことが大切である。

○少年の特性を知る

精神と肉体のアンバランス、未熟さとともに驚くべき成長、飽きやすさ疲れやすさが少年期の特性だ。隊長はまずこれらの点を知っておく必要がある。

○健康であることの確認

スカウトの健康状態を常に把握し、その健康を確認しておかなければならない、そのためにはスカウトの保護者と連絡を密にして、スカウトの健康状態に関する情報の収集が必要（健康調査書）、常にスカウトと接し、異常を感じることがないかという点にも留意する。多くのスカウトと接していると、ひとりだけ何か異常のあるスカウトには気づくものだ。

また、キャンプの前には健康診断を行うことが多い。担当した医師がキャンプには参加しない場合、健康診断で気がついたことを健康安全担当の指導者にきちんと引き継がなければ、健康診断を行った意味がない。大切なことは、一人一人のスカウトを継続的に観察し、記録を保存して上進の際には次の隊に引き継いでいくことである。特に持病・アレルギーなどには重大な結果をもたらすものがあるので、指導者も熟知していなければならない。

○活動に応じた休養と休憩が必要

スカウトは、まだ成長期の年代である。常に休養と栄養が必要。このことを隊長は機会あるごとにスカウトと話し合い、実行させるよう努力するべきだ。

現代はスカウトの環境は、睡眠時間の減少による慢性睡眠不足で、これにより注意力の散漫、思考力の減退を招き、健康に悪いばかりでなく、場合によっては、大きな事故つなげかねこともある。

○病気の早期発見を

病気には多種多様なものがあり、その総てを見極めるのは無理である。しかし、自分自身で早期に発見

可能な病気も数多くある。こし食欲・便通・体温などはよいバロメーターだ。自分で自分を注意する。この簡単なことが極めて大切であるということをスカウトに機会あるごとに話そう。

○心の健康にも注意

健康とは身体的なものだけでなく、精神的・心理的な健康も考えなければならない。

現代は、いろいろな意味で環境が整っているため、ちょっとしたダメージ（病気、怪我、人間関係等）により落ち込んでしまったり攻撃的になったりする、ガマンができない、いわゆる打たれ弱い子どもが多くなった。

また、いじめについては、いくら「ちかい」をたてたスカウトの間でも見られないワケではない。その多くは「標準」から外れている者が攻撃の対象となる。これは日本の社会に特有のもので、いわゆる個性が突出している者は脅威となり得るから、集団の力で排除する・・・モノである。しかしスカウト教育は「個性教育」つまり、良い個性を伸ばすことをこの運動の方針のひとつにしている。そのため「キミ」と「ボク」は違って当たり前という価値観を機会あるごとに話そう。

3. 安全と周囲への配慮から、夜の野営地における適切な明かりの取り方を知る。

○まず第一に、必要十分な明るさが必要範囲で確保できれば良い。必要以上でも以下でもよくはない。煌々とまばゆい照明は野営には似合わないし、他のキャンパーや野生動物等に悪影響を及ぼす。

その逆も真なりで、共用のキャンプ場で、他のキャンパーの煌々としたランタンの明かりは、時に迷惑である。

○少ない明かりだと安全が損なわれる。ということで、複数の照明をその照明器具の特長を生かして配置する。

○虫害を防止するには、虫集め用の明るい（白色光）照明（ガソリンランタン）をやや遠方に置き（照らしたくない方向には、リフレクターを付ける等の工夫も）、食卓等には、多少暗くした照明（電池ランタン）を置く。作業をするのであれば、ヘッドライトで手元を照らす。

○深夜は、特にカブのキャンプでは、長時間点灯可能なランタンをやや暗めに灯して、各テントから遠くない所（ランタンの光がほんのり届く程度のところ）に置いておく。闇への恐怖を希釈するためと、トイレのための寝起きしてもスカウトが安心できるように。

4. ガソリン、灯油、ガス、乾電池、ろうそくを使用するキャンピング用灯火のうちの燃焼系灯火3種類以上を正しく使用する。

○ガソリン、灯油、ガス、乾電池、ろうそく（キャンドル）のを使用する各照明器具を用意する。

○燃焼系というと乾電池を除くものとなる。現在最もポピュラーなのはホワイトガソリンとカートリッジガスであり、灯油を使用するものはほとんど見なくなった（インテリアとしては「ハリケーンランプ」があるが・・・）。そのため3種について使用法を学ぶと言っても、ガソリン、ガス、ろうそく（キャンドル）の3種で良いだろう。

○まず、ガソリンとガスのランタンは基本的にストーブと変わらない。炎をマントルと呼ばれる部分（触媒）で光に変えるものである。燃料による明るさもさほど差はない（ガスは初めから気体、ガソリンは気体にして放出する）。マントルは布製の網を燃やした、言ってみれば灰でできているから、大きな振動を与えるとこわれやすいので、取り扱いには注意が必要だ。

○ガスのものは、カートリッジと本体と分離できるので、それぞれはさほど大きくないが、ガソリンのものは一体となっているので大きく重たいし、燃料の補充の際にポンピングが必要となる。

○ランタンとストーブは、同じ燃料のものを用意する。同じ種類だと調達が1回ですみ、また使い回しができる。特に自分達で装備を運ばなければならない場合はガス、車で運べる時はガソリンを使い分けるといい。

○キャンプの夜の月や星の淡い光とバランスがとれるのは、キャンドルである。

※現在は、高輝度LEDが急速に普及し始めており、価格もこなれてきた。それを使用した照明器具が多数出てきた。それも考慮する必要がある。特にヘッドライト・ハンディライトそれぞれに特長があり、得意とするシーンがある。どちらか1つを選ぶのであれば、単三・単四電池を使用するヘッドライトとなろう。

○ということで、ガソリンでもガスでもいいので、ランタンにマントル取り付け、空焼きして、実際に灯してみる。きちんと空焼きをした場合と、しなかった場合では、マントルの膨れ具合に差が出て、光量が落ちるという実験結果がある。

5. 朝と夜の点検の重要性と心構えについて知る。また、「夜の点検は慈母のごとく、朝の点検は厳父のごとく」の意味を理解する。

①点検は、スカウティングにとって有用な教育方法のひとつである。

特に野営生活・野営基準・野外活動においては、実施と改善をくり返し（反復し）ながら、さらに高い次元に進んでいくプロセスの中で重要な位置を占める。

そういう意味からも、スカウトに真のスカウティングを実際に行わせる絶好の機会であり、自然の中での共同生活を通じて、「相互理解」「自己の改善」「進歩」を促す生活をさせることを主たるねらいとする。身体と心を磨く生活指導の重要な場であることを指導者は知っていなければ、点検は単なる「チェック」となってしまう。

ポイントは、「ちかいとおきて」の 実践、安全・衛生ができているか、次の行動・活動の準備を見越した備えがなされているか等を確認・評価し、また スカウト同志のコミュニケーション状況、心理的なストレスの有無等を確認し、キャンプをスカウト自らが楽しむ→進んで行動・参加するできる環境をつくることでもある。

繰り返すが、点検の主たる目的は、キャンプの基準、安全・衛生を確保し、健康の維持、生活指導と進歩と向上心を励ますために行うものである。また、朝の点検と夜の点検は、全くやり方が異なることを知らせる。

《目標》

- キャンプ基準の維持
- 班制と進歩制の維持
- 規律とチームワークの維持
- 整理整頓と日々の改善
- 健康管理と衛生管理
- 災害防止と安全管理

②《朝の点検》

- 点検の3要素は「健康」「衛生」「安全」である。

特に健康については、重視しなくてはならない。「ちかい」の3つめに「1. 体 (physical) を強くし、心 (menal) を健やかに、徳 (moral) を養います」とある。これはそのまま一連の進行形として捉えられている。つまり

「体 (physical) を強くし」⇒「心 (menal) を健やかに」⇒「徳 (moral) を養う」

で、身体が弱ければ心は健やかにならない、心が健やかでなかったら徳は養われないと言える。

（これ以上は「ちかい」と「おきて」のセッションになってしまう・・・ので省略）

- スカウトに対して、主として班員の健康の観察と確認、身体の汚れや爪の状態の確認。

挨拶、返事に精気と生気があるか、目はきちんと見据えられているか、姿勢はどうか等々身体と心の健康を確認する。身体・衣服・手・爪・靴の汚れ（スマートマス：常に清潔にしておく）

（カブについては、生活習慣の励行の意味で、上記に加えてハンカチ、ちり紙、爪、手洗い等を）

- キャンプサイトは、テントの乾燥、寝具の乾燥、衣類の清潔さと着替え、食料の保管状況、ごみの始末、便所等の衛生の状況。

テントの設営状況、備品の保管とメンテ、刃物の管理、炊事場やかまどの安全の状況を確認する。これらは、これからの1日を安全かつ楽しく・快適に過ごすために、スカウトの精神を引き締め、安全項目の周知と確認をするため、また、各人の成長を促すために、厳しい父親→「厳父」の心で愛情をもって行う（「厳父のごとく」）。

点検は日によって、また状況に応じてポイントを変えて行う。

○点検の方法

- 点検は、指導者が責任を持って行う。

これは、特に健康面についてであるが、「2. 健康について」でも明記してあるように、特にカブ・ボーイにおいては、健康状態を常に把握し、その健康を確認することは隊指導者の責務である。そのため、隊長若しくは隊長から任務を分掌された副長が責任を持って行う。

- 点検を実施するポイントは、次の4つである。

「スカウトの健康」「スカウト及びキャンプサイトの衛生」「キャンプサイトの安全」「日々の改善」

- 班長会議での指導

隊長は、点検の方法とポイントについて前日の班長会議でよく説明をしておく。

それにより、翌朝の点検がスムーズに行われる。

また、点検は制服を着用の上で規律正しく行われる。その意味と意図を班長に伝える。

- 点検の時間

朝の点検は、朝食の片付けが終わった後、朝礼までの間に行うのが通例である。

この時間でなくてはならないということではないが、活動のタイミングからすれば、ここで行うのが良いであろう。

●1班あたりの点検に要する時間

- ・だらだらと時間をかけるものではない。長くても1班あたり5分以内で終えたい。
- ・キャンプ2日目の最初の朝の点検は、評価の基準となるので、確認と指導も含めて時間を掛けて行っても良いだろう。
- ・次回の点検からは、主として改善の度合いを確認することになるので、短時間で効率よく行うようにする。あまり長い時間を掛けることはスマートではないし、それ以降のプログラムに影響が出てしまう。

●点検時の注意

- ・点検を行う指導者は、規律ある姿勢で「厳父」の心で行う。
- ・点検はあら探しではない。より快適な野営生活を送るための改善への気づきを促す。
- ・衛生担当、安全担当がスカウトに指導する場合は、健康担当のチェックを終えてからにする。
- ・WB研修所等では、全部の班を一斉に整列させて順次点検を行っていく方法であったり、点検の準備が整った班の班長が指導者を迎えに来る等の方法をとっているが、点検やり方に決まりはない。上記の主旨や意図が効果的に行えれば良いと思われる。
- ・指導者のためのスカウトキャンプや外国の書籍を見ると、全ての個人装備をシートの上に並べて点検を受けているイラストが載っている。本来はこのようにすべきである。

これは全ての荷物を日々把握し、その日に使用するものを取り出しやすい場所に収納しておくこと、そして、全ての荷物をさらけ出すことで、隠し事なく清々しい気持ちで1日をすごすことができ、かつ指導者とスカウト信頼関係→より良い成長へと繋げられることからである。是非とも行ってもらいたい(女子に関しては下着や生理用品等に十分な配慮をすること。これは女性の副長から女子に伝えてもらう。)

③《夜の点検》

●主として安全衛生と整理整頓の状況に重点を置く。

- 消灯後にスカウトの安全を願って静かに行う。不備な点、危険な点があれば、一応修正処置を施して、翌朝の点検時に注意・指導する。今日一日でどれだけ進歩改善されているかを評価する。スカウトが安心して安らかに眠れるよう優しい母の心をもって慈しみながら行う(「慈母のごとく」)。

※詳しくは「指キャン」P.48～55 参照のこと。

●点検時の注意

- ・スカウトが安眠できるよう。また夜間にトイレ等に起きてサイトを歩くときに、その動線上に危険となるもの、事故の誘因となるものはないか。(工具、資材、工作物等)
- ・野犬や野猫、その他の動物に食糧やゴミを荒らされないよう対応してあるか。
- ・風や雨への備えができていますか
- ・雨の時は、雨水が溜まらずに排出されているか。
- ・風の時は、テントやタープが飛ばされないよう張り綱やペグがきちんと処理されているか、また、サイトにある他のものも対策が施されているか。
- ・火の始末はきちんとされているか。
- ・水(飲み水、雑用水、防火用水)は容器に満たされているか。
- ・薪は翌日の分まで確保されているか、濡れないように処置してあるか。
- ・炊具や食器は乾燥した状態で衛生的にしまわれているか。
- ・工具は、工具箱に入っているか、入らないモノは安全対策をとって保管されているか。
- ・テントの換気はきちんとされているか
- ・靴は脱ぎっぱなしになっていないか(雨・夜露対策、野犬対策)
- ・万一の場合に、最短の時間で撤収・撤退が可能なように整理・整頓されているか。
→「そなえよつねに」である。

《まとめ》(5分)

1.

●備考

§11 キャンプの衛生

●セッションの目標（参加者はこのセッション終了時に次のことが達成できる。）

1. キャンプの衛生について、次の事項が説明ができる。（8-1-①）
 - ・ テントの湿気の防止と乾燥作業の必要性とその方法。
2. 炊具の洗浄と乾燥ができる。【炊事章（11）】（7-1-③）

●指導上のねらい・ポイント

1. 湿気による健康への影響について、考える。
2. 全ての炊具はきちんと乾燥させることに意味について知る。

●セッション展開にあたっての留意点

1. 「

●準備品 ・ 名称〈規格〉（数量）

・

●他のスタッフへの依頼事項

【他の講師に】

・

【業務・奉仕スタッフに】

・

●セッション構成と展開（時間配分）

- 講義（15 分）→実習（25 分）→まとめ（5 分）

《導入》（5 分）

1. 「

《展開》（40 分）

1. キャンプの衛生について、次の事項が説明ができる。

- ① テントの湿気の防止と乾燥作業の必要性とその方法。（§5 の展開 6 を参照）
 - 湿気の原因 → 地面からの湿気、夜露、結露、雨など。
 - 湿気的作用 → 体調変化（冷えからくる頭痛、腹痛、便秘、下痢、不眠、発熱）
 - 対策 → 乾燥に心がける。昼間は扉を開け、ウォールをあげておく。グランドシートを外して干す。シート下の地面も乾燥させる。

詳しくは、冊子「野営章」P.39～43 に詳しく掲載されているので、担当者は精読しておくこと。

2. 炊具の洗浄と乾燥ができる。

- ① キャンプ施設であれば、水の心配はないが、キャンプ場以外では水は非常に大切だし、その確保には大きな労力がかかるため、その使い方も工夫して極力節約することが求められる。
 - スカウトキャンプでは、炊事や洗面等は全て班サイトで行うことを原則としている（たとえ炊事場が完備されているキャンプ場であっても）。
 - 水場からサイトに水を運ぶことは重労働である。
 - ボーイ隊では、水汲みは新入隊員の大きな仕事だ。
 - この意味は、先輩達が辛いことを押しつけるということではなく、「水」という必需品の補給と管理という重要な任務を任されている・・・ということを理解させてあげる。（この辛い経験がスカウトには大切なことを忘れてはいけない。）
 - そのため、限りある水をいかに有効利用し、炊具や食器を洗うかの工夫を、ここでは考える。

- ・「コップ 1 杯の水で、歯を磨き、顔を洗う」…と言われていた。化粧をする成人女性は無理だろうが、その精神（意味）は汲んでもらいたい。
- ・無駄な使い方をしないことは、スカウト達は身にしみている。指導者はどうか？
 - （ア）炊具を汚さない工夫
 - ・メニューの多様性と栄養価のバランスは保ちながら、使う食器が少なく、炊具が洗い易く洗う手間が少ない献立を考える。
 - ・キャンプでカレーは定番であるが、洗うという視点で見ればカレーは嬉しくない。
 - （イ）食器を汚さない工夫
 - ・食器をラップで覆って、そこに料理を盛る。紙食器を使う。食器をトイペで拭く…などいろいろ行われているが、**どこかはき違えているような気がしてならない。**
 - ・基本は、日本の家庭で昔から行われてきた伝統的なやり方の「使った食器でお茶を飲む」だろう。無駄を出さない、まさに「スカウトは質素である」だ。
 - （ウ）洗いの工夫
 - ・少人数の班では、かえって水の無駄使いになってしまうが、こんなやり方もある。
 - ・水を入れたバケツを 3 つ用意する。1 つめは洗剤が入った「食器洗い」用のバケツで、2 つ目は、それを濯ぐ「すすぎ」用のバケツ。3 つ目は残った洗剤をさらに落とす「仕上げ」用のバケツ。順に食器を浸して作業を行い、洗っていくという方法。

②炊具や食器の乾燥

○その目的は…雑菌の繁殖を抑えること。（きれいにすること）

- ・まず、水気を布巾で拭いて乾燥させる。
- ・乾燥は天日を利用する。まずは直射日光→日陰で確実に乾燥。
これは、太陽光の赤外線で「乾燥」させ、紫外線で雑菌の繁殖を防ぐ。その後、日陰で確実に乾燥させたうえで、収納する。
- ・調理台を作ったのであれば、キャンプ中の昼間（キャンプを離れないとき）はそのまま調理台に置いておくことも可。
夜間やサイトを離れる場合は収納する。

《まとめ》(5 分)

1.

●備考

§ 12 バックパック (パッキング、背負い方) と寝具

●セッションの目標 (参加者はこのセッション終了時に次のことが達成できる。)

1. 標準的なパッキングと正しいバックパックの背負い方 (フィッティング) を知り、それに持参したキャンプの装備を入れて実際に背負ってみる。また、背負って周囲を歩いてみてそのパッキングの良否を確認する。(3-2-⑥)
2. スリーピングバッグとマットの種類と材質による性能の違いを知る。(3-2-⑦)

●指導上のねらい・ポイント

1. スカウトを指導するにあたって、まず指導者自身が装備を詰める、背負う、移動するを体験します。
(入れる順序、入れる位置、大きさ、必要性、バランス、重心、フィット性・・・)
実際にパッキングして、いろいろな不具合を解消することで、正しい方法を理解していきます。成人と少年、そして男女の体格 (骨格と筋肉) の違いを十分に配慮することを知らせます。
同時に、他の参加者のバックパックを背負ってみて、自分のバックパックとの違いを比較してみましょう。どの点が優れているかを確認します。
※バックパックについては、リュックサック、ザック (ドイツ語)、背嚢などの言い方もありますが、この野営法研究会、野営法講習会では、英語読みの「バックパック」に統一します。
2. 疲労を解消し英気を養う睡眠について、寝具 (スリーピングバッグとマット) を通して検証します。実際に触って寝てみて、その感触と効果測定をしましょう。それぞれの求める性能については、野営法講習会で説明済みですが、ここでも再度それをお復習します。
※スリーピングバッグについては、シュラフ (ドイツ語)、寝袋などの言い方もありますが、この野営法研究会、野営法講習会では、英語読みの「スリーピングバッグ」に統一します。

●準備品 ・名称〈規格〉(数量)

- ・ サンプル用の個人装備 (一式)
- ・ サンプル用バックパック (アタックザック、キスリング、3ウェイバック、キャスター付バック等)
- ・ サンプル用スリーピングバッグ (マミータイプ:化繊、ダウン、レクタ:化繊、ダウン)、スリーピングバッグカバー、スリーピングバッグシーツなど

●他のスタッフへの依頼事項

【他の講師に】

- ・ バックパックの正しいフィッティングの手伝いをお願いします。

【業務・奉仕スタッフに】

●セッション構成と展開 (時間配分)

- 講義 (20 分) → 実習 (20 分) → まとめ (5 分)

《導入》(5 分)

1. 「

《展開》(40 分)

1. 標準的なパッキングと正しいバックパックの背負い方を知り、それに持参したキャンプの装備を入れて実際に背負ってみる。また、背負って周囲を歩いてみて、実際にパッキングの良否を確認する。
 - ① 実際にパッキングさせることで、リストアップと容量のギャップを認識させる。
また、パッキングの順序、工夫と、どんな性能の装備品を選ぶことが必要かを考えさせる。
・ 新入隊員の購入アドバイスにつなげられるように。
 - ② 次に実際にすべての装備をバックパックに詰めて、周辺を歩いてみる。(これも大切な体験。今は車での運搬が多くなり、実際に背負ったことのない指導者が多くなってきている。)
- パッキングのセオリー・・・とは、
- ③ パッキングバランス (左右のバランス)、重心の位置 (上重下軽・背中側に重いもの)
 - ④ 堅いもの同士をくっつけない。柔らかいもので包む。隙間をなくす (衣類のたたみ方に工夫する)。
 - ⑤ 移動中使うものは取り出しやすい所に・・・などなど。

④移動キャンプの場合は、休憩の度にバックキングが変わる → 休憩の度に次に使うモノを取り出しやすい位置に。雨が降りそうな時は雨具を取り出しやすい位置に・・・等の工夫が。

○フィッティングのセオリー・・・とは、

⑤まずは、バックパックを持ち上げる。片方のヒザに乗せて、素早くハーネスに腕をくぐらせる。次にバックパックを背中に担ぎ、反対の腕を通す。

⑥バックパックは腰で担ぐ。まずは「腰」→次に「肩」の順でそれぞれハーネスを絞めていく。

歩いてもバックパックがぶれないよう、また歩いたときにバランスが悪く歩きにくくならないよう、背中の中心にフィットさせる。各種ハーネスの機能と効果等の指導もする。

⑦身長差、男性用と女性用のバックパックの違いについても説明する。

⑧フィット感を得るための工夫（背中と接触する部分にやわらかいものを） ← 最近は背面パッドがすごく良くなっているので、あまり気を遣う必要はなくなったが、それでも知っておいていいこと。

③同時に、他の参加者のバックパックを背負ってみて、自分のバックパックとの違いを比較してみましょう。それぞれの点が優れているかを確認します。（→ フィッティング⑧を実際に感じてみよう。）

2. スリーピングバッグとマットの種類と材質による性能の違いを知る。

①キャンプに限らず、「楽しいスカウティング」のためには、健康であることが安全のための第1の条件である。

健康であればこそ、危険を事前に察知し、適切に対処することができる。つまり、身体に備わっている各種センサーが正常に作動し、その情報が脳に遅滞なく送られ、脳がきちんと判断し、各部位にその指令を送っている状態を保たなくてはならない。

そのために、よく眠ることに加え、よく食べ、よく排し、身体を清潔しておこう。 → つまり「健康」な状態。・・・ということで、ここでは睡眠について考える。

○「大地の上に眠ることはその自然を本当に理解することだ」と言った人がいる。一度でも自然の中で一夜を過ごしたことがある人なら納得できる言葉だ。そのためには、睡眠がぐっすり熟睡できる快適なものであることが大切だ。なぜなら、睡眠はその後の行動を左右するからだ。睡眠が不十分であれば、翌日は不完全なままの体調で様々な作業をしなくてはならないことになる。それは危険なことでもある。

○気持ちよく眠るためには、装備も大切だが、自分が横たわる地面の状態が大きな意味を持ってくる。キャンプサイトを決める時には、テントを張る場所を十分に注意して見つけることが大切だ。（§5の展開3でも述べたので確認）

○スリーピングバッグとマットについては、「野営法講習会」でも説明しているが、再度確認する。

（ア）スリーピングバッグは、形で分類すると基本的に「マミー（ミイラ・人形）型」と「レクタングラー（封筒）型」がある。

基本的にマミー型の表地は基本的にリップストップナイロンという薄くて丈夫な繊維でできていて、軽くコンパクトになるようにできている。

レクタングラー型はゆったりとして肌触りが良い綿などの布地を使っており寝心地も良いのだが、重くかさばるので、オートキャンプ用と思ってもらいたい。

（イ）中綿（フィル＝中に詰めてある綿などの詰めもの）で分類すると、化学繊維（ポリエステル繊維）とダウンとに分けられる。

湿気の多い日本では、化学繊維の方がいいかもしれない。ダウンは高価で、また手入れが必要だ・・・が、軽いし寝心地が良い。

（ウ）サイズは、自分の体格に合ったものを選ぶ。

大きすぎるとゆったりと寝ることはできるが、余分な空気がある分だけ暖まりにくく、必要以上の重さがついて回る。

逆に小さなサイズを使うと暖まりやすいが、窮屈な思いをして十分な睡眠がとれないこともある。

ポイントは、身体の両側にゆったり腕を置ける余裕があるか、足を思いっきりのばせるだけの余裕があるか、大きすぎないか、必要な暖かさが確保できるか・・・である。

（エ）ボーイスカウトの通常のキャンプであれば、3シーズンのものでほぼ十分だ。

「快適睡眠温度域」リップストップナイロンのクオロフィルなどの化繊のフィルのもので、例えば、ハケ岳での夏のキャンプで使うスリーピングバッグであれば、平均最低気温が6℃なので、6℃が快適睡眠温度域となっている製品を見つける。

冬の茨城でキャンプをするのであれば、平均最低気温は -3℃であるので、-3℃が快適睡眠温度域となっている製品を見つけるわけです。

冬季で平均最低気温を下回る場合はどうするか……。➡スリーピングバッグカバーで覆ってしまうか、インナーバッグ（シーツ）を使うと暖かい。シーツはスリーピングバッグ本体の汚れを防ぐ目的もあるので、是非使いたい。

（オ）マットは必需品

ローインパクトのエコキャンプが推奨されている今日、テントの下を耕して軟らかくすることはできない。それは下草も保護することが謳われ始めたからだ。なので、テントを張る場所をちょくちょく変えなくてはならないことになる。つまり、小石や小枝を取るのが精一杯ということになる。ということは、地面の凸凹を緩和したり、地面からの冷えや湿気を防ぐために、スリーピングバッグの下に敷く「マット」が必要となる。

（カ）マットの素材は、ボーイスカウトのキャンプであれば、エンソライト等クローズドセルの素材のものでいいだろう。大きさはフルサイズのものである。荷物を減らしたいのであれば、夏だったらハーフサイズでも良いだろう。他にエアマット、オープンセルのインフレーターブルマットがあるが、高価である。金銭に余裕があるのであれば、そちらも検討したい。

（キ）エアマット、インフレーターブルマットは、ベンチャーの移動キャンプや長期キャンプで極力荷物のかさを減らしたいときに使う。ただし、穴が空いたら役に立たないので、必ずリペアキットを携帯しなくてはならない。

○スタッフ、参加者のスリーピングバッグとマットを持ってきてもらって、気になるものに寝てみる。

結論としては、お金との兼ね合いで、各自の好み……ということになる。2つそろえることができるのであれば、1つは化繊の3シーズン（10℃以上）、もう1つはダウンの3シーズン（0℃以上）を。

《まとめ》(5分)

1.

※ドイツ語本来の発音は「リュックザック (Rucksack)」で、「背中袋」の意味である。日本語で「リュック」になったのは、語源のリュッケン (Rücken、背中) に引きずられたからとも言われる。英語では「ラックサック (rucksack)」だが、登山の専門用語であり、一般には通じにくい。英語の「バックパック」、日本語の「背嚢」はドイツ語からの直訳である。ドイツ語の「ザック (Sack)」は英語の「サック (sack)」と同じで単に「袋」という意味であり、文脈上明らかな場合を除き、リュックサックの意味では使わない。

「バックパック」という訳語はイギリスで生まれ、1910年代に北米に広がった。それ以前は「ナップサック (knapsack)」「サックパック (sackpack)」と呼ばれていて、現在でも主に北米でこう呼ばれる。北米ではまた、単に「パック (pack)」とも言う。なお日本では、「ザック」に引きずられてか「ナップザック」「ザックパック」とも言う。また、日本では「ナップサック」は小型のものを言うことが多いが、英語ではこのような意味合いはない。

※余談

○キスリング

両横に大きなポケットが張り出した3室からなるキャンパス製の大型ザックで、発案者であるスイス・グリンデルヴァルトの馬具職人ヨハネス・ヒューフ・キスリングに由来している。日本には1929年（昭和4年）、楨有恒と松方三郎によって持ち込まれ広がった。口を巾着の様に締めたあと、余った紐でさらにその下を括って水が入らないようにすることが出来た。厚い木綿のキャンパス地はそれ自体に防水性があるが、さらに熱した揮発油にワックスを溶かして塗布することも時には行われた。

駅の改札を通るときに横幅が広すぎて引っかかるので、体を横にしながらか改札を通り抜けていたことから、かつてキスリングを背負って山に出かける若者たちは「カニ族」とも呼ばれた（近年の自動改札はスーツケースを引きながら通れる幅広のタイプもあるので、このような事態はあり得ない）。

容量は大きいもののパッキングが難しく、荷物の詰め方によって背負い心地に大きな差が出る。また、構造上全重量が肩にかかり負担が大きい（血行を妨げ、最悪の場合は腕が麻痺してしまう「ザック肩」になる）ため、今はめったに使っている人を見ない。（Wikipedia: ウィキペディア「リュックサック」より）

§13 野営工作 (2)

●セッションの目標 (参加者はこのセッション終了時に次のことが達成できる。)

1. 隊キャンプに必要な装備の正しい取り扱い方を知り、それを実際に使用し、その使用方法を説明できる。(3-2-⑤)《⇒ §5、§7》
2. キャンプに必要な野営工作物 (かまど、調理台、食卓等) について知り、基本的な設計図を描いて、木、竹などの材料を用い、3 種以上を作製する。【野営章 (6)】(5-①)《⇒ §7》
3. できた工作物を実際にキャンプで使ってみて、不備な点等を改善し、さらに使いやすくする。(5-③)

●指導上のねらい・ポイント

1. §7 の続きである。ここでは、まず、新たに作ることも、3. にあるように、できたものの改善に力点を置く。その後に、新たに必要となった工作物を作成する。
2. チェックポイントは、高さ、大きさ、ぐらつき、突起物の有無、物を置いたときの具合等、安全面と機能面の改善。

●セッション展開にあたっての留意点

1. 不備や使い勝手の悪さを感じてもらうためには、スカウトに「理想型」のイメージを与える必要がある。それは、指導者自身がそれを知り得ていなければ、提示することはできない。
→ 常日頃から情報アンテナを立てて、見極めておく習慣を付ける。スカウトは観察と推理を働かせて、自分にとって最小限でベストなものを見極める習慣をつけよう。
2. そのために、その原因 (知らなかった、技能が及ばなかった、適切でないロープ結びを使っていた、) についても確認すること

●準備品 ・名称 (規格) (数量)

- ・ 予備の資材 (竹等)

●他のスタッフへの依頼事項

【他の講師に】

- ・ 参加者の「気づき」を促すようお願いします。

【業務・奉仕スタッフに】

- ・ 予備の資材 (竹等) を多少補給してください。

●セッション構成と展開 (時間配分)

- 講義 (20 分) → 実習 (65 分) → まとめ (5 分)

《導入》(5 分)

1. スカウトのキャンプにおいては、設営が始まって撤営の合図があるまで、「日々の改善」と称する「設営」が続くと言われている。これは、何らかの不備や使い勝手の悪さを感じていたならば、それをそのままにしておくことなく、ありったけの知識と技能を以て「すぐに」改善作業に取りかかる……といった、将来社会人として必要かつ大切な「物事に対する意識・精神の涵養・醸成にある」。
→ 「すぐに」とは、積極的に時間を作ってすぐに行うことが大切。「直ちに」行う作業の時間を生み出すために、他の作業の段取りや役割分担をする等の意味については前に述べた通り。

《展開》(40 分)

1. このセッションは §7 の続きである。ここでは、できた工作物を実際にキャンプで使ってみて、不備な点等を改善し、さらに使いやすくする。
2. チェックポイントは、高さ、大きさ、ぐらつき、突起物の有無、物を置いたときの具合等、安全面と機能面の改善であるが、改善と同時にその原因についても確認することを忘れないように。
3. その後に、新たに必要となった工作物を作成する。

《まとめ》(5 分)

- 1.

●備考

§ 14 メンテナンスと保管

●セッションの目標（参加者はこのセッション終了時に次のことが達成できる。）

1. キャンプの終了に当たって、次のキャンプ用品の保管のための乾燥と手入れ法を知り、保管を行う。
・テント ・フライシート ・グランドシート ・ペグ ・工具 ・炊具
・毛布、寝具 ・ロープ類 ・キャンピングストーブ ・ランタン 等 【野営管理章 (5)、炊事章 (11)】
(4-2- ⑤⑥、3-2- ③、7-1- ③)
2. 家型テント、ドームテント、タープの標準的なしまい方を知り、実践する。(4-2- ②) 《➡ §5》
3. ナイフ・ナタ・鎌などの刃物や、のこぎり、シャベル等工具の正しい手入れと保管の方法を知り保管する。
【TB-E3-3】(4-3- ④、8-4- ①)
4. 和洋包丁の安全な使用法と、研ぎ及び手入れができる。(7-1- ①)
5. 運搬及び倉庫への収納を考慮した、装備の梱包・パッキングを行う。(4-3- ③) 《➡ §15》
6. 炊具箱に、手入れ及び乾燥した炊具を移動と利用を考慮し効果的に収納する。(7-1- ④)

●指導上のねらい・ポイント

1. 基本的には、初期性能の維持、もしくはそれに近い性能を保つための措置＝メンテナンスと保管である。その措置について知らせる。
2. 基本的には、設営時における、取り出す順序、部品と数量のチェックの逆を行う。収納に際しては各部への負荷のかかり具合等に注意する。
3. ここではまず、危険防止能力や、刃物・工具等の安全使用レベルを高めることを第一に考える。つまり基本的な使い方をマスターする。
4. 和包丁は片刃（右利き・左利き）、洋包丁は両刃である。そして刃にはエッジ角があることを知った上で研ぐ。
5. 収納の最終形を考慮し、かつ運搬性をよくする梱包・収納を行うことは常識としてわかるだろう。小さくまとめることの意味について知らせる。
6. 移動について考える。「小さく」「衝撃に耐える」「運びやすい」を効果的に考える。

●セッション展開にあたっての留意点

1. 現在の使い捨て文化に対して「スカウトは、質素である」を如何に実践するかである。モノを大切にする、大切に扱うことは、生活全てに対して通じることで、大切なスカウト精神である。
2. きちんとメンテナンスを行うことは、物を大切にすることだけでなく、ものの構成や構造・仕組み、材料の性質やそれらを知った上での安全で適切な使い方等の知見も得られることを知らせる。

●準備品 ・名称〈規格〉(数量)

- ・メンテのための道具と用品（砥石、シャープナー、CRC556、ウエス、新聞紙、ダンボールなど）

●他のスタッフへの依頼事項

【他の講師に】

【業務・奉仕スタッフに】

●セッション構成と展開（時間配分）

- 講義（15 分）→実習（60 分）→まとめ（5 分）

《導入》(5 分)

1. 「

《展開》(40 分)

1. キャンプの終了に当たって、次のキャンプ用品の保管のための乾燥と手入れ法を知り、保管を行う。
・テント ・フライシート ・グランドシート ・ペグ ・工具 ・炊具
・毛布、寝具 ・ロープ類 ・キャンピングストーブ ・ランタン 等

○基本的には、初期性能の維持、もしくはそれに近い性能を保つための措置（＝メンテナンス）と保管です。
用具全般に対して

- 汚れはとる（洗う、拭く、ぬぐう、ブラッシングなど）。
- 濡れていたら干す、乾かす。できる限り「天日」で。太陽光熱と紫外線による殺菌効果も期待。
- 潤滑が必要なところはグリスアップ、錆がで出そうなところには防錆油を塗る。
- 故障は補修を試み、だめだったら専門業者に修理を依頼する。
- 部品が破損したものは交換し、また、性能的に安全が確保できないものは交換する。
- 修理も交換もできないならば、廃棄（若しくは転用）し新しいものと交換する。

テント、タープに対して

- 水分の残り → カビの発生による布地の劣化、アレルギーの誘因。
- 泥の付着 → 酸化による布地の劣化、折り目の摩擦等負荷による防水機能の劣化

……がありますので、それを除去し防止すること、回復することを収納前に行います。

2. 家型テント、ドームテント、タープの標準的なしまい方を知り、実践する。《⇒ §5》

- 基本的には、設営時の取り出す順序、部品と数量のチェックの逆を行います。たたむ時も折り目、空気抜き、たたむ大きさ、収納順序など、幕体への負荷のかかり具合等に注意させます。
- 泥や樹液などの汚れの有無を確認して、これらを除去してからしまう。（ただし、布に付いた樹液を落とすことはまず難しい。・・・そのことを考慮し、初めから樹液が垂れてこない場所を選んで設営することが大切。）

3. ナイフ・ナタ・鎌などの刃物や、のこぎり、シャベル等工具の正しい手入れと保管の方法を知り保管する。《⇒ §7》

- ここではまず、危険防止能力や、刃物・工具等の安全使用レベルを高めることを第一に考える。つまり基本的な取り扱い方を知る。
- 刃物を使う上で、一番基本的なことは研ぐことである。ところが研ぎは、面倒くさい・下手だという理由で、ついつい敬遠されてしまいがちだ。
カナダでは「鋭くないナイフと斧は、グリズリーより危険だ」と言われている。
切れないナイフは、役に立たないばかりか、余計な力が必要となるので、非常に危険だ。
- ナイフは使う前に研ぐのではなく、暇がある時に研いでおく習慣をつける。
- 現代のナイフには、堅い性質の鋼材（ATS-34、440-C）が使われている。そのため包丁を研ぐような、日本に由来からある水砥石では、砥石ばかりが減り、研ぐことはできない。
- 普通の研ぎでは、中目の合成砥石を使う。これを使って研ぐときは、水ではなく「ホーニングオイル」と呼ばれる油を使う。スムーズにエッジを動かすためだけでなく、砥石との接点に生まれる「熱」を冷ます役割がある。天ぷら油は成分に問題があるため使ってはダメ（さびる可能性あり）
- 次の 4. で扱う和包丁はフラットに研いで切刃をつける。しかし、ナイフの場合は、幾分鈍角に研ぎ、切刃（カッティングエッジ）を微細な鋸刃状にしなくてはならない。エッジ角は一般的に 25 度だが、ナイフによって異なるので、購入時に確認を取る。一般的には大きなナイフほど鈍角に、小型のものほどやや鋭角に研ぐ。
- ナイフの使用後は、使って付いた汚れや油を水で洗って落とし、拭いた後、十分に乾かす。フォールディングナイフは構造が複雑なので、錆びて開かないということがないように油を差しておく。
- ナタや斧、鎌は、研いだ後は専用のケースに入れておく。ケースが無ければ新聞紙にくるんででもいいので、刃をガードしておくこと。
- のこぎりは、使用後水分やゴミを乾いたウエスで拭き取り、油をひいて（CRC556 をスプレー）、ケースに入れて工具箱に収納する。
- シャベルは、水で泥を良く洗い落として、拭いて乾燥させ、油を引いて（CRC556 をスプレー）おく。

4. 和洋包丁の安全な使用法と、研ぎ及び手入れができる。

- 一般的に、和包丁は片刃（右利き・左利き）、洋包丁は両刃である。
- ステンレス製の場合は、台所用中性洗剤とスポンジで洗ったあと、乾いた布でさっと拭いて、包丁立て等に差して自然乾燥させる。火であぶってはいけなし。和包丁の多くはハガネでできているため、自然乾燥後に食用油（オリーブオイルなど）を薄く塗って、新聞紙などくるんで湿気のないところに保管する。使うときは一度洗ってから使う。
- 研ぐ場合、包丁とナイフとでは研ぎ方が異なる。包丁は直線部分が多く、ナイフは曲線部分が多いから。またエッジと呼ばれる刃先に付けた角度も異なる。包丁はだいたい 10 度だが、ナイフは 20 ～ 30 度となっている。
- 菜切包丁と出刃包丁の刀身（ブレード）の厚みをみれば解るが、力をかけるもの（出刃）は厚くなっている。当然エッジ角も大きい。ナイフ同様だ。それを薄く（エッジ角を小さく）研いしまうと刃こぼれがしやすくなる。

(参考 WEB サイト)

→ <http://tojiro.net/jp/>

5. 運搬及び倉庫への収納を考慮した、装備の梱包・パッキングを行う。《➡ §15》

○収納の最終形を考慮し、かつ運搬性をよくする梱包・収納を行うことは容易に理解できるだろう。考えるのはたやすいが、実際にやってみると以外と難しい。そんな経験はないだろうか。

→例えば、スーパーで買い物をして、それを段ボール箱やレジ袋に詰めるとき、全く同じモノを同じだけ買ったにも拘わらずAさんはそれをきっちり詰められ、Bさんはどうやっても入りきれなく残ってしまう。これは「空間把握能(認識)力」とちょっとしたコツを知っているかの問題。要は、入れ物の形状を把握し、そこに、隙間の無いように、入れるモノの形状を組み合わせ入れていく。

(話題)

→「話を聞かない男、地図を読めない女」という本がベストセラーになったことがある。なるほど、男と女は脳が大きく違って一般的に男よりも女性のほうが空間把握能力に欠けるといわれている。男性は人差し指よりも薬指の方が長いのが一般的だが、女性は男性に比べて薬指と人差し指の長さの違いが少ない。地図を読み取ったり駐車場に車を止めるためには空間把握能力が必要となる。Giessen 大学(ドイツ)の研究者らは、ボランティア40人を対象に空間把握力と男女の「人差し指/薬指」比の関係を調査した。その結果、女性よりも男性のほうが「人差し指/薬指」比は大きく、この比が男性のパターンに近い女性は空間把握能力に優れているようだ。

○小さくまとめること(きちんと折りたたむ、空気を抜く、スタッキング)は、ただまとめるだけでなく、その用具をよく観察することから始まるので、材質・性質・硬軟・重さ、傷や破損の有無などを確認することにも繋がる。

○また、適したサイズの容器にきちんと詰めるということは、デッドスペースをどれだけ少なくするか・・・ということである。1つの容器にたくさん詰められるということは、収納スペースを減らすことができるということであるが、その反面、たくさん詰めるのだから当然重くなるし、次回の使い勝手も損なわれる。

○それから、固定容器(コンテナ・ボックス)ではなく、テントの収納ケースやトートバッグのような布製の入れ物の場合、できるだけ四角形に収納する。

→四角→積み重ねられる。丸・球→積み重ねられない。

6. 炊具箱に、手入れ及び乾燥した炊具を移動と利用を考慮し効果的に収納する。

○いかにコンパクトに収納(スタッキング)するかは、前項で述べた。

○ここで、注意することは、運搬時に互いの接触による傷みをいかに防止するか・・・ということだ。

炊事の用具には、「自分自身は痛まない(例えばステンレス)」「自分自身が痛む(ホーローやプラスチック)」ものがある。要は「自分自身が痛む」ものをいかに保護しながら詰めていくかを考える。

《まとめ》(5分)

1

●話題

現在日本連盟から出されているテント(Aテン、ジャンテン、食堂フライ)の幕体の素材はポリエステル100%です。そのポリエステルには次のような特長があります。ポリエステルの特性

○強度・磨耗に非常に強い

ナイロンに次ぐ強度の強さがあり、耐磨耗、耐久性に優れています。

○弾性力があり、ハリ、コシがある

衣類などの製品で着心地がよい。シワの回復力が良い。

○比熱、熱伝導率が小さい

羊毛などと高混紡しても風合い、機能性を損ねることがない。

○繊維自体の抵抗力が強い

油類、カビ、虫、細菌などに影響されず、耐薬品性がよい。

○耐熱性が高い

ナイロン、アクリルと比べると耐熱性が高い。240℃前後で軟化する。

○吸湿性が低い

吸湿性が低いので濡れても乾きやすい。

○静電気を帯びやすい

★ここで?なのは、ナイロンは「油類、カビ、虫、細菌などに影響されず、酸に対しては綿の100倍、特にアルカリに強い。」ハズなのに、カビが生える。どうして???
繊維そのものはカビないけれど、コーティング剤や汚れなどの付着したものにカビが生えるのだろうか。

(その回答がこれです)

モンベルにも問い合わせてみたのですが、「一度カビが生えたものを完全に除去するのは不可能です」という回答でした。

まあカビの構造や性質を考えればそれも仕方ないかと思います。

カビは繊維の隙間に生えますから、ブラシでゴシゴシ擦ったくらいではまったく落ちないのは、おそらく質問者さんも身に染みておられると思います。そもそもブラシの毛なんか届かないところに生えているわけですから・・・

また、電子顕微鏡でないと見えないくらいの細かい菌糸で繊維の糸に絡みついていますから、物理的な手法で除去するのははっきり言って不可能と思えます。高圧洗浄機も実は分厚い綿の布のカビに対して試したことがあるのですが、「まったく無力」でした。もう腹が立つくらい何も変わりませんね。

まあ結局、ブラシゴシゴシも高圧洗浄も、平滑な面に生えたカビには有効ですが、繊維に生えたカビに対してはほとんど無力なようです。まあ質問者さんもいろいろ試されて無力感を味わったことと思います。

生物学的にもカビはかなり強靱な生き物です。

高濃度の塩素系消毒薬とか高圧蒸気滅菌とか、カビを殺す方法はいくつかあるのですが、それらは繊維もダメにしてしまうので使えません。

ですので、いろいろ足掻きたい気持ちはとてもよく判るのですが、結局は「この経験を生かして次のテントはカビさせないぞ!」ということになるのだろうな・・・と思ってます。

○また別なサイトでは・・・

(<http://pioneerism.cocolog-nifty.com/blog/2011/05/vistawing-42a5.html>)

カビが生えてしまった MSR VISTAWING。ネットで調べると「布地に発生したカビはまず取ることはできません」といった絶望的な情報ばかり。確かに繊維に入り込むらしく擦ったくらいでは取れない。一縷の望みをかけてこのカビ取りを買ってみました。曰く「プロが取れないカビでも、取れます」

<http://www.kabitaishakupro.com/>

楽天でも買えます。

<http://item.rakuten.co.jp/b-one-shop/1488338/#1488338>

結果、看板に偽りなし、すんなり取れました!グレート。良い買い物でした。

ただ一点失敗。強力タイプとソフトタイプ2種有り、生地が傷むのを恐れてソフトタイプを最初使用したのですが、カビが取れる(正確には漂白されているらしい)のに時間がかかるため薬液を生地に付けている時間が長くなり、結果ウレタンコートが黄変してしまいました!強力タイプを使用するとみるみる取れる!ので、さっさと取って水洗いしてしまうのが正解のよう。

このカビ取り、塩素系ですが臭いも少なく、さらっとしていてスプレーしやすい。たっぷり残ったので風呂場にかけておいたところ見事に白い壁が復活。3000円もして超高いけど1年持つというカビ防止スプレーも欲しいかも。

→一度試してみたいと思います。

§ 15 撤営の意味と撤営

●セッションの目標（参加者はこのセッション終了時に次のことが達成できる。）

1. 撤営について、その意味を知り、その順序（前日・当日）と手続を考え、それを実践する。（4-3-①）
2. サイトの清掃を行い、感謝の心で原状復帰を行う。（4-3-②）
3. 運搬及び倉庫への収納を考慮した、装備の梱包・パッキングを行い、倉庫に収納する。（4-3-③）《➡ § 14》

●指導上のねらい・ポイント

1. 「撤営は次のキャンプの大切な準備である」。その順序は、「指導者のためのスカウトキャンプ」に詳しく出ているので、それを事前に確認させる。
2. サイトの清掃と現状復帰については、スカウトキャンプでは、その痕跡を一切残さないことを美徳としている。これって何のために？ ……これについては、講師のあなた自身で考えよう。
3. 前段は、前の § 14 で行ったのだ、ここでは実際に倉庫に収納することを考える。
4. 撤営は、単にキャンプを畳み、メンテし、収納するだけではない。キャンプ地借用返還の手続き、お世話になった方々へのお礼、キャンプ地への感謝、そして「班」としてのキャンプへの評価・反省が当然含まれることも理解する。

●セッション展開にあたっての留意点

1. 「

●準備品 ・ 名称〈規格〉（数量）

●他のスタッフへの依頼事項

【他の講師に】

【業務・奉仕スタッフに】

●セッション構成と展開（時間配分）

- 講義（10 分）→実習（75 分）→まとめ（5 分）

《導入》（5 分）

1. 「

《展開》（40 分）

1. 撤営について、その意味を知り、その順序（前日・当日）と手続を考え、それを実践する。

- ①「撤営は次のキャンプの大切な準備である」とは
 - すなわち、物的には「次回のキャンプには、中味を確認することなく、それを安心して使える状態にしておくことと」、その習慣をつける（意識→段取り→実践→確認）ことである。
 - 精神的には、感謝の心を込めて、するべき処置をして、大切に保管すること」である。
 - 施設（キャンプ場）を借りる手続きがあるということは、当然、返すという手続きもある。
 - 順序としては、「指導者のためのスカウトキャンプ」に詳しく出ているので、それを事前に確認しておくこと。

2. サイトの清掃を行い、感謝の心で原状復帰を行う。

- ②サイトの清掃と現状復帰については、スカウトキャンプでは、その痕跡を一切残さないことを美徳（誇り）としている。
 - すなわち・・・
 - ・ゴハン粒 1 つ、工作紐の切れっ端 1 つ落ちていない状態
 - ・掘った溝や穴の痕跡が全く解らない状態
 - ・草が踏みつぶされた痕跡がない状態

- ・そして、残すモノは素晴らしい思い出と「感謝の心」だけである。
- ・・・というように、何ひとつ痕跡を残さないことを徹底することを伝える。
- では、これって何のために？・・・それは、講師のあなたが考えよう。
- 他の何・誰のためでもない。それは自分自身のため。自分の心の中にある「スカウティング・スピリッツ」のためなのである。「自分自身はスカウトである」という名誉と誇りのためなのである。
- 我々はボーイスカウトである。「ボーイスカウトにお貸ししたあとはきちんと整備されている。さすがボーイスカウトさんですね。」とよく言われる。これは、我々の先輩たちが脈々と築いてきた結果として獲得できた「ボーイスカウトへの信頼」である。
- 信頼を得るためにきちんと撤収をするのではない(受動的)。更なる信頼を我々の行動によって得るためである。我々の行動の結果が「信頼」を維持していくのである(能動的)。
- 「最後の最後まできちんとやり遂げる」ことの意味と意義を、まさしく行動によって示している良い例である。
- 1度失ってしまった「信頼」を取り返すのは、並大抵のことではできない。

3. 運搬及び倉庫への収納を考慮した、装備の梱包・パッキングを行い、倉庫に収納する。

- ③装備の梱包・パッキングは、前の §14 で行ったので、ここでは実際に倉庫に収納することを考える。

4. 撤収点検は、制服で受ける。

- ④これもどうしてであろう？是非考えていただきたい。
- 制服を着ること、とはどういう状態を意味するのか・・・
- ⑥「撤収点検」とは、全ての撤収作業が終了して、キャンプサイトを撤退する準備ができたときに行う、キャンプとしての公式な点検である。→だから「制服」
- ⑥一切の痕跡を残さず撤収を完了した、自信とけじめを表す。→だから「制服」
- ⑥いつでも帰途につけるという「準備」が完了したみとを表す。→だから「制服」
- ⑥キャンプを過ごした野営地への感謝の心を改めてきちんと表す。→だから「制服」
- つまりスカウトの名にかけて、「名誉にかけて、最後の最後まできちんとやり遂げた」姿勢の表れとして「スカウト」としての自信、そして名誉の証として、「スカウト」としてうける点検だからである。
- こう言うと、多分に精神性が前面に出てしまうが、何のためにキャンプを行うのか、自然から何を受け止めるのか、多くの人々の関わりをどう捉えるのか・・・を実体験するのが、スカウトキャンプであることを考えると、制服を着るということが持つ大きな意味が見えてくる。

《まとめ》(5分)

1. スカウトキャンプは、単に野営技能を身につける場ではないことがわかりいただけたと思う。
隊長として、最も大きく・大切なスカウトの教育の場である。
2. 何を身につける？ そう、「スカウティング・スピリッツ」、スカウト精神である。
3. では、スカウティング・スピリッツとは何か？ それは端的に言えば「ちかい」と「おきて」に言い表されている。そして、そこから派生する「スカウトとして持つべき」意識であり、情緒であり、姿勢等である。
それを、意識して実行し、繰り返し、自分の資質として定着させること。それを以て、社会に出て行き、いろいろな場面でそれを発揮し、社会をよりよい方向に導くことができること。
→それが「スカウティング」である。

●備考

§ 16 評価とリストの確認

●セッションの目標（参加者はこのセッション終了時に次のことが達成できる。）

1. 「指導者のためのスカウト・キャンプ」 P.89-94 を、理解する。（12- ①）
2. 研究会終了直前に、再度個人装備等の点検を行い、それぞれについて使用の有無、頻度、必要な数、装備の過不足等について各自でチェックする。→使用頻度について確認し、リストを修正する。（13- ①）

●指導上のねらい・ポイント

1. 何のために「評価」をするか、評価は「評価のためにする」のではなく、次回への改善の指針とするために行うことを理解させる。
2. §3 でリストアップした個人装備に対し、ここでは、「必ず使用するもの」「あると便利で役立つもの」「使うかもしれないもの」「使わないもの」の 4 区分を設けて上記のそれぞれの項目に分けてチェックを付けさせます。（3-2- ①）

●セッション展開にあたっての留意点

1. 「

●準備品 ・名称〈規格〉（数量）

- ・書籍「指導者のためのスカウトキャンプ」
- ・§3 で提出（もしくは各自が保管）した個人装備リスト

●他のスタッフへの依頼事項

【他の講師に】

【業務・奉仕スタッフに】

●セッション構成と展開（時間配分）

- 講義（25 分）→実習（0 分）→まとめ（5 分）

《導入》(5 分)

1. 「

《展開》(50 分)

1. 何のために「評価」をするか、評価は「評価のためにする」のではなく、次回への改善の指針とするために行うことを理解させる。

① PDS 【Plan（計画）→ Do（実行）→ See（反省・評価）】

PDCA 【Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）】

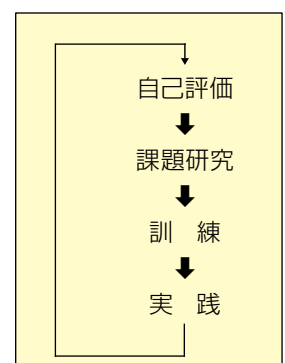
の 4 段階を繰り返すことによって、プログラム活動を継続的に改善し、レベルアップを図ると同時に、自己の実践能力として定着させる。

- ②スカウトキャンプ成功の鍵は、周到な計画とそれに基づく実施、その後の評価が科学的に、また、具体的に進められることである。（以上「指導者のためのスカウトキャンプ」 P.89）

○評価は単に結果の反省ではない、成功した原因、失敗した原因、さらに成果を上げるために考えること等、多角的に分析してみることが大切。

○また、評価は、効果を測定する上で重要であるばかりでなく、次の段階に進むための資料であり、特に指導者の反省材料となる。

○特に夏季キャンプの評価は、それまでの 1 年間の活動の成果そのものである。



③一つ一つの評価は、「知る」レベルから、さら「理解する」へのステップアップに繋がる。

そして、それがもっと高いレベルでのキャンプ・技能・ノウハウの獲得に繋がるだけでなく、エキスパートとして必要な「根拠や背景」までの理解に繋げていく。私たちのこのスカウティングは、キャンプのエキスパートを育成するためのものではないが、スカウトの育成のための教育効果を求めて、キャンプに取り組んだ結果として、それがエキスパート育成に繋がっていく。

④そして、それをキャンプだけでなく、自己の学習（子ども時立てだけでなく、一生の学習）に適用することで、より豊かな人生に繋げていくこと。指導者としては、そこまでを見据えて、この「評価」を捉えていただきたい。

2.「§3」でリストアップした個人装備に対し、ここでは、「必ず使用するもの」「あると便利で役立つもの」「使うかもしれないもの」の3区分を設けて上記のそれぞれの項目に分けてチェックを付けさせる。(3-2-①)

① §3 の指導上の注意点には、次の3つがあった。

○「ソロキャンプ」→「班キャンプ」→「隊キャンプ」の順で、持って行く個人装備は減り、班装備・隊装備として分散化されることを知る。

○1泊ではなくても我慢してしまうが、長期キャンプとなると生死にかかわるものもあることを知る。

○持って行くものの種類は、1泊だろうが5泊だろうがほとんど変わらない。衣服や食糧が増えるだけである。

○「何を持って行くか」ではなく「何を持って行かないか」について、実際に検証してみる。

②ということで、ここでは、この1泊2日の研修にあたって、各自が持参した個人装備の使用の有無や頻度について、§3で作成したリストをもとに検証していく。区分は4つ。

●必ず使用するもの：◎・・・実際に使ったもの。キャンプに欠かせないもの。

●あると便利で役立つもの：○・・・実際には使わなかったが、別なシーンでは使ったであろうもの。
持ってこなかったが、あったら実際に使っていたもの。

●使うかもしれないもの：△・・・実際には使わなかったが、別なシーンでは使うかもしれないもの。

●使わないもの：×・・・持ってくることはなかったもの。

○個人作業とする。

・自分自身のリストに、先の4区分の記号を記入し、また、持ってこなかったが必要だった装備品があれば、それを加筆させる。

○全員で検証する

・ここでの作業結果は、あくまで個人の今後のキャンプ運営の参考となるものである・・・が、まだまだ経験が足りないことも考慮して、リストへの記入作業が終わったら、リストに掲載されている1つ1つの装備品について、◎○△×それぞれを挙手によって検証していく。（担当者のコメントを必ず付けて、それも含めて持って行くかどうかの指標とする。）

《まとめ》(5分)

1.

●備考

§ 17 ふり返りと指導者の在り方

●セッションの目標（参加者はこのセッション終了時に次のことが達成できる。）

1. この野営法研究会 Step1 で何を学んだのかを確認のためふり返る。
2. 参加者の皆さんの取り組み方はどうであったろうか。スタッフの取り組み方はどうであったろうか。
3. 今後の予定として、ボーイ隊・ベンチャー隊の指導者の皆さんは、さらにステップアップした野営法 Step2 へと文字通りステップアップしてもらい、そこで学んだことをスカウト・プログラムとして還元してもらいたい。

●指導上のねらい・ポイント

1. この現代の世の中、なかなか自由になる時間がとれず、野営法の自己研鑽は難しいかもしれない。また、身近に野営法に長けた先輩指導者が少なくなってしまうと、教わることができなくなってしまうのかもしれない。
そんな環境の中で、皆さんは進んでこの野営法研究会 Step1 に参加された。そこで、何を（どんな技能をではなくどんな精神や在り方）を学んだであろうか。1 人ずつ手短かに語ってもらう。
2. この 2 日間楽しんでもらえたであろうか？
「スカウティングは楽しいゲームである」という格言は、何もスカウトだけのものではない。指導者自身が楽しまなければ、いや、何事に対しても自ら進んで「楽しむ」姿勢で臨まなければ、楽しいスカウティングはできないであろう。指導者は是非そう在ってもらいたい。
また、「何事に対しても・・・」ということは、どんなに辛い作業であっても、心の持ち方ひとつで（心持ち方を工夫して）楽しいゲームに变身してしまう。そして、その楽しさを自分ひとりだけではなく、周囲の人にもつ伝染させていく。 One for All. である。

●セッション展開にあたっての留意点

1. 指導者として持つべき意識、指導者が指導者たる意味をここで伝える。
2. §15, §16 のまとめを参照する。

●準備品 ・名称〈規格〉（数量）

●他のスタッフへの依頼事項

【他の講師に】

- ・一緒に聞いてください。

【業務・奉仕スタッフに】

.

●セッション構成と展開（時間配分）

- 講義（25 分）→実習（0 分）→まとめ（5 分）

《導入》(5 分)

1. 「

《展開》(40 分)

1. この野営法研究会 Step1 で何を学んだのかを確認のためふり返る。
①この現代の世の中、なかなか自由になる時間がとれず、野営法の自己研鑽は難しいかもしれない。また、身近に野営法に長けた先輩指導者が少なくなってしまうと、教わるということができなくなってしまうのかもしれない。そんな環境の中で、皆さんは進んでこの野営法研究会 Step1 に参加された。
○そこで、何を（どんな技能をではなく、どんな「スカウトの精神」や「指導者としての自分の在り方」）を学んだであろうか。1 人ずつ手短かに語ってもらう。
2. 参加者の皆さんの取り組み方はどうであったろうか。スタッフの取り組み方はどうであったろうか。
②この 2 日間楽しんでもらえたであろうか？
○この研究会の最初にも話したが、この野営法研究会は、自らの積極的な関わりで「楽しみながら」研鑽を積

むものである。決して受け身の、誰かが与えてくれた「楽しさ」ではない。

「スカウティングは楽しいゲームである」という格言は、何もスカウトだけのものではない。いや、指導者自身が楽しまなければ、いや、何事に対しても自ら進んで「楽しむ」姿勢をもって臨まなければ、楽しいスカウティングはできないであろう。指導者は是非そう在ってほしい。

また、「何事に対しても・・・」ということは、どんなに辛い作業であっても、心の持ち方ひとつで（心の持ち方を工夫して）楽しいゲームに変身してしまうことだ。

そして、その楽しさを自分ひとりだけではなく、周囲の人にもつ感染させていく。One for All.である。○皆さんの積極的に「楽しむ」という関わり方は、ボーイスカウトの主旨である「自分の成長に責任を持つ」という精神に繋がっていくことが、理解してもらえただろうか。

○ということで、皆さんのこの関わり方を、隊に帰って展開してほしい。隊の意識（方向）を「自ら積極的に関わり、楽しんで身に付ける」というトコロに導いてほしい。指導者としてスカウトにその意識と精神が培え、育つように、そんな気持ちで常にスカウトに関わってほしい。

3. 今後の予定として、ボーイ隊・ベンチャー隊の指導者の皆さんは、さらにステップアップした野営法 Step2 へと文字通りステップアップしてもらい、そこで学んだことをスカウト・プログラムとして還元してほしい。

※ここだけ「です・ます」調

③この野営法研究会で、たくさんを知ることができたと思います。だけど、それはまだ「知った」「取りあえず体験した」・・・といったトコロです。この先、各隊に帰って、いろいろな活動を通して経験を積んで行くことが必要です。

○この野営法 Step1 で実習したことは、ボーイでいうと何級レベルだと思いますか？ 2 級？ 1 級？ いや、そこまでは行っていません。ほぼ 2 級です。「これで???'」と思われる方もいるでしょうが、実は、2 級スカウトのキャンブレベルにはちょっと毛の生えたくらいです。・・・ということは、これだけのことを知っていても、ボーイ隊のキャンプの責任者として運営することはできません。

この、この野営法研究会 Step1 で履修した科目は、スカウト活動を中心となっていく隊長・副長として、身に付けていなければならないごく基本的な「キャンプ技能」です。

○ボーイ隊の班長(1 級や菊)でも、実際には、この野営法研究会 Step1 程の知識や技能は持ってはいないでしょう。なのに 1 級スカウトであり、菊スカウトになっているわけです。

しかし、楽しく・安全・安心な班キャンプを行うためには、これだけのことを身に付けていなくてはなりません。・・・じゃあどうするか・・・。

その答えは、指導者であるあなたが、彼ら班長をフォローし指導し、育成しなくてはなりません(GB 訓練: まず GB にスカウトキャンプの意義と意味を気づかせ、それを班で自ら指導させる)。ですから、あなたにはこの Step1 が必要なのです。

○ボーイ・ベンチャーのキャンプ運営の責任者であるボーイ隊長・ベンチャー隊長・副長の皆さんは、この Step1 の「知る」レベルから、さら「理解する」にステップアップすること、つまりもっと高いレベルでのキャンプ・技能・ノウハウ、つまりキャンプのエキスパートであることが求められます

(スペシャリストではありません。エキスパートです。

※エキスパートは専門家といっても、その技術の背景まで知っている、いわゆる権威のことです。これに対しスペシャリストはその道一筋の専門家です。その技術には著しく秀でている反面、それ以外はちょっと苦手ということもありえます。)

単にキャンプを行うのであれば、この段階でも十分に楽しいキャンプはできます。しかしながら、最初のセッションでも伝えましたが、スカウト・キャンプは教育のための手段です。目的は各個人の全般的（知識・技能・精神等の）能力のアップです。そう、「健康」「情緒」「協調」「観察」「推理」「発見」「驚嘆」「感謝」「素直な心」「自発性」「自立心」「自律心」「創意工夫」「仲間」「友情」等を素晴らしい自然から得ることです。そして、それを自分で将来使うことができるように整理し蓄積することが、スカウト・キャンプに求められていることです。

指導者自身が、スカウトキャンプのシーンで行う多くの事柄の意味と効果を理解して、それをスカウトの成長にどう関わらせていくかを、各スカウトを観察しながら、その場その場でタイムリーに判断し、指導・助言し、実行から定着へと推移させる・・・というレベルが求められます。そのレベルを知り、それを獲得するのが「野営法研究会 Step1」なのです。

○カブの指導者であれば、基本的にはこの Step1 を修了すれば、「カブのキャンプ」、つまりテント泊での宿泊プログラムを実施・運営することができます。ですが、それで十分と言うことではありません。もっとレベルアップすれば、もっともっと楽しいプログラムが展開でき、また、天気の変動などへの対応も余裕を持って行えるようになります。

○ビーバーの指導者の皆さんは、ビーバーの戸外活動を行う限りは、この Step1 の野営法で十分であろうと思われます。しかしながら、相手はビーバースカウトです。万一雨が降ってきてしまった場合、カブやボーイのように体力がありませんから、素早く雨よけのタープを張ることが求められるかもしれません。そうです「Be Prepared そなえよつねに」のスカウト精神です。今後も Step1 のレベルを維持すると同時に、先ほど述べた「雨よけタープ」の張り方等については、よりスムーズに、また、少ない人数で素早く張れるよう技能を磨いておく・・・ようにしましょう。

ビーバースカウト・・・ 「**戸外**(家のまわり)」

カブスカウト・・・ 「**屋外**(住宅地、集落など人工的なものの周囲)」

ボーイ以上・・・ 「**野外**(自然が残っている地域)」

○この Step1 を修了された、方には

カブ部門の 「キャンプマネージャー」「キャンプチーフ」

ボーイ・ベンチャー部門の 「キャンプチーフ」

の資格が与えられます。

認定資格		キャンプスタッフ	キャンプチーフ	キャンプマネージャー
野営法講習会	カブ	○		
	ボーイ	○		
	ベンチャー	○		
野営法研究会 Step1	カブ	○	○	○
	ボーイ	○	○	
	ベンチャー	○	○	
野営法研究会 Step2	カブ	○	○	○
	ボーイ	○	○	○
	ベンチャー	○	○	○

- 「キャンプマネージャー」とは、スカウトキャンプの管理運営者としての責務を持つ者。
すなわち、通常は「隊長」がその任に就く。
- 「キャンプチーフ」はキャンプマネージャーの下で、分担された任務のチーフとしてキャンプを運営する者。すなわち、通常は「副長」「副長補」等。
- 「キャンプスタッフ」はキャンプチーフの下でキャンプの運営を支援する者。
すなわち、通常は「デンリーダー」「隊付」「上班」「団委員等の支援者」等。

《まとめ》(5 分)

1.

●備考

野営法研究会 開講式

月 日()

場所

時間	項 目	担 当	内 容	準備品
	会場準備	業務担当	国旗準備（基本的に開いておく） U字形に集合（担当 ） → 服装の確認を行う → 気を つけ	国旗 開所式プログラム
	開式のことば	司会	「ただ今より茨城県連盟定型訓練・第〇〇回野営法研究会ステップ 1の開講式を行います。」	
	国旗儀礼	司会	「国旗儀礼を行います」 「国旗に正体」 「礼」（3 数える。主任講師ではなく司会が言う） 「直れ」「元の位置に」	国旗
	開設責任者 挨拶	司会 地区・県 代表者	「主催者挨拶。ボーイスカウト茨城県連盟、△△△△理事お願いし ます。」 ※主催者は、挨拶の最後に主任講師を紹介する。 「（挨拶）。本日の主任講師をご紹介します。日本連盟〇リーダートレー ナー□□□□さんです。よろしくお願いいたします。」	
	主任講師挨拶	司会 主任講師	「主任講師挨拶。△△△△主任講師お願いします。」 「（挨拶）」	
	講師紹介	司会 主任講師	「続きまして、講師を紹介します。」 ①主任講師より、講師の氏名・TT 任務を紹介する。 ②紹介された人は、一歩前に出て、短い言葉で挨拶をする。 ③挨拶が済めば元の位置に戻る。	講師名簿
	業務紹介	司会	「続きまして、本日開設業務を担当します、業務スタッフを紹介しま す。」 ①業務チーフより、業務スタッフの氏名・所属団を紹介する。 ②紹介された人は、一礼をする。	業務名簿
	来賓紹介		「ご来賓を紹介いたします。 所属・肩書 氏名△△△△様」	
	来賓挨拶		「来賓挨拶。 それでは△△△△様よりご挨拶を頂戴いたします。」	
	連盟歌斉唱	担当	・担当者は、一歩前に出て歌い出す、連盟歌を全員で斉唱する。	
	閉式のことば	司会	「これを持ちまして、第〇〇回野営法研究会ステップ1の開講式を終 わりにします。」 ・全員「休め」の姿勢をとる。 ・写真撮影の連絡をする。 ・業務チーフは、来賓を案内し退場する。	
	写真撮影の指 示	司会	・業務スタッフ は、皆を案内する。 ・開設担当、主任講師以下、写真の場所に移動する。 ・服装（特にベレー）について指示する。	カメラ、三脚

閉講式

月 日()

場所

時間	項 目	担 当	内 容	準備品
	会場準備		国旗準備（基本的に開いておく） 名簿順にU字形に集合（担当 ）→ 服装の確認を行う → 気をつけ	・国旗 ・閉所式プログラム ・名簿
	開式のことば	司会	「ただ今より第〇〇回野営法研究会ステップ1の閉講式を行います。」	
	修了証授与	司会	「修了証（履修証）の授与を行います。」 ①司会は、参加者の名前を読み上げ、所長の前に出るよう促す。 ②主任講師は、修了証を読み上げ授与する。	・修了証 ・お盆 ・その他
	主任講師講評	司会 主任講師	「主任講師講評。△△△主任講師お願いします。」 「（講評と挨拶）」	
	開設責任者挨拶	司会 理事	「主催者挨拶。ボーイスカウト茨城県連盟、△△△理事お願いします。」 「（挨拶）」	
	連盟歌斉唱	指揮者	・担当者は、一歩前に出て歌い出す、連盟歌を全員で斉唱する。	
	国旗儀礼	司会	「国旗儀礼を行います」 「国旗に正体」 「礼」（3 数える） 「直れ」「元の位置に」	・国旗
	閉式のことば	司会	「これをもちまして、茨城県連盟定型訓練・第〇〇回野営法研究会ステップ1の閉講式を終わりにします。」 （一呼吸おいて） 「名札と引き替えに、指導者手帳、写真、名簿を渡します。〇〇にて行います。」 ・司会者は、解散の指示をする。 ・帰路の安全の注意を促す。 ・忘れ物がないう、注意を促す。	・指導者手帳 ・写真 ・名簿
	反省会		・会場担当業務スタッフ以外は、反省会の会場に移動する。 ・短時間で反省会を行う。	

野営法講習会・野営法研究会の区分とそのコース設定

	野営法講習会（全指導者）	野営法研究会 Step1（基本）	野営法研究会 Step2（中級）
コースの定義	ボーイスカウトキャンプを体験し、スカウトキャンプの意義を感じる。	ボーイスカウトにおけるキャンプの意義を知り、その基本的知識と技能を修得し、自ら実践できる。	○ボーイスカウトにおけるキャンプの意義を理解し、自らスカウトキャンプが快適に実践でき、かつスカウトにスカウトキャンプを指導できる。 ○野営基準を理解する。
コース目的 (達成目標)	ボーイスカウトのキャンプを楽しく体験し、最小限のキャンプ技能を修得する。 キャンプに慣れる。	○1～2泊の短期スカウトキャンプが快適にできる。 ○隊長の支援指導の下でスカウトにキャンプ指導ができる。	○3泊以上の「中・長期」スカウトキャンプが快適にできる。 ○BSスカウトにスカウトキャンプが指導できる。 ○副長等にスカウトキャンプの意義と方法が伝えられる。 ○標準隊の隊キャンプを体験する。
目標イメージ	BS 初級程度 楽しく体験	BS1 級 キャンプを楽しむための「基本」の修得	VS 準 楽しいキャンプ生活をするための「実力」の獲得
受講者対象	○新任指導者（就任1年以内にこのコースを修了することを基本とする） ○WB研修所への参加希望者（必修研修）	○CS,BVS 隊長、BS,VS 副長の必修研修（就任1年以内にこのコースを修了することを基本とする） ○WB研修所修了後3年以内の指導者	○野営法研究会 Step1 修了者 ○BS,VS 隊長は必修（就任1年以内の修了を基本とする） ○テント泊による2泊以上のカブのキャンプを実施する隊長はできる限り受講すること。
認定される資格	ボーイスカウト研究会 Step1 修了後、研修所に入所できる 全ての部門のキャンプスタッフになることができる	○BS 部門以上のキャンプ・チーフになることができる ○CS 部門のキャンプ・マネージャーになることができる (後日県連より団を通して認定書を授与)	○BS,VS 部門のキャンプ・マネージャーになることができる ○技能章「野営章」の指導員・考查員になることができる ○TT は、野営法講習会、野営法研究会 Step1 の講師になることができる。
継続性・発展性	野営法研究会 Step1 の受講を奨める	○野営法研究会 Step2 の受講を奨める ○継続的自己研修をする	○野営法研究会 Step3 の受講を奨める ○継続的自己研修をする
修了認定	全セッションへの参加より主任講師が認定	○全セッションへの参加により主任講師が認定 ○各自研修ノートを作成する（ノートの確認）	○全セッションの参加及び所定の課題の修了により、主任講師が認定 ○各自研修ノートを作成する
期間・単位	1日を基本とする	1泊2日を基本とする	2泊3日を基本とする
完修章	修了証	修了証	修了証
開設・運営	開催区分： 団・地区・県連 主任講師： 県連TT（ディレクターが指名） 講師： 県連TT（ディレクターが指名） 認定： 主任講師	開催区分： 団・地区・県連 主任講師： 県連TT（県コミが指名） 講師： 県連TT（ディレクターが指名） 認定： 主任講師	開催区分：県連 主任講師： 県連TT（県コミが指名） 講師： 県連TT（ディレクターが指名） 認定： 主任講師

野営法研究会 Step1、Step2 の履修課目比較

課目・区分	Step1 基本コース (CS,BVS キャンプマネージャー課目)	Step2 中級コース (BS,VS キャンプマネージャー課目)
1. スカウトキャンプについて	①スカウトキャンプとは何かを知る。 ②スカウトキャンプの種類と必要な条件を知る。	①「スカウトキャンプ」の意義と方法を理解する。 ②「ちかい」と「おきて」、そして班制度をどのようににキャンプに活かすかを知る。 ③野営基準を理解する。
2. 計画・準備・プログラム	①「指導者のためのスカウトキャンプ」(P.9-P.19)を読み理解する。★ ②隊長の指導の下にスカウト向けにキャンプのしおりを作る。★ ③キャンプについて、保護者に提供すべき必要な情報をまとめ、それを紙媒体で提供する。	①キャンプ地の選定の基本的条件と自然環境を保護するための注意点をを知り、実際に適切なサイトを選定できる。【野営章(3)改】 ②中期(長期)キャンプの日程、プログラムが立てられる。 ③実施手続、連絡・調整等の手続きができる。 ④キャンプの目的に合ったキャンプ場を選び、下見に必要な項目を挙げ、実際に下見を行う。◆(後日報告書提出)
3. 設営の準備 -1. サイトレイアウト	①地形、水利、植生、風等に留意して班サイトを決める。 ②班サイトを構成するテントや工作物を知り、レイアウトしてみる。 ③代表的なテントの種類、特徴、用途を知る。【野営章(4)】	①班のキャンプサイトの理想的な配置図を描き、実際にその通りに設営をする。【野営章(4)改】 ②隊本部と班サイトの位置関係、セレモニー等の広場の位置関係を知る。
-2. 装備・パッキング	①春秋における1泊キャンプ、及び夏季における3泊のキャンプに必要な個人装備を調べ、リストを作る。 ②班キャンプに必要な班装備を知り、リストを作成する。 ③班装備品の正しい取り扱い方を知り、整備と保管の方法を知る。 ④標準的な隊キャンプに必要な装備をリストアップする。(1,3,5泊それぞれ) ⑤隊キャンプに必要な装備の正しい取り扱い方を知り、それを実際に使用し、その使用方法を説明できる。 ⑥正しいバックパックの背負い方を知り、それに1泊キャンプの装備を入れて実際に背負って、そのパッキングの良否を確認する。 ⑦スリーピングバッグの種類と材質による性能を知る。	①指示された期間、季節、形態別にキャンプに必要な個人装備と選択基準を知る(軽量・信頼性・機能性・コンパクト、スタッキング等)を知り、リストを作る。 ②個人装備の選び方、正しい取り扱い方を知り、2泊以上のキャンプに必要な個人装備を適切な大きさのバックパックにパッキングし点検を受ける。(季節感を取り込むこと)【野営章(9)】 ③個人装備をできるだけ小さくパッキングする(班装備品を個人装備に加えて運搬することを考えて)。 ④班装備品を各班に責任を持って管理させる方法を考える。 ⑤シューズの選び方を知る。自分の足のサイズを実測し、フィールドで必要な機能を考慮して、自分に合ったものを選ぶ。 ⑥キャンプに必要なウェアとその機能を知り、その活用の場面を考える。 ⑦季節と状況に応じたスリーピングバッグの使い方、応用法を知り、実践する。
-3. 試行・予行		①1泊キャンプに必要な個人装備を携行し、徒歩行程約12km以上の距離を他の1名と共に24時間以上にわたって旅行し、その報告書を提出する。◆(野営法研究会 Step1 の仕上げとして後日実施)
4. 設営・撤営およびメンテナンス -1. 設営の順序	①天候(晴天・雨天)・季節(夏季、無積雪、積雪)・宿泊日数に応じた、設営の順序(優先順)を知る。	①3泊4日の隊キャンプに必要な全ての装備(隊装備、班装備)をリストアップし(Step1-3-2-④)、そのリストにしたがって準備・パッケージ化し、輸送する。(車載、宅配等) ②3-1-①のサイトレイアウトに基づいて、設営における優先順と役務分担による分担設営で、効率的な設営をする。

課目・区分	Step1 基本コース (CS,BVS キャンプマネージャー課目)	Step2 中級コース (BS,VS キャンプマネージャー課目)
-2. テント・タープ等	①テントの構造と各部の名称・機能を知る。 ②標準的な張り方・しまい方を知り、実践する。(家型テント、ドームテント、タープ) ③雨天、強風、夜間における張り綱、支柱、ソドクロス、換気窓・扉の扱いを知り、その処理を実践する。【野営章 (5)】 ④ペグの打ち方と張り綱の扱いを知り、実践する。 ⑤保管のための乾燥と手入れ法を知り、実践する。 ⑥次のキャンプ用品の格納・保管にあたり、行うべき処置を知り、行う。【野営管理章 (5)+】 ・テント ・フライシート ・グランドシート ・ペグ ・工具 ・炊具 ・毛布、寝具 ・ロープ類 ・キャンピングストーブ ・ランタン等	①ドームテント、家型テント、指導者用テントについて、特徴、用途、構造と機能を知り、他の1人と協力して適地にそれぞれのテントを正しく張り、また手入れして格納をする。【野営章 (4) 改】 ②毎日、天候等に応じてテントの配置、及びタープの張り方を変更する。(雨、風、タープ下での作業の度合いを考慮) ③異なる天候(晴天、雨天、強い風等)によるテント及び床の乾燥方法を知る。 ④雨天時の格納法と汚れた場合のクリーニング法を知り、雨天時に地面に接することなくテント・タープをたたむことができる。
-3. 撤営の順序・収納	①撤営について、その意味を知り、その順序(前日・当日)と手順を考え、それを実践する。 ②サイトの清掃を行い、感謝の心で原状復帰を行う。 ③運搬及び倉庫への収納を考慮した、装備の梱包・パッキングを行う。 ④ナイフ、包丁、かま、シャベル、なたを研いで手入れ・保管する【TB-E3-3】	①撤営について、天候等による対応の変化を理解し、効率的な撤収、空間を考えた効率的パッキング・収納を考えた効果的な撤収を、諸椅子の時間内で実践する。 ②天候等による方法や対応の変化を理解し、実践する。 ③収納時の点検をし、破損した物を修理もしくは補填し、班装備を整備する。
5. 野営工作物	①キャンプに必要な野営工作物(かまど、調理台、食卓等)について知り、基本的な設計図を描いて、木、竹などの材料を用い、3種以上を作製する。【野営章 (6)】 ※高さ、大きさ、材料の部品数、機能等を考慮。 ②工作に必要なロープ結びを知り、に使用する。(Step1-6-①「結索」と関連) ③できた工作物を実際にキャンプで使ってみて、不備な点等を改善し、さらに使いやすくする。 ④キャンプ地にあるものを利用して、キャンプで必要と思われる個人用品を作製する。【TB-E3-5】	①左記 Step1-5-①をより発展・完成させた野営工作物(かまど、調理台、食卓、工具置き場を含む3種類以上)を角材、竹、丸太等を使用して作製する。ただし、全て可搬型とし、その部材の接続・結合は紐とする。 ②工作に必要なロープ結びに習熟し、実際に工作物に使用する。(Step1-6-①「結索」と関連) ③污水处理の際に必要な措置を調べ、環境に配慮した污水穴を実際に作製・使用する。 ④麻紐、ジュート紐、細引き、針金等3種類以上の縄等で、縛材をする場合の長所と短所を実証しそれをレポートとして報告する。
6. 結索 -1. 基本	①次のなわ結びが確実にできる。 ・本結び ・一重つぎ ・ふた結び ・もやい結び ・てぐす結び ・巻結び ・ねじ結び ・角しばり ・8の字結び ・引きとけ結び (以上★) ・ちぢめ結び ・腰掛け結び ・張り綱結び ・からみ止め ・床しばり ・筋かいしばり ・はさみしばり(2脚、3脚)	①安全なロープ選び(構造・材質・用途)を理解する。★ ②ロープとの正しい使い方と保守を理解する。★ ③安全な結びと用途を理解する。★ 《①②③「図解カラー・ロープとひも結び百科(富田光紀監修・主婦の友社)」、第4章参照》 ④次のなわ結びが確実にできる。 ・よろい結び ・てこ結び ・バックスプライス ・索端止め ・バタフライノット
-2. 応用	①上記 6-1 ②を活用して、キャンプに必要な野営工作物のかまど、調理台、食卓を木、竹などの材料を用い、3種以上を作製する。【5-①に関連】 ※高さ、大きさ、材料の部品数、機能等を考慮。	①これまで取得した結策技能を活用して、班サイトのゲート、筏、軽架橋、信号塔【隼章 (2)-イ】を作成する。

課目・区分	Step1 基本コース (CS,BVS キャンプマネージャー課目)	Step2 中級コース (BS,VS キャンプマネージャー課目)
7. 食事・炊事 -1. 基本	①和洋包丁の安全な使用法と、研ぎ及び手入れができる。 ②班の炊事に適するかまどを2種類以上作る。【TB-E6-2】 ③炊具の正しい使い方と手入れができる。【炊事章(11)】 ④炊具箱に、手入れ及び乾燥した炊具を移動と利用を考慮し効果的に収納する。 ⑤焚き火で使用する鍋等に、クレンザーやアルミオイルでコーティングを施し、実際に使用する。コーティングの有無による、水や洗剤の量や手間等、環境と時間等の軽減について確認する。 ⑥マッチを防水加工し、携帯用の防水容器に入れて提出する。【炊事章(4)、TB-E4-1】	①非常食(簡易食品を含む)5種を挙げ、それを調達し、その扱い方を確認する。また、保存方法を知る。【炊事章(10)改】 ②青少年期における発育成長に必要な栄養素の種類と量、これらを多量に含有する代表的食糧品を例示する。◆【炊事章(8)】 ③②をもとに、栄養のバランスを考えて、班キャンプ3日分の献立表を作り、次の事を計算して表にする。 ・栄養価計算表 ・必要な食糧材料表 ・食料品店で調べた単価による経費見積表 ・1人当たりの費用(分担金)。◆ ④環境に優しい炊事法、ゴミを出さない調理法を研究する。
- 2. 焚火・燃料	①野外で火をたくときの注意事項を知り、その準備作業ができる。【TB-E6-1】 ②炊事に使う火を、マッチ2本以内で起こす。【TB-E6-3】 ③樹木の種類によって、材の硬軟、火つきの難易、日持ちの良否、火力の強弱があることを知る。【炊事章(2)】◆ ④キャンプ地においてマキの保管方法を知り、いつでも火が起こせるように準備する。【TB-6-5】。 ⑤ガソリン、灯油、ガスについて、それぞれの燃料の特徴と、野外で携行・保管する場合の注意事項を説明する。【TB-E4-2】◆ ⑥ガソリン、灯油、ガスを使用するキャンピングストーブ等を使用して炊事をし、取扱上の注意事項・特徴・手入れの方法が説明できる。【野営章(8)】	①戸外であり合わせの材料を用いて、地面を掘らない方法で班キャンプ用の3種以上のかまどを作る。【炊事章(1)】 ②キャンプ地付近で、得られる樹木を用いて、3食分の薪を作り実際にそれで焚き火をする。 ③安全で効果的な「焚き付け材」を自作し提出する。★ ④ガソリン、灯油、ガスを使用するキャンピングストーブ及び薪による炊事における、自然保護及び地球環境保護(CO₂排出)の関係について理解している。◆【炊事章(3)】
- 3. 調理	①飯盒やコッヘル等キャンプ専用の調理用具を利用して、米飯及び味噌汁を班員分作る。 ②野菜・肉・魚・玉子(単品でも複数でも)を材料とした2種以上のキャンプ料理を作る。 ③米飯、生肉、生魚の食品を携行するための腐敗防止法(簡易加工含む)と、キャンプ地における貯蔵法(クーラーボックスを含む)を理解する。◆【炊事章(7)】	①次のキャンプ料理を作る。(4人分以上とする) ・食用野草を含む野菜料理：3種以上 (※含む山野草を採取上の注意事項の説明。【TB-E2-4】) ・牛・ブタ・鶏などの肉料理：2種以上 ・塩干魚及び生魚の料理：3種以上 ・小麦粉を用いたダンパー、またはツイスト【炊事章(5)】 ②米をコッヘルで炊く場合の、米の新古、水加減、火力と炊飯時間の関係を研究し比較表を作成し提出する。◆ ③左記 Step1-7-3 ③について、腐敗のメカニズムを理解し、腐敗防止法を3種以上検証する。
8. 安全・衛生 -1. 基本	①キャンプの衛生について、次の事項が説明ができる。 ・テントの湿気の防止と乾燥作業の必要性とその方法。 ・便秘の防止と対策。 ・水の飲み過ぎの害とその防ぎ方。適切な水分の補給。 ・熱中症の予防法と対処の方法 ・害虫の防除と駆除法。 ・昼間着た下着をつけたまま寝床に入らない理由。 ・寝るテントに食品を蓄えることが有害である理由。 ・野営トイレの衛生管理方法。	①左記 Step1-8-1-①を実践し理解をより深めると同時に、原隊のキャンプで実際に指導する。 ②スカウトの前の喫煙について、その問題点と影響を列挙し、その対策と必要措置を考える。 ③川などの自然水を使用するときの簡易濾過装置を図解し、作製する。また、滅菌ができる。★【炊事章(6)】 ④キャンプにおける用便、ゴミ処理ならびに食料保管について、衛生上注意する点を知り、実際に1班が使用するのに十分な便所、ごみ穴を作る。【環境衛生章(6)】

課目・区分	Step1 基本コース (CS,BVS キャンプマネージャー課目)	Step2 中級コース (BS,VS キャンプマネージャー課目)
-2. 点検	①朝と夜の点検の重要性と心構えについて知る。【野営管理章 (3)】 ②「夜の点検は慈母のごとく、朝の点検は厳父のごとく」の意味を理解する。	①隊キャンプを点検し、次の項目について評価表と点検報告書を作成する。【野営管理章 (2)】 ・キャンプ地の選定（水質調査を含む） ・食糧と燃料の貯蔵 ・便所とゴミ捨ての衛生処理 ・炊事場の設計と工作 ・炊具、工具の手入れと整頓。 ・キャンプおける安全と秩序保持 ・役割分担とチームワークの良否 ②朝の点検と夜の点検の重要性と心構えを説明し、実際におこなう。
-3. 安全な照明	①安全と周囲への配慮から、夜の野営地における適切な明かりの取り方を知る。 ②ガソリン、灯油、ガス、乾電池、ロウソクを使用するキャンピング用灯火のうちの燃焼系灯火3種類以上を正しく使用する。【野営章 (8)】	①夜の野営地（サイト、テント内、各施設）における適切な灯かりの取り方を理解し実践により確認する。【野営章 (8)】 ②左記 Step1-8-3- ②について、灯火の特徴の比較表を作成し、取扱上の注意事項・特徴・手入れの方法が説明できる。
-4. 事故の予防・対応	①ナイフ・ナタなどの刃物や、ナイフ・のこぎり等工具の構造と各部名称、及び正しい使い方と手入れと保管の方法を知る。	①キャンプ中に起きるかもしれない突発事故（例えば急病、火災、盗難、虫害、風水害など）の予防と起きた場合の運営体制と対応措置について説明できる。◆【野営管理章 (4)】 ②水辺または水泳プログラムを有するキャンプの安全管理について、特に注意する点を説明できる。【野営管理章 (6)】 ③指導者のキャンプにおける飲酒について、その問題点と影響を列挙し、その対策と必要措置を考える。
9. 救急法	①救急法については、指導者救急法講習会（基本）を修了する。	①救急法については、指導者救急法研究会 Step1（上級）を修了する。 ②ターゲットバッジ B5（救護）を実際に行って検証する。
10. セレモニー	①キャンプにおける儀式、儀礼について知る。 ②国旗の掲揚及び降納の方法について知る。 ③朝礼、終礼の方法について知る。 ④スカウトオンについて知り、実際に行う。 ※儀式とは、一定のきまりに従って行う作法（言動・動作の決まりに重点あり）。儀礼とは、形式を整えて行う礼法（精神的なものが根底にあり）。	①キャンプにおける儀式、儀礼、キャンプファイア、スカウトオンの教育的意義について理解し、説明できる。◆ 【野営管理章 (7)】 ②キャンプ地において国旗の掲揚の準備をし、掲揚及び降納を適切に実践する。 ③朝礼、終礼についてその意義を理解し、実践する。◆
11. その他の技能	①天気予報等の情報の収集の必要性について知る。（ラジオ、携帯電話、PC 等を含む） ②炊事の際の防火対策について説明する。（マキ、ガス、灯油、ガソリン、及び延焼防止） ③野火の適切な消火方法並びに水を使わない消火方法を知り、キャンプで実践する。【TB-6-4】 ④地表を保護して火をたく方法を説明し、実演する。【TB-6-6】 ⑤太陽、月、星による方 発見法を5つ以上知る。特に星座による北極星の発見法を2つ挙げ、その実演をする。【天文章 (2)】	①天気予報等の情報の収集を常に行い、キャンプへの影響を考え、その対策を実際に講じる。 ②雷に関する一般知識と避雷について具体的な説明と避雷行動が実践できる。【測候章 (2) 改】 ③獣類、昆虫、鳥類、魚類、雲の状態を観察して行う天候の予想法を3種以上知る（観天望気）。【測候章 (4)】 ④外出着（上着、ズボン、シャツ、ソックス）及び靴を20秒以内に脱ぎ、水中に飛び込むこと。【水泳章 (3)】 ⑤次のスカウト用具が消火に役立つ場合を説明し実演する。 ・ロープ ・オノまたはナタ ・グランドシート ・フライシート ・毛布 ・笛 ・ネッカチーフ ・スカウトハット ・バケツ 【消防章 (6)】

課目・区分	Step1 基本コース (CS,BVS キャンプマネージャー課目)	Step2 中級コース (BS,VS キャンプマネージャー課目)
12. 評価	①「指導者のためのスカウト・キャンプ」P.89-94を読み、理解する。	①スカウトキャンプの点検評価に必要な項目を挙げ、評価表を作成し、実際に評価を行う（原隊でのキャンプでの実践報告でよい）◆（後日報告書提出）
13. その他	①研究会終了直前に、再度個人装備等の点検を行い、それぞれについて使用の有無、頻度、必要な数、装備の過不足等について各自でチェックする。 →使用頻度について確認し、リストを修正する。	①研究会終了直前に、再度個人装備等の点検を行い、それぞれについて使用の有無、頻度、必要な数、装備の過不足等について各自でチェックする。 →使用頻度と必要性について再チェックし、「如何に持って行かないか」を考えさせる。
14. 認定と検定	① 1. ～ 13. までのすべてのセッションを受講し実行することで、Step1 の修了が認定がされる。	① 1. ～ 13. までのすべてのセッションを受講し実行するとともに、指定された研究レポート◆や、所定の報告書◆が提出され認定された段階で、Step2 の修了が認定がされる。 ※セッション毎の修了考査に合格することで、指定された研究レポートの提出に替えることができる。

※この課目は、研修コースのレベル設定のためのもので、野営法研究会で全ての課目が実際に実施されるわけではありません。

★印は事前課題として実施し、申込み時に報告書として提出するもの。

◆印は研究レポートとして提出するもの（研究期間は事前でも事後でもかまわない）。

◇印は事後課題とし、報告書を提出するもの。

【 】は関連進歩課目。 TB：ターゲットバッジの略

※野営方研究会 STEP1 設定課目のうち、セッションには組み込めなかったものとその対応

5- ④キャンプ地にあるものを利用して、キャンプで必要と思われる個人用品を作製する。【TB-E3-5】

《⇒ § STA》

7-1- ⑥マッチを防水加工し、携帯用の防水容器に入れて提出する。【炊事章 (4)、TB-E4-1】

《⇒ § STA》

7-2- ⑥ガソリン、灯油、ガスを使用するキャンピングストーブ等を使用して炊事をし、取扱上の注意事項・特徴・手入れの方法が説明できる。

【野営章 (8)】

7-2- ②炊事に使う火を、マッチ2本以内で起こす。【TB-E6-3】

《⇒朝食、夕食、昼食》

7-3- ①飯盒やコッヘル等キャンプ専用の調理用具を利用して、米飯及び味噌汁を班員分作る。

《⇒朝食、夕食、昼食》

7-3- ②野菜・肉・魚・玉子（単品でも複数でも）を材料とした2種以上のキャンプ料理を作る。

《⇒朝食、夕食、昼食》

10- ①キャンプにおける儀式、儀礼について知る。

《⇒朝礼後》

10- ②国旗の掲揚及び降納の方法について知る。

《⇒朝礼時》

10- ③朝礼、終礼の方法について知る。

《⇒朝礼後、終礼については夜のスカウトタウンに組み込んでもいいか》

10- ④スカウトタウンについて知り、実際に行う。

《⇒スカウトタウン時》

11- ③野火の適切な消火方法並びに水を使わない消火方法を知り、キャンプで実践する。【TB-6-4】（⇒なし）

11- ④地表を保護して火をたく方法を説明し、実演する。【TB-6-6】

《⇒掘かまど、石積みかまど等の場合に、セッション内で言及》

14- ① 1. ～ 13. までのすべてのセッションを受講し実行することで、Step1 の修了が認定がされる。

スカウティングとキャンプ

●B-P 最後のメッセージより

神様は、一生幸福で楽しく暮らせるよう、私たちをこの世界に送ってくださったのだと私は信じています。幸せというのは、お金持ちになったり、単に仕事上で成功したり、思い通りのわがままができることではありません。幸せになる第一歩は、子どもの間に健康で強い体しておくことです。そうすれば、あなたがたが大人になった時お役に立つことができ、人生を楽しむことができるのです。自然研究というものは、この世界が、美しいものや素晴らしいもので満ち満ちていることを教えてくれるでしょう。それは神様が、そういう世界をあなたがたが喜んで受け入れるように贈ってくださったことを示しています。あなたがたの得たもので満足し、それを最もよく生かすようにしなさい。

このように「健康」「情緒」「協調」「観察」「推理」「発見」「驚嘆」「感謝」「素直な心」「自発性」「自立心」「自律心」「創意工夫」「仲間」「友情」等を素晴らしい自然から得なさいと言っています。それに気づくこと、感じること、意識すること、そして育むことができるのが自然の中で過ごすスカウトのキャンプです。

また、「班」は人を分けるという意味の他に、仕事を分けるという意味があります。班員各自が自分の分担された仕事を責任をもって実行する、または実行するために努力する。それで班に貢献でき、そして班のレベルが上がっていくことで、他の班との競争に臨む・・・ことは、子ども達の特性を活かした教育方法であり、それが社会人としての基礎の意識を築いていくことは十分に承知していると思います。その効果が顕著に表れるのが班のキャンプなのです。班長のリーダーシップ、班員の任務に対する意識と責任感、班としてのモチベーションと団結力。そしてライバル班との競い合い。このような環境をどう整えていくかが隊長&指導者の腕の見せどころです。

キャンプでは、実に多種多様な作業があります。居住環境をいかに快適にするか、食事をいかに美味しく作るか、それらをより良いものにするために考え、工夫し、何度も実行して確実なものにしていく。そのプロセスを経験することができるのがキャンプなのです。

その結果として、わたしたちが求める「(心が)豊かなキャンプ生活」が獲得できるのです。

設営と炊事に追いまわられていては、そんな余裕はありませんからねえ。

●スカウトキャンプの大前提

・キャンプは、スカウティングの中で少年がもっとも喜んでもるものである。(AIDS TO SCOUT MASTERSHIP)
→それには **まずは、魅力があって楽しいこと。**

これがキャンプを行う大前提で、もっとも重要なポイント。この気持ちをスカウトが持たなければ、指導者が理解しなければ、そして共にそれを作り上げなければ意味がない。その上で・・・

●キャンプがもたらしてくれるもの

・スカウトは創意工夫に満ちている。どのような困難なことや不愉快なことがあっても、(創意工夫で)必ず解決することができる。
・キャンピングは、スカウティングには大事なもので、少年達には魅力があり、自立心と創意工夫することを教えてくれる機会であり、健康をもたらし
てくれる。
・求められる精神を備えていれば、キャンプこそ隊長が少年達を夢中にさせることのできるものである。

(SCOUTING FOR BOYS)

キャンプには、

- ・キャンプそのものが子どもの成長をもたらす
- ・自然の中での生活がもたらす
- ・グループによる活動、共同生活がもたらす
- ・新しい体験がもたらす

そんな効果がある。

(信州大・平野吉直教授)

→ここに、スカウティングのキャンプの意義が見い出せる。**これを知り、確認し、実践により自ら体験すること**が野営法研究会を行う意味。

→指導者としては、具体的には次の6つを体得する

- ① **自らすすんでキャンプを楽しむこと**
- ② **求められる精神・意識を知ること**
- ③ **キャンプの規律を知ること**
- ④ **キャンプの効果を身をもって体験すること**
- ⑤ **すべてのことの根拠を考えること**
- ⑥ **キャンプをすると自分自身(心も精神も身体も)が元気になること**

これをこの野営法研究会で是非とも伝えてください。

※ところで、指導者のためのスカウティングキャンプとは・・・これは、あくまで「指導者」のためのスカウトキャンプである。ということは、はじめに先に述べた「**楽しく魅力あるスカウトキャンプ**」がありきということを忘れてはいけな。このスカウトキャンプをいかに効果的に行うか、安全に行うか、教育的側面を盛り込むか等の運営をもたらすか・・・を考えていくためのテキストなのである。

生活・健康調査書及び個人情報保護に関する同意書

記入日 年 月 日

ふりがな 氏名	所属	団 隊	生年月日 年 月 日	性 別 男・女
住所	〒 電話 ()		保護者の承認	私は医療行為に伴い生ずる個人情報を同行の指導者へ伝えることに同意します。 (保護者署名) _____
緊急 連絡先	氏名	参加者との続柄	電話	携帯等緊急用

身長	cm	体重	kg	コンタクトレンズの使用	有・無
----	----	----	----	-------------	-----

I. この1か月の健康状態（該当項目の番号を○で囲み、_____部分には所要事項を記入する）

- 健康である
- 病気をしたが（学校、仕事を）休むほどではなかった
- 病気のため休んだことがある 病名_____いつ頃_____日数_____日

II. 1. 該当する症状（□にチェックしてください）

- | | | |
|--|--|---|
| ① ☐ 便秘をしやすい | ② ☐ 下痢をしやすい | ③ ☐ 胃痛や腹痛をおこしやすい |
| ④ ☐ 風邪をひきやすい | ⑤ ☐ 熱がでやすい | ⑥ ☐ 扁桃腺が腫れやすい |
| ⑦ ☐ 目が充血しやすい | ⑧ ☐ 鼻血が出やすい | ⑨ ☐ 出血すると止まりにくい |
| ⑩ ☐ 疲れやすい | ⑪ ☐ 貧血を起こしやすい | ⑫ ☐ とくとき頭痛がする |
| ⑬ ☐ 皮膚が弱い（太陽・虫・他） | ⑭ ☐ 喘息発作を起こすことがある | |

2. 該当項目を○で囲み、所要事項を記入してください

- ① 薬品アレルギー（ある・ない）

発症薬品名 []
症状 []

※ 消毒薬（ヨード剤、アルコール、ブール消毒槽など）による、発赤、皮膚炎等の既往のある方は記載してください。

- ② その他のアレルギー（食べ物・花粉等）（ある・ない）

発症原因 []
症状 []

- ③ 常時服用している薬（ある・ない）

病名 []
薬品名 []

※服用中の薬がある場合は、薬局でもらう薬剤情報の紙を持参してください。

III. その他、生活・身体上のことで留意することがありましたらお書きください。

IV. 今期インフルエンザ等について

- 今期インフルエンザにかかったことが（ある・ない）
- 今期インフルエンザ予防ワクチンを（受けた・受けていない）
②で受けたと答えた人は、受けた時期を記入してください。（ ）年（ ）月 頃
- 麻疹の予防ワクチンを（受けた・受けていない）
③で受けたと答えた人は、受けた時期を記入してください。（ ）年（ ）月 頃

V. この1週間の体温を記入してください。 毎日_____時に計測。

土曜日	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃

※ ①この調査書は2枚作成（コピー可）。キャンプ出発集合時に派遣隊長へ1枚提出してください。

※ ②また、健康保険証のコピーを作成し、このコピーと共に携行してください。

※ ③健康状態に不安のある場合は、予め医師の診断を受け、参加できることを確認してください。

※ ④未成年のスカウト・参加者は、保護者の確認が必要です。（右上の欄に署名を）

※ ⑤キャンプ出発前1週間前からの健康状態を確認してください。

県外旅行申請書

平成____年____月____日

ボーイスカウト 連盟御中

申請者_____地区_____第_____団

團委員長 印

隊長 

下記の通り県外旅行を行いますので申請いたします

[illegible]

※以下県連盟処理欄

県外旅行通知

上記の通り本県連盟の加盟員が貴県を旅行しますのでご通知いたします。

平成____年____月____日

ボーイスカウト 連盟

事務局長 様

ボーイスカウト _____ 連盟

事務局長 (印)

参加者携行品確認表 (セッション用)

番号	品 名	§ 3	§ 16	頻度	想定数量と異なる理由
1	スリーピングバッグ (寝袋)				
2	キャンプマット				
3	バックパック (容量 L)				
4	ハバザック				
5	健康保健証 (写)				
6	「指導者のためのスカウトキャンプ」				
7	制服上下+ベレー				
8	雨具 (レインスーツ)				
9	作業着				
10	作業帽				
11	寝間着				
12	着替え (下着、靴下)				
13	防寒着				
14	野営靴				
15	雨靴				
16	軍手、または作業手袋				
17	洗面用具・入浴用品				
18	折りたたみ椅子				
19	懐中電灯・ヘッドライト				
20	予備電池				
21	プレートコンパス (シルバ type3)				
22	ナイフ				
23	ロープ				
24	工作用ひも				
25	細びき				
26	食器セット				
27	マイカップ				
28	水筒				
29	スプーンセット、箸				
30	マッチまたはライター				
31	雑巾 および 布巾				
32	裁縫道具				
33	靴手入れ具				
34	新聞紙				
35	ハンカチ				
36	ティッシュ				
37	トイレットペーパー				
38	個人用救急キット				
39	持薬				
40	米6合				
41	レジャーシート・シーターポン				
42	ビニール袋				
43	スーパーの袋				
44	時計				
45	筆記用具 (メモ帳)				
46	ボールペン				
47	携帯電話の充電度 (%)				
48	直定規				
49	クリップボード				
50					
51					
52					
53					
54					
55					

野営地の採点表

	0 最悪	2 悪	4 可	6 良	8 優	10 理想的	ここは？
位 置	市街地	街はずれ	郊外住宅地	農 地	原野・牧場	山 林	
排 水	湿 地	溢水の可能性あり	排水緩慢	1方向に排水良	2方向に排水良	3方向に排水良	
土 質	不潔な堆土	粘土質	岩石や砂礫	砂 地	砂利層に砂	砂利層上にローム土	
地 表	はだか地	雑 草	刈り株	耕 地	牧草・野草	芝生地	
地形1	急斜面	平 地	10～12%傾斜地	5～8%傾斜地	ゆるやかな傾斜地	平坦に近い傾斜地	
地形2	川の中州 崖の下	ガレ場 谷間	河原	砂浜	風を遮るものがない広場	林間の広場	
樹木1	な し	低木・藪	若木・雑草	20～30年の造林地	古い造林地	原始林	
樹木2	樹液を出す木	密集した針葉樹	密集した広葉樹	程よい間の針葉樹	程よい間の広葉樹	高くて程よい間の広葉樹	
水 利	な し	遠 い	急坂運搬	良質な水道遠 い	良質な水道近 い	良質な水道至 近	
水浴場	な し	安全な流れと速さの川	澄んで安全な湖沼	プール	シャワー	風呂・温泉	
燃 料	な し	多少拾える	立ち枯れあり拾える	自由に拾える	近くで購入できる	その場で購入できる	
公 衆	無理解	物見高い	行楽者多し	理解ある人あり	親切で理解あり	無 人	
有害物	毒虫・毒蛇	蚊・ぶゆ	人を刺す虫	は え有害植物	ほとんどなし	な し	
交 通	遠く不便	便利だが遠 い	不便だが近 い	自動車がかりうじて入る	自動車が入り、あまり遠くない	自動車が安全に入り、近い	
買い出し	な し	遠く品数少ない	近く品数少ない	遠いがスーパー	近 いスーパー	至近にスーパー	
病院	な し	休日休みの診療所	休日開業の診療所	個人医院 総合病院	救急受入の個人医院	救急受入の総合病院	
それ以外の条件							



◆ テントの種類

● テントの種類と用途（屋根型テントとドームテント）

ここでは、ボーイ隊の班で使う「班テント」を中心に見ていきます。

現在市販されているテントは、大きく3種類に分けられます。昔ながらの屋根（家）型テントとドームテント、そして、主に緊急時に使用するツェルトです。ちょっと前に流行ったロッジ型テントは、今は構造がドームテントに近くなってきていますので、ここでは敢えてドームテントに分類します。

さて、屋根型テントには数種類あって、家型テントと呼ばれる「指導者用テント（ジャンボリーテント；略称「ジャンテン」）」と2本のポールで建てる「班用テント（A型テント；Aテン）」、この屋根型テント系のメインはAテンで、これはボーイスカウトやガールスカウト、そして一部の公立の青少年施設や愛好家以外では、今やほとんど使われなくなっています。まさにラストボーイスカウトになってしまいました。

さて、このボーイスカウトが頑なに守っている「家型テント」ですが、そのメリットはどこにあるんでしょう？ 我々 OGE 隊の中もAテン派とドーム派がいます。そこで、Aテン派にそのメリットを聞いてみました。下表 2-1-1 をご覧ください。

・・・とまあ、どっちの言い分にも一理あるけれど、やはりドームのほうが説得力がありますね。ちなみに私はドーム派（笑）。これまでの経験からドームテントの方が快適に過ごせると思っています。

これはボーイの「班」を対象にした5～6人用のテントに対するものです。これより少ない人数では、ほぼ100%がドームタイプのテントになっています。というかAテンは6～8～10人用しかないの

ですから選びようがありませんし、残りのテントもツェルトの様な基本的にエマージェンシー用のテントです。

もちろん、4人の班で6人用のAテンを使うことには収容人数の点では問題ありません、Aテンを既に持っているのであればね。でも、これから購入をするのであれば、例えば、ボーイ隊の4人の班で、今後の増員が見込めないとするとAテンにするかドームにするか悩むところですよ。スカウト数が少ないということは、購入予算が少ないことと搬送人員が少ない・・・に直結していますからね。

4人の班のテントを選ぶとなると、ボーイスカウト・エンタープライズのカタログで比べると、6人用Aテン（写真下左）にするか、モンベルのムーンライト7（写真下右）にするかという選択肢になります。カタログには他にエコテントとスクートがありますが、まあそれは好みでどうぞ。

エンタープライズには申し訳ないですが、私は後者の2つは選びません。「エコドーム」は、重い、室内高が低い、入口の敷居部分が高い、スリーブタイプである（P.000を参照）、形状が風に弱そう・・・です。「スクート」は重すぎるし、もろ風に弱い構造、この重量をあの高さまで吊り下げるのはボーイ年代のスカウトでは結構つらいでしょうね。あ、あくまでカタログを見た感想です。実際に使ったことはありませんから。

それから、今は女子のスカウトが多く入って来ていますから、キャンプでは、テントは男女別に用意しなくてはなりません（チャイルドプロテクションにも明記されていますが、っていうか男女別テントは指導者の常識ですよ。たとえばカブであってもです）。つまり6人班だからといっても6人以上用の大型テントを選択することはないのです。今後は1班にテント2張は標準となっていくでしょう。

●表 2-1-1 家型テントとドームテントの比較

比較項目	家型テント	ドームテント
耐風性	○丈夫で、あれだけの綱とペグで地面に留めているんだから風に強い。 ▲家型テントは、風を面でがっちり受け止めるのもものすごい風圧がかかる。そのためには相当な力を幕体、綱、ペグでそれぞれ保持しなければならないから高い強度が必要。つまりひとつひとつが丈夫で重い。それに風に負けてしまった場合にペグが抜けて飛んでいくこともあり大変危険。	○今のドームは構造工学に優れた形状であり風を受け流す。その点でもジャンテンはドームテントに敵わない。強風時にはドームでもペグや張り綱は必要だけど、綱の太さも数とも少なくていい。
居住性	○棟が高いので居住性が高い、また幕布が厚いので特に長期キャンプで安心。あの安心度はドームでは得難い。▲棟は高いが、三角屋根のため上方空間は狭いし、小柄なスカウトではリッジポールに届かない。厚い帆布で構成されているので、頑丈というイメージで安心感はあるが、何もそんな厚い壁で囲わなくていいでしょ。	○同じ収容人数であれば居住性はドームテントの方が格段に上である。自然との一体感はドームに敵わないよ。
グラウンドシート	○グラウンドシートが縫い付けられていないので、濡れや尖ったもの等への対処がしやすく自由度が高い。フロアは長方形なのでコットを置くにはちょうど良いだろう。	▲フロアは縫い付けられて防水処理がされているので、地面が水浸しになっても大丈夫。 ×コットを置くには脚の先でフロアシートを傷めない工夫が必要だな。
設営	○きちんと張るためには、テントの構造を知らなければならず、幕にテンションをかけるのに総合的な知識がいるところに教育的意義がある。	○ドームテントは早く張れるのでプログラムに時間が割けるし、張ってからからも簡単に移動もできるので、風向きの変化にも、植物へのローインパクトにもすぐに対応できる。

◆ テントを選ぶ

では、実際にボーイ隊やカブ隊、ベンチャー隊が使うという設定で選んでみましょう。家型テントについては、選択の余地がないので、ここではドームテントについて書いていきます。

●ドームテントについて

さて、「ドームテント」って一言で言っていますが、ドームテントは実にいろいろのタイプがあります。

まず、テントを分類してみましょう。

「目的」別に、山用か、雪山用か、我々のような低山用か、ファミリー用か、オートキャンプ用か…となります。次に、構造や重量で見ると、ポールの数やポールの組み合わせ方、設営のしやすさ（つまり固定キャンプ用か移動キャンプか）でも分けられます。他には、収容人数別もあるし、素材別でも分けられます。

ということで、テントを選ぶときに、選択要素にプライオリティをつけると

①目的 ②収容人数 ③構造・重量 ④その他
となります。では、それぞれについて見ていきましょう。

①目的

テントの購入にあたっては、使用「目的」は最も大切な要素となります。数あるドームテントも、その使用目的により大きく区分されていきます。

例えば冬山用のテントは、夏のボーイ隊の低地でのキャンプでも使えます…が、まず暑くて快適に過ごすことはできません。ファミリーキャンプ用の安価な大型ドームテントでX（クロス）ポールのものは、低地&平地のスカウトキャンプの様な長期のキャンプには良さそうですが、実はボーイ部門のキャンプには不適だったりします。好天であれば問題はでないでしょうが強風・荒天だと、大きさが大きいためテントの耐性に問題が生じて安全が確保できないという事態が生じることがあります。（写真右下）

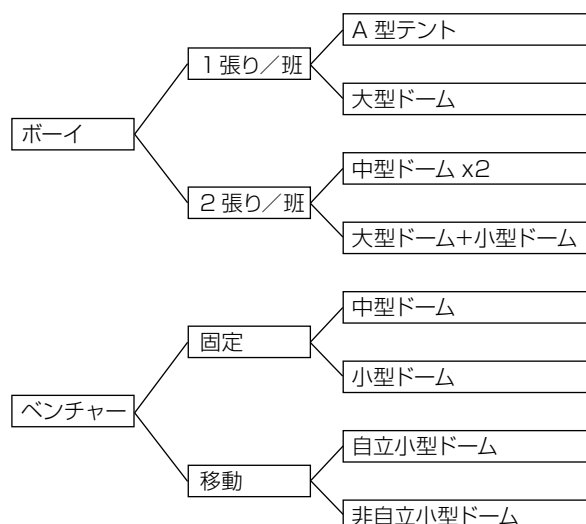
ボーイスカウトの場合は、「教育」のためのキャンプであり、基本的に過酷な条件下はまずあり得ません。そのフィールドは、ある程度整備されたキャンプ場だったり、多少野性味が残る山林でしょう。その低地の平地で、隊指導者の管理の下での固定キャンプが主となります。また、今はテントを含め荷物はキャンプ地まで車で運ぶコトがほとんどとなっていますので、重量よりも丈夫さや機能性に目を向けた方がいいかもしれません。ただ、スカウトの数は毎年変わるのである程度の増減に対応しなくてはなりません。男女比も変わります。ここをどう考えるかは、団・隊で判断する必要があります。

ベンチャースカウトの場合は、固定キャンプもありますが、バディでの移動キャンプも行います。移動キャンプでは、必要なギアを全て背負って移動するわけですから、ギア1つ1つの重さをでき



るだけ減らさなくてはなりません。もちろんテントもです。しかし、移動キャンプの目的にもよりますが、軽さだけを追求して居住性を犠牲にするようなことは避けた方がいいです。十分な睡眠がとれない結果、疲労が蓄積して「楽しいスカウティング」ではなくなってしまいますから。

ここに簡単な分類図を示します。まあ、このレベルだったら示さなくたって解っているとは思いますが…。



●図 2-1-3 部門別キャンプ形態と使用テント

②収容人数

テントが1張りだろうが2張りだろうが、班員全員が寝られ、かつ荷物が置けるスペースがあることが必要です。メーカーが表示しているものは、一昔前であれば JIS 規格に基づいた表示となっていました。JIS 規格が 1999 年に廃止となったため、今ではメーカー独自のものとなっています。JIS 規格では、「人+荷物」で 200cmx55cm ですので、ボーイ隊のキャンプのように個人装備をテントに入れる場合は、入れ方や整理の仕方にもよりますが、表

●表 2-1-2 家型テントと代表モデルのスペック比較

区分	型式	人数	価格	重量
家型テント	A 型 6 人用	6	¥106,000	22.4kg (本体) (ポール・ペグ・ハンマーは別)
ドーム	エコテント	5	¥102,900	12kg
	スクート DX6	5	¥75,600	9kg (11.6kg フレーム含む)
	モンベル ムーンライト 7	5(7)	¥62,800	7.8kg (8.4kg ペグポール含む)



◎指導者用テントに寝てみた。
普通体型が3人、FAT系3人の成人男性だと、このようにいっぱい。荷物を置くスペースはなかった。

示人数分の人を収容するのは難しいですね。よく「実質人数＝表示人数－1 (or－2) 人」と言っているのはこの名残です。

まあ、人数が多くてフロア（テントの床）に荷物のスペースがとれないときは、それこそ創意工夫の出番です。そのひとつとして前室があるタイプを選んでおくこともいいですね。

ということで、多くのメーカーでは、そのメーカー独自の人数表示をしています。その表示人数には個人装備のスペースも含まれているようですが、統一の規格ではないので、必ずシップ等で現物を確認（実際に荷物を置いて寝てみる）してからご購入ください。

③構造・重量

「目的」のところでも述べましたが、ボーイの「班」で使うテントとなると大型ドームが選択肢に入ります。しかしながらテント本体が大きく立ち上がるわけですから、風の影響を大きく受けることになります。そこでしっかり考えていただきたいのが強度と安全性です。ポールが2本のクロス(X)ポールタイプでは、強風時にポールが耐えられなくなり、ポールの湾曲の形状が保てなくなったり折れたりします。(写真左。実体験としては、台風の下では、あの頑丈そうなジャンテンのポールでさえも台風の時はあっさりと曲がってしまいました。当時需品部で売っていた「アドベンチャーテント」の樹脂ポールも簡単に折れてつぶれていました。) 風の力は予想以上に凄いのです。ですから、大型ドームテントの場合は、できればメインのXポールに補強のサブのポールが組み合わされたものやジオデシック構造のもの、1つの大型ドームではなく中型2つにすることをすすめます。ちなみにこの台風のときが私の個人テント「モンベル・ムーンライト5」のデビューだったんですが、何の問題もなく快適に過ごすことができました。(ちなみに私はスカウトの避難引率で体育館にいましたので。これは残留組による報告です。)

耐風性については、ポールの数だけでなく本体とどのようにジョイントさせるかによってもその強度が異なります。これについては「ポール」のところでも述べます。

また、中型小型のテントであれば、入口の位置やフライシートの形状についても考えなければなりません。これについてはP.000を参照してください。

次に重量ですが、前ページで「重量よりも丈夫さや機能性に目を向けた方がいいかもしれません」と書いていますが、これはまずAテン以上の重さのテントはない！ということと、固定キャンプの場合でも、今では班装備を背負って歩いてキャンプ地に行くことはほとんどなくなって、ほとんどが車による搬送で、実際にそれを持って歩く距離は、ごく短距離であるということ・・・との考えか

らのものです。しかし、ボーイ隊の現状を見ると女子の数が多くなっている、上級生の参加率が下がってきて小学生がメインとなっていること等を考えると、これらのスカウトでも取り扱える重さであることが大切な要素となります。さらに、ジャンボリーだと延々と歩くことになります。

そして「移動する」ことを考える必要があります。特にベンチャーローバーの移動キャンプの場合はできるだけ装備重量を軽くしたいのですから理解できますよね。装備の軽さはキャンプでの疲労を軽減することにダイレクトに繋がりますからね。

また、環境保護、つまり植物の保護の観点から、3日に1度はテントの位置を移動するようには言われてます。それに、風向きによってテントの出入口の位置を修正しなくてはなりません。Aテンでは大変なこの作業ですがドームだとさほど難しくはありません。しかし、大型で重量のあるドームテントでは、転回・移動はそれでもけっこう面倒です。

従って、これらのことに対応するためには、必要な強度を保った上でできるだけ軽いモノであることが求められます。それはテントやポールの素材に大きく左右されてきます。これについては次で述べます。

●テントの生地素材

テントの素材に良く使われるのは化学繊維の「ナイロン」と「ポリエステル」です。昔は木綿やビニロン製のテントもありましたが、今はほとんど見かけません。

ナイロンは引き裂き強度に優れ、程よい伸縮性もあるのでテントをきれいに張ることができます。布の厚みは糸の太さのデニールという単位で表します。15デニールであれば、向こう側が透けて見える薄さのものとなります。ドームテントのウォール（本体）には50～70デニール、フライシートはそれよりもやや太く、フロアであれば100デニール以上のものが多く使われているようです。

ポリエステルは伸縮性には欠けますが、ナイロンよりも強く、紫外線による劣化も少ないのでフライシートに多く用いられます。ちなみにジャンテンとAテンは本体・フライともにポリエステルです。収縮性は必要ないので。

このほかにグラウンドシートにはPVC（塩化ビニール）が使われることがあります。PVCはほぼ完全防水で、しかも丈夫なのでテントのボトム（底）には最適ですが、重いのが難点です。

●テントの大きさ（サイズ）

①班・組で使うときは6～8人用

テントのフロア大きさは、班の人数構成、男女比にもよるでしょうが、同性のみの班だと6～8人用のもの、男女混合班だとその人数比に合ったモノを選ぶことになります。

●表 2-1-4 シート素材の主な特長

素材	耐久性	強度	防水性	価格
ナイロン	強い。薬品力 被害虫に強い (日光やガスで 黄変する)	高強度	高い (耐水圧による)	高い
ポリエステル	引き裂きに強い、紫外線に 強い (長期間の使用可能)	高強度(ナイロン以上)	高い (耐水圧による)	高い



◎比較的安いのでよく使用されている某C社製テント(左・右)。強風の下では構造上このようにポールが当初の形状を保つことができなくなってしまう。

テントの大きさというと、すぐに「フロア(床)」の面積を思い浮かべてしまいがちですが、もちろんそれも大切ですが、ウォール(壁)の立ち上がり角度や天井までの高さにも注意してください。つまり、居住性です。テントは寝るだけでなく、雨の時はリビングにもなり、場合によっては食堂にもなります。2人用と6人用とでは、出入りに必要な高さも異なってきます。無理なく着替えができ、かがんで立っても無理なく出入りできる室内高はほしいですね。

テントの利用(就寝)人数表示は、「○人用」とか「○人相当」とか「キャパ○人」、あるメーカーでは「商品名の最後の数字が目安となる人数を表示」となっています。この人数ですが、だいたい荷物がなければこれだけの人数が寝ることができるという目安の人数のようです。更には昔のJIS規格のゆうに「この人数が寝られる」という広さであって、快適に寝られる広さであるとは限りません。しかも、この「快適」な広さの基準が人それぞれ違っているので、ショップ等で実際に目的のテントに横になってみて、個人装備をおいたらどうなるかを確認することが、納得するモノを選ぶポイントになります。ちなみに、OGE隊においては、2人分で1人が快適であると換算しています(人+個人装備)。5人用であれば2人(小数点以下切り捨て)、これ以上の大きさであっても最大3人で使っていますね。

ボーイ隊の班用テントとして使用することを考えると、実際の就寝人数は表示人数マイナス1～2人と考えてもらっていいでしょう。

カブであれば、ほぼ表示人数が収容できます。

②ベンチャーは2～4人用

ベンチャーやローバーとなると、活動が基本的にソロコバディカという単位となり、また、全てのギアを背負っての移動キャンプも視野に入れることが必要となるので、2～3人用のテントを選択することになります。

ベンチャーやローバーでも長期に亘る移動キャンプだったり、雪中キャンプだったりをする場合は、快適性をとるか重量を取るかでの選択を迫られることになります。少しでも軽くすることを選んだ場合は、余分なスペースを作らないで規定の人数の通りモデルをチョイスすることがベストとなります。小さければ小さいほどポールも細く、布地も薄くできる → つまり「軽い」わけです。こういう場合、2人以上であれば足と頭を互い違いにして寝て、荷物は足下か頭の上に置き、マットは半身用にしマット代わりバックパックに足を突っ込んだりすることで、人と人との隙間が埋められて、寒い時期でも暖かく眠ることができます。(暑いときは、うとうしいだけです・・・くさいし、くさいし、くさいし!!)

③登山用は1～2人用

登山をするのであれば、1～2人用のテントがいいと思います。それは単純な理由なのですが、山では限られたキャンプスペースに

たくさんのテントが立ち並びます。トップシーズンになるとテントがひしめき合っている状態なのです。小さいテントであればテントとテントの間にわずかなところにテントを何とか張ることもできますが、3～4人用ともなると、そのスペースを確保することはまずムリです・・・というワケです。

●テントの出入口

使うテントが小さいソロやバディのキャンプなら気にならないですが、班で使うテントとなると、出入口の位置や大きさ気になります。これもテント選びの大きなポイントになると思います。

一昔前のドームテントだと出入口が1つしかなくて、出入りするだけで、寝ている人には大迷惑になることがありました。Aテンやジャンテンは昔から出入口は2つありました。今は大型のドームテントであれば、対向する面にそれぞれ出入口があります。

出入口の大きさについては、小型のテントであれば座った状態で出入りしますが、大型のテントだと立ったまま(屈んで)出入りするのが普通となっています。無理なく出入りできるもののがいいですね。屈んだときに気をつけなければならぬのが、入口の下端(敷居)の高さです。これがフロア面から高いと、足をしっかり持ち上げないとまずいままです。

小型テントは座って出入りするわけですが、この場合も敷居が高いと出入りしづらくなります。また、小型テントの出入口の位置ですが、フロアの長方形の短辺に出入口があるモデルだと、ポールとポールの感覚が狭いので、当然、狭い入口しかとれません。出入しやすくするためには、その面をフルに使う、すなわち入口の上端が天井近くまでくることができ、今度は雨が入りやすくなります。小型テントでは、長辺(ポールとポールが離れた面)に出入口があり、かつ出入口の地面からの角度が大きいものの方が使い勝手はいいと思います。

●ポールの素材と構造

ポールに求められる性能は、テントの形状を保ちつつ、風に対しては、柔軟性あるものとなります。Aテンやジャンテンと違って、ドームテントの場合は、テントそのものに柔軟性を持たせ、風の圧力を逃がすワケですが、その要となるのがポールなのです。

柔らかくて強度があり、戻り特性をもつ材質としては、スチール、FRP、アルミ合金などがありますが、それぞれ特長(一長両短)があります。(下表参照)

結論としては、アルミ合金(#7000系超々ジュラルミン)がいいでしょう。更に強度面を考えると、2本クロスだけではなくサブに1～2本あるものの方が気分的に安心できます。あ、サブといっても「補強」のためのサブですよ、フライの張り出し用のサブじゃないです。A型フレームやジオデシック構造のものであれば言うことはありませ

●表 2-1-5 テントポール用素材の主な特長

材質	特長
スチール	強度はあるけれど、重くて、柔軟性も低く、太い。そのためたわみが少なくても済む場所、ファミリー用大型ドームテントのサイドポールやキャノピーの支柱用に多く使われます。
FRP	スチールより軽量で弾力性があり、かつ安い素材なので、あまり重量をキャンプにしないエントリーモデルに使われています。また、ポールのジョイント部分が金具なので、スリーブに通すときに引っ掛かりやすい。
アルミ合金(ジュラルミン)	強度と柔軟性があり、軽量な素材。径も細くできる。段差なくジョイントできるので、スリーブを傷めることが少ない。但し高価であるため上級モデルに多く採用されている。

●テントは「建てる」「立てる」？

この表現は本によって様々です。この本では敢えて「建てる」を使います。テントはスカウトにとって野外での「家」ですから、建てるです。でも・・・「張る」が正しいんじゃないのかな。

ん。

ポールが少なくてもフライをきちっと張ってペグを打っておけば、それなりの強度は出るものです。そうは言っても2本ポールのクロス(X)だけでは安心・安全には心許ないです。大きいテントでXポールだけのものは、荒天時にはさっさとキャンプを切り上げて帰るか、避難できるところがある場合にしか使用できないと考えてください。

あ、これは6～8人用の大型ドームテントの場合であって、1～2人用の小型ドームであればXポールでも大丈夫でしょう。3～4人用の中型ドームでは、やはりサブポールがあるものやAフレームのものをすすめます。

●ポールを本体のジョイント

テントをたてるには、ポールをテント本体に取り付けなければなりません。その取り付け方法には、本体のスリーブ(筒)にポールを通す「スリーブタイプ」とフック等で本体をポールに吊り下げる「吊り下げタイプ」に大きく分けられます。

スリーブタイプはポールをつないでスリーブ(筒)の片側から入れ、入れたポール先を固定した上で、更にポールを押し込んでポールをたわませテントを建てます。基本的にクロスしているので、特に大型・中型テントでは2人で同時にその作業をしなくてはなりませんし、押し込む時に結構な力が必要となります。

一方、吊り下げタイプは、まずポールをたわませ、その両端をテント4隅に固定します。次に、センタートップのフックをポールの中央に掛けた後、上から順番にフックをポールに引っかけていきます(この順番はテントにより異なります)。スリーブタイプよりも簡単に1人でも建てられますが、例えばモンベルのムーンライト7の様な大型ドームテントの場合、カブのような低い身長だと、テントのセンタートップのフックをポールに取り付けることが難しくなります。

どちらが設営が楽かは、経験次第です。吊り下げ式の方が初心者やカブ年代には向いているかもしれません。

さて、大型ドームテントは風に弱いと前に書きました。全てのタイプがそうというワケではないのですが、スリーブ式でもフック式でもそれだけでポールに固定しているのであれば、風圧でフライやテント本体がたわむことで、スリーブやフックの接点(面)がずれてしまいます。そのズレが大きくなるとテントが本来の形状を保てなくなり、全ページの写真のようにつぶれてしまうのです。テントは正しい形を保つことで最大の保持力を発揮するよう作られています。テントは眠るだけでなく、悪天候時の避難場所にもなるのですから、この点にも注意することが大切です。その対策として、フックがずれない構造になっているもの、スリーブが伸びない素材になって



いるもの、モンベルのムーンライトシリーズのようにA型フレームで要所がゴムで固定されているもの等があります。

●スリーブタイプの問題

さて、ここでちょっと夏の炎天下のキャンプを考えてみましょう。夏の炎天下にテントに入った人はよく解っていると思いますが、テントの中は相当熱くなります。それを防ぐのがフライシートの役目(もちろん雨を防ぐことも、冬の寒さも)だといっても、それにも限界があるでしょう、だから熱いのはしょうがないじゃないですか……んへ、ちょっと待ってください! 正しく設計されたテントを適切な用途で使ったならば、そしてフライシートがちゃんと張ってさえあれば、中は耐えられない暑さにはならないハズです。

ではどうしてテントの中が耐えられない暑さになるのかを考えましょう。それは、太陽熱で熱せられたテントとフライの間にある空気の塊が熱を持って、それがテント本体の幕から中にモロに伝わるからです。「そんなことは知っているよ! 具体的にはどーゆーことなの?」

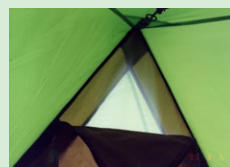
はいはい、お答えします。それは、テントとフライの間にある空気が、ポールを通すスリーブによって仕切られたコンパートメント(小部屋)になって閉じ込められてしまっているからなのです。

フライシートは、テントのスリーブに載せるように接して張りますね。つまり、テントとフライの隙間はスリーブによる壁ができて、そこに空気が密閉空間された小部屋を作ってしまうのです。つまり流れ出さないデッドエアです。そのため太陽熱はフライ通してデッドエアを熱し、その熱がテントの内部に伝わっていくわけです。その熱の伝導を防止するために、スリーブが途中で切れていたり、メッシュになっている等の工夫がされています。これであれば熱気が移動するため夏でもとりあえず使うことができますね。

「冬であれば、このデッドエアによってテントの中が暖かくなっているじゃん」ということも考えられますが、その通りです。この場合はフルタイプの裾が付いた冬のフライ(スノーフライ)を使えばいいのです。これはフライの裾を完全覆うもので、裾から空気が入り込



◎写真左はスリーブ式(アライtent)。中はスリーブ+フックのハイブリッドタイプ(コールマン)。右は吊り下げ(フック)式(モンベル)。



◎ベンチレーター。写真左はウォールの上部にあるもの。右はウォールの下部にあるもの。

まないようになっていきます。

一方、吊り下げタイプでは、基本的に遮る壁がないから、テントとフライの間を自由に空気は流れていきます。つまり、熱の籠りはスリーブタイプに比べたら相当少なくなります。

暑い時期には、テント本体とフライの間に隙間を作って風を通すことは、キャンパーの常識とも言えますね。

※前述でフルタイプのフライのテントがいいとしていますが、いかに風の通り道が作られているかについてもチェックが必要です。

・・・と、ここまでは主に「夏」の話でした。みなさん「結露」ってご存知でしょうか？ 冬に家でストーブをガンガン焚いていると、窓ガラスの内側にびっしりと水滴（露）が付いていますよね。アレです。あれがテントの中でも起こるんです。テントの中の空気が、スカウトの息や身体から発散される水蒸気と体温で満たされたところに、テントが周りから冷やされると、外気と内気の間にある幕（布）に触れた水蒸気冷やされて露となるわけです。これの対策としては2つあるんですが、その1つが先に述べた「スリーブタイプ」。このコンパートメントでデッドエアをためるんですね。要するに外気温が直接テントにつたわないために、結露がすくなくなるのです。もう1つの方法は次項の換気による方法です。

●メッシュの換気窓（ベンチレーター）

基本的には、充分に換気ができる「窓と扉」（ベンチレーター）があることが必要です。特に大型・中型テントでは扉を含めて4方向に、小型テントでも2方向にほしいところです。

出入口が2つあるテントでは、入口と出口は基本的に対向する面に設けられています。両方とも大きく開くのであれば換気上は特に問題はありません。しかし、例えば、真面目な新入隊員などキャンプに不慣れな人は、夜間の出入りの時にテントの扉を無意識に全部閉めてしまうことがあり、そういう場合に他にベンチレーターがあれば換気を確保できます。また、日本では昼と夜で風向きが異なるところが多いので、4方向にベンチレーターがあれば快適に過ごせます（いちいち風向きに合わせてテントに入口を移動しなくてもすみます）。

また、今派のテントはフルフライタイプが多くなっているため、テント本体（インナーテント）には、通気性を持たせたものも多くなっています・・・が、それでもベンチレーターは必要です。

なぜベンチレーターが必要かというと、人の息に含まれる二酸化炭素や水蒸気、身体から発散される熱や水蒸気、その他口臭や体臭などを素早く排出し、新鮮な空気を取り入れるためです。また、前項の「結露」の原因となる水蒸気と温度も下げることができます。

特に、酸素が不足したり、二酸化炭素の濃度が高くならないよう

に気をつけてみましょう。もちろん一酸化炭素もです。一酸化炭素の方は、テント内で炭を焚くな、ガソリンランタンを灯すな、ストーブをつけるななど一般的に言われているので、安全意識がはたらきますが、二酸化炭素には意外と注意を払われていません。息苦しくなるから程度の認識です。

狭いテントで寝ているとき、人の息に含まれる二酸化炭素がテント内に徐々に排出されます。呼吸によって酸素が消費され、二酸化炭素が増えます。空気中には酸素は約 20% ありますが、扉や窓を全部閉めきっていると、二酸化炭素はどんどん増えて、更に空気よりも重いので、テントの下の方、つまり寝ている人を包み覆っていくのです。そのため多くの人が寝ることによって必要な酸素が不足して(12%以下になると) 窒息してしまうというコトが起こり得ます(いわゆる「酸素欠乏症」そう酸欠の原因)。二酸化炭素は普通の状態で 0.03% 程度しか空気中に含まれていません。それが 5% になると頭がボーッとし、10% を越えると身体が震え耳鳴りがし、意識がなくなってしまうとのことです。（こんな濃度に達することはまずありませんが!）最近のテントでは、ベンチレーターがボトムの辺りの低い位置についているものも出てきました。

もちろん、ベンチレーターがあっても、それが閉じられていたら意味がありませんが、特にドームテントでは密閉性が高いことから、きちんと機能するベンチレーターが必要となります。同時に、どの程度それを開けるかも知っておかなければなりません。これもテントによってまちまちですので、実際に使ってみて状況に応じた開け具合を研究してください。

また、窓やベンチレーターにメッシュの網が付いていれば虫が入ることを防止できます。虫がいるところで使用する場合は、メッシュ付を勧めます。冬山用は吹き流しのような形状で先が巾着のように絞れるようになっています。ちなみにメッシュはついていません。

私は、冬でも横窓のベンチレーションは半分以上は開けています。夏は全開です。（ちなみに使用テントは前述の「モンベルのムーンライト5」です。P.42 下写真）

●テントの色

通常我々が使っているテントはアースカラー系の自然に溶け込む色合いのモノが多いですね。各社のラインナップもその傾向となっています。アースカラーは、身近にある自然物に似た色合いですから、目にも優しいですし、色による精神的なストレスもほとんどありません。自然の中でゆったりと安らぐために適した色合いです。

それに対して山岳用テントは、視認性を考えて、とにかく目立つことを第1に考え、赤系や黄色系の目立つ原色系の色づかいとなってい

●表 2-1-6 主なメーカーの（ボーイ班用？）ドームテントのスペック比較（重量・価格は付属品込み）

メーカー	型式	フライシート			テント本体			インナー Top 高さ	難燃 加工	ポール 材質*	全重量	価格
		厚さ*	耐水圧	UV	フロア厚*	耐水圧	フロアサイズ					
スノーピーク	ランドブリーズ6	P75D	1,800mm	不明	P210D	1,800mm	300x300	H165	×	7001	9.7kg	¥62,800
コールマン	タフワイド ドーム 300	P75D	2,000mm	○	P210D	3,000mm	300x300	H190	不明	ジュラルミン	11.2kg	¥44,100
モンベル	ムーンライト7	P75D	1,500mm	不明	N210D	2,000mm	280x280	H175	○	7071	8.4kg	¥62,800
小川テント キャンパル	スクート DX6	P75D	1,800mm	○	PVC	10,000mm	280x280	H180	不明	7001	11.6kg	¥86,100
ロゴス	プレミアムジオ ドーム 270-L	P 不明	1,700,mm	○	P 不明	3,000mm	300x300	H190	○	7075	10.0kg	¥36,399

* P：ポリエステル、N：ナイロン

* #7001,#7075 は、超々ジュラルミンの種類

ます。これは遭難した場合の捜索で発見しやすいためです。熊よけという話も聞いたことがあります・・・。

キャンプの目的がリラックス、リフレッシュなのであれば、真っ赤なテントの中では過ごしたくありません。かえって気分が悪くなってしまう。しかし、山に登るという相当のリスクを伴う行動をする場合には、こと色づかいについては視認性を最重視しなくてはならないでしょうね。(んー、だったら秋の紅葉時期にはどうすんだろ。紅葉と一体化しちゃうじゃないの?)

それと、ほとんど関係ないだろうけれど、虫を寄せ付けやすい色(赤系)、熱を吸収しやすい色(暗い系)、反射しやすい色(銀・蛍光色)ってのがあります。そんなのも考慮してみましょう。

●テントの防水

防水とは水を通さないこと、撥水とは水を弾くことをいいます。

テント生地の中でも、フライシートとフロアは、通常ウレタン樹脂やアクリル樹脂をコーティングして防水加工した上、外側に撥水処理が施されています。ただし、フライ付のテントでは、ウォール(本体)には防水加工が施されていない、撥水加工に留まっていることが多いようです。防水については、普通は上からの雨のことを考えていますが、それだけでなく地面の濡れへの対策についても考えなくてはなりません。

布状のモノを箱形にするのですから縫ったり溶かして接着するなどの加工が必要です。溶融加工は防水性が確保できますが、縫い合わせる場合は糸を通すための針穴があいてしまうので、そこから浸水が起きます。その穴を塞ぐものがシームシーリング剤です。チューブの液体状のものとシームテープがあります。シームシーリング剤は縫い目にそって表裏の両面からうすく塗布し、よく乾燥させてください。シームシーリング剤は時間とともに硬化してきます。剥離したときには塗布しなおしてください。シームテープは、テープの片側が接着面になっていて、縫い目の上から覆うようにそれを貼って、アイロンで熱を加えて圧着することで防水します。

今のジャンテンやAテンのグランドシートは本体とは別になっており、PVCの布をバスタブ型に折って整形し、多少の冠水でも水が入り込んで濡れないように継ぎ目や織り目は溶融接着されています。ドームテントでは、生地素材はほとんどがナイロンでそれが糸で縫い合わされています。基本的にはシームテープで縫合面に防水処理をしていますが、フライシートのベンチレーター部やファスナー部分、ボトムシートの一部など、製造の都合上または構造上シームテープが施せない部分にはシームシーリング剤が充填・塗布されています。

多くの場合ウォールとフロアの縫い目には防水加工はされていないようです。有名メーカーのものであれば、購入した状態でも通常の雨には十分対応できますが、長時間の大雨や横なぐりの雨、地面に雨水が溜まっているよう砥状態では、縫い目から雨水が侵入することな

いとはいえないので、必要に応じて縫い目にシームシーリング剤(目止め液)を塗布してください。

このように、買う際には縫製部分にはシームテープによる防水処理が施してあるか、それらが隙間なく溶融接着されているか、コーナーの立ち上がりの全ての縫い目にはシームシーリング剤の防水処理がされているかを確認します。これは大きなポイントとなります。

ただし、シームテープも完全ではありません。長年使っているうちにシームテープが剥がれてしまうことがあります。その場合は、アイロンを使って再度貼り付けるか、新たなシームテープを貼るかのどちらかになります。シームシーリング剤は縫い目にそって表裏の両面からうすく塗布し、よく乾燥させてください。シームシーリング剤は時間とともに硬化してきます。剥離したときには塗布しなおしてください。

もちろん、メーカーに修理を依頼することも可能です。モンベル、スノーピークはほぼ全部の修理を受け付けてくれますが、外国のメーカーのものについては、修理をしてくれないモノもあります。スカウトであれば、プログラムの一環として、自分達でこれらの処理はしたものです。

さて、テント生地そのものの防水性については、その強さを「耐水圧」で表しています。その値は、傘で500～1,000mmとされています。レインウェアなんかだと20,000～40,000mmなんてものもあります。実際にこの数値がどのレベルを表しているかやその有効性については研究したことがないので、ここではいくつかの有名メーカーのカatalogスペックでテントの防水性を判断することにします。モンベルでは1,500～2,000mm、The North Faceでは1,500mm、スノーピーク3,000mm、コールマン2,000mmとなっています。トップメーカーであるこれらが採用して製品化しているのですから(もちろん実証しているんでしょうから)、このくらいあればよいのでしょう。

防水で思い出すのは、10年ほど前のWB研修所のことです。ピーパーとベンチャーコースが併設だったため、参加者用にホームセンターで新たにコールマンのドームテントを購入しました。2日目から大雨になり、3日目の朝に参加者の1人がSOSを求めてやってきました。テントが水没したというのです。あわてて現場へ行くと、なるほど凹地に張っていたために水深約20cmほどの水たまりにテントが浮いていました。いや正確には浸かっていました。中はびしょびしょで悲惨な状態になっているだろうなあと覗いてみたところ、中では参加していたOGE11が嬉しそうにゴロゴロとごろごろ回っているのです。

「???」

するとOGE11曰く

「ウォーターベッドです!!」

・・・と。新品だったからでしょうが、全く水漏れ無し。完璧。コールマン恐るべしでした。



スノーピーク
「ランドブリーズ 6」



コールマン
「タフワイドドーム 300」



モンベル
「ムーンライト7」



小川テントキャンパル
「スクート DX6」

●フライシートの形状

次にドームテントのフライシートについて見ていきましょう。機能や材質については、先に述べた通りです。ここでは、その形状とその機能性について述べていきます。

まず、フライシートは入口(前室)もふくめて全部(裾は除く)を覆う「フルタイプ」のフライであることは絶対条件と書きました。その理由はいくつかあります。

まず、耐候性。要するに天気に対するものです。雨を遮る、日光を遮る、保温する、風を受け流す等の性能がここでは求められます。

「雨を遮る」については、防水性のトコロでも述べたように、多くの場合ウォールとフロアの縫い目には防水加工はされていません。つまりここに雨が当たるとその縫い目から水が浸入してきます。それを防ぐためにもこの部分がフライに覆われていることが必要となります。

「日光を遮る」については、「スリープタイプの問題」でも挙げましたが、フライとウォールの間の隙間の空気をよどみなく流して行くことが必要となるわけです。

「保温する」は、スノーフライを使うか、フライの裾を雪で覆ったり、落ち葉で覆ったりして空気の流入を防ぐことでデッドエアを作り出すことが保温に繋がります。かつて解体して広げた段ボールを縦長に切って、それをぐるっとテントの周りに立ててピンで留めて、風の侵入を防いだことがありました。効果は・・・という、余りに寒くて、また比較のしようがなかったので解りませんでした。普通のドームテントで雪中キャンプをする場合は、雪のブロックを積んだ壁でテントの周囲を覆うことで風がフライの裾から入るのを防ぎます。

最後は「風を受け流す」です。基本的にドームテントは曲面で構成されていますから、家型テントのように「面」で風に正対して踏ん張る必要はありません。ドームテントでも小型～中型のものであれば問題ないでしょうが、大型の背の高いドームテントだと、ポールの強度やフライシートの形状が耐風に大きく影響します。特に前室部分がオーニングとなっているテントはオーニングの面に傾斜があっても基本的には平面ですので、もろに風圧を受けています。開閉する際には注意が必要ですし、ポールの材質や構造がヤワだとつぶれてしまいます。三角形に張り出したモノの方が風を切ってくれるのはいうまでもありません。オーニングの面では風を受けないようにします。

●ドームテントのグランドシート（ボトム）

家型テントのグランドシートではなく、ドームテントのフロアの下に敷くシートのことです。テントの下にグランドシートを敷くようになったのは、いつの頃からでしょうか。今は有名メーカーのカタログにもその商品が掲載されています。

どうして、テントの下にシートを敷くのでしょうか。汚れ防止？ 防水対策？ 保温性アップ？ 何れもピンと来ません。この本を書くた

めにいろいろと調べていたところ、なるほどという記事に出会いました。それは「それまでテントのフロアはPVCが主役だったが、ドームテントが主流になってから、軽量化のためにナイロンやポリエステルに防水加工したものを使うようになった。PVCに比べて薄目のテント底に不安を感じたのとそれを保護するためにグランドシートを敷くようになった」とのことです。なるほど。

でも、前述のちゃんとしたテントメーカーならボトム(テントの床・底)に適した厚さの素材を使っていますし、防水性能もそう簡単に劣化することはないはず。モンベル 150 デニール、The North Face 70 デニール、スノーピーク 300 デニール、コールマン 210 デニールとなっています。

そういえば、ウチのカブ隊もブルーシートをフロアの大きさに揃えて折って敷いています。まあ、ウチの場合は経年劣化によりフロアの防水性能が劣ってきたための対策です。よく見るとフロアから大きくはみ出しちゃっています。それじゃだめでしょう。それだと水を招き入れちゃうでしょう。ったく。

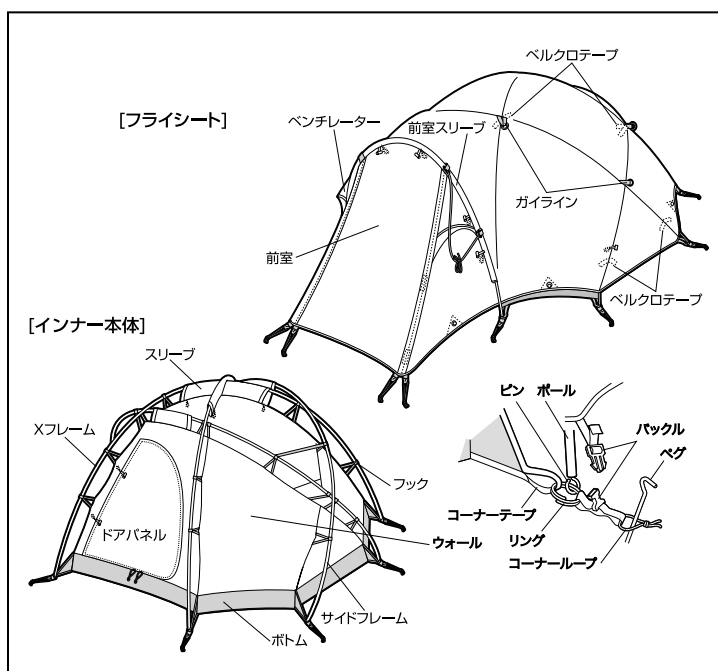
●テント火災対策

一昔前のアウトドアブームの時は、テント火災のニュースをいくつか聞いたものですが、最近はほとんど聞きません。それは、テント生地に防燃加工や難燃加工が施されているものが多くなったからでしょう。カブやボーイのキャンプでは、テント内で火気を使用することはないでしょうが、この難燃加工・防燃加工も購入の際のチェックポイントの1つです。

ちなみに、テント火災を防ぐには・・・

- テントとテントの間隔は6メートル以上あけること。
- 小さいテントの中ではストーブやランタンなど火気を使用しないこと。
- テントの中ではタバコを吸わないこと。
- テントの近くに緊急の消火用水として水を入れたバケツを用意すること。

●図2-1-7 ドームテントの各部名称(スノーピーク・ランドブリーズ)



●防水スプレーは撥水剤

通常防水液(防水スプレー)として売られているのは撥水剤です。撥水処理はテントの防水性を補強するもので、撥水性が弱くなるとテントの防水性にも影響します。フライシート表面の水が水滴になって落ちずに、生地上で広がり濡れるようだったら撥水剤を塗ります。



○万一火事になったら直ちにテントから脱出すること。防燃加工や難燃加工がされていないものは、あっという間に燃えてしまう。身の回りのもの持ち出そうなんて考えてはいけない。ということです。これも覚えておいてください。テント生地に防燃加工や難燃加工が施されているいないに関わらず、これは守っていきたいものです。

●メンテナンス性を考える

テントを長持ちさせるには、使った後のメンテナンスが大切です。この作業がたいへんなモデルだと、メンテすることが億劫になるので(私がその典型)、できるだけメンテナンスが楽なテントを選ぶってコトも大切です。

ポイントは、洗っても大丈夫なもの、リペアがしやすいもの、カビが生えにくいものです。そんなものを選びましょう。

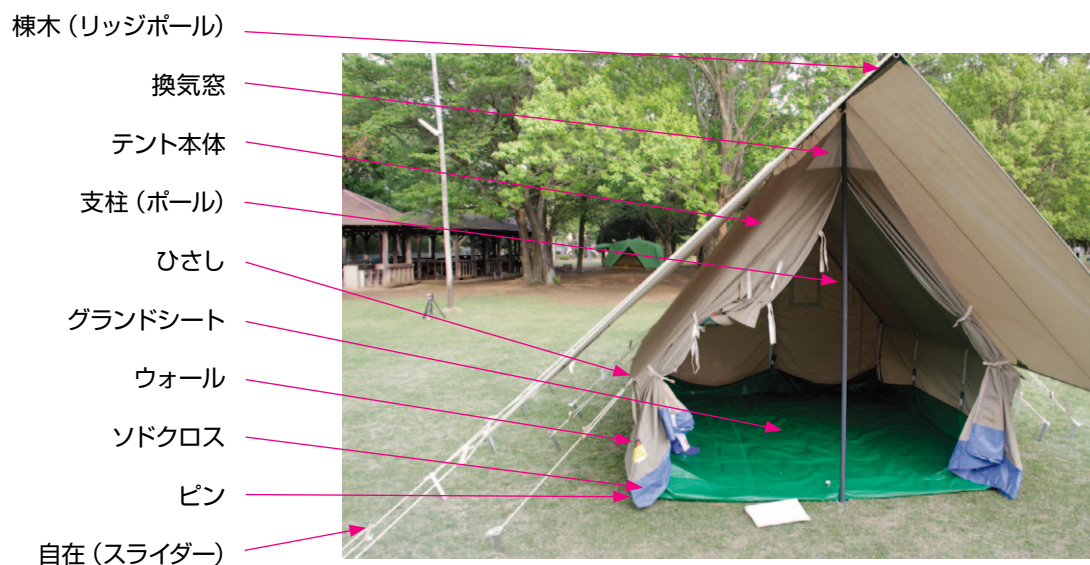
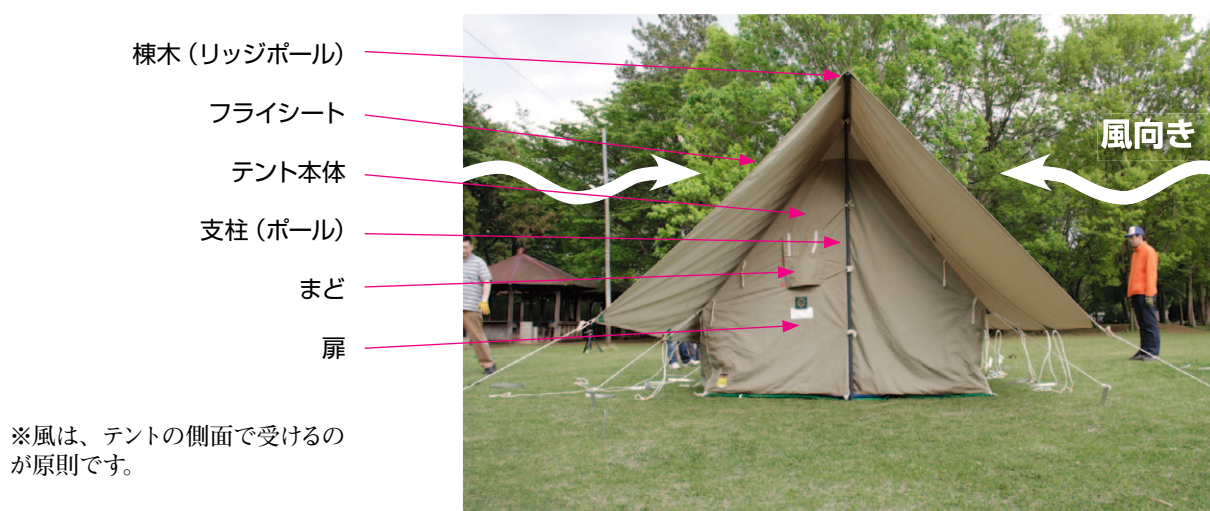
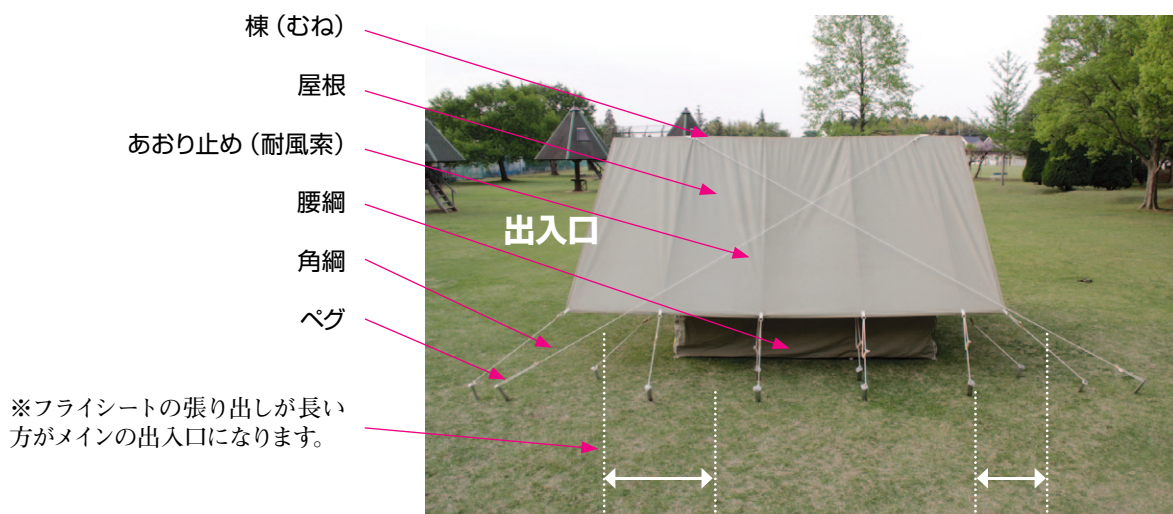
メンテナンスについては、P.000 を参照してください。

カビは絶対に生やしてはいけません。これはくれぐれも守るようにしてください。ジャンボリーから帰ってきてコンテナを空けたらカビだらけだった・・・はよく聞く話です。

よく「ナイロンだからカビは生えないもんねー!」と言っている輩がおります。確かにその通りで、ナイロン自体にカビは生えません。カビが生えるのは、ナイロンに付いた食物カスや油脂などで、そこに生えたカビの菌糸がナイロンの織り目に入り込んでいくのです。そうになったら、もう洗っても落とせません。高圧洗浄機でも試しましたが、ダメでした。しばらくしたらまたそこからカビが生えてきてしまいました。・・・ということがないように、絶対にカビを生やさないようにしましょう。もし貸し出してカビを生やされてしまったら、新品を買ってもらいましょう。その位の意識を持ってテントは管理してください。

1. 指導者テント（ジャンテン）を正しく建て、また、きちんと収納する。

【各部の名称】



【準備編】

①



①セットを確かめる

指導者用テント（通称ジャンボリーテント・ジャンテン）は、3つの袋に収納されている。1つ目は、テント本体とフライシート、グランドシート。2つ目は、テントポールとリッジポール。3つ目は、ペグとピンだ。

特に注意が必要なのは、テントの型や収容人数、また、製造した時期によって、ポールの長さが微妙に違うこと。そのため、正しいセットを選ぶ（→購入時に識別名称を記入しておこう）。

②



②それぞれの中身を確認する

テント本体、フライシート、グランドシートはあるか、どの順序で入っていたか、ポールは数は揃っているか、ペグ（ライン・綱を固定するもの）、ピン（テント本体を固定するもの）の数は揃っているか、また、折れたり曲がったりしていないかをチェックする。

できれば、綱の状態、スライダーの状態も確かめたい。

【設置編】

③



③地理的条件、気象条件を考慮してテントを建てる位置を決める

設営地に着いたら、まずは地面の傾斜がほとんどないけれど、ゆるやかな凸地になっているところを選ぶ。これは寝ている間に斜面の下に寄っていかないように、また、雨水がテントの床下に溜まることのないようにするためだ。

位置を決めたら、小石や小枝を取り除き、整地する。

キャンプ中の風向きを予め調べておく。指導者用テントでは、風は棟に対して垂直に当てて受け流すのが基本だ。入口が風下にならないように位置を決め、グランドシートを置く。

バスタブのように各辺のウォールが立ち上がっているグランドシートは、写真のように、ウォールを内側に折って、床面だけが地面に接するように置く。

④



④ピン 4 本とテント本体を取り出す

グランドシートの 4 隅の外側に、ピンを 1 本ずつ置いて（刺して）おく。

次に、グランドシートの上で、テント本体を広げる。

⑤



⑤テント本体をグランドシートの上で広げる

テントを広げるときは、えいっと広げないで、写真のように、順序よくどくようにきちんと広げていく。これは、雨で地面が濡れている時に、テント本体のはみ出た部分を泥で汚さないようにすること→すなわち、テントを大切に扱うこと（おきての実践、スカウト精神を養うこと）に繋がる。

最終形は、テントの 4 隅が、グランドシートの四隅の上に来るように広げる。そのことを意識して広げよう（⑦に関連）。

⑥



⑥ジッパー（ファスナー）を全て閉じる

出入口（扉）、扉とウォールをつなぐジッパーは、全て最後まできちんと閉じておく。

テントは、角綱・腰綱でテント本体を引っ張ってピンと張ることで立つ。そのためテントを張る前にジッパーを最後まで閉じておかないと、テントが張り上がった時に、ジッパーが途中で閉まらなくなってしまい、困ったことになる（特に雨や風の時に）。

⑦



⑦ テント本体とグラウンドシートの 4 隅を合わせて置く

テントの 4 隅とグラウンドシートの 4 隅が一致するように、テント本体をグラウンドシートの上に重ねて置く。これは、テントの底の形を長方形にするためと、テント本体の裏（居室）側を汚さないためである。

※分かりやすくするために出入口部を上にはしています

⑧



⑧ テント本体の 4 隅についているループリボンにピンを通し、地面に固定する。

扉やウォールの下縁（ボトム）には、ループリボンが付いている。まずは、その 4 隅のループリボンにピンを通して、テントの 4 隅を固定する。これは重要なポイントだ。（ここではまだ 4 隅だけでいい。他のループリボンをピンで固定するのは⑨で行う。）

この時、グラウンドシートにピンを刺さないように注意する。テントのボトムはグラウンドシートよりもこころもち外側にする。

ピンは、⑧下写真のように、ウォールのボトムと地面の間に隙間ができないようにするために、ピンの頭までしっかりと地面に刺す。



⑨



⑨ テント本体の吊り輪（リッジループ）を表に出す

写真⑨のように、次の工程に向けてテント本体の棟にある吊り輪がいちばん上になるように出しておく。

※次の⑩と⑪の工程は、「撤収編」⑫⑬のようなフライシートのたたみ方がされているならば、スキップして OK。

⑩



⑩ フライシートをテント本体の上で広げる

写真⑩のように、フライシートも、きちんと解くように広げていく。

フライシートの棟の端から、「あおり止め（耐風索）」の取り付け位置までの長さが、左右それぞれ異なっている。その長い方をテントの入口側に持つて行く。

広げたら、結んであるあおり止めをほどいておく。

⑪



⑪ フライシートを折っていく

写真⑪のように、フライシートの重なっている上側の幕（屋根）を適当な幅で、棟（リッジ）と並行に折っていく。

次に、重なっている下側も同じように折っていく。

そして、折った下側を、テント本体の下に滑り込ませ、テント本体の棟（リッジ）の輪とフライシートの棟（リッジ）が接するように、テント本体をフライシートで挟み込む。

（撤収編⑫⑬の図を参照）



⑫リッジポールをテント本体の棟の吊り輪に通す

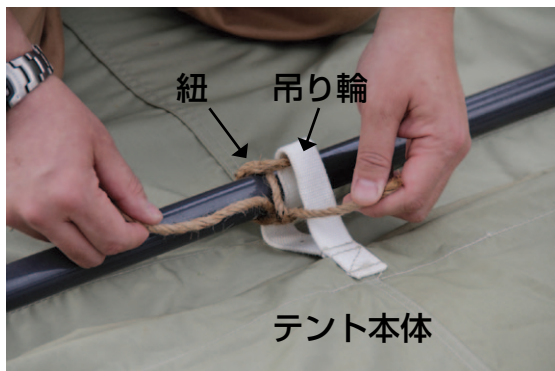
通常は、写真⑫のように、テント本体の棟に付いている吊り輪に、リッジポールを通す。

※雨の時にフライシートを張ったままテント本体の撤収ができる方法を県連では採用している。その手順は次の通り。

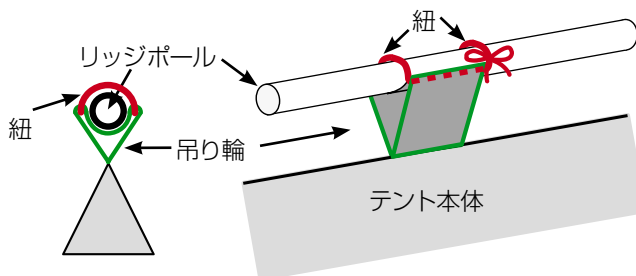
※テント本体を吊り下げている吊り輪の工夫

ここがこの雨対策仕様の部分。とても簡単な工夫だ。

○用意するのは 50cm の細引き又は太めの麻紐：4本



テントを建てる際に、普通は、吊り輪をリッジポールに通すが、この方法はポールに通さずに、吊り輪をリッジポールの下から横直径のところまであてがい、下図のようにポールの上からまわした紐で結んで固定する（右写真と下図）。こうすることで、テントを立ち上げた後でも、結びを解くとすぐに本体が離れ、フライシートを張ったままテント本体を取り外してたたむことができる。



⑬



⑬フライシートのグロメットにリッジポールの端のフックを差し込む

リッジポールの上側の両端には、外側に向かってフックが付いている。それを折ったフライシートの棟の両端についているグロメット（ハトメ）にそれぞれ差し込む。



⑭



⑭とりあえず、一段落

ここまでで、とりあえずテントを建てる基本的な準備はできた。ここで、各綱（腰綱、角綱、あおり止め）を解いて伸ばしておこう。

実は、このフライシートの状態は、撤収のときにたたんでおくのがポイントなのだ。すると、取り出した時に、すぐこの形となる。（撤収編⑫⑬）

⑮

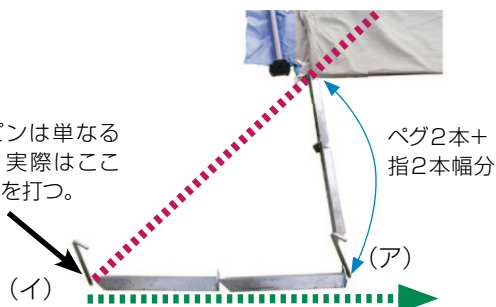


⑮支柱にテント本体を結ぶ（いちばん上だけ）

次は、テントの入口のジッパーの脇に付いている一番上の紐を支柱に結びつける。これは、支柱が高いので、あとで結ぶのがたいへんだから。（テント本体を折り曲げているため、全部の紐は結べない）

⑬

このピンは単なる目印。実際はここにペグを打つ。



⑭



⑮



⑯



⑰



⑱



⑬⑭ 予め網を張るためのペグを打っておく

写真⑬のように、ペグを打つ位置は、横にした支柱に対して、グランドシートの入口の辺の端から、その延長方向にだいたいい横にペグ2本分(ア)、そして、グランドシートの長辺の延長方向にだいたいいペグ2本+指2本幅分(イ)くらいを目安とする。

正確には、(イ) ペグの位置は、写真⑭のように、グランドシートの対角線の延長上(赤の破線)の位置になるように打つ。

また、ペグを打ち込む時は、打ち込み角度を保つために下図のように、足をペグの根本においてペグを押さえ、ハンマーでペグを打つこともある。ここで注意することは、ペグに対して直角の状態ではハンマーが当たるようにすることだ。ちなみに打ち込み角度は地面から 60 ~ 90 度が良い(よく言われる 45 度にするのではない)。



また、打ち込む深さは、地面の状態にもよるが、ピンのように頭まで打ち込まなくてもいい。硬めの地面であれば、10cm ほど残しても問題ない。要は、強い風が吹いてもテントを支えるだけの保持力が確保できればいいのだ。

(ちなみに、写真⑮緑の破線は、腰網のペグを打つラインで、矢印の延長線上に腰網のペグが打ち込まれることになる:⑳参照。また、写真⑭の赤の実線は、グランドシートの位置である。)

⑮いよいよテントを立ち上げる

テントのボトム(底)の4隅が固定されているので、支柱を立てるだけでテントは自立する。(これは指導者用テントの場合であって、A型テントは自立しないことはないが、構造上無理な力をかけられないので、自立させない方がいいでしょう。)

⑯支柱を地面に垂直に立て、ピンで本体をとめる

支柱の接地面は、グランドシートの短辺(入口側)の中央の外側の地面に置く。

続いて、扉のジッパーの脇に付いている紐を支柱に結ぶ。

また、ソドクロスはグランドシートの下側(地面との間)に差し込んでおく。そして、テント本体のボトム(下部)の周囲にあるループリボンにピンを刺して、地面に固定する。

このとき、支柱が直立していることを確かめること。

⑰テント本体の網(角網と腰網)を張る

⑬⑭で予め打っておいたペグに角網を掛ける。このときに注意するのはテント本体のウォールが弛まないようにすること(左図矢印)。ペグを打つ特に残しておいた頭部約 10cm の範囲でベストポジションを見つける。(写真⑱の黒矢印がウォール。写真⑲が弛んでいない状態。)

続いて、テント本体やフライシートの屋根がそれぞれ平面になるように、また、屋根の傾斜の延長上に(写真⑲の破線)、かつウォールが弛まないように腰網用のペグを打ち、腰網を掛ける。地面が平面であれば、写真⑲の緑の破線のように角網同士を結んだラインの上にペグがくるはず。地面に起伏(凸凹)があれば、ペグを打つ位置を調整する。

⑱フライシートの網(角網と腰網)を張る

フライシートのペグの打ち方、網の張り方は、テント本体と基本時に同じだ。



②②

フライシートを張るとき注意点は、テント本体の屋根とフライシートの間に空間を(青両矢印のように)とること。その間隔は、ひさしの端あたりでだいたい30～40cm位だろうか。

②③ペグを打つ位置

写真②③の破線のように、基本的には両サイドの角綱を結んだラインの上にペグがくるはず。ところが実際には、地面の起伏(凸凹)やテントやフライの経年変化などにより、テントやフライの屋根が平面になっていなかったり、ウォールが弛んでしまうことがある。そんな場合は、ペグを打つ位置を前後させたり、ペグを打つときに残しておいた頭部約10cmの範囲で調整する。

ペグを打つ位置は、「テントやフライの屋根を平面にする」「ウォールを弛ませない」ための位置という本来の意味を見失ってはいけない。



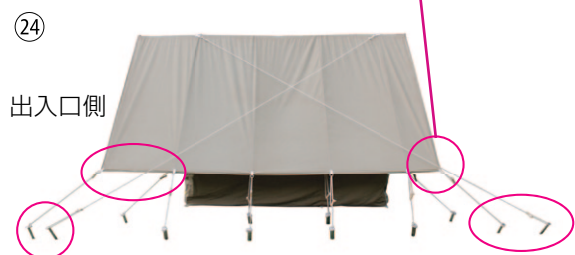
②③

②④あおり止め(ストームライン:耐風索)を張る

あおり止めは、強風でフライシートが煽られて飛ばされないように押さえるロープのことだ。このロープは、テントに接しないようにコブシ1つ位空けて張る(接して張ると、風が吹く度に擦れて布地が痛んでしまうから)。

また、あおり止めのペグは風で抜けないようにしっかりと打ち込むこと。煽られて暴れ回るペグはまさに凶器と化す。

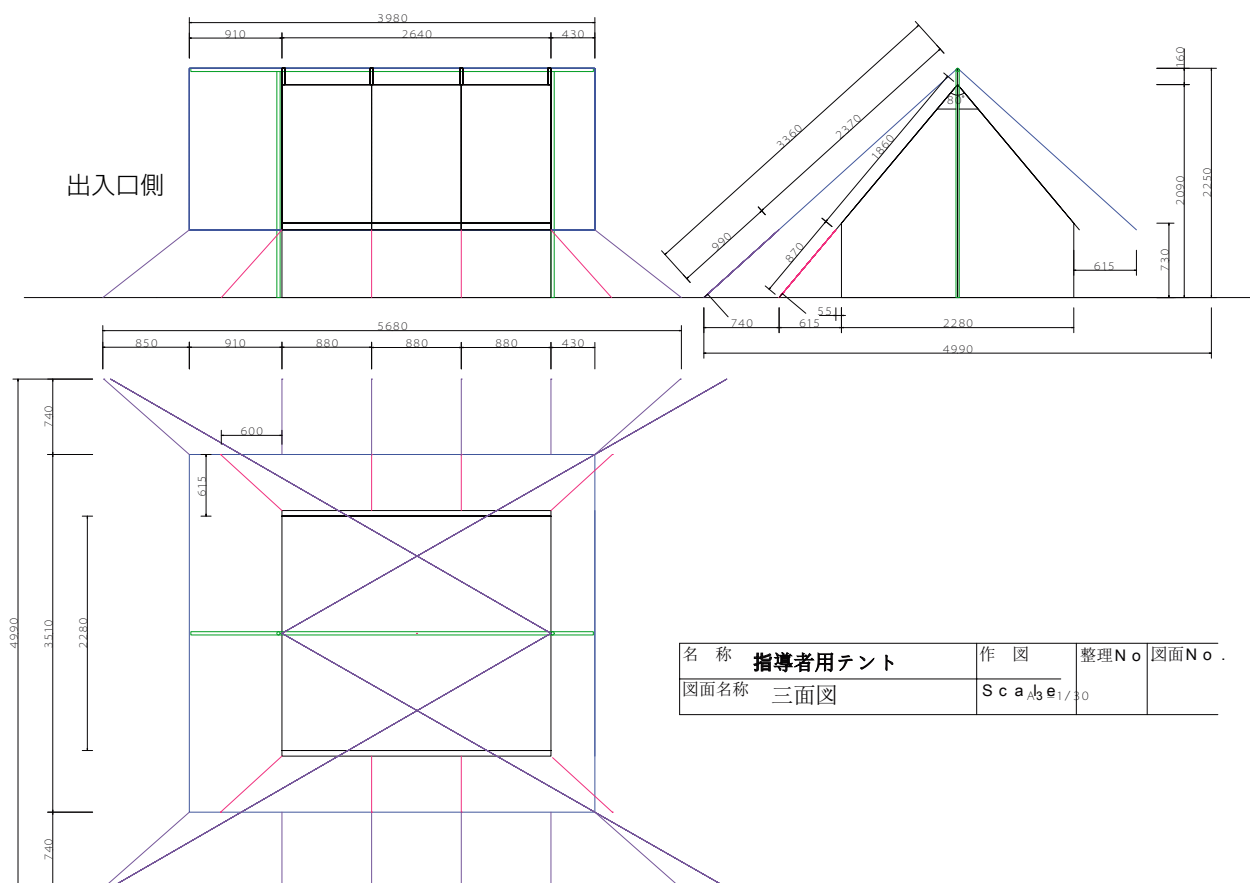
指導者用テントは、出入口と反対側は写真②④のようにフライシートの角にあおり止めがくるように張るが、出入口側は、フライの角ではなく、1つ目の腰綱の付け根あたりにくるように張る。これは、出入口側の角綱より先にペグを打たないで、動線を確保するよう、あおり止めの索の長さが短く設計されているからだ。



②④

出入口側

●指導者用テント (設計図面・3面図)



【撤収編】



●撤収は設営の逆の順序で！

ここで紹介する撤収方法は、雨でもテント本体を出来る限り濡らさないように工夫して設営した「雨天対策仕様」の撤収方法だ。そのため、通常の方法とはちょっと異なっている。茨城県連盟では、この方法を標準とし、各種の講習会・研究会ではこの方法を用いて指導することとした。

①グラウンドシートとテント本体、腰綱、角綱を外す

まず、テント本体とグラウンドシートを外す。次に腰綱→角綱の順にペグから外す。この時はまだペグはそのまま刺しておく。また、テント本体を留めていたピンは全て抜いて、ペグ収納袋の上に置いておく。

②腰綱、角綱を1本ずつまとめる

腰綱と角綱は、スライダーを綱端の輪まで下げて、輪になったロープは、それぞれ軽く引き解け結びでまとめてをしておく。

③テント本体を吊り下げている吊り輪の紐を外す

ここが県連で標準としているこの雨天対策仕様の部分。結びを解くとすぐに本体がリッジポールから離れる。

④本体をたたむ

本体をたたむときの注意ポイントは・・・

- 布の表と表、裏と裏を合わせる
- 汚れたところは汚れたところ同士を合わせる
- 紐は布の中に折り込む
- 四角になるようにたたむ

だ。

左の写真④はちょっと解りづらいが、下から順に

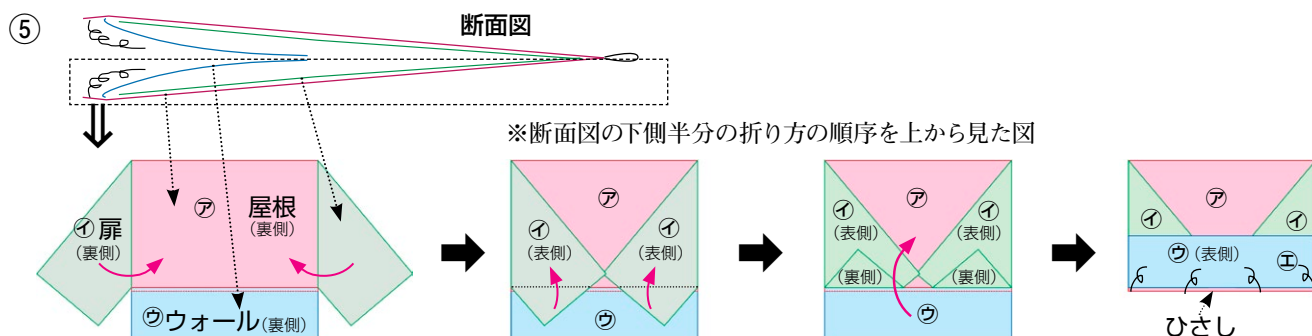
㊦屋根+ひさし → ①とびら → ㊧ウォール+ソドクロス
→ ①紐(腰綱・角綱) → ㊨ウォール+ソドクロス
→ ①とびら → ㊦屋根+ひさし

となっている。

⑤の図で解説すると、

- 片側(下側)の屋根+ひさし㊦をグラウンドシートの上に広げる。4隅のジッパーは開けておく。
- 次に扉①を台形に伸ばして上側に折ってのせる。そしてウォールと屋根の縫合線に沿って①扉のウォール側を折る。
- ウォール+ソドクロス㊧を伸ばして折る。
- 綱①も外に出ないようにウォールの上に載せる。

上側も同じように折っていく。(慣れてくると左右の扉のジッパーを閉じたまま折っていくことができる。)





⑥⑦収納袋に入る大きさにたたむ

本体は、棟に並行にたたんでいく。せっかく収めた布や紐が外に出ないように丁寧にたたむ。写真⑥のように、まず細長くたたんでから、写真⑦のように小さく、収納袋にジャストフィットするようにたたんでいく。そして袋に入れる。

如何にここをきちんとたたむか・・・が、スカウトとしてのこだわりだ。点検時のポイントにもなる。

グランドシートは、たたまずそのままにしておく。次のフライシートをたたむ工程でもヨゴレ防止のために使用する。雨が降っているいないに関わらず、テントはできるだけ汚さない工夫をしよう意識を持つことが大切。

※このタイプのグランドシートの材質は、水がしみ込まないの
で最終的に濡れても拭けば水気は取り去れる。材質が織布
のものは防水性があっても土の付着や経年変化で防水性が落ちているの
で、雨天時にはとりあえずそのものたたみ、直後の晴れた日に十分
な乾燥させることが大切だ。

⑧⑨フライシートをたたむ

次はフライシートをたたむ。

まず、角綱を残して、腰綱とあおり止めをペグから外す。外しながら②同様にそれぞれまとめて結んで（＊１）おく。ただし、あおり止めは⑩で結ぶ。この段階でそれを行うのは、立って作業が出来ることと作業の進捗が一目でわかるからだ。

左の写真ではグランドシートはたたまれてるが、広げておきます。

＊１

スライダーを綱の端の輪まで下ろして、綱を半分にした状態にする。それを引き解け結びなどで緩く結んでおく。



⑩リッジポールを外します

角綱を外して、フライシートを倒す。その時のポイントは・・・

- フライの布地の表と表、裏と裏を合わせる
- 紐は布の中に折り込む
- 設営の時に使いやすいようにたたむ
- 雨の時は、地面に着けずにたたむ

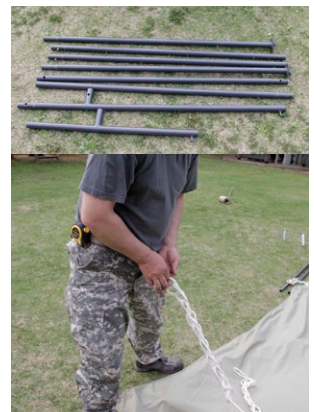
だ。

取り外したリッジポールは右下写真のようにまとめておく。

あおり止めは、「鎖編み」（＊２）などで短くかつすぐに解けるようにしておく。

＊２

あおり止めのスライダーを綱のつけ根ので上げて、綱を半分にし、つけ根の方から編んでいく。





⑪フライシートを広げる

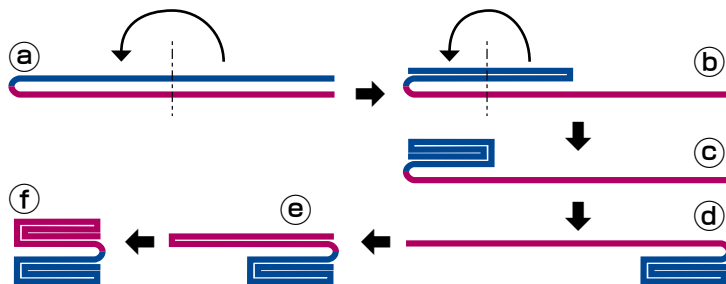
まず、フライシートを裏と裏を合わせて2つ折りにして、グランドシートの上に乗せる⑩（多少はみ出すが気にしない）。

⑫⑬フライシートをたたんでいく

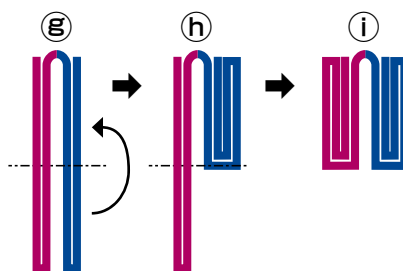
フライシートは、設営時にリッジポールを取り付けるためにわざわざ広げなくてもいいように、それを見越してたたむ。

①地面が乾いているときは、グランドシートの上に広げて、まずは上側をたたむ。

棟側に並行にまず半半分折る⑩。更にそれをまた半分に折って1/4にする⑪。次に、フライシートをひっくり返し下側を上にする⑫→⑬。そして⑫⑬のように1/2→1/4にする。



②雨の時は、2人で持って地面につけずに立ったままで行う。



●まず、角綱だけを残して他の綱はそれぞれまとめておく。

●片側の角綱を持って屋根を外側に2つ折りにした状態でリッジポールから外す。続いて⑧の状態にしなから、もう片方の角綱を外す。

●続いて⑨のようにそれぞれの屋根を半分にし、外側に折り⑩の形にしていく。

この何れの方法も、要は、たたまれた状態で「棟（リッジ）」部分が外側に出ていること、それを1つ広げれば⑩のようにポールが置けることが大切なのだ。



設営編⑭の形

⑭収納袋のサイズまでたたむ

フライシートは、一方向からたたんでいくのではなく、両端から中心に向かって半分に折り、それから収納袋のサイズに合わせて折っていく。

⑮収納袋に入れる順序

テント本体、フライシート、グランドシートを収納袋に収めるが、その順序はテントを建てるときの順序となる。「撤営は、次のキャンプの準備である」と言われるように、使う時を想定して収納していくこと。

まず最初に使うのは「グランドシート」。次に「テント本体」最後が「フライシート」となるから、その逆の順序で収納する。



⑯ グランドシートをたたむ

グランドシートも他と同様に収納袋サイズにたたむ。

ここで気をつけなければならないのは、地面と接触する面、すなわち汚れている面は表に出さないということだ。

もちろん、たたむ前にヨゴレを落として乾燥させるのは当たり前だが、それでも接地面を内側にする。それは、収納したときに先に入れたテント本体を汚さないためだ。

また、収納袋のサイズに合わせて折りたたむのは、袋に入れたときの嵩を高くしないということと、丁寧に作業を行いテントを大切に痛めないという「スカウトは質素である（ものを大切にする）」のおきてとスカウト精神の実践の意味もある。



⑰ ボールをしまう

ポールは接地面や他の部分のヨゴレをよく拭き取って、左写真のように、横に袋を広げて順に入れていく。

よく、右の写真のように袋を縦に持って、ポールを上から入るのを見かけるが、ポール収納袋の底を破くことに繋がるので、横から丁寧にに入れていく。



⑱ ペグを抜く

ここまでの作業が終わってからペグを抜く。ペグを担当する者がいる場合は、これ以前に抜いてもかまわない。ポイントはペグの数を実際に数えながら責任持って抜くということなのだ。

もし抜けない場合は、左写真のように、ハンマーで前後左右から叩いて地面との間に隙間を作って抜けやすくしてから抜くか、ハンマーを返しにひっかけて抜くか、ロープと棒でデコを作って抜く等の工夫をしてみよう。



⑲ ペグの土（泥）をとる

地面に打ち込んだペグだから、当然「土」が付いている。そのままだと、土に含まれる酸によって錆が出てくる。ペグをキレイな状態のまま錆びさせないことも、スカウトとしてのこだわりのひとつだ。

まず、写真のように、小枝や他のペグなどで、ざっと土を取り除く。次に、野営工作物を解体した時に出る麻紐や草木の葉っぱなどで、更にキレイに土を取り除く。



⑳ ペグ・ピン洗う

次に、バケツに水を汲んで、そこでペグをきれいに洗う。

手順①で抜いたピンも、ペグ同様に洗う。

※流し台に持って行って、そこでペグやピンを洗っているのを見かけるが、できるだけ現場で行いたい。その理由は・・・



②1よく拭いてから乾かす

ペグを洗ったら、雑巾等で水気をよく拭いて、乾燥させる。拭くことで乾燥が早くなる。

乾燥には、特に決められた方法はない。効率よく&確実に乾燥できればOKだ。

ただ、地面や草の上に直接置くのは・・・×だ。できれば写真のようにダンボールや新聞紙などの上で乾燥させる。それは地面に置くとせっかく洗ったものを汚したり水分が付くから。また②②の防錆スプレーをかける時に自然環境に影響を与えない・・・などの理由が考えられる。



②②防錆スプレーを塗る。

ペグやピンの水気が完全になかったら、CRC556のような防錆スプレーをかけて、ウエスでまんべんなく広げて伸ばしておく。

②③ペグ収納袋に頭から入れる

ペグは、とがっていない「頭(上部)」の方から、手順①⑦のポールと同様に、袋を横にして丁寧に入れていく。

そう、袋の底を破らないためだ。



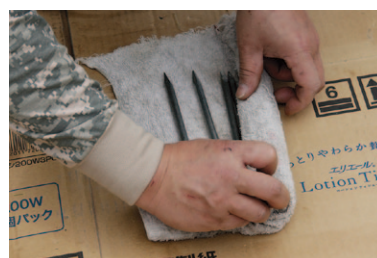
②④②⑤ピンはウエスにくるんでから収納する

ピンは、②②で防錆スプレーを拭いたウエス等にくるんで、やはり頭の方から袋に入れる。

入れる際には、受取時にチェックしたリストと同じ数のペグやピンがあるかを確認する。 もし足りないときは、とにかく探す。どうしても見つからない場合は、荷札やガムテープで「何がどれだけ足りないか」と「記入年月日」を書いてつけておくと同時に、指導者に報告する。



こうして、テント、ポール、ペグが、取り出したときと同じように3つの袋に収まりました。



2. ドームテントを正しく建て、また、きちんと収納する。

設営の基本パターンを覚える

同じテントでも、スリーブタイプと吊り下げタイプとでは勝手が違う。でも、タイプ別に張るコツをつかんでしまえば、フレーム構成、ポール本数、完成した形が違って、どんなテントでも張ることができるようになる。

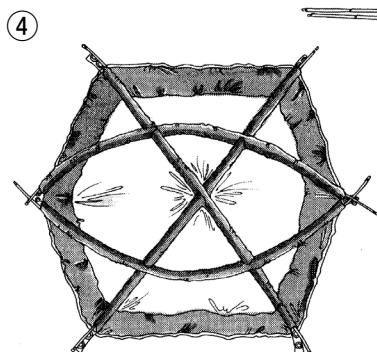
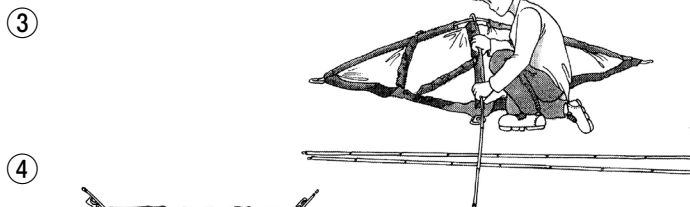
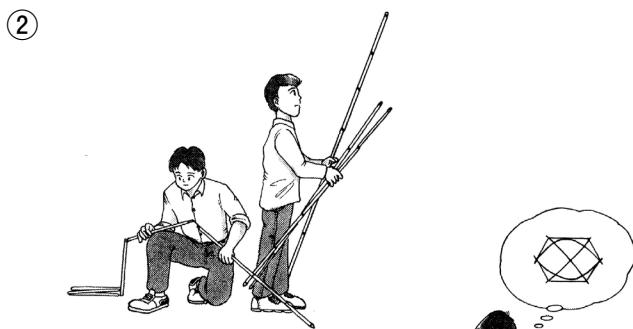
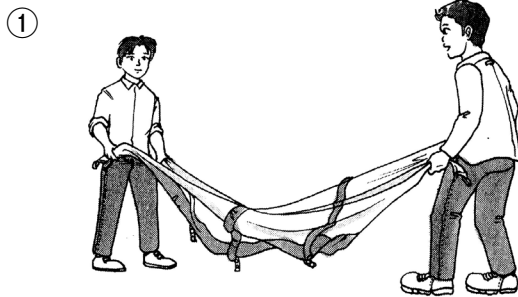
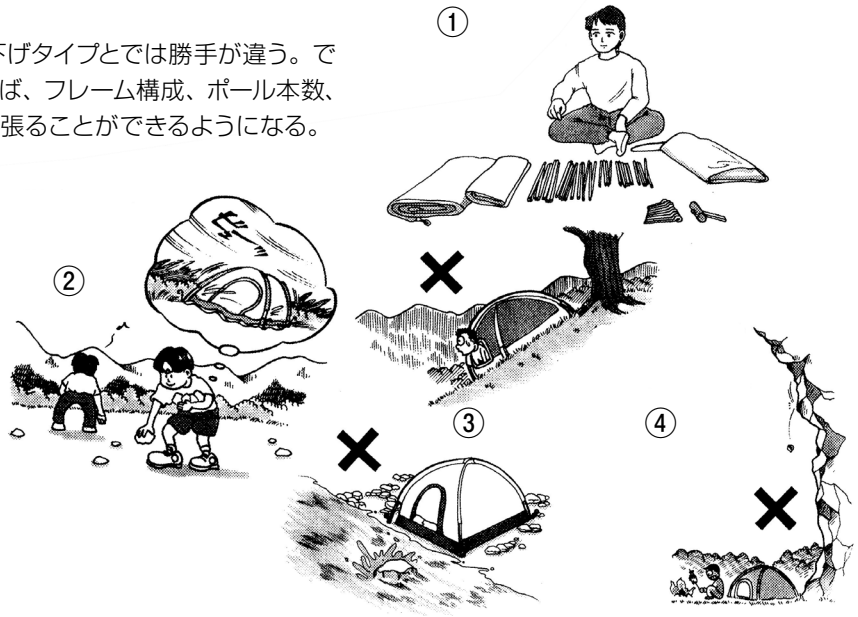
①キャンプ出発前には、必ずパーツの確認を忘れずに行う。数、状態など。

②風向きと傾斜のチェックと、設営場所の整地を。テントは風下に入口を向け、なるべく平坦地が凸地を選び、小石や枝等を取り除く。

③（上）多少の傾斜地ならいいが、斜面があるということは上から何かが転がってくる危険があるということを忘れてはいけない。

（下）河川敷や中州でのテント泊は絶対にダメ。キャンプ地は晴れていても、上流で集中豪雨が来れば、急な増水や鉄砲水の危険がある。

④崖の下もダメ。上に何かがあるということは、何か落ちてくる可能性があるということ。同様に、大きな木の下も、枝が落ちてくる可能性がある。まずは避けることが基本。



【スリーブタイプテント】

スリーブとは、ポールを通すための筒のこと。全テント本体に付いているスリーブにポールを通してテントを建てる、最もポピュラーなタイプのテントだ。

①スリーブが見えるように地面にテントを広げる

まずテント本体を、ボトム（床）を下にしてきれいに広げる。その時、テントの入口は空気が入るように多少開けておく。

出入口は風下になるように向けておく（風上だとテントが風を孕んでしまうので）。

②ポールをすべて組み（つなげ）、長さを比べる

ポールは全て同じ長さとは限っていない。そのため、全てのポールを組んで、長さの違いを確認しておく。

③完成したフレーム構成をイメージして、ポールをセット

左図のテントの場合、基本的には、対角線の×字形クロスポールから先にセットする。その後で残りのポールをセットする。

最近のテントは、スリーブの差し込み口が色分けされているものも多く、迷わずにポールをセットできる。

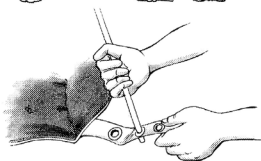
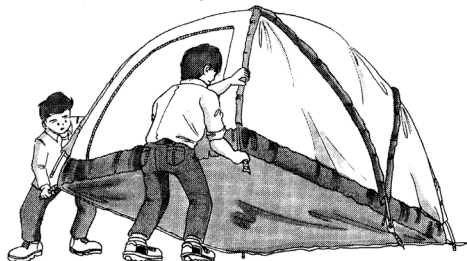
④ポールを全部通し終えたらできたも同然

左図のように、全てのポールをスリーブに通す。スリーブの途中で切れ目があるものは、ポールを全部通したところで、通し間違いがないかどうかを確認する。

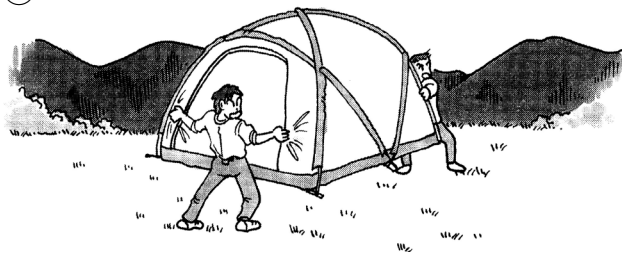
⑤



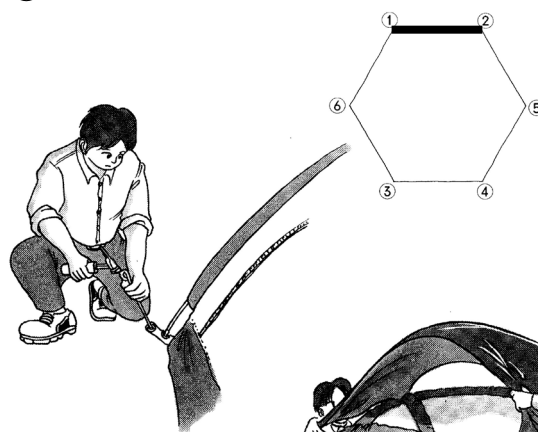
⑥



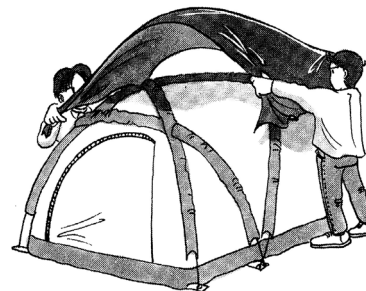
⑦



⑧



⑨



⑩



⑤ ポールの片側の先端をグロメットに固定する

まずメインの対角線クロスポールから固定する。1 辺の両端のポールの片側の先端をグロメットに固定する。固定の方法はメーカーによっていろいろなので、それに従う。

⑥ ポールをグイッとたわませ、テントを立ち上げる

片手でスリーブをたくすようにしながら、ポールをスリーブに突っ張らせて押し込む。スリーブを持っていた手をグロメット部に持ち替え、それを引っ張りながら、ポールをセットする。他のポールも同様にセットする。

⑦ 最終的な位置決めをして、テントを移動する

テントを立ち上げてから位置を変える時は、入口をかざしもに向ける。また、引きずるようなことはせず、ちゃんとテントを持ち上げて移動しよう。

⑧ ベグを打って（ベグダウン）、テントをしっかりと固定する

ベグはグロメットではなく、グロメットが付いたテープの先の輪に刺して打ち込む。決してグロメットに打ち込まないように。また、ボトムと各辺の張りがピンとなっているかを確認しながら、上図の順番にベグを打っていく。

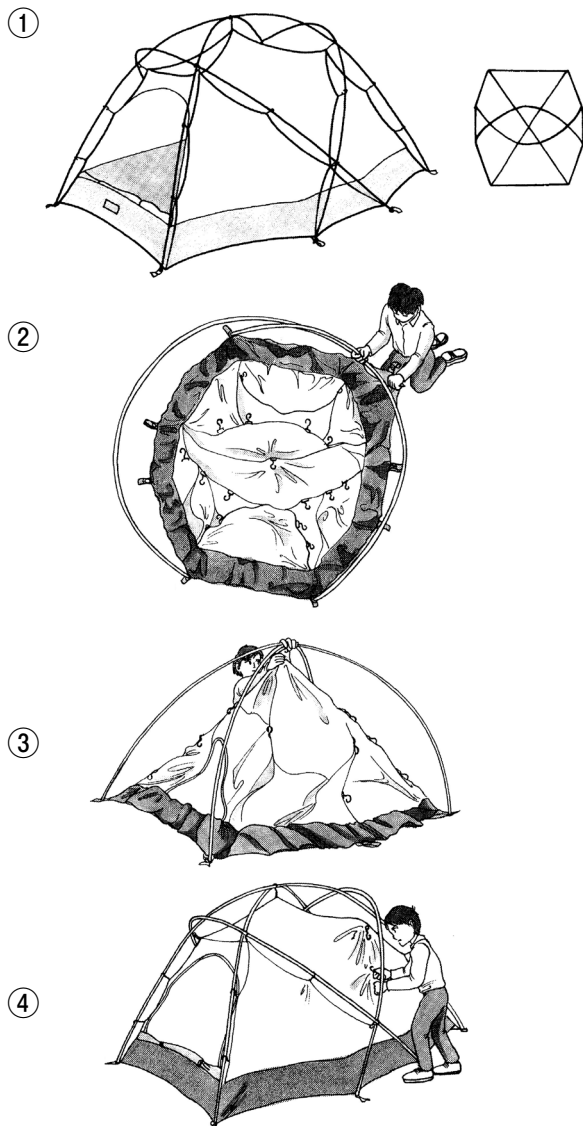
四角形でも八角形でも基本は、まず1辺をピンと張ってその両端をベグで固定し、次に反対の辺を同様に固定する。その次は横の辺と移っていく。

⑨ フライシートをかぶせる

フライシートの入口を確認（多くのメーカーでは入口にその会社等のロゴマークを付けている）して、セットしていく。小型テントならともかく、テント高がある大型の場合は、風下から風上に向かって風をはらませるようにフライシートをかぶせるとスムーズにいく。

⑩ フライシートもしっかり固定する

フライシートは、裾についているバックルやフックで、ポールを刺したテープのO環やD環などに取り付けていく。テント本体とフライとの間に隙間がなかったり、弛んで張りがないと通気性が悪くなるので、張り綱などで張って固定する。万一の天候急変に備えて、しっかりと固定する。備えよつねにだ。



【吊り下げタイプテント】

フレームを組み立て、そこにフックをかけるだけでテントが建てられる。テント本体が点で引っ張られているので、フライシートとテント本体との隙間が大きく、スリーブで通気が遮られないので、通気性はとても良い。

①フレーム構成を考える

まず、フレーム構成を考え、メインとなるポールからセットする。

②クロスポールの両端をグロメットに留める

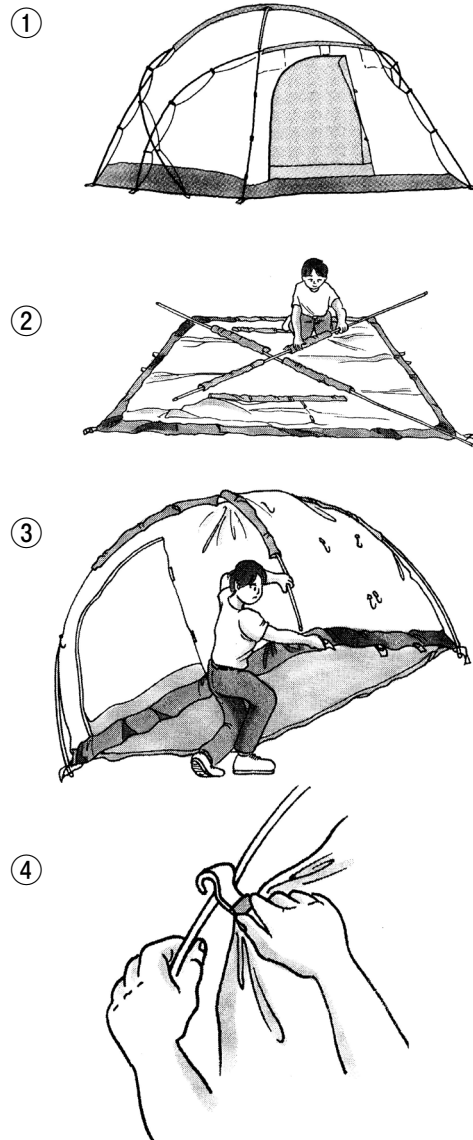
正面入口側のグロメットに2本のポールをそれぞれ差し込む。反対側に回りポールをたわませ対角位置のグロメットに固定する。

③ポールのカロス部分からフックをかける。

2本のポールをゆっくりと立ち上げ、天頂部でクロスした部分をフックで留めると自立する。あとは残りのフックを順番に掛けていく。

④残りのポールをセットしテントを固定して完成。

残った2本のポールを同じ要領でたわませてセットする。フック掛けが完了したら、入口を風下に向けて、ペグダウンし、フライシートをかける。



【スリーブ&フック併用タイプ】

大型テントだと天頂部が人の背よりも高くなる。すると、全部フックだと背が届かずフック掛けがたいへん。全部スリーブだとポール通しが面倒だしテントが重くなる。そこで登場したのがルーフ部をスリーブにしてサイド部をフックにしたこのタイプだ。

①スリーブ&フック併用タイプは、手軽に設営できることから、カブのキャンプに向いている。

②テントを広げてスリーブにポールをセットする

ポールの長さを確認後、ポールをスリーブに通す。それから入口側のグロメットに2本のポールをそれぞれ差し込む。

③思い切りポールをたわませ一気に立ち上げる。

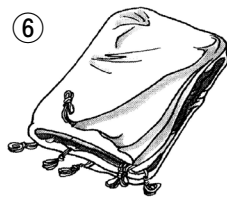
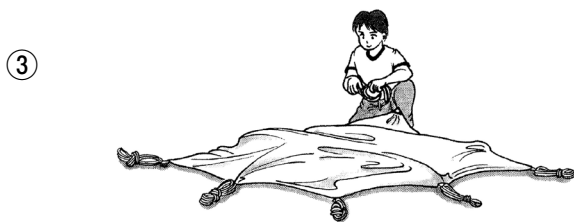
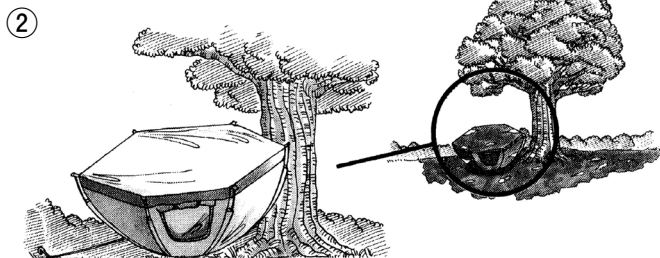
反対側に回り込み、ポールをグイッと押し出してたわませてグロメットに固定する。もう1本も同じように固定する。

④あとはフックを掛けて、アツという間にできあがり。

残りのフックを掛けてインナーテント完成。フライは出入口2ヶ所を接続し、後面に向けて風をはらませると楽に被せられる。

撤営はテントを乾かすところから

朝はぎりぎりまで寝ていたい。日常の生活では、起きてすぐに出かけられるが、キャンプの場合はテントを十分に乾かしてから撤収するので、十分な時間を見ておこう。



① テントはよく乾かしてたたむのが原則

ボトム（床）は地面からの湿気で、フライはテントの内外気温による結露でけっこう濡れている。雨が降っていない限り風通しのいいところで陰干しをする。（フライは裏返して、濡れている面を上にする。）

② ボトムの乾燥はテントをひっくり返す

ボトムの乾燥は、フライを外して、テントを逆さまにして行うと効率的。このとき風に飛ばされないように張り綱を引くのを忘れないように。ただし、ポールに無理な力がかかると折れることがあるので注意する。また、濡れている地面の上では行わない。

③ 張り綱は絡まないように束ねておく

フライシートについている張り綱は、1本1本束ねておくか鎖結びでまとめておく。また、濡れている時は、フライから外して、別に乾かしてから収納する。

④ フライのルーフ部は縫い目に沿って折る

まず、フライをふたつ折りにする。このとき縫い目で折らず、縫い目を少しずらし、縫い目に沿って折ると形が揃いやすい。それから、更に半分にする。

⑤ 四角になるように折っていく

次に、全体的に四角形になるように、いびつな形状に折り重なった部分を、折り込みながらたたんでいく。

⑥ バックルや金具をすらす

フライの裾にあるバックルや金具、そして張り綱などが、1ヶ所に集中すると、丸めたときにゴツゴツするので、平均にならす。

⑦ 収納袋のサイズに合わせて折りたたむ

テントの収納袋のサイズより一回り小さくなるように折りたたむ。

次にテントをたたんで、いっしょに収納袋に入れるので、とりあえず袋の側に置いておく。

⑧ インナーテント内のゴミを取り除く

小型テントなら、ペグを抜いてテントを縦にして持ち上げ、中のゴミをふるい落とすこともできる。

大型のテントでこれをやると、ポールに角の負担がかかり折れてしまうこともあるのでしてはならない。ハンディタイプのほうきで、テント内のゴミを掃き集める。

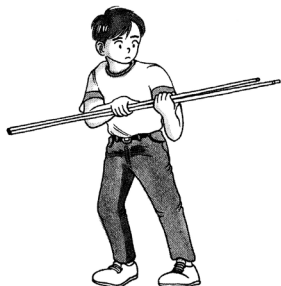
⑧



⑨



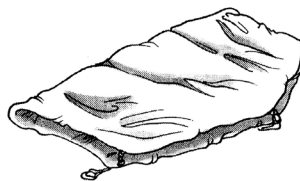
⑩



⑪



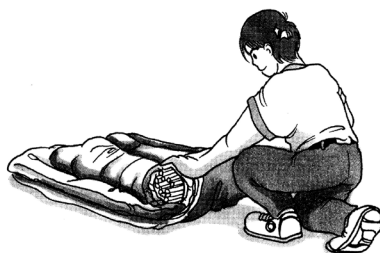
⑫



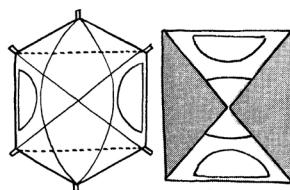
⑬



⑭



⑮



⑨ポールは押し出して抜くのが基本

ポールはショックコードで連結されており、引っ張るとジョイント部から外れてしまって抜きにくくなる。従って、スリーブタイプのテントの場合は、ポールを押し抜く。言われれば当たり前ののだが、意外と引っ張ってしまう人は多い。

⑩ポールは真ん中から外していく

ポールを端の方から抜いてたたんでいくのはダメ。まず半分に折り、また半分に折り・・・という具合に折りたたむ。こうすることで、中のショックコードが均等に伸び、コードの劣化が防げる。

⑪インナーテントは生地が偏らないように

ボトムをきれいに広げて、ウォール部の生地がなるべく平らになるように広げておく。こうするとたたんだときに形がいびつにならない。

⑫グロメットテープが重ならないように

きちんとたたむことを優先して、グロメットテープをぴったりと重ねる人が居るが×。⑥で述べた通り。

さて、まず、空気の抜けが言いように、扉や窓のジッパー

を少し開け、折ったときにドア側が残るように二つ折りにし、また同じ方向に、空気を抜きながら形を整え、折っていく。最終的に⑦同様に、今度は収納袋のサイズより二回り小さくなるように折りたたむ。

⑬ゴミを払いながらたたんでいく

インナーテントは、地面に置いてたたんでいくのが普通なので、地面のゴミが付いてくるので、それを払いながらたたんでいく。このとき最初に片側から一気に丸めて中の空気をしっかり抜き、巻いたのを半分まで戻し、同時にもう一つの端を巻いていく。

⑭フライシートに全てを巻き込んで収納する

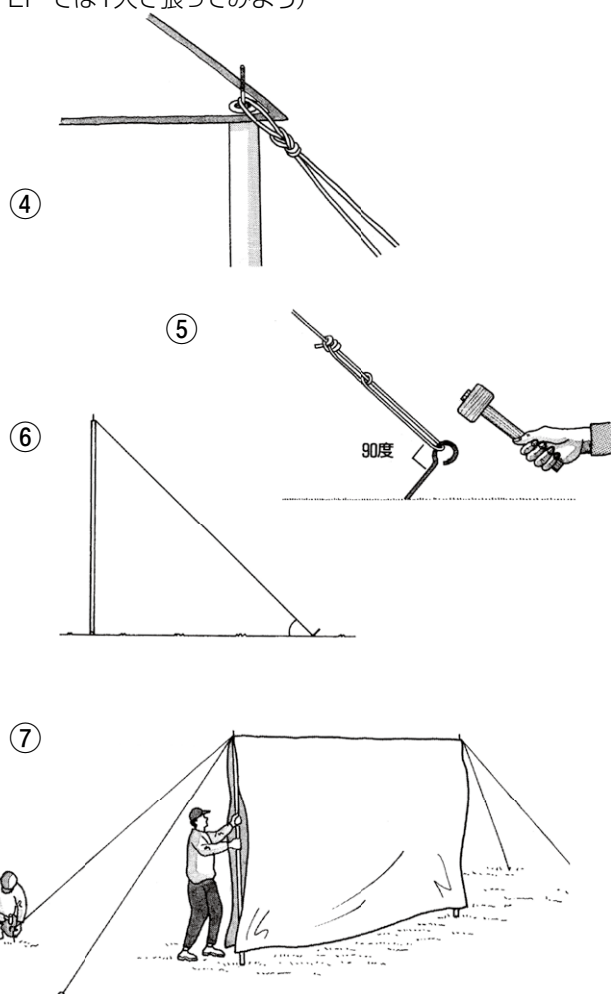
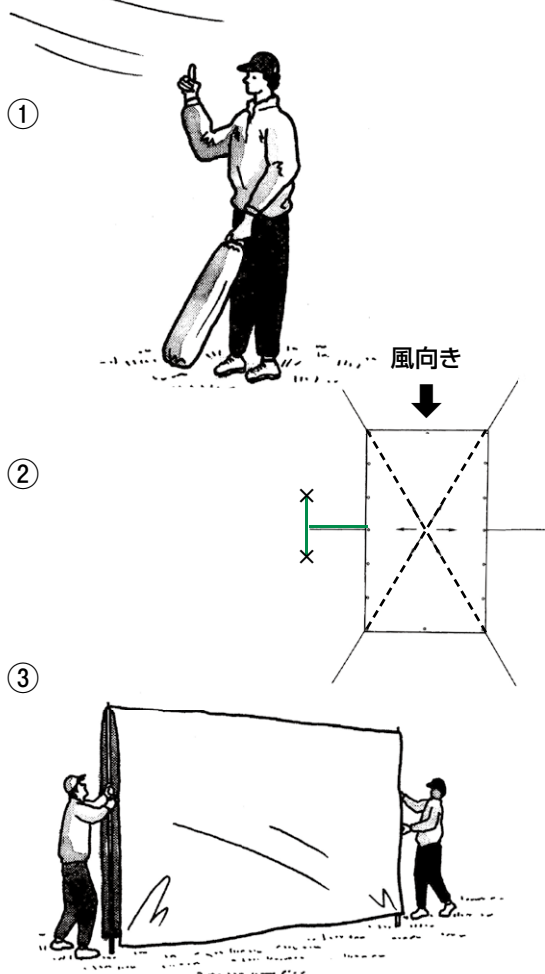
先にたたんだフライに、インナーを載せ、更にポールと、袋に入れたペグを芯にして、きっちりと巻いていく。そして、収納袋に入れて完了。

⑮毎回折り目を変えるのが長持ちに秘訣

毎回同じ折り目でたたむと、折り目の生地や防水処理が劣化していく。そのため、2～3パターンのたたみ方を決めておいて、毎回折り目を変えていくと、テントはより長持ちする。

タープを張る（野営法講習会では2人で張ったが、STEP では1人で張ってみよう）

ポイントは対角線とロープワーク



ここでは、スカウトキャンプのシーンで多く使われる6本のポールを使って張るレクタングラータイプについて説明する。

①地面と風向きをチェックする

なるべく傾斜の少ない場所を選ぶのがコツ。次に風の有無と風向きをチェックする。風が強いときは風上に対して棟線が垂直になるように方向を定めるのが一般的。

②タープ布を広げてポールと張り綱を各所に配置

方向が決まったら、まずタープ布を広げて、各ポール、張り綱、そして固定に必要なペグを所定の場所に配置する。このとき四隅のコーナポールをそれぞれタープ布の対角線上に置くのがポイント。

③センターポールを支えて位置と方向を確認

次に、タープ布を取り付けたセンターポールを2人で立ち上げ、センター位置の最終確認をする。風が強いときはタープ布の端を握って作業をするとい。確認が済んだら、センターポールの片側の張り綱のペグを②図の×位置にそれぞれ仮打ちしておく。（緑線のようにポールを使ってほしい位置を出しておく）

④ポールに張り綱をセットする

張り綱はタープ布のグロメットをポールに刺した上からセットする。これでフライを押さえ込む。

⑤ペグと張り綱の角度

張り綱に対してペグが90度になるように打ち込むのが基本。90～120度（地面とペグの角度は45～60度）の範囲であればOK。

⑥張り綱は角度に注意

地面に対して立ち上がり角が45度、また、ポールを中心に左右45度に張り綱を張るのが基本。2本取りの場合は60～90度以内になるようにする。

⑦センターポールを固定

1人が1本のセンターポールを支えた状態で③の仮ペグに張り綱を掛ける。反対側は、地面の状況に合わせて張り綱とペグ、地面に角度などに注意しながら、いちばん力強く支えられる位置を見つけ、仮にペグダウンしてポールを固定する。このとき、ポールの先端をやや外向きにセットする。



⑧対角線上に位置するコーナールポールをセットする

センターポールをセットしたら、まず対角線上に位置する2本のコーナールポールを固定する。張り綱は②のように対角線上に張る。2本取りの場合はポールを中心に左右30～45度以内になるようにする。⑧⑨では、張り綱はまだ仮張り。

⑨残りのポールをセットする

もう1組のコーナールポールを⑧のようにセットすれば、ポールの立ち上げが完了する。。

⑩位置が確定するまではペグは半打ち状態で OK

張り綱同様この段階ではペグも半打ちの仮打ち状態にしておく。⑪から最終調整に入る。

⑪張り綱をしっかり引いてタープ布のシワをチェック

ここで初めて張り綱に強いテンションを与える。タープ布にシワが無いようにバランスを考えてテンションを掛けていく。同時に張り綱がポールに対して、あるいは地面に対して正しい角度にセットされているかをチェック。問題がなければ各ペグをしっかりと打ち込む。

⑫ポールを正しい位置にセットし、タープ布に張りを与える

外向きにセットしていたポールを垂直近くに立ち上げるようにセットする。これによって張り綱では掛けきれないテンションをタープ布に与えることができる。

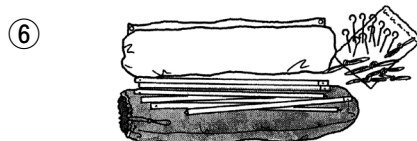
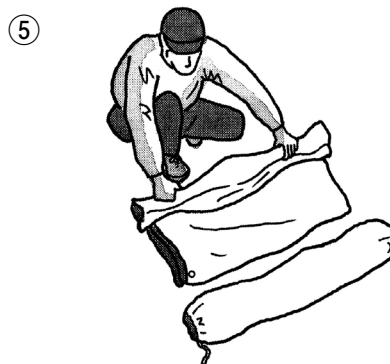
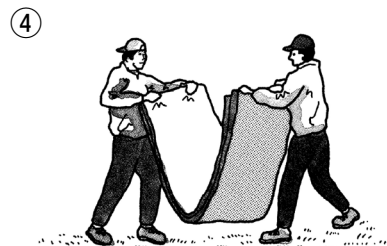
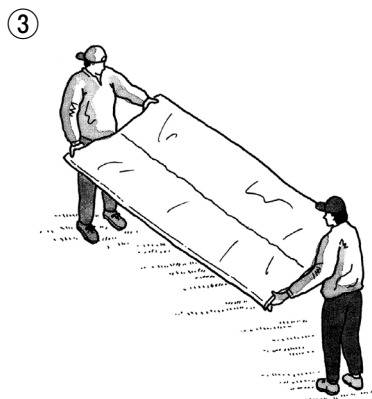
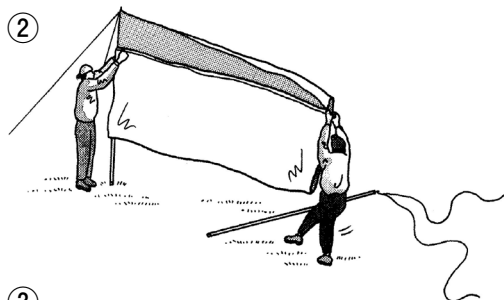
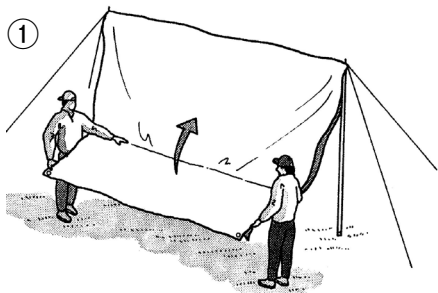
⑬タープ布のシワ、よじれを調整して完了

最後にタープから離れて全体を見渡し、張り具合をチェックする。もしタープ布にシワやねじれがあったら、張り綱の引き方向を変えるなどして再調整する。

※風への対応

(風が一定方向から吹いていると仮定して) 風が強いときには、風上側のタープ布のポールを外し、予備のロープなどを直接コーナーのグロメットに結び (P.29 参照) 地面近くまでタープを下ろし、低い位置で斜めに固定する。これによって風を受け流す。間違っても風下側を下ろさないこと。タープ布に風が孕んで、煽られて全壊の憂き目に遭う可能性が高くなる。

タープの撤収



タープもテント同様、次に使うことを考えてたたんでいく。

① 2人でやればタープを汚さない

両サイドのポールを外し、二つ折りの状態でタープ布の両端を合わせて持つ。

折り目がきれいになるように、内側になるタープ布を腕でならしてから折りたたむ。

② 布地の端や折り目の端はきれいに合わせて持つ

センターポールの先端に向けてタープ布の端を持ち上げながら、タープからポールを外す。タープ布が地面に触れないようにセンターの折り目と両端を持って作業する。

③ 二人で声を掛け合って作業する

四隅がずれないようにしっかりとタープ布を持ち、収納袋のサイズに合う幅になるまで、「せーのぉ」と声を掛け合って同時に折りたたむ作業を続ける。

④ タープをパタパタと降ってゴミを落としていく

タープ布に付いたゴミを振り落としながら、更に小さくたたんでいく。このときも地面から浮かせて作業する。

⑤ 収納袋の大きさに合わせてたたむ

一人で持てる程に小さくになったら、収納袋を目の前に置いて、袋に入るようにそのサイズに合わせておりたたんでいく。

⑥ ポール、ペグ、張り綱をそれぞれのケースに収納

ポール、ペグの汚れを落とし、張り綱を1本ずつ束ねて数を確認する。そしてそれをそれぞれに収納袋に収納する。大きな収納袋に全部を入れるときは、ポール、ペグ袋、張り綱をタープ布でくるんで、収納袋に入れる。



◆ ナイフ・刃物を持つということ

● 刃物は必要なのか

「もし、あなたが無人島に行くときに、ひとつしか道具を持って行けないとしよう。

その時選ぶ道具は、ナイフ以外に考えられないだろう。

1本のナイフが持つ潜在能力は計り知れないものだ。

それ自身の持つ本来の機能に加えて、ナイフは他のさまざまな道具を作り出すことができる。

もちろんそれには、ナイフを正しく理解し完全に使いこなすことができなくてはならない。」

これは、ある本の冒頭に書かれていたものです。ボーイスカウトのキャンプでは、ここまで深く考えることはまずありません。ですが、スカウトキャンプでは、必ずナイフを使う場面が出てきます。それは麻紐を切ったり、料理を作るだけかもしれません。いずれにしても、ナイフの使い方に慣れておかなければ、いざというときには、安全に、正しく、かつ自由自在に使いこなすことが大切であることには違いありません。

今では刃物で鉛筆が削れる子どもは稀となってしまっていますが、昔はどんな子どもでも「肥後の守」とか「ボンナイフ」などの簡単な刃物を1本筆箱に入れていて、あたりまえに鉛筆を削ったり木を削ったりしていました。それは生活の1部だったワケですね。スカウトであれば、昔の子どもに負けず劣らずナイフを使いこなしてもらいたいですね。

さて、スカウトがナイフを持つことの意味は、ただ単に便利な道具だからということだけではありません。ナイフに触れて使ってみることで、ナイフ自体がどういうものであるかを知ることになります。どうやって持てばいいのか、どう使えばよく切れるのか、どうすれば危険か、どうすれば安全なのかなど、あらゆる基本は実際に使ってみることから得られます。そう「実践躬行」なんですよ。

今の世の中では、残念ながらナイフは危険なモノと捉えられてしまっています。それは、通り魔事件や傷害事件でナイフが使われ、そのことだけが意図的に幼稚なマスコミ（またしても登場）にクローズアップされて、「ナイフは凶器」というマイナスイメージを植え付けられるという、意識操作されてしまったからです。しかし、ナイフは本来はたいへん有用な道具なのです。いや、狩猟や野外生活等で必要だからこそ、このように発達してきたものなんです。ナイフが危険なのではありません。ナイフを正しく使うことを文化として伝えられない日本の社会、そして、それを本来の目的に使えない、正しく使おうという意識や精神のない人間に持たせることが危険なのです。

禁止とか制限とかの言葉には日本の社会は敏感に素早く（かつ幼稚に）反応しますが、その一方で未だに「正しい使い方」が普通に学べるようにはなっていませんし、そのくせ、資格や許可証がなくても誰でも買ってしまうという、自転車と同じ状況がそこにはあります。

ナイフだけではなく、キャンプに必要なナタ、斧、包丁といった刃物も言い換えれば、使う人の意識次第で全て凶器に変身してしまうモノなのです。そうならないよう、しないように、社会の一員とし

て、その使い方を正しく身につけ、正しく使うと心に刻むことができ、初めて所持し身につけることができるようにしなければなりません。これは、隊長としての大変大きな務めです。

昔のボーイスカウトは、班長や先輩スカウトから、その使い方、研ぎ方、メンテの仕方、保管の仕方などを厳しく教えられました。ある程度のアウトドア技能とをナイフを持つに相応しい精神を身につけるまでは……そう2級スカウトになるまではナイフを持つことすら許されませんでした。でも今は、カブスカウトでも持てるようになってしまったんです。そのため、ナイフがより身近なものになりはしましたが、ナイフへの憧れ・思い、そして責任は希薄になってしまったようにも思えます。

今や、ナイフの使い方、ナイフを持つ者の責任と精神を伝統的に伝えられる班長は、いなくなっていました。それは、それを指導できる指導者がほとんどいなくなったからです。また、ほとんどの人が自己流です。私もきっとそうです。

それって野外活動のエキスパートを自負するボーイスカウトとしては、とてもよろしくないことですよ。ボーイスカウトでもまた「正しい使い方」を解説した本は作られていません。ごくたまに忘れた頃に「スカウティング誌」に1～2ページ掲載されるだけです。その記述は、たまに間違っていたりもします。

さて、「正しく使う」と簡単に言っていますが、どうやったら正しい使い方を知ることができるのでしょうか。確かに、本屋に行けば、ナイフの使い方が書かれたアウトドア指南書がいくつも置いてあります。しかし、それを見ただけでは、きちんと理解することは難しいですし、著者によって「正しい」の在り方・考え方が異なっていたりします。だとしたら、何を以てたたたたと「正しい」とすればいいのでしょうか。

ということで、ここではナイフやその他刃物について、指導者として、その所持と携帯法の基本的事項を知り、最も適した使い方（これを「正しい使い方」と言います）を身につけるため、更には、スカウトにきちんと根拠を理解した上で伝えるため、ここではページを多く割いて説明していきます。（でもこの本もそうなんですが、この様に「文章」で解説され、出版されるとそれが正解・標準になってしまう傾向があります。うん、気をつけなくちゃ！）

そうは言っても、いくら文章を読んで知識を仕入れたところで、それだけではダメです。実際に持って使って初めて伝わる感覚があるので、それが大切なんです。

● 知っておくべき「刃物」に関する法律

刃物は利用目的は実に多岐に亘っていて、私たちの日常生活・社会生活には欠かすことができないものとなっています。しかしながら、これらの刃物を自由に携帯（持ち運び）できるとすると、今度は意図的に凶器として使用する輩が出てくる可能性が高くなります。前述のように、刃物に対する教育が全くなされていない日本の社会では、凶悪犯罪等の治安上重大な結果を招くことにもなりかねません。犯罪以外の事故も起こることもあります。このような刃物の携帯に関し、公共の安全を確保するため、日本では、次の所持や携帯に関する規制があります。

それは、銃刀法（銃砲刀剣類所持等取締法）と軽犯罪法という2つ



銃砲刀剣類等所持取締法（抜粋）

（平成 20 年 11 月 30 日改正、平成 21 年 1 月 5 日施行）

第 2 条

1. この法律において「刀剣類」とは、刃渡り 15 センチメートル以上の刀、やり及びなぎなた、刃渡り 5.5 センチメートル以上の劔、あいくち並びに及び 45 度以上に自動的に開刃する装置を有する飛出しナイフ（刃渡り 5.5 センチメートル以下の飛出しナイフで、開刃した刃体をさやと直線に固定させる装置を有せず、刃先が直線であってみねの先端部が丸みを帯び、かつ、みねの上における切先から直線で 1 センチメートルの点と切先とを結ぶ線が刃先の線に対して 60 度以上の角度で交わるものを除く。）をいう。

第 22 条

何人も、業務その他正当な理由による場合を除いては、総理府令で定めるところにより計った刃体の長さが 6 センチメートルをこえる刃物を携帯してはならない。ただし、総理府令で定めるところにより計った刃体の長さが 8 センチメートル以下のさみ若しくは折りたたみ式のナイフ又はこれらの刃物以外の刃物で、政令で定める種類又は形状のものについては、この限りではない。



第 9 条

法第 22 条ただし書きの政令で定める種類又は形状の刃物は、次の各号に掲げるものとする。

1. 刃体の先端部が著しく鋭く、かつ、刃が鋭利なはさみ以外のはさみ。
2. 折りたたみ式のナイフであって、刃体の幅が 1.5 センチメートルを、刃体の厚みが 0.25 センチメートルをそれぞれ超えず、かつ、開刃した刃体をさやに固定させる装置を有しないもの。
3. 法第 22 条の総理府令で定めるところにより計った刃体の長さが 8 センチメートル以下のくだものナイフであって、刃体の厚みが 0.15 センチメートルをこえず、かつ、刃体の先端部が丸みを帯びているもの。
4. 法第 22 条の総理府令で定めるところにより計った刃体の長さが 7 センチメートル以下の切出しであって、刃体の幅が 2 センチメートルを、刃体の厚みが 0.2 センチメートルをそれぞれこえないもの。

軽犯罪法（抜粋）

（昭和 48 年 10 月 1 日改正）

第一条 左の各号の一に該当する者は、これを拘留又は科料に処する。

- 二 正当な理由がなくて刃物、鉄棒その他の人の生命を害し、又は人の身体に重大な害を加えるのに使用されるような器具を隠して携帯していた者
- 三 正当な理由がなくて合かぎ、のみ、ガラス切りその他他人の邸宅又は建物に侵入するのに使用されるような器具を隠して携帯していた者
- 四 生計の途がないのに、働く能力がありながら職業に就く意思を有せず、且つ、一定の住居を持たない者で諸方をうろついたもの
- 五 公共の会堂、劇場、飲食店、ダンスホールその他公共の娯楽場において、入場者に対して、又は汽車、電車、乗合自動車、船舶、飛行機その他公共の乗物の中で乗客に対して著しく粗野又は乱暴な言動で迷惑をかけた者
- 七 みだりに船又はいかだを水路に放置し、その他水路の交通を妨げるような行為をした者
- 八 風水害、地震、火事、交通事故、犯罪の発生その他の変事に際し、正当な理由がなく、現場に出入するについて公務員若しくはこれを援助する者の指示に従うことを拒み、又は公務員から援助を求められたにもかかわらずこれに応じなかつた者
- 九 相当の注意をしないで、建物、森林その他燃えるような物の附近で火をたき、又はガソリンその他引火し易い物の附近で火気を用いた者
- 十一 相当の注意をしないで、他人の身体又は物件に害を及ぼすおそれのある場所に物を投げ、注ぎ、又は発射した者
- 十四 公務員の制止をきかずに、人声、楽器、ラジオなどの音を異常に大きく出して静穏を害し近隣に迷惑をかけた者
- 二十 公衆の目に触れるような場所で公衆にけん悪の情を催させるような仕方であり、ももその他身体の一部をみだりに露出した者
- 二十二 こじきをし、又はこじきをさせた者
- 二十三 正当な理由がなくて人の住居、浴場、更衣場、便所その他人が通常衣服をつけないでいるような場所をひそかにのぞき見た者
- 二十六 街路又は公園その他公衆の集合する場所で、たんづばを吐き、又は大小便をし、若しくはこれをさせた者
- 三十一 他人の業務に対して悪戯などでこれを妨害した者
- 三十二 入ることを禁じた場所又は他人の田畑に正当な理由がなくて入つた者

ナイフの携帯について

- ① ナイフやカッター、剃刀、多徳ナイフはもちろん、缶きり、千枚通し、ナタ、カマ、鋏・鋤、斧、バット等、使い方次第で凶器になり得る物はたとえ小さな物でも理由なく携帯しない。必要な場合は、指導者等からの集会の指示・連絡によって通知した上で、鞘やケースに納めるか、刃を厚手の布でくるんでしっかりと保護するなどの対応をして、露出しないようバッグ等に入れて携帯する。
- ② たとえば、ごく小さなミニチュアナイフでも、それが人を傷つける事が可能な形状で有れば、ネックレス・キーホルダー・携帯ストラップや、ザックのジッパーに取り付けたりして持ち歩かない。

- ③ たとえ正当な理由があっても、充分な梱包をせずに、ナイフをケースに入れず、ポケットに入れたりバッグに入れて持ち歩かない。また、車のダッシュボードやドアポケットに無造作に積んではならない。
- ④ キャンプサイト内では、シースナイフやフォールディングナイフをベルトにつけたケースに入れて活動してもよい。また、フォールディングナイフであれば、刃を収納したならば、作業の間一時的にポケットに入れることはかまわない（ただし、ケースにしまう習慣をつけること）。シースナイフのシースをベルトにつける場合は、腰の横（側部）とし、決して腰から前にはつけてはならない。使用しない時は、ベルトやポケットから外し、バッグ等に収納する。

の法律による規制です。

①銃刀法（銃砲刀剣類所持等取締法）第22条

「何人も業務その他正当な理由による場合を除いては刃体の長さが6cmを超える刃物を携帯してはならない。」

違反は1年以下の懲役または3万円以下の罰金に処せられます。

②軽犯罪法 第1条第2号

「正当な理由がなくて刃物、鉄棒その他、人の生命を害し、または人の身体に重大な害を加えるのに使用されるような器具（凶器）を隠して携帯していた者」

……は拘留または科料に処せられます

*刃物の寸法は示されていませんので、たとえ小さなものでも軽犯罪法上その対象となります。

この法律の用語の解説をしますと

「**刃物**」とは人を殺傷する能力のある片刃または両刃の硬質性の用具を言います。日常生活でその用途が認められているものであっても刃長サイズにかかわらず、理由のない持ち運びは全てが規制対象になり得ます。

「**凶器**」とは、本来人を殺傷するために作られた凶器のほか、使用方法によっては人を殺傷することができる器具（例えば、はさみやツールナイフ等）も含まれます。（小さいからといってツールナイフ・アーミーナイフや10徳ナイフなどを、アクセサリー感覚で持ち歩くことも、場合によっては取締りの対象になり得ます。

つまり、これらの規制は「人に危害を及ぼせない」ためにあるものです。意図するしないに関わらず、危害の可能性をできるだけ排除することがその根本にあるのです。ですから、私たちボーイスカウトは、『ナイフを必要とするスカウト活動で使用する』という正当な理由で携帯・携行することはできますが、その場合でも、実際に活動の現場で使用するとき以外は、きちんとしたケースに入れた上でバッグの奥にしまう等の対応をしなければなりません。

●持ち運ぶ「正当な理由」とは

この2つの法律でいう持ち運びの「正当な理由」とは、「通常人の常識で理解できる正しい理由」という意味です。

①正当な理由とされる場合の例

- ・ナイフ等刃物を使用する活動のために、自宅とその活動の間を持ち歩くこと。
- ・買ったナイフを自宅に持ち帰ったり、修理のためにメーカーや販売店に持っていくこと
- ・釣りやキャンプで使うための往路、復路など
- ・ナイフメーカーがナイフを売るためにディーラーにナイフを運ぶ
- ・板前さんが家と店の往復で自分の包丁を持つ
- ・お料理教室で使う
- ・ホームパーティーで使う
- ・山菜採りで使用する

ただし、このような正当な理由である場合でも、その理由を具体的に説明・証明できることが大切です。理由を具体的に示せないばかりに、軽犯罪法違反として警察に逮捕されるということも現に起こっています。ここにその対応をいくつか挙げてみます。

- ・釣り、キャンプ、山菜取りなどに持っていく場合
 - ➡同行者の証言や他の荷物で証明できるはず。
- ・買った刃物を持ち帰る
 - ➡箱やパッケージなどに入っているだろうから、何時ごろどこでいくらで買ったといった状況を明確に言えば問

題ないと思うが、領収書やレシートがあると更によろしい。

- ・研ぎ屋に持って行くとき、持って帰るとき
 - ➡なるべく事前に電話連絡して、万が一職質を受けたときは電話で証言してもらうようにしておく。

・お料理教室やホームパーティー

- ➡やはり、適時電話連絡して他の人に証言してもらえるようにしておく。

・ボーイスカウトの活動

- ➡実施計画書や活動案内（ナイフ等刃物の使用が明記されたもの）を所持する。

②正当な理由とされない例

- ・護身のため、と言って持ち歩く
- ・ミニチュアナイフをファッション感覚で身につけて歩く
- ・ナイフショーに客である自分がコレクションナイフを持っていた
- ・ナイフ愛好家たちがナイフを持ち寄りナイフを見せ合うために集まる
- ・車や家の鍵と一緒にキーホルダーにつけて持ち歩く

などが挙げられます。

軽犯罪法では人の身体や生命に害を与える刃物などの武器を「正当な理由無く」と「隠して」持ち運ぶことを禁止しています。

「隠して携帯する」とは、自宅又は居室以外の場所で、手に持ったり、身体に帯びるなど直ちに使用できる状態で、人目につかないよう隠して身邊に置くことをいいます。（刃物等を人目に触れにくくして持ち歩いたり、車内に隠し持ったりすると、隠して携帯していることになる場合があります。）

「隠して」という要件があるので、ネックレスやキーホルダーにぶら下げていれば違法ではないようですが、たとえそれが銃刀法に違反しないナイフだとしてもそれを正当な理由無く携帯していれば「隠し持っている」ことになります。

繰り返しますが、これらの規制は「人に危害が及ぼせない」ためのものですので、意図するしないに関わらず、危害の可能性をできるだけ排除することがその根本にあります。

つまり、ナイフ等の刃物を携帯する者には、他の人への危害の可能性を最大限無くするため義務があることを心に留めなければならないのです。ですから、いくらボーイスカウトの制服を着ているからといって、シースナイフやフォールディングナイフをベルトにつけたケースに入れて繁華街を歩いたり、ケースに入れずむきだしのままポケットに入れたりするのは、当たり前ですが、軽犯罪法に抵触します。同様に、自動車の中に無造作に置いたり、ダッシュボードのようにすぐに取り出せるところに置くこともダメです。これは本人にその意志がなくても犯罪に荷担する、犯罪を助長していることになります。刃物を持つということは、それほどまでに重大なことなのです。ボーイスカウトの制服は、水戸黄門の印籠ではないのです。逆に敢えてここまでのことがボーイスカウトとしての名誉を保つために求められているのです。

●「所持」と「携帯」の違いについて

「**所持**」とは「そのものを自己の支配し得るべき状態に置くことを言う。」とされています。「所持」の態様としては「保管」「携帯」「運搬」などがあります。単に自分のモノとして「所有」するだけでなく、他人のナイフだとしても、それを預かったり、修理のために委託されたナイフを保管する場合も該当します。またナイフを購入し、あとで所持していることを忘れてしまった場合でも所持となります。



「携帯」とは屋内、屋外を問わず、所持者自身が手に持つか、または身体に帯びるか、これに近い状態で現に携えていると認められるような場合をいいます。「携行」は携帯して移動することですが、ほとんど同義で使用しています。

ただし、日常生活を営む自宅や居室内での携帯は、この法律でいう「携帯」にはあたりません。移動可能な自動車の中にナイフがあれば、それは携帯となります。

●「刃渡り」と「刃体の長さ」とは

「刃渡り」とは刀剣類の刃長および穂長の総称で「刃長とは、刀、剣、なぎなた、あいくちおよび飛び出しナイフについての概念で、それぞれ棟区（むねまち：刀身の峰部のくぼみにかかる箇所）から切っ先までを直線に測った長さをいい、穂長とは槍についての概念で、そのけら首（塩首）から穂先までを直線に測った長さをいう」とされます。

「刃体の長さ」は刃物に使われ、その測り方が総理府令で定められています。「刃物の切っ先（刃体の先端）と柄部における切っ先にもっとも近い点とを結ぶ直線の長さを測ることとする」とされています。普通のナイフなどは刃の先端からヒルトまでを測れば良いのです。刃の形が湾曲していても直線で計ります。

「スケルトンナイフ」や「共柄切出し」の測り方は習慣的に測っている刃長と異なりますので注意が必要です。「刃体と柄部の区別が明らかでない切り出し、日本かみそり、握りはさみなどの刃物は、刃物の両端を結ぶ直線の長さを測り、その長さから8cmを差し引く」とあります。実際に刃のついている部分が5.9cmだったとしても全長17cmの刃物は8cmをひいた9cmが法律上の刃体の長さとなります。刃長6cm以下の刃物をもっていたつもりが、実際は違いますので、注意が必要です。

●「刃体」の長さの計り方

銃刀法では、ナイフ等の刃物は「刃体」の長さで規定しています。実際に刃が付いている部分の長さではありません。また、刃渡りとは右図の「B」を指しますが、刃物に関しては「刃渡り」は使いません。

【計測の方法】

右の「銃砲刀剣類所持等取締法施行規則」第102条(下枠内)によって、その測定方法が決まっています。

第1項の「刃物の切先(a)と柄部(b)(c)における切先に最も近い点とを結ぶ直線の長さを計ることとする。」を、シースナイフで説明すると、ヒルトが斜めになっているため(b)の方が(c)よりも切先(a)に近い。そのため赤の矢印のように(a) ↔ (b) = (A)の直線距離

を刃体とします。(B)の長さではありません。

間違えやすいのは、実際に刃がついているエッジの弧の部分(a)↗(d)を計って刃体としてしまうことです。また緑の矢印(a) ↔ (d) = (D)も違います。この長さが6cmだとすると、(A)は当然それ以上となり、銃刀法に抵触してしまいます。

●自由に携帯できる刃物は・・・ない！

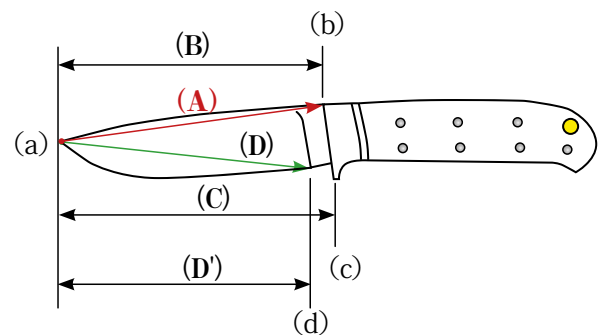
これまで述べてきたように、包丁、ナイフ、はさみ等の刃物は、仕事や日常生活を営む上での道具として必要なものであることから、所持すること自体は禁止にはなっていませんが、正当な理由なく刃物を外に持ち歩くなどして携帯する行為は、人の生命、身体に対する侵害を誘発するおそれが高いので禁止されています。

刃体の長さが6cmを超える刃物は、業務その他正当な理由による場合を除いては携帯することはできません。しかしながら制令で定められた種類、又は形のものについては、この限りでないとなっています（銃刀法22条）。

これらを整理しますと、次の刃物は「銃刀法」上は、正当な理由がなくても自由に携帯することが認められています。ただし、「軽犯罪法」では刃物の寸法は考慮されません。人の生命を害し、または人の身体に重大な害を加えることを防止するといった観点での法律ですので、携帯については、2つの法律において何れも「正当な理由」が必要になります。

【銃刀法 第9条等】

①刃体の長さが6cm以下の刃物は、正当な理由があれば携帯できます。ただし、飛び出しナイフは例外で禁止されています。



●図2-4-1 ナイフの刃体の長さの計測について

（刃体の長さの測定の方法）

第百二条

法第二十二條の内閣府令で定める刃体の長さの測定の方法は、刃物の切先（切先がない刃物又は切先が明らかでない刃物にあつては、刃体の先端。以下この条において同じ。）と柄部における切先に最も近い点とを結ぶ直線の長さを計ることとする。

2 次の各号のいずれかに該当する刃物については、前項の規定にかかわらず、当該各号に定める方法により計ることとする。

一 刃体と柄部との区分が明らかでない切り出し、日本かみそり、握りはさみ等の刃物

刃物の両端を結ぶ直線の長さを計り、その長さから8センチメートルを差し引く。

二 ねじがあるはさみ

切先とねじの中心とを結ぶ直線の長さを計る。

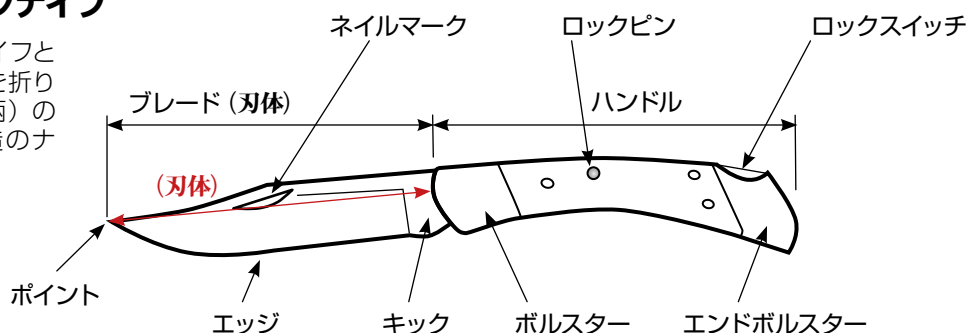
3 刃体の両端に柄がついている等のため前二項に規定する測定の方法によりがたい刃物にあつては、前二項の規定にかかわらず、刃先の両端を結ぶ直線の長さを計ることとする。

4 刃先の両端を結ぶ直線の長さが第一項又は第二項に規定する測定の方法により計った刃体の長さより長い刃物にあつては、第一項又は第二項の規定にかかわらず、刃先の両端を結ぶ直線の長さを計ることとする。

刃物の種類と各部の名称

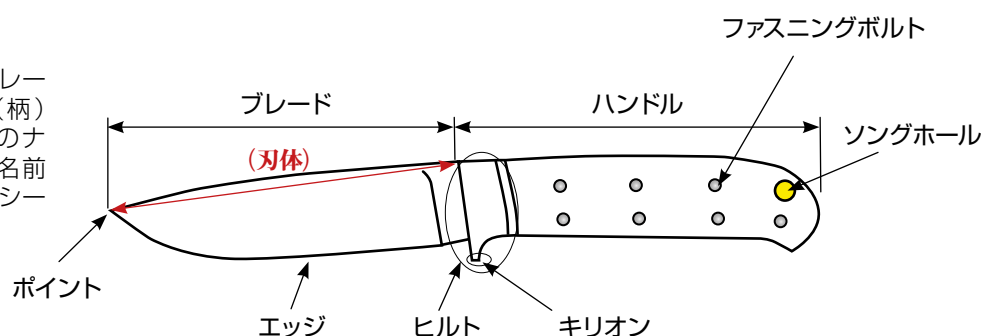
●フォールディングナイフ

フォールディングナイフとは、ブレード(刃)を折りたたんでハンドル(柄)の溝に収納できる構造のナイフです。

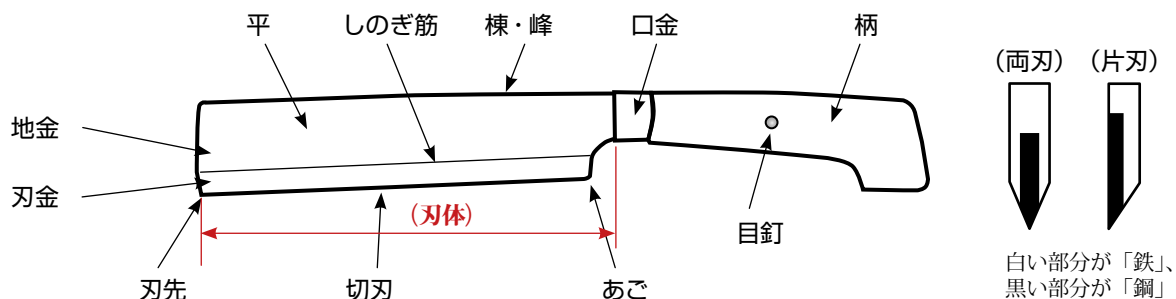


●シースナイフ

シースナイフとは、ブレード(刃)とハンドル(柄)が一体となった構造のナイフです。ちなみに名前はナイフを入れる鞘「シース」からつきました。

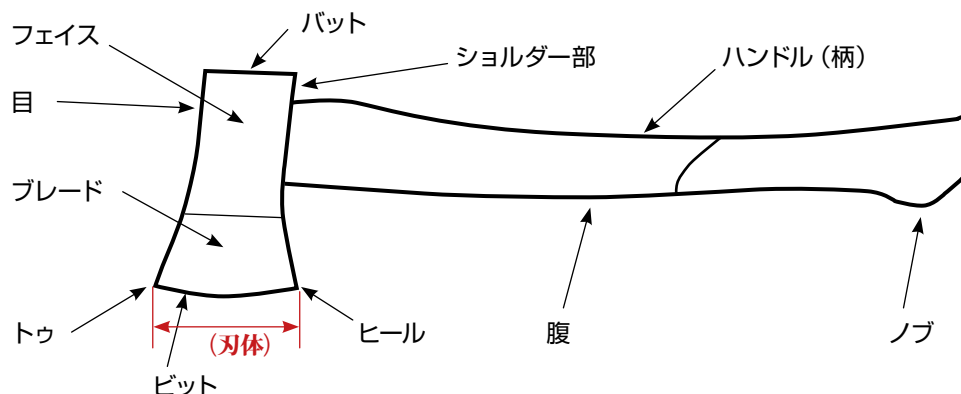


●鉈 (ナタ)



ちなみに「両刃」は主に薪を割るために使い、片刃は主に枝を払ったり切ったりするのに使う。

●斧 (オノ・アックス)



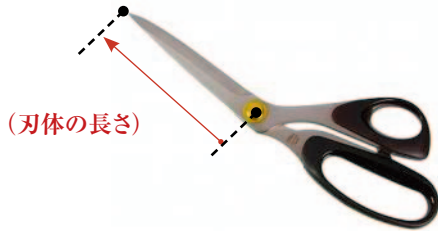


②刃体の長さが6cmを超える刃物でも、次のものは正当な理由があれば携帯できます。

・ハサミ

刃体の長さが8cm以下のものは携帯できます。

刃体の長さが8cmを超え、その先端が著しく鋭く、かつ刃が鋭利なハサミは携帯は禁止です。



・果物ナイフ

刃体の長さが8cm以下で、刃体の厚みが0.15cm内で刃体の先端が丸みを帯びているものは携帯できます。



・折りたたみナイフ

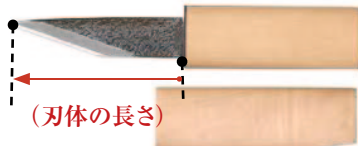
刃体の長さが8cm以下のものは携帯できます。

刃体の長さが8cmを超え、刃体の幅が1.5cm以内で、刃体の厚さが0.25cm以内、かつ開いた刃体をさやに固定させる装置を有しないものは携帯できます。



・切出しナイフ

刃体の長さが7cm以下で刃体の幅が2cm以下、かつ刃の厚みが0.2cm以下は携帯できます。



③キャンプなど、屋外での調理・食事に使用する包丁は、移動中、思いもよらない様な危険な目に遭わないためにも、包丁ケースに入れたり、厚手の布でくるんできっちりと保護するなど、すぐに取り出せない状態になっていなければなりません。

④はさみやカッターなどの文房具でも正当な理由なくしてすぐ使える状態で携帯してはいけません。ペンケースや裁縫箱のような収納容器に入れて携帯します。

⑤正当な理由で出かける時であっても、クルマの助手席やグローブ

BOXなど、すぐ手の届くところに置いてはいけません。梱包してバッグに入れ、荷室に置くなどの運搬状態にしておきます。

というように、次項でも示しますが、**正当な理由がない場合に携帯できるナイフ・刃物は「ない」**のです。

●管理・梱包に関する法的根拠

ここまで、刃物の所持と携行について説明してきました。ここからは、どのように所持・携行するかについて説明していきます。

刃物を携帯する場合は、現場に着くまでは**厳重な梱包**が必要です。充分な注意をはらって**厳重に梱包**したり**ケース**などに入れて**安全対策**をとった上で、他の人に簡単に使われないように、**ナイフ**であれば必ず**ハバザック**や**バックパック**の奥にしまい、また、**包丁・ナタ・オノ**は**ケース**に入れ**鍵**がかかる**ボックス**などに更に入れて、刃物が表に現れないようにしてはじめて持ち運びが可能になります。

業務その他正当な理由で持ち歩いているときに「**厳重に梱包していない**」という理由で違法になることはありませんし、また、業務その他正当な理由が無いのに持ち歩いて、「**厳重に梱包している**」から適法になるということもありません。過去に、料理人がビニール袋に包丁を入れて地下鉄に乗っていて、急ブレーキをかけた拍子に隣の人にそれが刺さってしまったという事件がありましたが、容疑は過失傷害罪であって銃刀法違反ではありませんでした。こんなことが起こらないよう、安全に梱包して運搬をする必要があるのです。

また、家で保管する場合にも同様のことが言えます。ナイフであればカギのかかる引き出しや金庫に保管します。スカウトが使用するものは保護者が責任をもって保管します。活動で必要な場合は、保護者が引き出しや金庫から取り出し、右の遵守項目を確認させた後に手渡し、活動から戻ったら再度遵守事項が守れたかを確認し収納し施錠する・・・等のルールを隊や団で設けて、きちんとした管理を周知徹底することが望まれます。

包丁・ナタ・オノ等は、これでもできる限り鍵がかかる物置にボックスに入れて保管するようにしてください。ズサンな管理で持ち去られた刃物が何かの事件で使用された・・・などということがないよう、充分に注意して管理したいものです。

また、活動の場で使う場合も「**使ったままにしない**」「**必ず身に付ける**」等、自分の管理下に置いておく等の取り扱いが必要です。

これは、ボーイスカウトだから行うというものではありません。自分そして他人に対して危害を及ぼさないためのスカウトとしての義務です。銃と違って刃物の管理責任については、一般社会に周知されていないのが現実ですが、これらのことは刃物を持つ人が負うべき「義務」なのです。敢えて「義務」としているのは、実は、この刃物の運び方を規定している法律はないからなのです。ないからこそ、それを自らに課することが大切になるのです。良き社会人を育てる「ボーイスカウト」であるからこそ、ここまで敢えて「**行っていること**」が求められるのです。きちんと管理すること、これがボーイスカウトの名誉です。

●スカウティングにおける刃物の取り扱い

繰り返になりますが、スカウティング活動で使用するナタ・斧・ナイフ・包丁は刀剣類には該当しませんので、これらを「所持」することは禁止されていません。ですが、ナタ・斧・ナイフ・包丁を**業務**や**その他正当な理由なく「携行」**することは禁止されています。「スカウト活動のため」携行することは正当な理由にあたりますので、携行することは認められています。

この「スカウト活動のため」というのは、**刃物を必要とする訓練・活動を指します**。この場合には、**実施計画書**や**活動案内**(ナイフ等刃物

の使用が明記されたもの)を所持することを徹底してください。

刃物を必要としない活動の場合は「正当な理由」に当てはまりませんので、もちろん携行してはいけません。

ここまで、ナイフについていろいろとかつくどくどと書いてきましたので、みなさんには「スカウトが刃物を持つ」ことの真意が十分に伝わったと思います。

ナイフを所持・携帯そして使用するに当たっては、必ず隊長からスカウトに「ナイフの取り扱い方」と「使う技術」と「身につけるべき精神と責任」つについてきちんと説明し、そして、スカウトがそれを確認した上で、「正しく使う」旨の宣誓(約束)をさせてください。そのスカウトがナイフを持って使うことを隊長が認めたら、スカウトへの信頼と共に下記の「ナイフ使用許可書」を発行し、ナイフを使用する時には常にその許可書も携帯するように指導してください。この手続きは、形式的なものかもしれませんが、スカウトへの意識付けという意味からは、非常に大切なものとなります。これには隊長とスカウトとの信頼関係がなければなりません。それがなければ、この許可書はただの紙になりさがってしまいます。

私たちはスカウトです。スカウトには名誉があります。名誉を最大限重んじるのがスカウトなのです。その使い方を正しく身につけると、正しく使うと心に刻むことができ、初めて所持し身につけることができる資格があるということを、改めてスカウトに伝えていただきたいと思います。

連盟歌「花はかおるよ」の歌詞をよく見てください。

♪花はかおるよ花の香に、日は輝くよ日のひかり
われらに名誉のおもきあり、
かおりか・光か ああ名誉、
名誉、名誉、重きぞ名誉
(フレフレフレ)
スカウトわれらの名誉ぞ重き

その意味は・・・

もし、花に香りがなかったら、その花は形だけだ。
もし、日に光がなかったら、それは太陽じゃない。
もし、スカウトに名誉がなかったら、それはスカウトではない。
いちどは名誉があったとしても、今ではそれを失ったとしたら
今はもうスカウトではない。
スカウトにとって「名誉」は「光」であり「香り」である。
香りも光もないようではスカウトではない。
なぜ？世の人々を楽しめます力もないし、誠実もないからだ。
ただ形だけにすぎないからだ。

ナイフ使用許可書

日本ボーイスカウト 第 団

氏名

君がナイフなどの刃物の使用と保管に関する自分の責任を理解していると認め、スカウト活動中にナイフの携行とその使用を許可します。

隊長

印

- ☐ ハンドブックにある刃物の取り扱い方法をよく読み、安全で正しい使い方を学びます。
- ☐ 刃物を使うときは、つねに用途にあった正しい使用、手入れを心がけます。
- ☐ 刃物を遊び道具にしません。
- ☐ 刃物の安全な取り扱いに関する規則を守ります。
- ☐ ナイフは、鍵がかかる引き出し等に保管します。
- ☐ ナイフを活動に持って行く時は、バックに入れます。ポケットに入れたり、ベルトに付けません。
- ☐ アウトドアコードを確認し、自然を大切にします。



◆ 雷は気まぐれ・・・いや、傍若無人だ！

今まで、キャンプ中に何度も雷に遭ってきた。キャンプ中じゃなかったが、3m離れた電柱に落ちたこともあった。ガラガラ・ドスンなんてもんじゃなく、バリバリ・ガシャン・ドカンであった。全身の毛が逆立ったのを覚えている。それは恐怖からではなく、辺り一面に静電気が起こっているような感覚だった。

キャンプ中の雷でイチバン怖かったのは、行方市で行った第17回茨城県キャンポリーの時である。ものすごい雷雲が近づいてきて、ちょうど開会式に辺り構わず落雷の嵐となった。たまたま運が良く会場への落雷は避けられたが、スカウトや指導者に落ちていたらと思うと、今更ながらにゾウっとする。そういえば、第4回関東キャンポリーでも雷が、第11回日本ジャンポリーでは3SC隣接のFMのアンテナに落ちたよなあ。

雷は、大気中で大量の正負の電荷分離が起こり放電する現象だ。放電する際に発生する音が雷鳴で、光が電光だ。雲と地上の間で発生する放電を対地放電（対地雷、落雷）といい、雲の中や雲と雲の間などで発生する放電を雲放電（雲間雷）という。

雷を発生させる電荷の分離は、雲の中で「あられ」と氷晶（小さい氷のつぶ）の衝突により起こると考えられている。湿った空気が激しく上昇して上空の低い温度の層に達すると「あられ」や氷晶が多量に発生し、雷雲となる。このため、雷は上空高くまで発達した積乱雲で発生し、雷雲の背丈は夏は7km以上、冬は4km以上となる。（「気象庁」HP。

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/toppuu/thunder1-0.html> より）

恐ろしいのはこの落雷で、なんと1億ボルトにも達する非常に巨大な電圧だという。

雷を避けるには、できるだけ低い所にかがむ、金属のものを外す、棒などは持たない・・・などと言われているが、それは単なる確率論であって、雷はどこにでも落ちるのである。つまり、野外を教場としている我々ボーイスカウトの指導者は、きちんとした対処方法を身に付けていなければならないということである。それが、野外活動を推進していく者、そして大切な子供を親から預かる者としての義務であろう。

これから雷について述べていく。これは平成8年に発行された「tent ex vol.5」での実験やその他いくつかの資料を要約したものである。

●高い所に落ちるのは本当なのか？

➡ × 低くても雷は落ちる！

雷は高い所に落ちるもの・・・と昔から言われているが、そんなことはない。確かに高い所の方が落ちる確率は高いが、絶対に低いところに落ちないという確証はどこにもない。

実験では、⑦背の高い大人+椅子に座っている大人+背の低い子供、④立っている大人と+釣り竿を持っている子供、②立っている大人と伏せている大人の3パターンを行った。いずれも一番高いところには当然落ちたが、⑦の座っている大人と立っている子供、④の立っている大人にも落ちた。また、②の伏せている大人にも雷は容赦なく襲いかかった・・・というからホントに怖い。

●テントやタープに逃げ込むと安全なのか？

➡ × テントやタープには安全ではない！

キャンプをしている時に雷が近づいてくると、雨や風をしのごくこともあって、ついテントの中やタープの下に逃げ込みたくなるものだ。

しかし、それは大きな過ちだ。雷はテントにもタープの布にも落雷する。実験によると、テントやタープのポールに落ちて、そこから内部の人（マネキン）に放電（側撃）することが多かった。中にはテントやタープの布を突き抜けて中の人（マネキン）を直撃するものもあった。

●木の下は安全なのか？

➡ × 木の下には危険だ！

例えば草原に1本の木が立っていたとすれば、かなりの確率でそこに落雷すること。木のそばに立ったら直撃こそは避けられても、側撃をくらう確率は高い。最低でも最も近くの枝から2m以上離れるべきだとのことだ。

林だったらどうか・・・。どの木に落ちるのが解らないということは、ロシアンルーレットと同じ状態だということ。

●車に逃げ込むと安全というのは本当なのか？

➡ ○ 金属部分触らなければ安全！

クルマに落雷したが、中的人是助かったという話をよく聞く。私もクルマを運転中に落雷に遭ったかもしれない。衝撃はなかったが電装品のパイロットランプがその瞬間にいくつか切れた・・・から。でもそれ以外には特になく、そのまま走り続けたので、「近くに落ちたのかな・・・？」程度の意識しか持たなかった。で、クルマの中はかなりの確率で安全だ。それは金属で覆われているから、たとえ落雷があったとしても、導体であるボディ表面を伝わってタイヤから地面に逃げていく。「かなりの確率で」であって100%ではないのは、大きな窓やサンルーフのあるクルマだと、ガラスに落雷しそのまま車内に電流が走ることもあるらしい・・・からだ。

●金属や濡れた服に落ちやすいのは本当なのか？

➡ × どこにでも雷は落ちる！

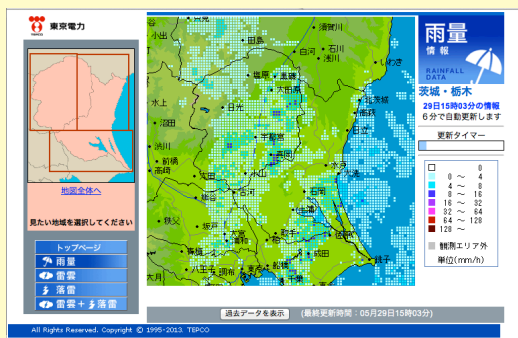
雷が鳴り出したら、時計、ネックレス、ベルトなど身につけている金属をすぐに外せ・・・とほとんど常識のように言われているが、実験の結果は金属を付けても付けていなくても全く関係なく落ちたそう。

●結論

雷が近づいてきたら、速やかに、建物内の安全な場所（窓から遠いところ）、やクルマの中に逃げ込もう。

● PC

雨量・雷観測情報 <http://thunder.tepco.co.jp>



tenki.jp <http://tenki.jp>



下の表は日経トレンディ 2010 年 9 月号「最強のアプリ & フリーソフト」の的中率データだ。○は、雨が降り出す時間帯なども含めて予報が正確に当たった場合で、×は完全に外れた場合。△は雨が降り出す時間帯がずれていた場合や、「晴れのち曇り・一時雨」の予報で雨だった場合などを示している。

的中率が最も高かったのは、「ウェザーニュース タッチ」。雨が降り出すタイミングを 1 時間単位で的中させるなど突出した精度を見せ、前述の 7 月 4 日の天気もほぼ読み切った。2 週間の通算的中率はおよそ 8 割。天気図、レーダーなど予報以外の情報も充実しているのが大きな特徴だ。

情報量、精度ともに申し分なく、高い知名度に見合った実力。予報は 1 時間ごと、3 時間ごと、向こう 1 週間の情報が確認でき、地名や駅名を入力してピンポイントの予報を表示したり、よく行く地点を登録しておいてすぐに呼び出したり、といったこともできる。全国の天気図やライブカメラも確認でき、情報量は随一。

しかしアップデートでユーザー同士の交流を重視した「ソー

● Android

- 雨雲・雷レーダー (kusamochi.net) 無料
- そら案内 for Android (日本気象協会) 無料
- 雨雲マップ (beta) (Nayutaya Inc.) 無料
- ウェザーニュース タッチ (Weathernews Inc.) 無料

● iPhone, iPad

- tnki.jp (日本気象協会) 無料
- ウェザーニュース タッチ (Weathernews Inc.) 無料
- そら案内 (feedtailor Inc.) 無料

「シャトル機能」の強化が行われた結果、ユーザー登録が必須となり、天気予報がすぐに表示されなくなるなど、単に天気を確認したいだけの人にとっては使い辛いアプリになってしまった。以前より操作手順が増えており、多機能ではあるが、使いこなすのは難しくなってる。

手軽さはなくなったが、現在でも天気予報アプリとしての多機能性や情報量は随一。iPhone 版とアンドロイド版がある。

ウェザーニュース タッチのような機能がないぶん、シンプルで使いやすいのが「そら案内」だ。的中率はウェザーニュースと同等のおよそ 8 割。設定した地点の向こう 3 日間、1 週間の予報を表示するのが基本で、現在地に関しては 3 時間ごとの予報も確認できる。

予報の精度はウェザーニュース タッチと同水準で、作りがシンプルで使いやすい。ひと通りの情報は確認できるので、手軽な天気予報アプリで十分ならこちらを選ぶのもいいだろう。ただ、例えば東京都内の週間予報は東京、大島、八丈島、父島の 4 地点しか表示できない（ウェザーニュースは 10 地点以上）など、細かな情報が欲しい人には不満な面もある。iPhone 版のほか、iPad 版も公開中（無料）。

先の 2 つのアプリのデータソースである日本気象協会が公開した天気予報アプリが「tnki.jp」で、的中率は同じだ。こちらも登録した地域の 3 時間ごとの天気や週間予報を手軽にチェックする事が出来る。また、時間ごとの天気の変化も 1 つの画面で確認できる。

天気予報の表示をタップすると今日と明日を切り替えられ、画面を左右にスライドすると登録地域が切り替わる。また、地域登録は下部メニューの「設定」から行う。そこでは天気概況、注意報、速報は「その他」のメニューから確認できる。

ただ、下部の広告が目立ち、誤タップしやすいのが難点だが、アメダスや雨雲の動き、海上の天気や地震・津波情報、世界の天気など豊富なデータが確認できる。

使いやすさと多機能性を両立しているお天気アプリだ。
 (「日経トレンディ net」<http://trendy.nikkeibp.co.jp/article/pickup/20100809/1032613/?P=1> 他より改)

●主な天気予報アプリの「星取り表」

アプリ名	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目	5 日目	6 日目	7 日目	8 日目	9 日目	10 日目	11 日目
AccuWeather.com Quick	×	○	△	△	△	×	△	○	○	×	○
Fizz Weather	×	○	△	×	×	△	△	○	○	○	○
WeatherBug	×	○	×	○	×	×	△	○	○	○	○
Weather Pro	×	△	×	×	△	○	○	○	×	○	○
ウェザーニュース タッチ	○	○	○	△	△	△	○	△	○	○	○
そら案内	○	○	○	△	△	△	○	△	○	○	○

◆ バックパックのフィッティング方法

バックパックを背負ったときのフィッティングは、メーカーとモデルによって異なります・・・が、だいたい同じ思想の下に作られていますので、基本を知っていれば応用できます。個々では、モンベルのホームページからスーパーウィッシュボーン採用モデル（3D フィット・ステー内蔵）、容量 50 リットル以上の大型バックパック用のフィッティングについて紹介します

●正しいフィッティングとは

まず、正しくフィッティングすると、肩の負担が軽くなり、歩行時にバランスが取りやすくなります。これは長距離を歩けば歩くほど重要になってきます。ポイントは背中にジャストフィット！です。バックパックが「ジャストフィット」している状態とは、バックパネルとショルダーハーネスが体に隙間なく接している状態のことを言います。肩への負担が軽減され、上半身の自由度が高まると同時に、重心位置が体に近くなるので歩行時のバランスがとりやすくなります。この「ジャストフィット」を得るためのフィッティング方法を紹介します。

モンベルの大型バックパックは、あらかじめ平均的な日本人の体格に合わせて内蔵フレームの曲げ具合などを設定していますが、以下の手順で調整を行うことで、さらなるフィット感を実感いただけます。

● STEP1 ヒップベルトの位置を決める。 (身体にバックパックのサイズを合わせる)

【はじめに】

あらかじめ各バックパックに通したテープ類は適度に緩めておきます。体のラインを明確にするため、できるだけ薄着での作業をおすすめします。

①使用時に近い状態を再現するため、10kg程度の荷物をバックパックに入れます。

②バックパックを背負い、腰骨の左右の出っ張りをランバーパッドの中央部で包み込むようにしてヒップベルトを固定します。(上)

- ランバーパッドの位置は、前後に動かすことができます。
- 腰骨にしっかりフィットするように調節します。(下)

③ショルダーストラップを引いて、ショルダーハーネスが身体に密着するようにします。



④この状態で、ショルダーハーネスの付け根が背中から浮いていないかを確認します。(上)

- もし浮いている場合は、いったんバックパックを下ろし、ヒップベルトの位置を上によらしめます(これにより背面長を短くすることができます)。(下) そのうえで、もう一度、手順【2】から行います。



※ヒップベルトの位置を移動することで、背面長を自分の体格に合わせることができます。最大可動域は約 65mm です。

● STEP2 3D フィット・ステーの曲げ具合を調整する。

①バックパックを背負い、ヒップベルトとショルダーストラップを締めた状態で、背中和バックパックの間にすき間がないか、鏡に写して確認します。(できれば、ご家族やご友人に手伝ってもらってください)

②すき間があるようなら、内蔵フレーム(3D フィット・ステー)をバックパックから取り出し、脚などを使って曲げ具合を調整します。一度に大きく曲げるのではなく、少しずつ曲げるのがコツです。

- 向きを間違えずに 3D フィット・ステーをバックパックに戻します。バックパックを背負った状態で、背中和バックパックのバックパネルに隙間なくぴったりとフィットしているか確認します。
- 隙間がある場合はもう一度、手順①のチェックから始めます。



◆ バックパックのメンテナンス

バックパックは他のウェアやギアに比べて、こまめにメンテナンスを実施する必要性を感じていない方も多いのではないのでしょうか。しかしバックパック本来の強度や機能性を維持し、快適に使用を続けるためには、こまめなメンテナンスと適切な保管がとても重要です。

これから、使用による損傷や経年劣化が表れやすいポイントをご紹介します。何らかの不具合が生じた際には、メーカーのサービスセンターに相談してください。特に縫製の修理には、耐久性を持たせるために高い技術が必要ですのでお気軽にご相談ください。

●バックパックの点検ポイント

①ジッパー

砂など異物がつまっていないか確認する。

また、ト普利ッド(雨蓋)への荷物の詰め過ぎにもご注意ください。ジッパーの開閉時に強い負荷がかかるのでジッパー周辺のパーツの損傷をまねく。

②ショルダーハーネスと本体の付け根

ショルダーハーネスと本体とを縫い合わせている生地周辺は、荷重により大きな負荷がかかり続けるポイント。縫製箇所が糸が切れるなどの不具合が発生していないかどうか確認。

③背面パッド

嫌な臭いや汚れはないか？

背面パッドは大量の汗を吸い込むので「洗濯」しないと汚れが蓄積する。汚れたまま長期保管すると、ウレタンフォームの劣化をまねき、進行するとボロボロと崩れる状態になる。「洗濯」と適切な「保管」により、快適に使い続けることができる。

④フレームの末端と地面が当たるところ

安定性を高めるためにフレームを使用しているモデルでは、バックパックを勢いよく地面に置いたり引きずったりすると、フレームの末端と地面という固いもの同士が擦り合わされる状態となり、強い負荷が生じる。フレーム末端あたりの生地に破れがないかどうかチェックする。

⑤バックル

確実に固定でき、パチンと外せるか？

劣化すると素材の弾力性が低下し、緩んで固定しにくい状態になる。また登山靴の踏みつけによるひび割れが生じていないか確認する。一部の交換用バックルはアウトドアショップで取り扱っているので、縫い付けられていないものはユーザーでも交換が可能。

⑥荷室の生地(内側)

荷室の内側の生地にコーティングの剥がれやベタつきが発生していないか？

コーティングは生地の強度を補強する役割を果たすが、製造されてからの年月や使用状況により劣化が進行する。ベタベタしたりぼろぼろと剥がれる状態になると、他の生地(ショルダーハーネスや縫い付け部等)のコーティングにも同様に劣化の進行が考えられる。そのまま使用を続けるのは危険なので買い替え時期の目安としよう。

⑦コード類

コードの表面が摩耗していないかチェック。表面ニットが擦り切れ、内側の芯が露出すると使用に支障をきたす。

●STEP3 スタビライザーを調整する。(BPを身体に引き寄せる)



スタビライザーは、バックパックの揺れを抑え、体に引き寄せる機能を持ちます。

最後に、このスタビライザーを調整すればフィッティング完了です。

①ショルダースタビライザーを引きます。



•このとき、写真にあるAのバックルが肩の一番高い所より前側(胸側)にあるように調整します。



②ヒップスタビライザーを引いて、バックを引き寄せます。



③チェストサポートを鎖骨から約5cmぐらい下で留めます。

•ゴムが少し伸びる程度にストラップを調節すると、胸の可動域を妨げることなくフィットできます。

以上で、バックパックのフィッティングは完了です。

ただし、各ハーネス類の長さは身につけるウェアによっても変わりますし、背負って歩いているとパッキングされたギアが上手く納まって隙間ができたり、ハーネスがゆるんだりしますので、その都度の微調整が必要です。

苦しくない範囲でしっかり締めてください。

※安価なものの中には、ヒップベルトが短かったり、位置の調整機能が省かれているものがあります。安いからといって安易に選ばず、必要な調整機能が付いているバックパックを多少高くても選んでください。ジャンボリーに行くぞ、ベンチャーで移動キャンプをするぞ・・・と予定・計画している場合は特にこの点が重要となります。



⑧生地表面

ドロ汚れなどが残ったままになっていないか？

生地に汚れが付着した状態で長期保管すると、生地の劣化が早まる。「洗濯」と適切な「保管」により、長く快適に使い続けらる。

●「洗濯」から「保管」までの手順

長く快適に使い続けるためには、適切な「洗濯」と「保管」が欠かせません。汚れたまま長期的に保管すると、各パーツの劣化を早めるうえにカビや臭いの原因にもなります。一度発生したカビを除去するのは非常に困難です。

また、生地のコーティングの経年劣化からくる商品の寿命は、5～8年程度がひとつの目安ですが、メンテナンスによりコーティングの状態が良好であればそれ以上のご使用も可能です。



①準備

外せるパーツは洗濯前に外し（フレーム、ショルダーハーネスやウエストベルトのアダプタ等）、ジッパー類は開けておきます。



②部分洗い

目立つ汚れがあれば、水で濡らしたあと中性洗剤をつけてスポンジやブラシでこすります。



③押し洗い

洗いおけや浴槽にバックパックがちょうど漬かるぐらいの水を入れ、中性洗剤を加えます。バックパック全体を浸して、押し洗います。

汚れがひどい時にはぬるま湯を使用すると効果的です。



④すすぎ

押し洗いがくまなく済んだら、すすぎに入ります。洗いおけを傾けるか、浴槽の水をぬき、汚れの浮いた水を取り除いたあと、もう一度きれいな水にバックパックを浸し、押し洗います。同じ要領で水が濁らなくなるまで十分にすすぎを繰り返します。



⑤水気をきる

バックパックを逆さまにし、水気をきります。背面パッドは水を含みやすいので手で押しながら水を押し出します。

⑥乾燥

陰干しします。紫外線は生地にダメージを与えますので、直射日光を避け、風通しの良いところで乾燥させます。

ウレタンフォームやフレームを挿入する生地の際間には水分が残しやすいので十分に乾燥させましょう。

⑦保管方法

直射日光を受けるところや車内、屋外倉庫等、高温多湿になる場所はさけて、風通しの良い日陰で保管しましょう。

◆ スピングバッグ (寝袋・シュラフ)

私が最初に買ってもらったスリーピングバッグはバーレル型(封筒型とマミー型の間タイプ)のサマーシーズン用のものでした。もちろん中綿(フィル、断熱材=インシュレーションという)は化学繊維。今、考えると、よくまあこんなモノで寝ていたなあと思えるシロモノです。でも当時はそれを持てることが自慢でした(あ、夏の間だけね)。春秋は毛布の中にそれを入れて寒さを防ぎ、耐寒キャンプでは、ただひたすら朝になるのを凍えて待ちました。寒くてウトウトするのがやっとなでした。

スカウト時代はそれで過ごしましたが、指導者になってまず買ったギアがスリーピングバッグでした。それでもダウンには手が出なくて、モンベル製のタフバッグ #4 でした。これはフィルがデュボンのダクロンフォロフィルⅡという中空の化学繊維で、当時としては画期的なモノだったんです。30年経った今でも夏のキャンプではそれを使っています。さすがに寒い時期にはダウンのスリーピングバッグにしてしまいましたが・・・。

●スリーピングバッグの選択のポイント

スリーピングバッグの暖かさは、内部の暖まった空気をいかに冷たい外気から隔絶するかで決まります。つまり、ロフトと呼ばれる中綿の厚さとそこにどれだけの温かい空気(デッドエアー)をため込めるかなのです。この暖まった空気が動いて移動してしまうと、そこに新たな空気が入ってくるので、それが暖まるまでは温かく感じないわけです。そのため、デッドエアーをどうやって閉じ込めておくかが、そのままスリーピングバッグの進化の歴史となっています。

①形は → サイドジッパー付のマミー型

スリーピングバッグは、形で分類すると基本的に「マミー(ミイラ・人形)型」と「レクタングラー(封筒)型」があります。

基本的にマミー型の表地はリップストップナイロンという薄くて丈夫な繊維でできていて、必要最小限の容積であるため、軽くコンパクトになります。

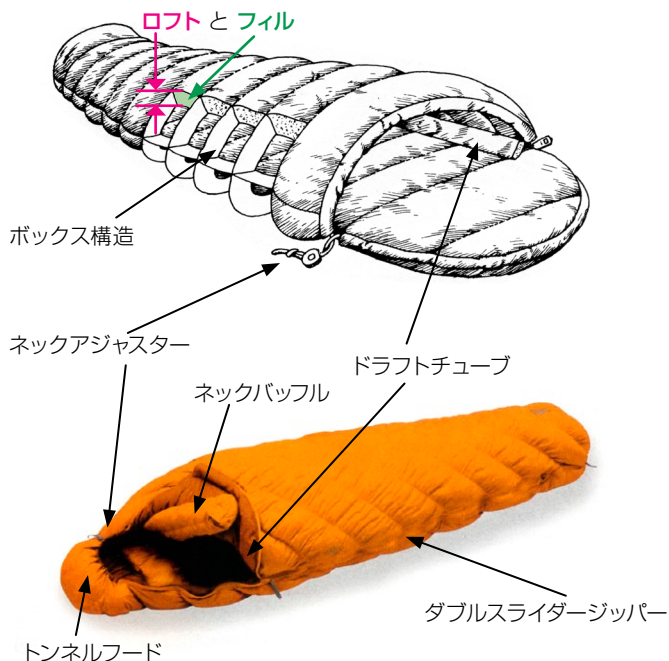
レクタングラー型はゆったりとして寝心地も良いのですが、表の素材がコットンのように厚手のモノが多く、また、足元に十分なゆとりがある構造のため、重くかさばるので、バックパックにパッキングして移動するには向いていません。オートキャンプ用と思ってください。個々ではマミー型について説明していきます。

②フィルは化繊かダウンか → 化繊かな!

中綿(フィル)で分類すると、化学繊維(ポリエステル繊維)とダウンとに分けられます。

湿気の多い日本では、フィルは濡れてもすぐ乾きロフトが保てる化学繊維の方がいいでしょう。この繊維は、主にポリエステルで、繊維の中心に穴が空いている中空繊維と呼ばれているものが使われます。昔はこの穴にデッドエアーをため込んで・・・と言っていました。

ダウンスリーピングバッグ	化繊スリーピングバッグ
+ 化繊より軽くて温かい	- ダウンより重い
+ 収納性が高い・コンパクト	- ダウンよりかさばる
+ 通気性に優れている	- 通気性はやや低い
+ 適切な手入れで長持ちする	- ダウンよりへたりが速い
+ すぐに暖くなる	- 暖まるまで時間がかかる
- 濡れた状態では、性能を発揮できない	+ 濡れた状態でも防寒性能が70%維持される
- 細かい手入れが必要	+ 手入れが簡単
- 湿気を吸収する	+ ほとんど湿気を吸収しない
- 乾燥にかかる時間が長い	+ 乾燥にかかる時間が短い

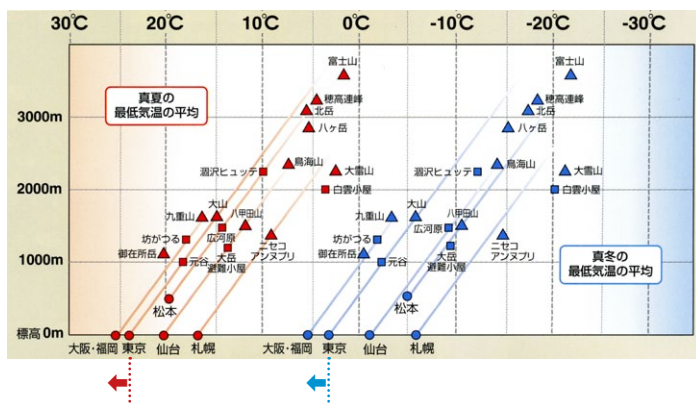


化学繊維でロフトをかせぐ簡単な方法は、たくさんの量を詰め込むことです。ですが、そうすると嵩張ってしまいます。繊維を太くすると、弾力性が高くロフトはかせげますが、繊維の隙間がスカスカでデッドエアーが保てませんし、コンパクトになりません。細くするとデッドエアーはため込めるしコンパクトになるのですが、今度は弾力性がなくなってロフトが保てず、使っているうちにへたって薄くペチャンコになってしまいます。

そのため、今はその両方をブレンドしたモノが多く使われています。中でもエグゼロフトと呼ばれるものは、太い繊維を縮れた細い繊維を巻き付けることでデッドエアーをよりため込めるので、すぐ競れた保温性を持っています。

もう1つの素材が「ダウン」です。ダウンとはグース(ガチョウ)やダック(アヒル)などの水鳥の胸あたりに密生している綿羽(ダウンボール)のことを言います。化学繊維と同様にダウンにもピンからキリまであります。グースダウンはデッドエアーをため込むダウンボールが大きく、こしがあって絡まりにくく、軽量で高いロフト復元力を持っているため、ダウンの王様と呼ばれています。また、ダウンだけではロフトが保てないので、フェザーというダウンボールの外側の羽根を混ぜ込むのが普通です。フェザーが多いとロフトは保てますが、デッドエアーが少なくなるため、その混入率は約10%程度がベストと言われています。

ただ、ダウンは濡れてしまうとダウンボールがくっついてしまいデッドエアーをため込むことができなくなります。これが濡れに弱い





と言われる理由です。そのため、雨が少ない季節に使用するのがいいでしょう。

スカウトのキャンピングのシーンでは、濡れに強く、比較的安価である化繊の製品がいいでしょう。

③暖かさの指標は・・・

昭和の頃は、スリーピングバッグは使用季節によって、夏用、3シーズン、冬用と大ざっぱな区分で売られていました。しかも、その区分は明確な規格があった訳ではなかったようです。

今では、使用できる温度域を科学的な根拠に基づいた「クロー値」という指標を使って設定しているメーカーが多くなりました。

モンベルでは「使用可能温度域 (Limit)」と「快適睡眠温度域 (Comfort)」の2つ温度指標で、ノースフェイスでは「最低温度規格 (Limit)」で表示しています (カタログのアイコンでは (Comfort) も表示されている)。

使用可能温度域：疲労回復に必要とされる6～8時間の睡眠が可能な温度の目安。

快適睡眠温度域：下着などのままでも、8時間以上快適な眠ることができる温度域。この温度域が製品選びの目安となります。

どのように見るかは、前ページの右下の表「緯度別気温表」を見てください。赤は最も高い平均最低気温の月、青字は最も低い平均最低気温の月を地点別に図示したものです。

例えば、東京での夏のキャンプで使うスリーピングバッグであれば、赤字の「東京」を見ます。グラフを見ると最低気温は24℃であるので、24℃が快適睡眠温度域となっている製品を、ハケ岳であれば6℃なので、6℃が快適睡眠温度域となっている製品を見つけます。

冬の東京でキャンプをするのであれば、グラフを見ると最低気温は3℃であるので、3℃が快適睡眠温度域となっている製品を、ハケ岳であれば-15℃なので、-15℃が快適睡眠温度域となっている製品を見つけるわけです。

1つのスリーピングバッグでオールシーズンをカバーすることはできません。冬にもキャンプをするからと言って、冬用のスリーピングバッグで間に合わせようとすると、他の季節は暑くて苦労します。「使用する地域」の「使用する時期」の最低気温を考えて選ぶことも1つの方法ですが、ボーイスカウトのキャンプは、1ヶ所だけで行われるわけではないので、その当たりを考慮してモデルを選ぶことが必要です。

結局は3シーズンモデルなのだ (笑)

④快適な眠りを得るために

3シーズンものを選んだけれど、「耐寒キャンプや雪中キャンプをやることになった」としたら、新たなそれに耐えうるスリーピングバッグを買わなければいけないのでしょうか？ それも1つの方法ですが、下図のような方法もあります。「スリーピングバッグのレイヤード」です。スリーピングバッグの外側をスリーピングバッグ・カバーで包み、内側にインナー (シーツ) を入れて使うのです。

特にダウンのスリーピングバッグの場合は、なかなか洗うことができないので、このレイヤードを使うことを勧めます。ゴアテックスなどの防水透湿性の素材でできているスリーピングバッグ・カバーは、テント内の結露からスリーピングバッグを保護し、また保温効果もあります。インナーは、スリーピングバッグの汚れを防ぎ、起毛したものであれば寒いときにも温かく眠れます。夏はコットンやシルクの肌ざわりのいい物を使うといいでしょう。

●スリーピングバッグの使い方 TIPS

適切なスリーピングバッグを手に入れても、それだけでは良い眠りを得るために十分ではありません。どこで何の上にどのように寝るかを考えることも重要です。また、スリーピングバッグ自体は熱を発生しません。人が発する熱を保持することができるだけです。これを踏まえて使い方を考えていきましょう。

①スリーピングマット

冷たい地面や循環する空気は体温を奪います。スリーピングバッグがどんなに高品質でもこれは必要です。良質のスリーピングマットを使用することで、熱伝導による体温の低下を軽減できます。

②風をよける

テントを使わない場合は、風で凍えることがあります。

+5℃のときに弱い風 (25km/h) が吹くと、すぐに0℃と同じような寒さを感じます。このため、できるだけ風に当たらないようにします。テント、ツェルト、または大きな岩などで風をさえぎります。夜を過ごす場合は、適切に風の当たらない場所を選択します。

③乾燥した高性能な下着と寝間着

乾燥した性能の高い下着や靴下を履くと、さらに暖かくなります。また、足先部分に乾燥した衣類を入れると、デッドエアが更に増えて保温性・防寒性が高まります。

④帽子

フードがないスリーピングバッグでは、頭だけが外部に露出されます。頭部が冷えると、短時間で身体全体が冷えます。このため、寒冷期には帽子を着用します。帽子は非常に効果的な防寒具です。

⑤正しく食べる

移動キャンプや寒冷期のキャンプでは、多くの体力を消耗します。十分な「燃料」を補給しないと、適切な体温を保つことができません。食糧計画をきちんとたてて必要な種類と量の食事を摂ります。

⑥水分を摂る

寝る前に1日に必要な水分を摂取したかを確認します。脱水状態の身体は、熱を発生させることができません。スリーピングバッグに入る前に、1杯のお茶やホットチョコレートで暖まりましょう。

⑦アルコールは飲まない

指導者の場合ですが、アルコールを摂ると、一時的に暖かく感じられますが、すぐに体温が低下してしまいます。気温が低い場合は、アルコールを飲まないようにします。

⑧キープドライ

衣類やスリーピングバッグ (特にダウン) は、濡れると防寒性能が低下します。また、汗で濡れた衣類を着たまま、スリーピングバッグの中に入らないようにします。これが「寝間着」に着替える理由です。雨が降っていない限りスリーピングバッグをテントの上などに置いて干すようにしてください。また予備の衣類を乾燥した状態に保つことも大切ですので、防水素材でできた袋に収納しておきます。

インナー (シーツ)

スリーピングバッグ・カバー

